

財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.65

目次

【仕訳処理】	
[証憑一括添付]メニューで、証憑を効率よく添付できるようになりました。 ＜『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合＞	2
【消費税申告】	
国税電子申告（e-Tax）の改正（平成30年1月4日受付開始分）に対応しました。	2

仕訳処理

- [証憑一括添付]メニューで、証憑を効率よく添付できるようになりました。
＜『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合＞

※以下の機能は、仕訳伝票に電子証憑を添付している場合（[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニューの[基本設定]ページで、電子証憑の添付が「1：する」の場合）に利用できます。

電子証憑を添付する仕訳伝票を目視ではすぐに見つけれないときに、証憑上の金額や取引先名などで頭出しできるようになりました。

※操作の具体的なイメージは、[証憑一括添付]メニューの操作説明（ヘルプ）「運用例」の「具体例A-a」－「操作手順（初回）」－「Ⅲ. 仕訳伝票に電子証憑を関連付ける（リンク）」をご参照ください。

消費税申告

- 国税電子申告（e-Tax）の改正（平成30年1月4日受付開始分）に対応しました。

消費税の電子申告（e-Tax）で、ダイレクト納付の引落口座を複数事前申請・利用できるようになりました。

◀ 関連メニュー ▶


[消費税申告]-[電子申告]-[消費税電子納税]メニュー


財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.60

※マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	<p>【仕訳処理】</p> <p>地代家賃や書籍の定期購読などの契約書（電子証憑）を関連付けて予約しておくことで、毎月、決まった金額の仕訳伝票を定期的に起票できます。</p> <p style="text-align: right;">＜『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合＞</p>	
	<p>【消費税申告】</p>	
	<p>電子申告のメニュー構成を変更しました。</p>	2

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

仕訳処理



- 地代家賃や書籍の定期購読などの契約書（電子証憑）を関連付けて予約しておくことで、毎月、決まった金額の仕訳伝票を定期的に起票できます。

＜『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合＞

地代家賃や書籍の定期購読などの契約書をスキャンした電子証憑を、定型仕訳に添付して仕訳伝票予約機能を利用すると、毎月決まった金額の仕訳伝票を定期的に起票できます。

なお、すでに前月入力した仕訳伝票に契約書の電子証憑が添付されている場合は、複写機能を利用して今月分を起票することもできます。

＜ 関連メニュー ＞

- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票予約]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[定型仕訳データ受入]メニュー

消費税申告

- 電子申告のメニュー構成を変更しました。

変更前	変更後
[消費税申告]-[電子申告]- [消費税申告データ作成]メニュー	[消費税申告]-[電子申告]- [消費税申告データ送信]メニュー
[消費税申告]-[電子申告]- [消費税署名付与]メニュー	
[消費税申告]-[電子申告]- [消費税申告データ送信]メニュー	

電子申告データ作成から送信までを1メニューに集約し、[消費税申告]-[電子申告]-[消費税申告データ送信]メニューですべて行えるようになりました。

企業の署名と税理士の署名を付与する場合など署名を2回（以上）する場合は、今までどおり[消費税署名付与]メニューで署名を付与したのち、[消費税申告データ送信]メニューで送信します。

参 考

付与する署名が1つの場合は、[導入処理]-[消費税基本登録]-[消費税基本登録]メニューの[システム設定]ページで付与署名数を「1」に設定します。


財務会計システム


勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.58

目次

※マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【仕訳処理】	
	仕訳伝票の検索にて、税抜の伝票・税込の伝票それぞれをその計上金額で検索できるようになりました。また、元帳上の出力金額でも検索できます。	2
	スキャナ保存された証憑を、仕訳伝票に関連付けできるようになりました。 ＜『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合＞	3
	【会計帳票】	
	外貨内訳表で、取引先別に一覧で確認できるようになりました。 ＜『外貨入力オプション』をお使いの場合＞	4
	【消費税申告】	
	消費税申告書が「法人用」の様式に変更されました。また、印刷部数の指定も変更されました。	5

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

仕訳処理

- 仕訳伝票の検索にて、税抜の伝票・税込の伝票それぞれをその計上金額で検索できるようになりました。また、元帳上の出力金額でも検索できます。

税抜金額で計上した仕訳伝票と税込金額で計上した仕訳伝票が混在している場合でも、目的に応じて「伝票上での計上金額」または「元帳での出力金額」のそれぞれで検索できるようになりました。

具体的なイメージは、[仕訳処理]メニューの[条件設定]画面の[基本条件]ページの操作説明で、「検索範囲」欄の [詳細](#) をご確認ください。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[反対仕訳一括起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]の各メニュー
- ・ [決算処理]の各仕訳伝票入力・仕訳伝票リストメニュー（仕訳処理[IFRS組替]・締処理・遡及処理
- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー
- ・ [随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[仕訳伝票履歴]メニュー
- ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[仕訳伝票一括削除]メニュー
- ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[自動実行仕訳伝票データ作成]メニュー

※ 『自動実行管理オプション』をお使いの場合



- スキャナ保存された証憑を、仕訳伝票に関連付けできるようになりました。
＜『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合＞

証憑のスキャナ保存をする上での「証憑の電子化（スキャン）」「電子証憑の管理」「仕訳の起票」のうち、「仕訳の起票」を当システムで行います。

仕訳伝票に証憑に関連付けできるとともに、その後、仕訳伝票の検索から電子証憑の追跡まででき、証憑確認などの業務の煩雑さを軽減します。

当システムにおける「証憑」のスキャナ保存の詳細は、操作説明の「電子帳簿保存・証憑スキャナ保存について（受領した「証憑」のスキャナ保存）」をご参照ください。

＜ 関連メニュー ＞

主なメニュー

＜事前設定＞

- ・ [導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニュー

＜仕訳の起票（証憑との関連付け）＞

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[証憑一括添付]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニュー
- ・ [決算処理]の仕訳伝票入力メニュー（IFRS組替のメニューを除く）
- ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ受入]-[自動実行仕訳伝票データ受入]メニュー

※『自動実行管理オプション』をお使いの場合

＜証憑の確認＞

- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]メニュー・[仕訳伝票一括転記]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[自己承認伝票確認リスト]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー
- ・ [決算処理]の仕訳伝票リストメニュー（IFRS組替のメニューを除く）
- ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[自動実行仕訳伝票データ作成]メニュー

※『自動実行管理オプション』をお使いの場合

- 外貨内訳表で、取引先別に一覧で確認できるようになりました。
 <『外貨入力オプション』をお使いの場合>

[外貨内訳表]メニューで、取引先ごとに外貨金額を一覧で確認できるようになりました。
 ※条件設定の項目「表示形式」を、[基本条件2]ページから[基本条件]ページへ移動しました。

▼イメージ図（画面）

コード	名称	繰越金額	為替	買方	売方	残高
135	売掛金					
0000001	大平洋販売株式会社					
001	米ドル	12,540.00	459,546.00	0.00	472,086.00	
002	ユーロ	1,254,025	45,376,908	0	46,630,933	
000	外貨未指定	5,640.00	247,970.00	0.00	253,610.00	
		564,000	30,375,790	0	30,939,790	
		68,442.457	0	0	68,442.457	
	【大平洋販売株式会社計】	70,260.402	75,752,298	0	146,012,790	

▼イメージ図（設定）

表示形式

第一項目: 取引先別

第二項目: 外貨別

また、勘定科目ごとに外貨金額の内訳もあわせて確認することができます。

▼イメージ図（画面）

コード	名称	繰越金額	借方	貸方	残高
002	北日本銀行本店				
001	米ドル	246.00	45,680.00	0.00	45,926.00
		24,600	5,024,000	0	5,048,400
002	ユーロ	1,245.00	45,672.00	0.00	46,917.00
		145,600	4,628,544	0	4,804,144
000	外貨未指定	35,905,240	0	0	35,905,240
	【北日本銀行本店計】	36,075,440	9,680,344	0	45,755,784
	【当座預金計】	184,589,844	16,142,592	6,476,580	194,205,856
001	米ドル	606.00	54,880.00	65,420.00	-9,894.00
		69,600	5,945,600	6,476,580	-481,180
002	ユーロ	1,245.00	45,328.00	0.00	47,571.00
		145,600	4,731,752	0	4,877,392
000	外貨未指定	184,324,644	5,485,000	0	189,789,644

勘定科目計(当座預金計)行の下に外貨別の内訳金額が表示されます。

▼イメージ図（設定）

表示形式

第一項目 補助科目別 第二項目 外貨別

☒ 勘定科目計を外貨別に表示する

チェックを付ける

消費税申告

- 消費税申告書が「法人用」の様式に変更されました。また、印刷部数の指定も変更されました。

消費税申告書（原則課税・簡易課税）の様式が「法人用」に変更され、マイナンバー等の項目名が変更されました。

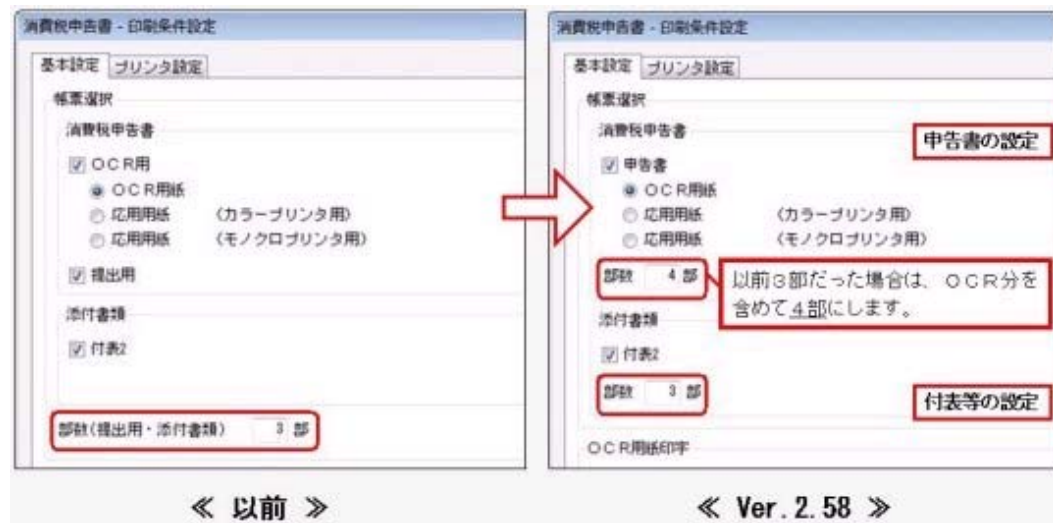
▼イメージ図

以前

Ver. 2.58

[印刷条件設定]画面での印刷部数の指定が「申告書」と「付表」に分かれました。申告書の部数には、OCR分を含めます。

▼イメージ図



財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.56

目次

【仕訳処理】	
仕訳伝票の「専用用紙」「応用用紙」の印刷で、大きいフォントサイズ（奉行21シリーズと同じサイズ）で印字できるようになりました。	2
【会計帳票】	
補助元帳・取引先元帳の印刷で、タイトルを均等割付する設定の場合に、勘定科目名が常に均等割付されるようになりました。	3
【消費税申告】	
輸入仕入の取引がある場合に、国内仕入と輸入仕入の消費税額を別々にチェックできるようになりました。	3
確認したい電子申告のメッセージだけを、最初から表示できるようになりました。	4
【決算処理】	
決算報告書、キャッシュ・フロー計算書を印刷する際に、先頭ページの番号を指定して、ページ番号を印字できるようになりました。	4

仕訳処理

- 仕訳伝票の「専用用紙」「応用用紙」の印刷で、大きいフォントサイズ（奉行21シリーズと同じサイズ）で印字できるようになりました。

部門や勘定科目などの科目のフォントサイズに加えて「伝票日付」「伝票No.」「金額」のフォントサイズも、奉行21と同じサイズで印字できるようになりました。

<専用用紙>

[3381]単票仕訳伝票（OBCコクヨ式）・[3382]単票仕訳伝票（OBC7行）

※上記以外の専用用紙も含めて、「伝票日付」「伝票No.」「金額」のフォントサイズは、
[印刷条件設定]画面の[詳細設定]ページで変更できます。

<応用用紙>

フォントサイズのほか、明細行ごとに区切り線を出力したり、項目ごとの間隔をお客様の見やすさに合わせて調整して印刷できるようになりました。

《 関連メニュー 》

<専用用紙>

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー

<応用用紙>

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [決算処理]の仕訳伝票入力・仕訳伝票リストメニュー（仕訳処理[IFRS組替]）
- ・ [管理会計帳票]の管理会計伝票・管理会計伝票リストメニュー

會計帳票

- 補助元帳・取引先元帳の印刷で、タイトルを均等割付する設定の場合に、勘定科目名が常に均等割付されるようになりました。

今までは、タイトルを均等割付する設定でも、補助科目名が長い場合は勘定科目名は均等割付されませんでした。

今後は、タイトルを均等割付する設定の場合は、補助科目名の長さに影響されずに勘定科目名は常に均等割付されます。

取引先元帳も同様です。

▼イメージ図（例：補助元帳）

<今まで>

○ 〇〇〇商事株式会社

110 当座預金

002 東都中央銀行本店

均等割付されたり
されなかったりする

借方	貸方	残高
借入金		
当座金		

○ 〇〇〇商事株式会社

110 当座預金

001 東都中央銀行門前仲町駅前支店

借方	貸方	残高
借入金		
当座金		

補助科目名が短くて
均等割付される場合だけ、
勘定科目も均等割付される

補助科目名が長くて
均等割付されない場合は、
勘定科目も均等割付されない

<今後>

○ 目次事業所別会社

110 当 座 預 金
002 東都中央銀行本店

常に均等割付される

借 方	貸 方	残 高
繰上金額		

FAK: 1
【期次】
【繰上金額】

補助科目名の長さにかかわらず、勘定科目名は均等割付される

消費税申告

- 輸入仕入の取引がある場合に、国内仕入と輸入仕入の消費税額を別々にチェックできるようになりました。

科目別課税対象額集計表において、国内仕入と輸入仕入の消費税額が別の行に表示されるようになりました。

それぞれの消費税額を別々にチェックできます。

- 確認したい電子申告のメッセージだけを、最初から表示できるようになりました。

[消費税申告]-[電子申告]-[国税メッセージボックス確認]メニューで電子申告のメッセージを確認する際に、確認したい目的にあわせた内容だけを最初から表示できるようになりました。

例えば、今回一括で申告した結果や特定の顧問先の申告結果だけをスムーズに確認できます。

決算処理

- 決算報告書、キャッシュ・フロー計算書を印刷する際に、先頭ページの番号を指定して、ページ番号を印字できるようになりました。

先頭ページの番号を指定して、ページ番号を印刷できます。

前回の印刷ページ数に続けて、連番でページ数を付番できるようになるため、バインダ等にまとめて保管するときに管理しやすくなります。

▼イメージ図

※[印刷等条件設定]画面の[印刷設定]ページで設定

印刷オプション

☐ 日付を印字する 年 月 日

☒ ページ番号を印字する 先頭ページ番号 10

前回印刷したときの最終ページが「9」の場合は、「+1」した「10」を指定することで連番になります。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書]メニュー
- ・ [決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]-[キャッシュ・フロー計算書]メニュー

財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.54

《法改正情報》

マイナンバー制度（消費税申告書の様式変更）に対応しました。

2

- マイナンバー制度（消費税申告書の様式変更）に対応しました。

○消費税申告書の様式変更

マイナンバー制度（「社会保障・税番号制度」）の導入に伴い、消費税申告書の様式変更に対応しました。

※電子申告にも対応しています。

当システムでは、課税期間（会計期間）に応じて、新旧の様式を自動判定します。

▼イメージ図（消費税申告書の新様式）

＜消費税申告書（原則課税）＞

※平成27年10月1日以後に終了する課税期間の申告から

＜消費税申告書（簡易課税）＞

※平成28年1月1日以後に開始する課税期間の申告から

＜消費税及び地方消費税の中間申告書（前年実績に基づく予定申告）＞

※平成28年1月1日以後に開始する課税期間の申告から

○法人番号の印字

平成28年1月1日以後に開始する課税期間（会計期間）の消費税申告書に、法人番号が印字されます。

例)

◎会計期末が「12月末」の場合

- ・「平成27年12月決算」の申告書には印字なし
- ・「平成28年1月開始」の課税期間の申告書から印字される

◎会計期末が「3月末」の場合

- ・「平成28年3月決算」の申告書には印字なし
- ・「平成28年4月開始」の課税期間の申告書から印字される

※法人番号は、あらかじめ[会社情報登録]メニューの「法人番号」欄に入力します。


財務会計システム


勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.50

目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【法改正情報】	
	平成27年10月施行消費税改正（国境を越えた役務の提供にかかる消費税）に対応しました。	2
	【データ領域管理】	
	データ領域ごとにパスワードを設定できるようになりました。	5
	【導入処理】	
	マイナンバー制度（「社会保障・税番号制度」）の導入に伴い、法人番号を追加しました。	5
	[会社運用設定]や[会計期間設定]メニューなどの設定内容を、他の利用者が伝票入力などの作業中でも確認できるようになりました。	6
	【仕訳処理】	
	部門や勘定科目の他に、セグメントなど印刷するマスターが多くても1行(明細)に収めることで、仕訳明細単位での確認をしやすくなります。	6
	伝票の一部を修正した場合などに、特定のページだけ印刷（専用用紙）できます。	8
	仕訳伝票の検索で税抜金額からも検索できるようになりました。	8
	【会計帳票】	
	[元帳]メニューのピボット出力で、貸借対照表科目を残高ベースで確認できるようになりました。 ＜「OMSS」の「Office連携サービス」／『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合＞	9
	勘定科目ごとの外貨金額の取引先別一覧を、[元帳]メニューから確認できるようになりました。 ＜「OMSS」の「Office連携サービス」／『勘定奉行V ERP8』／『外貨入力オプション』をお使いの場合＞	9
	【消費税申告】	
	税務代理権限証書の様式を改訂しました。	9
	【決算処理】	
	株主資本等変動計算書における変動事由「当期純利益」の出力位置を、変更できるようになりました。	10
	【随時処理】	
	登録済みの仕訳伝票上の税区分を、非課税から課税へ一括変更でき、かつ消費税額も自動で計算されます。	10
	取引先の汎用データ受入で、メモ欄など登録済みの文字を一度にクリアできるようになりました。	10

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

法改正情報

- 平成27年10月施行消費税改正（国境を越えた役務の提供にかかる消費税）に対応しました。

当システムに影響のある改正は、大きく2つです。

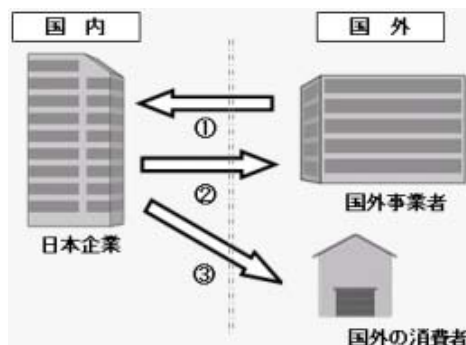
- 国外との商品の売買・サービスの提供のうちインターネット等を介した売買・提供に関して、課税取引なのか不課税取引なのかを判定する基準が変更されました。
- 新しい課税方式「リバースチャージ方式」が導入され、国外事業者が納税する売上げにかかる消費税を、日本企業が申告時に代わりに納税します。

※平成27年10月1日以後の取引から適用

詳細は、以下のとおりです。

○ 国外との一部の取引における内外判定の見直し

国外との商品の売買・サービスの提供のうちインターネット等を介した売買・提供に関して、課税取引なのか不課税取引なのかを判定する基準が、商品が販売・サービスを提供する側から商品の購入・サービスを受ける側の住所等に変更されました。



（インターネット等を介した商品の売買・サービス提供）

	今まで	今後（10月1日以後）
①	不課税仕入	課税仕入
②	課税（免税売上）	不課税売上
③	〃	〃

購入／提供を受ける側【①】

国外からの商品の購入・サービスの提供のうちインターネット等を介した購入・提供は、消費税がかかります。



事業者に限られる商品の購入・サービス提供を受ける（事業者向け電気通信利用役務の提供）

※インターネット広告の配信・掲載やクラウドサービスなど

→ 今までの「不課税仕入」から「特定課税仕入」に変更

消費者向けの商品の購入・サービス提供を受ける（事業者向け電気通信利用役務の提供以外）

※電子書籍、音楽、ソフトウェア等の購入

→ 今までの「不課税仕入」から「課税仕入」に変更

※該当する取引については、以下を参照

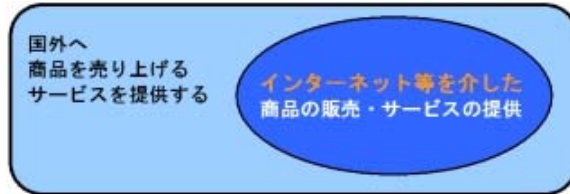
操作説明「税区分運用例一覧」の

「国外取引」－「仕入・費用」の[E（事業者に限られる取引）]の「取引例（具体的な取引）」

「国外取引」－「仕入・費用」の[F（消費者向けの取引）]の「取引例（具体的な取引）」

販売／提供する側【②③】

国外への商品の販売・サービスの提供のうちインターネット等を介した販売・提供は、今までの「免税売上」から「不課税売上」になります。



当システムでは、仕訳伝票を入力する際に適切な税区分を指定することで対応します。

指定する税区分は、操作説明「税区分運用例一覧」の「国外取引」－「売上・売却」の[B]をご確認ください。

○新しい課税方式の導入

事業者に限られる商品の購入・サービス提供を受けるときの課税方式として、「リバースチャージ方式」が新たに導入されました。

本来、商品の販売やサービスを提供する国外事業者が納税する売上げにかかる消費税を、国外事業者の代わりに日本企業が申告時に納税します。

当システムでは、特定課税仕入れ用の税区分が追加されていますので、仕訳伝票を入力する際にその税区分を指定することで対応します。

詳細は、操作説明「税区分運用例一覧」の「国外取引」－「仕入・費用」の[E]をご確認ください。

○消費税申告書と付表の様式変更と、新しい別表の追加

「リバースチャージ方式」の導入に伴い、原則課税用の消費税申告書と付表の様式が変更されました。

また、新しい別表「特定課税仕入れがある場合の課税標準額等の内訳書」が追加されました。

▼イメージ図（消費税申告書などの新様式）

消費税申告書

特定課税仕入れがある場合の
別表の提出有無

付表 2

特定課税仕入れの欄
・支払対価の額
・消費税額

付表 1

課税標準額の内訳の欄
・課税資産の譲渡等の対価の額
・特定課税仕入れに係る支払対価の額
・売上げの返還等対価に係る税額
・特定課税仕入れの返還等対価に係る税額

付表 2 - (2)

特定課税仕入れの欄
・支払対価の額
・消費税額

▼イメージ図（新しい別表）

当システムでは、課税期間（会計期間）に応じて、新旧の様式を自動判定します。

データ領域管理

- データ領域ごとにパスワードを設定できるようになりました。

[データ領域管理]-[データ領域保守]-[データ領域パスワード設定]メニューが追加され、データ領域に対してパスワードを設定できるようになりました。

データ領域を使用する際に、パスワードの入力が必要になります。この機能を使用することにより、簡単にセキュリティを強化できます。

《 関連メニュー 》

[グループ企業管理]-[グループ企業データ領域保守]-[グループ企業データ領域パスワード設定]メニュー

※『勘定奉行V ERP Group Management-Edition』をお使いの場合

導入処理

- マイナンバー制度（「社会保障・税番号制度」）の導入に伴い、法人番号を追加しました。

平成27年10月から事業主へ法人番号の通知が開始されます。

これに伴い、当システムでは、[導入処理]-[会社情報登録]メニューに「法人番号」の入力欄が追加されました。

法人番号は、平成28年1月1日以後に開始した事業年度の消費税申告書に印字されます。

- [会社運用設定]や[会計期間設定]メニューなどの設定内容を、他の利用者が伝票入力などの作業中でも確認できるようになりました。

[会社運用設定]メニューや[会計期間設定]メニューなどの設定内容を確認する際に、今までは、他の利用者の作業を止める（メニューを閉じる）必要がありましたが、今後は同時にメニューを開けます。

※設定を変更する場合は、[修正]（F9）を押します。

《 関連メニュー 》

- ・ [導入処理]-[会計期間設定]-[システム科目設定]メニュー
 - ・ [導入処理]-[消費税基本登録]-[消費税基本登録]メニュー
 - ・ [グループ企業管理]-[マスター配信]-[配信運用設定]メニュー
 - ・ [グループ企業管理]-[グループ企業合算]-[合算運用設定]メニュー
- ※『勘定奉行V ERP Group Management-Edition』をお使いの場合

仕訳処理



- 部門や勘定科目の他に、セグメントなど印刷するマスターが多くても1行(明細)に収めることで、仕訳明細単位での確認がしやすくなります。

今までは、勘定科目をはじめ出力するマスター（部門・補助科目・取引先・セグメントなど）が多い場合に、画面での1行が、印刷では2明細行で印字されていました。

これからは、1明細の区切り内に印字できるため、仕訳明細の確認がしやすくなるとともに、印刷枚数も抑えられます。

※1明細の区切り内には、最大で6行分のマスターを収めて印刷できます。

▼イメージ図(印刷)

会社名: OBC商事株式会社
会計期間: 2019年 4月 1日 ~ 2019年 3月 31日

伝票日付: 2019年 3月 31日
伝票No.: 000037
伝票枚数: 411
明細枚数: 7056

借方	借方科目 / 補助科目	金額	貸方	貸方科目 / 補助科目	金額	摘要
001 第一営業部	135 売掛金	10,000	001 第一営業部	500 売上高	10,000	
00000023 T-SHOP株式会社					8.0%	(740)
00000021 レーザープリンタ						
合計		10,000				

仕訳伝票
No. 000037
[通常伝票]

借方科目
001 第一営業部
135 売掛金
00000023 T-SHOP株式会社
00000021 レーザープリンタ

マスター数が多く、画面での1行が2明細行で印字される場合でも、

1明細の区切り内に印字できます。

借方科目
001 第一営業部
135 売掛金
00000023 T-SHOP株式会社
00000021 レーザープリンタ

▼イメージ図(設定)

仕訳処理 - 印刷条件設定

基本設定 | 詳細設定 | 取引先 | セグメント | 印刷設定 | プリント設定

印刷対象
☒ 条件設定した範囲で伝票を印刷する
☐ 前回印刷後に新規登録・修正した伝票を印刷する

用紙種類
☐ 応用用紙
☒ 専用紙
☐ 応用用紙 (罫線印刷)

用紙選択
 [5105] 単票仕訳伝票 (OBCコクヨ式)

印刷方法
☒ マスターを1明細行に収める
☒ A4用紙1枚分たまってから印刷する

印刷(P)
プレビュー(I)

チェックを付けると、1明細の区切り内に印字できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [決算処理]の仕訳伝票入力・仕訳伝票リストメニュー (仕訳処理[IFRS組替])

- 伝票の一部を修正した場合などに、特定のページだけ印刷（専用用紙）できます。

専用用紙でも特定のページを指定して印刷できるようになりました。

伝票の一部を修正した場合やプリンタの紙詰まりなどで、一部のページを差し替えたい場合に活用できます。

▼ イメージ図

※[印刷条件設定]画面の[印刷設定]ページで設定

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [決算処理]の仕訳伝票入力・仕訳伝票リストメニュー（仕訳処理[IFRS組替]）

- 仕訳伝票の検索で税抜金額からも検索できるようになりました。

仕訳伝票の検索において、今までは税込金額での検索だけでしたが、今後は税抜金額・税込金額のどちらでも検索できます。

例) 消費税額を「税抜金額からの計算」で入力している仕訳伝票の場合

借 方			貸 方		
勘定科目 / 補助科目	金 額		勘定科目 / 補助科目	金 額	
604 仕入高	1,000	305 買掛金	800		
	8.0%	80	100 現金	400	

これからは、「1,000～1,000」と税抜金額を指定して検索できます。

また、今まで通り「1,080～1,080」と税込金額を指定しても検索できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[反対仕訳一括起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]の各メニュー
- ・ [決算処理]の各仕訳伝票入力・仕訳伝票リストメニュー（仕訳処理[IFRS組替]・締処理・遡及処理）
- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー
- ・ [随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[仕訳伝票履歴]メニュー
- ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[仕訳伝票一括削除]メニュー
- ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[自動実行仕訳伝票データ作成]メニュー

※『自動実行管理オプション』をお使いの場合

会計帳票

- [元帳]メニューのピボット出力で、貸借対照表科目を残高ベースで確認できるようになりました。

＜「OMSS」の「Office連携サービス」／『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合＞

今までの元帳のピボット出力では、発生金額ベースだけしか確認できませんでした。

これからは、残高ベースでもピボット出力できるようになるため、貸借対照表科目（売掛金など）の金額を残高で確認できます。

▼イメージ図

※[ピボット条件設定]画面の[分析設定]ページで設定

- 勘定科目ごとの外貨金額の取引先別一覧を、[元帳]メニューから確認できるようになりました。

＜「OMSS」の「Office連携サービス」／『勘定奉行V ERP8』／『外貨入力オプション』をお使いの場合＞

[元帳]メニューのピボット出力機能を活用することで、勘定科目ごとの外貨金額を取引先別に一覧で確認できます。

具体的な活用例は、操作説明の「勘定科目ごとの外貨金額を、取引先別に一覧で確認する」をご参照ください。

消費税申告

- 税務代理権限証書の様式を改訂しました。

電子申告・書面申告において、「所得税法等の一部を改正する法律」（平成27年法律第9号）に対応しました。

平成27年7月1日以後に提出する税務代理権限証書について、「代理人が複数ある場合における代表する代理人の定め」に関する項目を追加した、改訂後の様式で出力できます。

《 関連メニュー 》

[消費税申告]-[税理士添付書面]-[税務代理権限証書]メニュー

決算処理

- 株主資本等変動計算書における変動事由「当期純利益」の出力位置を、変更できるようになりました。

株主資本等変動計算書に出力する「当期純利益」の出力位置を、[決算処理]-[決算報告書]-[株主資本等変動計算書登録]-[変動事由登録]メニューで任意に変更できるようになりました。

[科目体系登録]メニューで勘定科目を並び替えるように、コードを変更せずに変動事由を並び替えることができます。

詳細は、操作説明の「株主資本等変動計算書での変動事由の並び順を変更する」をご参照ください。

随時処理

- 登録済みの仕訳伝票上の税区分を、非課税から課税へ一括変更でき、かつ消費税額も自動で計算されます。

[税区分一括変更]メニューで、「非課税から課税の税区分へ」または「課税から非課税の税区分へ」一括で変更できるようになりました。

※今までは、「非課税から非課税」または「課税から課税」への変更だけでした。

また、課税の税区分に変更した場合は、あわせて消費税額も自動で計算されます。

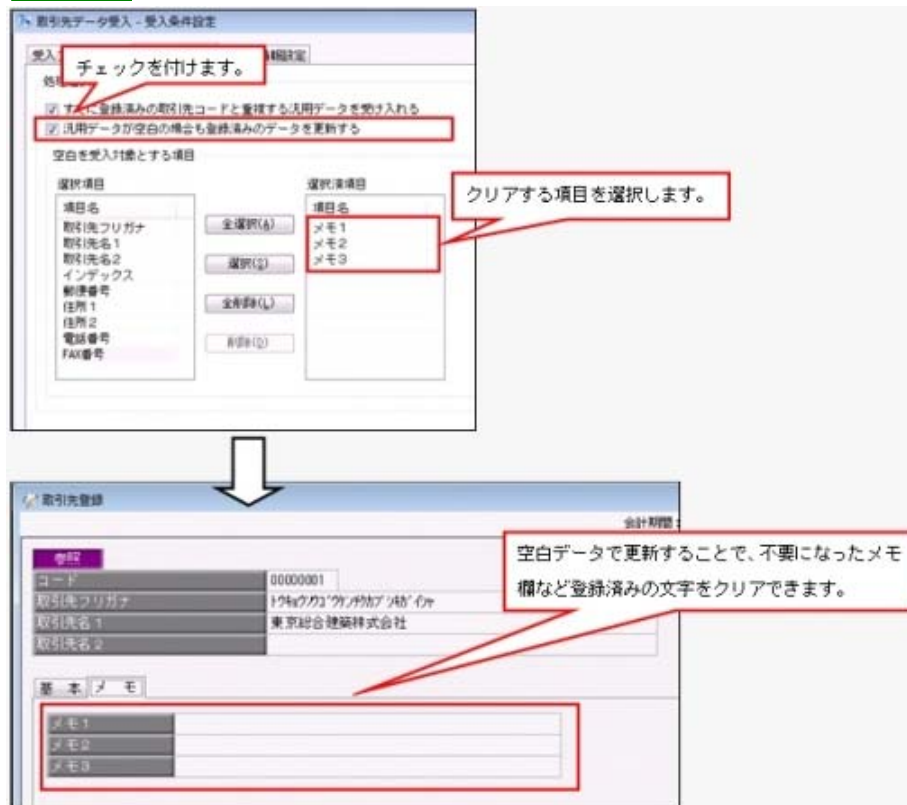
詳細は、操作説明の「税区分を一括で変更する具体例と手順」をご確認ください。

- 取引先の汎用データ受入で、メモ欄など登録済みの文字を一度にクリアできるようになりました。

汎用データ受入を利用することで、不要になったメモ欄など登録済みの文字を一度で効率的にクリアできます。

※[汎用データ受入]メニューの[受入条件設定]画面の[重複条件設定]ページで設定できます。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[取引先データ受入]メニュー
 - ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ受入]-[自動実行取引先データ受入]メニュー
- ※ 『自動実行管理オプション』をお使いの場合


財務会計システム





勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.18 / Ver.2.17

目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【全般】	
	バックアップデータのファイルサイズが小さくなりました。（OBC専用モードの場合）	3
	【帳票全般】	
	仕訳明細の確認時に、付箋メモも常に表示して確認できるようになりました。 ＜『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合＞	4
	損益計算書の内訳帳票「製造原価報告書」「販売費及び一般管理費明細書」の構成比の分母に、「純売上高」を指定できるようになりました。	5
	仕訳伝票リスト・決算報告書・管理会計帳票でも、PDFファイルを出力できるようになりました。 ＜「OMSS」の「Office連携サービス」／『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合＞	6
	【データ領域管理】	
	当初予算など最終予算以外の予算を合算できるようになりました。	7
	【仕訳処理】	
	仕訳入力画面の伝票日付で2桁を入力後、カーソルを自動的に次の項目に移動できます。	8
	仕訳明細の行を削除する際、「借方（貸方）だけ削除」の場合は、下の行が上ヘシフトしなくなりました。	8
	仕訳入力画面の摘要欄で上下キーを押した際に、コード欄からコード欄へ移動できるようになりました。	9
	摘要を検索する際に、コード検索と名称検索を多用する場合に便利な、簡易的な検索画面を用意しました。	9
	連想摘要を検索する際に、入力済みの勘定科目に関連付いた連想摘要を、貸借別に検索できるようになりました。	10
	部門権限のない部門の仕訳明細は、マスター情報のほかに摘要欄もマスキングします。	10
	仕訳伝票リストの内容を、クイックメニューからExcelに転送できるようになりました。 ＜「OMSS」の「Office連携サービス」／『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合＞	11
	【会計帳票】	
	元帳を印刷する際に、先頭ページのページ番号を指定して印刷できるようになりました。	12
	自動計算された消費税額を元帳で転送する際、税処理が「税抜」の場合は、項目タイトルが「消費税額」になります。	12
	【分析帳票】	
	増減率に加えて前年比を出力できます。	13
	【管理会計帳票】	
	＜『管理会計オプション』をお使いの場合＞	
	管理会計帳票のレイアウトで、管理会計科目を列に展開したり、マスターを明細行に出力したりできるようになりました。	13
	管理会計推移表でも、「借方金額」「貸方金額」の月次推移を個別に出力できるようになりました。	14



管理会計帳票を、区分やグループ単位でも集計できるようになりました。	14
Excel計算式で参照する列番号・行番号を固定するために、「絶対参照」を利用できるようになりました。	15
管理会計帳票でも、財務会計側の部門を使用できるようになりました。	15
管理会計帳票でも、出力時の集計期間の指定で、整理仕訳を集計に含めるかを設定できるようになりました。	15
【随時処理】	
外貨伝票を汎用データで受け入れる際に、為替レートをもとに、日本円金額を換算しながら受け入れできます。 <div>＜『外貨入力オプション』をお使いの場合＞</div>	16
【メニュー体系】	
メニュー構成を変更しました。	16

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

全般

- バックアップデータのファイルサイズが小さくなりました。（OBC専用モードの場合）

バックアップデータを「OBC専用モード」で作成した際に、バックアップデータが自動的に圧縮されるようになり、サイズが小さくなりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [データ領域管理]-[バックアップ／復元]-[一括バックアップ]メニュー
 - ・ [随時処理]-[バックアップ]メニュー
 - ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[自動実行バックアップ]メニュー
- ※[自動実行管理]の各メニューは、『自動実行管理オプション』をお使いの場合に使用できます。

帳票全般

- 仕訳明細の確認時に、付箋メモも常に表示して確認できるようになりました。
＜『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合＞

今までのように、必要に応じて付箋メモを確認する方法に加えて、あらたに、仕訳明細の確認時に常に付箋メモも確認することができるようになりました。

例えば、以下の業務に活用できます。

- ・ 入力した仕訳伝票を後から確認する際に、仕訳明細と付箋メモを横に並べて確認
- ・ 承認する際に、貼られた付箋メモを横に並べて確認

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[反対仕訳一括起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[自己承認伝票確認リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[消費税手入力確認リスト]メニュー
- ・ [会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー
- ・ [消費税申告]-[税区分明細表]メニュー
- ・ [決算処理]の各仕訳伝票入力・仕訳伝票リストメニュー（仕訳処理[IFRS組替]・締処理・遡及処理）

- 損益計算書の内訳帳票「製造原価報告書」「販売費及び一般管理費明細書」の構成比の分母に、「純売上高」を指定できるようになりました。

合計残高試算表や推移表などの帳票で、損益計算書の内訳帳票「製造原価報告書」「販売費及び一般管理費明細書」の構成比の分母として、「純売上高」などの損益計算書の科目区分も指定できるようになりました。

※決算報告書については、すでに損益計算書の科目区分も指定できる機能が追加されていますが、会計帳票・分析帳票についても機能が追加されました。

▼イメージ図

[科目体系帳票設定]メニュー

コード	帳票名	科目区分
0004	販売費及び一般管理費明細書	P3000 販売費及び一般管理費計

帳票属性

構成比の分母となる科目区分

科目区分	
P1000	純売上高

「純売上高」なども指定できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [導入処理]-[科目体系登録]-[科目体系帳票設定]メニュー
- ・ [導入処理]-[出力様式登録]-[出力様式登録]-[出力様式帳票設定]メニュー



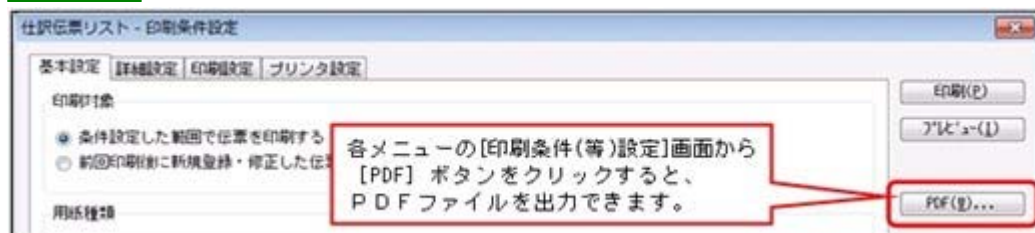
- 仕訳伝票リスト・決算報告書・管理会計帳票でも、PDFファイルを出力できるようになりました。

＜「OMSS」の「Office連携サービス」／『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合＞

仕訳伝票リスト・決算報告書・管理会計帳票でも、PDFファイルを出力できるようになりました。

※会計帳票や分析帳票などについては、すでにPDFファイルを出力できる機能が追加されています。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー

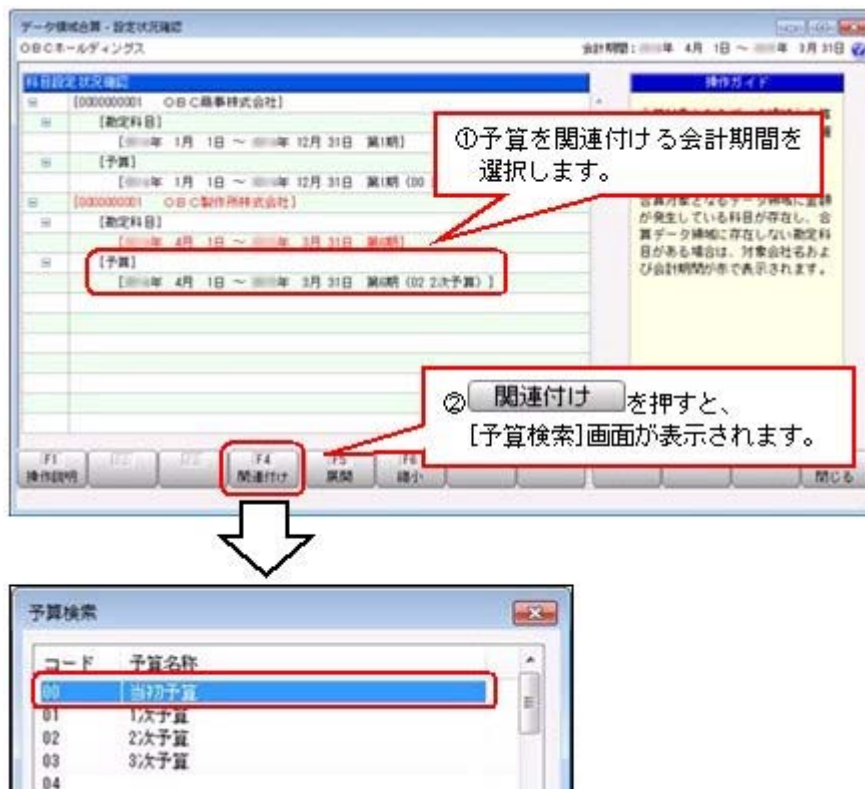
▼その他の[仕訳伝票リスト]関連メニュー

- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[自己承認伝票確認リスト]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票リスト]メニュー
※『管理会計オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]の各仕訳伝票リストメニュー（仕訳処理[IFRS組替]・締処理・遡及処理）
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]の各帳票メニュー
※『管理会計オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書]メニュー

- 当初予算など最終予算以外の予算を合算できるようになりました。

これまでは、自動で「最終予算」が合算されていましたが、「当初予算」など任意の予算を合算できます。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [随時処理]-[データ領域合算]メニュー
 - ・ [グループ企業管理]-[グループ企業合算]-[グループ企業合算]メニュー
- ※ 『勘定奉行V ERP Group Management-Edition』をお使いの場合

仕訳処理

- 仕訳入力画面の伝票日付で2桁を入力後、カーソルを自動的に次の項目に移動できます。

伝票日付の年月日欄で2桁まで入力した際に、今までは、Enterキーで確定することで次の項目に移動していました。

[仕訳処理－設定]画面の[移動設定]ページの伝票日付2桁入力時の移動で「移動する」を選択すると、自動的に次の項目に移動します。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]－[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]－[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]－[仕訳入力補助]－[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [管理会計帳票]－[管理会計伝票]－[管理会計伝票]メニュー
※『管理会計オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]の各仕訳伝票入力メニュー（仕訳処理[IFRS組替]・締処理・遡及処理）

- 仕訳明細の行を削除する際、「借方（貸方）だけ削除」の場合は、下の行が上へシフトしなくなりました。

今までは、「1行すべて削除」と同様に、「借方だけ削除」「貸方だけ削除」の場合も「上にシフトする」設定になっていました。

今後は、「借方だけ削除」「貸方だけ削除」の場合は、初期では下の行が上へシフトしなくなります。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]－[仕訳処理]メニュー

▼その他の[仕訳処理]関連メニュー

- ・ [管理会計帳票]－[管理会計伝票]－[管理会計伝票]メニュー
※『管理会計オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]の各仕訳伝票入力メニュー（仕訳処理[IFRS組替]・締処理・遡及処理）
- ・ [仕訳処理]－[仕訳入力補助]－[定型仕訳登録]メニュー

- 仕訳入力画面の摘要欄で上下キーを押した際に、コード欄からコード欄へ移動できるようになりました。

摘要コード欄や文字入力欄で、矢印キー（[↓] キー・[↑] キー）を押した際の移動先を設定できるようになりました。

[仕訳処理－設定]画面の[移動設定]ページの摘要の上下キーでの移動で「通常移動」を選択すると、摘要のコード欄からコード欄へ、または、文字入力欄から文字入力欄へ移動します。

※今までは、摘要のコード欄と文字入力欄を交互に移動していました。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー
※『管理会計オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]の各仕訳伝票入力メニュー

- 摘要を検索する際に、コード検索と名称検索を多用する場合に便利な、簡易的な検索画面を用意しました。

摘要の検索形式を選択できるようになりました。

[仕訳処理－設定]画面の[奉行21設定]ページの摘要の検索形式で「奉行21形式」を選択すると、摘要コードの検索と名称（摘要内容）の検索をボタン1つで切り替えられるため、それぞれの検索を多用する場合に便利です。

※「標準形式」では今まで通り、摘要コード・摘要内容・インデックス・連想摘要をリストから選択して切り替えます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[FB処理]-[FB仕訳起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[電子記録債権処理]-[電子記録債権仕訳起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー
※『管理会計オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]の各仕訳伝票入力メニュー

- 連想摘要を検索する際に、入力済みの勘定科目に関連付いた連想摘要を、貸借別に検索できるようになりました。

[仕訳処理－設定]画面の[奉行21設定]ページの連想摘要の検索形式で「奉行21形式」を選択すると、連想摘要が貸借別に検索されます。

つまり、借方に入力済みの勘定科目に関連付いた借方の連想摘要、貸方の勘定科目に関連付いた貸方の連想摘要だけに絞られて検索されます。

※「標準形式」では今まで通り、勘定科目が借方貸方のどちらに入力されていても、その科目に関連付いたすべての連想摘要が、貸借区別なく検索されます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[F B 処理]-[F B 仕訳起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[電子記録債権処理]-[電子記録債権仕訳起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー
※『管理会計オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]の各仕訳伝票入力メニュー

- 部門権限のない部門の仕訳明細は、マスター情報のほかに摘要欄の参照も制限します。

今までのマスター情報だけの参照制限（*表示）に加えて摘要も制限することで、摘要内容から取引内容が知られることを防ぎます。

※この機能は、ネットワーク対応製品の場合に使用できます。


《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー
- ・ [会計帳票]-[資金繰]-[資金繰明細表]メニュー
- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]の各メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]の各メニュー
- ・ [随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[仕訳伝票履歴]メニュー



- 仕訳伝票リストの内容を、クイックメニューからExcelに転送できるようになりました。

＜「OMSS」の「Office連携サービス」／『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合＞

仕訳伝票リストの画面で  をクリックすると、表示されている内容をExcelに転送できます。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー

▼その他の[仕訳伝票リスト]関連メニュー

- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票リスト]メニュー
※『管理会計オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]の各仕訳伝票リストメニュー（仕訳処理[IFRS組替]・締処理・遡及処理）

会計帳票

- 元帳を印刷する際に、先頭ページのページ番号を指定して印刷できるようになりました。

元帳を印刷する際に、先頭ページのページ番号を指定できるようになりました。

▼イメージ図

※[印刷条件設定]画面の[印刷設定]ページで設定

前回の印刷ページの後から続けてページ数を付番できるようになるため、月単位などでまとめてバインダに保管するときに連番にすることで、管理しやすくなります。

※仕訳伝票リストについては、すでに先頭ページのページ番号を指定して印刷できる機能が追加されています。

◀ 関連メニュー ▶

・ [会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー

- 自動計算された消費税額を元帳で転送する際、税処理が「税抜」の場合は、項目タイトルが「消費税額」になります。

自動計算された消費税額を元帳で転送する際、今までは、税処理に関わらず、項目タイトルが「うち消費税額」で出力されていました。

今後は、以下のとおり、税処理で切り替わります。

税抜の場合：「消費税額」

税込の場合：「うち消費税額」

また、Excelに転送した際に、「うち消費税額」の表示形式（分類）を「文字列」から「数値」に変更しました。

今までは、「（」を含んだ文字列で転送していたため、「うち消費税額」を計算式に含めることができませんでしたが、今後は二次利用できます。

分析帳票

- 対比表で、増減率に加えて前年比を出力できます。

対比表で、前年比を出力できるようになりました。

例) 前期 : 100,000円 今期 : 200,000円の場合

前年比 = 当期金額 ÷ 前期金額 × 100 = 200%

増減率 = (当期金額 - 前期金額) ÷ 前期金額の絶対値 × 100 = 100%

《 関連メニュー 》

- ・ [分析帳票]-[対比表]の各メニュー

管理会計帳票

＜『管理会計オプション』をお使いの場合＞



- 管理会計帳票のレイアウトで、管理会計科目を列に展開したり、マスターを明細行に出力したりできるようになりました。

○管理会計科目を列に展開して（横に並べて）、出力できるようになりました。

管理会計集計表・管理会計推移表で、今までは、管理会計科目は行（縦軸）固定でしたが、今後は列（横軸）に出力できるようになります。

▼イメージ図

取引先別売上集計表		自 2019年 4月 1日 至 2019年 3月 31日		管理会計科目が列（横軸）に表示されます。	
発生期間	会社名	〇ＢＣ商事株式会社	税務種	単位設定	単位：円
取引先	純売上高	売上原価	粗利益	粗利率	
00000001 太平/田舎株式会社	370,255,894	666,164,591	304,091,213	31.82	
00000002 株式会社岩手産業	652,200,549	131,389,901	520,811,648	79.82	
00000003 株式会社茨城電機	292,957,474	124,997,420	168,050,054	53.92	
00000004 群馬商事株式会社	271,549,862	52,129,637	219,420,225	80.82	
00000005 埼玉商事株式会社	417,356,716	31,282,710	386,074,006	92.52	
00000006 株式会社千葉デンキ	239,295,345	126,370,393	112,924,952	41.22	
00000007 東京商事相模南株式会社	592,578,579	279,796,325	312,782,254	53.02	
00000008 神奈川物産株式会社	334,173,766	84,074,084	250,099,682	74.82	
00000009 新潟工業株式会社	153,956,889	96,389,899	57,567,990	37.42	
00000010 石川物産株式会社	429,477,382	106,027,949	323,449,433	75.02	
00000011 名古屋電機商事株式会社	239,399,823	141,111,193	98,288,630	41.12	
00000012 大塚商事株式会社	43,937,213	95,555,565	-51,618,352	-117.52	
00000013 福岡商事株式会社	69,571,421	40,090,017	29,481,404	34.02	
00000014 京都システム株式会社	32,599,786	85,489,824	-52,890,038	-162.22	
00000016 株式会社広島県産	13,891,612	92,593	13,799,019	99.32	
00000017 テック南松株式会社	6,912,840	0	6,912,840	100.02	
00000018 株式会社福岡屋	9,480,141	1,851,852	7,628,289	80.52	
00000020 鹿児島文具	5,157,086	2,777,779	2,379,307	46.12	
00000021 高松屋百貨店株式会社	23,511,033	9,462,039	14,048,994	59.82	
00000022 新潟フラー株式会社	3,590,490	0	3,590,490	100.02	
00000023 T-340株式会社	1,149,171	462,963	686,208	59.72	
00000029 札幌工務店株式会社	129,826,489	15,472,225	114,354,264	87.92	
00000000 その他	0	65,921,124	-65,921,124	0.02	

マスターが行（縦軸）に表示されます。

○マスターを明細行に出力することで、1つの帳票で比較分析できるようになりました。
 管理会計分析表・管理会計推移表で、今までは、部門などマスターごとに必ず帳票が分割されていましたが、今後は、マスターを明細行に出力できるため、1つの帳票で一覧で確認できます。

▼イメージ図

部門別売上対費用率期間比較表									
発生期間 会社名 税務課 単位設定		当 期 4 月 1 日 至 前 期 3 月 31 日 ○B C 株式会社 単位：円							
		1つの帳票で、マスターを一覧で確認できます。							
部門	名称	当 期	前 期	対 前 期 差	対 前 期 比	二 期 前 期	三 期 前 期	四 期 前 期	
001 第一営業部	売上高	470,370,946	469,479,719	-17,400,773	16.4%	462,813,794	429,465,791	429,386,694	
	売上原価	216,936,989	217,486,983	-2,440,984	10.0%	214,754,769	209,429,425	209,827,919	
	売上総利益	253,433,957	251,992,736	1,441,221	0.6%	248,059,025	220,036,366	219,558,775	
	人件費	19,549,334	19,539,829	9,505	0.0%	19,579,589	19,765,863	19,341,519	
	人件費	87,379,794	89,526,980	-2,147,186	-2.5%	87,694,780	89,299,160	84,499,800	
	一般管理費	19,899,929	19,799,919	100,010	0.5%	19,699,999	19,671,155	19,591,949	
	一般管理費	119,934,934	119,949,939	-15,005	-0.0%	119,939,937	119,949,939	119,939,937	
002 第二営業部	売上高	429,369,140	429,367,289	1,851	0.0%	429,369,140	429,369,140	429,369,140	
	売上原価	199,479,929	199,479,929	0	0.0%	199,479,929	199,479,929	199,479,929	
	売上総利益	229,889,211	229,887,360	1,851	0.0%	229,889,211	229,889,211	229,889,211	
	人件費	19,549,334	19,539,829	9,505	0.0%	19,579,589	19,765,863	19,341,519	
	人件費	79,999,999	79,999,999	0	0.0%	79,999,999	79,999,999	79,999,999	
	一般管理費	19,899,929	19,799,919	100,010	0.5%	19,699,999	19,671,155	19,591,949	
	一般管理費	119,934,934	119,949,939	-15,005	-0.0%	119,939,937	119,949,939	119,939,937	
003 札幌支店	売上高	429,369,140	429,367,289	1,851	0.0%	429,369,140	429,369,140	429,369,140	
	売上原価	199,479,929	199,479,929	0	0.0%	199,479,929	199,479,929	199,479,929	
	売上総利益	229,889,211	229,887,360	1,851	0.0%	229,889,211	229,889,211	229,889,211	
	人件費	19,549,334	19,539,829	9,505	0.0%	19,579,589	19,765,863	19,341,519	
	人件費	87,379,794	89,526,980	-2,147,186	-2.5%	87,694,780	89,299,160	84,499,800	
	一般管理費	19,899,929	19,799,919	100,010	0.5%	19,699,999	19,671,155	19,591,949	
	一般管理費	119,934,934	119,949,939	-15,005	-0.0%	119,939,937	119,949,939	119,939,937	
004 仙台支店	売上高	429,369,140	429,367,289	1,851	0.0%	429,369,140	429,369,140	429,369,140	
	売上原価	199,479,929	199,479,929	0	0.0%	199,479,929	199,479,929	199,479,929	
	売上総利益	229,889,211	229,887,360	1,851	0.0%	229,889,211	229,889,211	229,889,211	
	人件費	19,549,334	19,539,829	9,505	0.0%	19,579,589	19,765,863	19,341,519	
	人件費	87,379,794	89,526,980	-2,147,186	-2.5%	87,694,780	89,299,160	84,499,800	
	一般管理費	19,899,929	19,799,919	100,010	0.5%	19,699,999	19,671,155	19,591,949	
	一般管理費	119,934,934	119,949,939	-15,005	-0.0%	119,939,937	119,949,939	119,939,937	



- 管理会計推移表でも、「借方金額」「貸方金額」の月次推移を個別に出力できるようになりました。

月次や四半期などの推移の金額を、「借方金額」「貸方金額」と個別に出力できるようになりました。（前方または後方の固定列の金額も同様）

また、勘定奉行実績の「借方金額」「貸方金額」に、発生金額だけでなく累計金額も出力できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [管理会計帳票]-[帳票レイアウト設定]-[列項目設定]-[列項目レイアウト設定]メニュー

- 管理会計帳票を、区分やグループ単位でも集計できるようになりました。

下記の区分やグループ単位でも集計できるようになりました。

- ・ 取引先区分
- ・ セグメント1／2グループ

《 関連メニュー 》

- ・ [管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]の各帳票メニュー



- Excel計算式で参照する列番号・行番号を固定するために、「絶対参照」を利用できるようになりました。

Excel計算式で参照する列番号・行番号は、今までは「相対参照」だけでしたが「絶対参照」で固定できるようになりました。

例えば、マスターの合計金額や全社員数を絶対参照でExcel計算式に組み込むことで、構成比や共通費の配賦などに利用できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[帳票出力設定]-[Excel計算式設定]メニュー

- 管理会計帳票でも、財務会計側の部門を使用できるようになりました。

○ [導入処理]-[部門登録]-[部門登録]メニューで登録した財務会計側の部門をそのまま、管理会計帳票で集計できるようになりました。

今までは、管理会計帳票用の部門階層（部門グループ）を作成する必要がありました。

○ 財務会計側の部門ごとに、「管理会計予算」「管理会計実績」「非会計情報」を登録できるようになりました。

今までは、管理会計帳票用の部門階層に「管理会計予算」「管理会計実績」「非会計情報」を登録し、親階層の金額は[管理会計帳票]-[管理会計金額入力]の各合算メニューで合算する必要がありました。

今後は、財務会計側の部門ごとに登録することで、合算せずとも、部門グループ別（親階層）に集計できます。

- 管理会計帳票でも、出力時の集計期間の指定で、整理仕訳を集計に含めるかを設定できるようになりました。

整理仕訳と日常仕訳を分けて管理している場合に、今までも、整理仕訳を集計するかを各管理会計帳票メニューの[実績条件]ページの「整理仕訳の集計条件」で設定できました。

今後は別途、集計期間の範囲指定でも設定できるようになります。

例えば、決算整理業務が終わるまでは、一時的に整理仕訳を除いて集計できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]の各帳票メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[帳票出力設定]-[Excel計算式設定]メニュー

随時処理

- 外貨伝票を汎用データで受け入れる際に、為替レートをもとに、日本円金額を換算しながら受け入れできます。

＜『外貨入力オプション』をお使いの場合＞

外貨金額の仕訳伝票や期首残高の汎用データを、為替レートをもとに日本円金額に自動換算しながら、当システムのデータとして受け入れます。

＜ 関連メニュー ＞

- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[データ換算受入]-[仕訳伝票データ換算受入]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[データ換算受入]-[開始残高データ換算受入]メニュー

メニュー体系全般

- メニュー構成を変更しました。

変更前	変更後
クライアントツールとして提供	[データ領域管理]-[データ領域保守]-[奉行 Open-DB 運用管理設定]メニュー


財務会計システム


勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.16 / Ver.2.15

目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【法改正情報】	
	消費税額のチェック機能が強化されました。	2
	平成27年4月施行消費税法改正（簡易課税制度のみなし仕入率の見直し）に対応しました。	3
	【消費税申告】	
	税区分明細表で、複数の税区分の確認や摘要での抽出ができるようになりました。	4
	【メニュー体系】	
	メニューの構成を変更しました。	5

法改正情報



● 消費税額のチェック機能が強化されました。

消費税 8 %改正に伴い、消費税率 8 %の取引と経過措置による消費税 5 %の取引が混在するようになったことで、消費税申告書を作成する前のチェック業務が煩雑になっています。

煩雑さを軽減し、より効率的に金額を追跡できる機能が追加されました。

○ 消費税額の入力ミス・計上漏れを可視化

課税取引額に消費税率をかけた消費税額（概算）を出力し、仕訳伝票で計上されている消費税額との差（概算との差）が「率」として表示されるようになりました。

自動計算された消費税額の手入力ミスや消費税額の計上漏れがないかを確認できます。なお、科目別課税対象額集計表では、手入力ミスや計上漏れの可能性が高い場合は欄が黄色で強調表示されます。

▼ イメージ図

消費税額			
消費税額 (伝票計上) [B]	消費税額 概算 (A × 税率) [C]	概算との差額 [B - C]	
63,817	64,033	-216	0.03%
560	6,003	-5,443	7.25%
5,600	5,600	0	0.00%

この欄をダブルクリックすると[仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[消費税手入力確認リスト]メニューにジャンプし、原因となる仕訳明細が表示されます。

さらに、その修正までを一連の流れでできます。

＜ 関連メニュー ＞

- ・ [消費税申告]-[科目別課税対象額集計表]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[消費税手入力確認リスト]メニュー

○ 補助科目ごとに出力

消費税管理資料でも、補助科目ごとに金額を確認できるようになりました。

補助科目ごとに、課税取引と非課税取引や免税取引を分けている場合に、効率よく金額をチェックできます。

▼ イメージ図

コード	科目名	税率	仕/売	通/込	科目金額(税抜)	非課税率取引額	課税取引額(税抜)	
							本体過算 (消費税過算計上)	本体過算 (消費税自動計算) [A]
704	文庫費	-	-	-	94,016	30,000	0	64,016
001	慶弔費	-	-	-	30,000	30,000	0	0
000	その他	8.0%	仕入	通常	64,016	0	0	64,016

不課税取引（慶弔費）を
わけて確認できます。

＜ 関連メニュー ＞

- ・ [消費税申告]-[科目別課税対象額集計表]メニュー
- ・ [消費税申告]-[科目別税区分集計表]メニュー

○「科目別課税対象額集計表」から各資料へのジャンプ先を最適化

今までは、「科目別課税対象額集計表」からは一律「科目別税区分集計表」にジャンプしていました。

今後は、以下のように追跡する金額によって最適なメニューにジャンプできるようになります。

- ・課税取引と非課税や免税取引の区分けが妥当であるかは、「税区分明細表」へジャンプ
- ・仕入や費用計上の課税取引が、課税売上と非課税売上のどちらに対するものか、または区分けがはっきりしないもの（共通）かの区分けが正しくされているかは、「科目別税区分集計表」へジャンプ
- ・自動計算された消費税額の手入力ミスや消費税額の計上漏れがないかは、「消費税手入力確認リスト」へジャンプ

●平成27年4月施行消費税法改正（簡易課税制度のみなし仕入率の見直し）に対応しました。

○簡易課税制度のみなし仕入率が、次のとおりに改正されました。

- ・金融業及び保険業が、第四種事業から第五種事業へ（のみなし仕入率 60%→50%）
- ・不動産業が、第五種事業から新設された第六種事業へ（のみなし仕入率 50%→40%）

改正は、平成27年4月1日以後に開始する課税期間（会計期間）から適用されます。

当システムでは、課税期間（会計期間）に応じて、第六種事業が利用できるように自動的に切り替えます。

《 関連メニュー 》

- ・[導入処理]-[消費税基本登録]-[消費税基本登録]メニュー
- ・[仕訳処理]-[仕訳処理]メニューなどの仕訳関連メニュー

○消費税申告書と付表のレイアウトが変更されました。

のみなし仕入率の見直しに伴い、簡易課税用の消費税申告書と付表のレイアウトが変更されました。

- ・消費税申告書
- ・付表4
- ・付表5
- ・付表5－(2)

当システムでは、課税期間（会計期間）に応じて、新旧レイアウトを自動判定します。

※簡易課税制度を選択しているすべての企業に影響があります。

消費税申告

- 税区分明細表で、複数の税区分の確認や摘要での抽出ができるようになりました。

○複数の税区分を確認する際に、税区分の切り替えをファンクションキーでできるようになりました。

▼イメージ図

税区分明細表 - 条件設定

基本条件 詳細条件 付 属

検索指定

☒ 税区分明細表 ☐ 税区分未確定リスト ☐ 事業区分未確定リスト

集計期間

月割出(1)... 2015年 4月 1日 ~ 2016年 3月 31日

税区分指定

税区分コード

コード 名称

0010 課税売上分課税仕入

0011 非課税売上分課税仕入

0012 非課税売上分課税仕入

印刷(1)

①税区分を指定します。

税区分明細表

〇〇〇〇株式会社

集計期間: 2015年 4月 1日 ~ 2016年 3月 31日

税区分: 0010 課税売上分課税仕入

伝票番号	品名	数量	税率	課税金額	消費税額	税込金額
15/05/01	消耗品費		8.0%	1,251,054	100,156	1,352,110
000002						
15/05/01	水道光熱費		8.0%	1,200,290	102,423	1,302,713
000002						
15/05/01	運賃		8.0%			
000002						
15/05/01	電力料等		8.0%			
000002						
15/05/01	燃料費		8.0%			
000002						
15/05/01	運賃		8.0%			
000002						

②[前税区分] (F4)・[次税区分] (F5) で切り替えて、税区分ごとの明細を確認します。

F1 条件設定 F2 印刷 F3 付属 F4 前税区分 F5 次税区分 F6 ジャンプ F7 再集計 F8 付属整理 F9 条件設定 F10 閉じる

表示完了

○特定の明細を摘要で絞り込めるようになりました。

旧税率 5 %の期間に新税率 8 %で前払いした明細など、事前に入力した摘要で絞り込む際に活用します。

▼イメージ図

税区分明細表 - 条件設定

基本条件 | **詳細条件** | 付 属

[詳細条件] ページで指定できます。

☐ 部門・グループを指定する

対象指定

☒ 部門 ☐ 部門グループ

科目指定

☐ 科目を指定する

☒ 勘定科目 勘定科目コード

☐ 補助科目 勘定科目コード 補助科目コード

コード 勘定科目名 コード 補助科目名

削除 (X)

摘 要

☒ 摘要を指定する

摘要コード 摘要内容

摘要内容

旧税率5%増し減分

削除 (X)

メニュー体系

- メニューの構成を変更しました。

変更前	変更後
[随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括無効]メニュー	[随時処理]-[データ一括変更]- [マスターデータ一括変更] -[マスターデータ一括無効]メニュー


財務会計システム






勘定奉行V ERP







機能アップガイド

Ver.2.14 / Ver.2.13

目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【全般】	
	明細ごとに入力する摘要とは別に、伝票全体に対するごとに摘要を入力できるようになりました。	3
	仕訳伝票を自動作成するメニューで、集計する対象に未承認・未転記の伝票が存在する場合、処理実行前にメッセージを表示し、注意喚起します。	4
	奉行21シリーズからデータをコンバートすると、別途設定をせずとも、奉行21と同様に、仕訳入力や元帳・合計残高試算表を出力できます。	4
	【帳票全般】	
	奉行21シリーズからデータをコンバートすると、合計残高試算表などの「繰越金額」の項目タイトルが、そのまま同じタイトルで出力できます。	5
	【データ領域管理】	
	2期以上運用しているデータ領域がわかりやすくなりました。	5
	[データ領域選択]画面の各項目の列幅や並び順を変更した際に、次回起動時もその状態で表示されるようになりました。	5
	【導入処理】	
	[会社運用設定]メニューの承認に関する設定項目が、役割ごとに整理されました。	6
	【仕訳処理】	
	前回印刷後に、新規登録・修正した伝票だけを印刷できるようになりました。	6
	伝票区分・用途区分を使用していない場合に、非表示にできるようになりました。	6
	摘要コードの入力を省略し、摘要内容をすぐに文字入力できるようになりました。	7
	伝票入力画面の摘要欄で[行削除]を押したときに、すぐに1行分削除できるようになりました。	7
	定型仕訳を、コードを入力するだけで簡単に呼び出せるようになりました。	8
	仕訳伝票入力時に、誤って[中止]を押したときに確認メッセージを表示します。	8
	登録済みの定型仕訳を複写し、一部異なる新しい定型仕訳を効率的に登録できるようになりました。	8
	経理担当者の1次承認に加えて、経理責任者が最終的に承認する「2段階での承認」ができるようになりました。	8
	否認のままの伝票や、未承認のまま長い間未処理の伝票がないかをチェックできるようになりました。	9
	承認機能を使用する場合でも、別途「転記」作業をせずに、承認と同時に管理資料に金額を反映させられるようになりました。	9
	経理責任者が、入力担当者の作業予定を登録したり、作業予定を複数の利用者と共有したりできるようになりました。	9
	【会計帳票】	
	元帳で税率を指定して絞込みができるようになりました。	9
	元帳で自科目側の金額で絞込みができるようになりました。	10

	元帳をPDFに出力する際に、1つのファイルにまとめて出力できるようになりました。 ＜「OMSS」の「Office連携サービス」をお使いの場合＞	11
	【配賦処理】	
	配賦後の帳票分析の粒度に応じて、配賦伝票をマスター別に作成せずにまとめる設定が付きま した。	11
	販売費及び一般管理費の間接費を配賦する際に、製造部門へは製造原価の費用科目として配賦 できるようになりました。	11
	【消費税申告】	
	OCR用とは別に、提出用の消費税申告書を印刷できるようになりました。	11
	消費税計算書で、未承認・未転記の伝票を集計できるようになりました。	12
	科目別税区分集計表で、金額の検算や誤入力チェックを効率的にできます。	12
	【決算処理】	
	二期間の決算報告書を出力する場合に、帳票ごとにそれぞれ実務に則した集計ができるよう になりました。	12
	決算報告書の表紙のフォントサイズや位置を調整できるようになりました。	12
	【随時処理】	
	部門グループを一から作り直す際に、汎用データ受入で効率的にできるようになりました。	13
	マスターデータを、一括で無効にできるようになりました。	13
	特定の補助科目をいくつか指定して、一括で削除できるようになりました。	13
	[税区分一括変更]メニューで、定型仕訳の税区分・事業区分も一括で変更できるようになりま した。	13
	合算元にマイナスで計上されている仕訳伝票がある場合は、マイナス金額のまま合算するよう になりました。	13
	【グループ企業管理】	
	消費税関連の設定は、個社ごとの設定を優先させるため、配信の対象外にしました。 ＜『勘定奉行V ERP Group Management-Edition』をお使いの場合＞	13
	【OMSS業務支援サービス】	
	クイックメニューにコピー機能（クリップボード）が追加され、企業独自のひな形（Excel）に 貼り付けて帳票を作成できるようになりました。 ＜「OMSS」の「Office連携サービス」をお使いの場合＞	14
	【メニュー】	
	よく使うメニューをすばやく開ける、ダイレクト起動メニューが追加されました。	15

注意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

全般



- 明細ごとに入力する摘要とは別に、伝票全体に対する摘要を入力できるようになりました。

[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[伝票設定]ページの「伝票摘要の利用」を「する」にすることで、伝票全体に対する摘要が管理できるようになります。その摘要は、仕訳リストや元帳で確認できます。

▼イメージ図（[仕訳処理]メニュー）

日付	勘定科目	金額	伝票摘要
2014年 4月 30日	135 売掛金	89,641,000	4/1~4/30の売上計上分
2014年 5月 31日	135 売掛金	89,641,000	

▼イメージ図（[元帳]メニュー）

伝票日付	勘定科目	金額	伝票摘要
2014年 4月 30日	135 売掛金	89,641,000	4/1~4/30の売上計上分
2014年 5月 31日	135 売掛金	89,641,000	

＜ 関連メニュー ＞

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
 - ▼その他の[仕訳処理]関連メニュー
 - ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー
 - ※『管理会計オプション』をお使いの場合
 - ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー
 - ・ [決算処理]-[締め処理]-[決算仮締め後修正]の各メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]の各メニュー・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
 - ▼その他の[仕訳伝票リスト]関連メニュー
 - ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票リスト]メニュー
 - ※『管理会計オプション』をお使いの場合
 - ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳伝票リスト[IFRS組替]]メニュー

- ・[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー

▼その他の仕訳関連メニュー

- ・[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票一括転記]メニュー
- ・[仕訳処理]-[反対仕訳一括起票]メニュー
- ・[決算処理]-[仕訳処理(IFRS組替)]-[反対仕訳一括起票(IFRS組替)]メニュー
- ・[仕訳処理]-[月次処理]-[月次仮締め]-[月次仮締め後変更レポート]メニュー
- ・[随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー
- ・[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニュー
- ・[随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[仕訳伝票履歴]メニュー
- ・[随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[仕訳伝票一括削除]メニュー
- ・[決算処理]-[締め処理]-[決算仮締め後変更レポート]-[仕訳伝票変更レポート]メニュー
- ・[自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[自動実行仕訳伝票データ作成]メニュー
※『自動実行管理オプション』をお使いの場合
- ・[自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ受入]-[自動実行仕訳伝票データ受入]メニュー
※『自動実行管理オプション』をお使いの場合
- ・[会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー

- **仕訳伝票を自動作成するメニューで、集計する対象に未承認・未転記の伝票が存在する場合、処理実行前にメッセージを表示し、注意喚起します。**

仕訳伝票を自動作成するメニューでは、未承認・未転記の伝票の金額は除かれて集計されます。未承認・未転記の伝票がある場合は、伝票作成前にメッセージにて、その後の処理を選択できます。

○処理を中断し、承認・転記後に再度実行する

○処理を続行する（ただし、未承認・未転記仕訳の金額は除く）

○未承認・未転記仕訳の集計対象別の一覧を印刷し、これをもとに承認・転記後再度実行する

◀ 関連メニュー ▶

- ・[仕訳処理]-[月次処理]-[為替換算]-[為替換算]メニュー
※『外貨入力オプション』をお使いの場合
- ・[配賦処理]-[部門実績配賦]の各メニュー

- **奉行21シリーズからデータをコンバートすると、別途設定をせずとも、奉行21と同様に、仕訳入力や元帳・合計残高試算表を出力できます。**

奉行21シリーズからデータをコンバートすると、伝票入力画面のファンクションキーの配置や摘要入力の操作性、元帳や合計残高試算表の印刷レイアウトに関する設定が引き継がれるようになり、設定を変更せずにそのまま運用できるようになりました。

▼参考（引き継がれる設定）

- [仕訳処理]メニュー
 - ・摘要内容の追加方法（[設定]画面の[運用設定]ページ）
 - ・ファンクションキーの配置（[設定]画面の[奉行21設定]ページ）
 - ・印刷条件 ※ネットワーク対応製品でない場合
- [帳簿入力]メニューの各メニュー
 - ・摘要未入力時の前行複写（[設定]画面の[帳簿設定]ページ）
 - ・起動時の伝票表示（[設定]画面の[奉行21設定]ページ）
 - ・部門情報の表示（[設定]画面の[表示設定]ページ）
 - ・ファンクションキーの配置（[設定]画面の[奉行21設定]ページ）
 - ・印刷条件 ※ネットワーク対応製品でない場合
- [元帳]メニュー
 - ・諸口の内訳を表示する（[条件設定]画面の[詳細条件]ページ）
 - ・印刷タイトル（自マスター）を均等割付する（[印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページ）
 - ・自マスターの条件内容を出力する（[印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページ）
 - ・金額計項目タイトルの印刷位置（[印刷等条件設定]画面の[印刷設定]ページの[設定]ボタン）
 - ・伝票日付の出力形式（[印刷等条件設定]画面の[印刷設定]ページの[設定]ボタン）
 - ・余白への罫線印刷（[印刷等条件設定]画面の[印刷設定]ページの[設定]ボタン）
 - ・その他の集計条件、印刷条件 ※ネットワーク対応製品でない場合
- [合計残高試算表]メニュー（[試算表見出し項目設定]メニュー）
 - ・製造原価報告書のページの切替（[印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページ）
 - ・網掛け濃度を指定する、および各項目の濃度値（[印刷等条件設定]画面の[印刷設定]ページ）
 - ・その他の集計条件、印刷条件 ※ネットワーク対応製品でない場合

帳票全般

- 奉行21シリーズからデータをコンバートすると、合計残高試算表などの「繰越金額」の項目タイトルが、そのまま同じタイトルで出力できます。

奉行21シリーズからデータをコンバートすると、合計残高試算表などの「繰越金額」の項目タイトルが、そのまま奉行21シリーズのときと同じタイトルで出力できるようになりました。

▼イメージ図

コード	科目名	前月繰高	借方	貸方	繰高	構成比
100	現金	0	0	0	100,000	6.3
A1220	現金計	0	100,000	0	100,000	6.3

《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー
- ・ [会計帳票]-[日計表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[内訳表]メニューの各メニュー

データ領域管理

- 2期以上運用しているデータ領域がわかりやすくなりました。

今までは、最新の会計期首日だけを表示していましたが、2期以上運用しているデータ領域は、決算期が範囲で表示されるようになりました。

▼イメージ図

会社コード	会計期首	決算期	会社名	作成日時
000000001	2011年 4月 1日	2011年 3月 31日	〇〇〇〇〇〇株式会社	2011/10/01 9:50:00

- [データ領域選択]画面の各項目の列幅や並び順を変更した際に、次回起動時もその状態で表示されるようになりました。

[データ領域選択]画面で、画面の各項目の列幅や並び順を変更した場合に、その情報が保持されるようになりました。次回起動時も、担当者個人の見やすい幅や並び順で表示されます。

▼イメージ図

会社コード	会計期首	決算期	会社名	作成日時
000000001	2014年 4月 1日	5~6	〇〇〇〇〇〇株式会社	2013/08/11 10:18:39
000000001	2012年 4月 1日	4	〇〇〇〇〇〇株式会社	2013/08/11 16:09:39
000000001	2011年 4月 1日	3	〇〇〇〇〇〇株式会社	2013/08/18 15:29:57

導入処理

- [会社運用設定]メニューの承認に関する設定項目が、役割ごとに整理されました。

[会社運用設定]メニューの[承認設定]ページの各項目が、4つのカテゴリに整理され、設定しやすくなりました。

【基本設定】 【詳細設定】 【業務別承認設定】 【集計設定】

▼イメージ図

The screenshot shows the '承認設定' (Approval Settings) window. It has a tabbed interface with tabs for '基本設定', 'IFRS設定', '振替設定', '伝票設定', '承認設定', '管理会計設定', '配賦設定', and '名簿設定'. The '承認設定' tab is active. It contains several sections with settings:

- 【基本設定】**: Includes '承認機能' (Approval Function) with options '1: 承認承認' and '0: 使用する'.
- 【詳細設定】**: Includes '自己承認の許可' (Allow self-approval) with options '1: 許可する' and '0: 表示しない', and '承認時の承認承認メッセージ' (Approval confirmation message at approval) with options '0: 表示しない' and '1: 表示する'.
- 【業務別承認設定】**: Includes '承認の業務別管理' (Business-specific management of approval) with options '0: しない' and '1: 承認済/承認済で登録', and '承認の業務別管理' (Business-specific management of approval) with options '0: 承認済/承認済で登録' and '1: 承認済/承認済で登録'.
- 【集計設定】**: Includes '承認済・承認済の集計' (Aggregation of approved/approved) with options '0: 承認済の仕訳だけを集計する' and '1: 承認済の仕訳だけを集計する'.

On the right, there is a '操作ガイド' (Operation Guide) panel with a '転記機能' (Posting Function) section, explaining the difference between '0: 使用しない' (Do not use) and '1: 使用する' (Use).

また、【業務別承認設定】の各項目の選択肢について、0と1が入れ替わりました。

変更前

変更後

0: 承認済／転記済で登録 → 1: 承認済／転記済で登録

1: 未承認／未転記で登録 → 0: 未承認／未転記で登録

仕訳処理



- 前回印刷後に、新規登録・修正した伝票だけを印刷できるようになりました。

前回印刷後に新規登録・修正した伝票だけを印刷できる機能を利用することで、印刷漏れを防ぎ、会社の帳簿書類をしっかりと保存できます。

※この機能は、[印刷条件設定]画面の[基本設定]ページで選択できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳伝票リスト[IFRS組替]]メニュー

- 伝票区分・用途区分を使用していない場合に、非表示にできるようになりました。

伝票区分・用途区分を使用していない場合に、非表示にできるようになりました。必要のない情報を消すことで、必要な情報がより目立つようになります。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ▼その他の[仕訳処理]関連メニュー
 - ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー
 - ※『管理会計オプション』をお使いの場合
 - ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー

- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ▼その他の[仕訳伝票リスト]関連メニュー
 - ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票リスト]メニュー
※『管理会計オプション』をお使いの場合
 - ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳伝票リスト[IFRS組替]]メニュー
 - ・ [決算処理]-[締め処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[決算仮締め後仕訳伝票リスト]メニュー
 - ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[遡及仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
- ▼その他の仕訳関連メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[反対仕訳一括起票]メニュー
 - ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[反対仕訳一括起票[IFRS組替]]メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[電子記録債権処理]-[電子記録債権仕訳起票]メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[FB処理]-[FB仕訳起票]メニュー
 - ・ [随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[仕訳伝票履歴]メニュー
- ・ [配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績配賦]メニュー
- ▼その他の伝票作成関連メニュー
 - ・ [導入処理]-[残高入力]-[開始残高入力]-[開始残高一括振替]メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[月次処理]-[為替換算]-[為替換算]メニュー
※『外貨入力オプション』をお使いの場合

● 摘要コードの入力を省略し、摘要内容をすぐに文字入力できるようになりました。

摘要を[導入処理]-[摘要登録]メニューで別途管理せずに都度入力している場合に、仕訳伝票入力の際、摘要内容をすぐに文字入力できるようになりました。

摘要コード欄を毎回 [Enter] キーで飛ばす操作が必要なくなります。

※[仕訳処理-設定]画面の[運用設定]ページの明細摘要コードの入力で「入力しない」を選択すると、摘要内容から入力できます。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ▼その他の[仕訳処理]関連メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]メニューの各メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[電子記録債権処理]-[電子記録債権仕訳起票]メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[FB処理]-[FB仕訳起票]メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
 - ・ [決算処理]-[締め処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正]メニュー
 - ・ [決算処理]-[締め処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正[IFRS組替]]メニュー
 - ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理]メニュー
 - ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理[IFRS組替]]メニュー
 - ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー
 - ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー
※『管理会計オプション』をお使いの場合

● 伝票入力画面の摘要欄で [行削除] を押したときに、すぐに 1 行分削除できるようになりました。

伝票入力画面の摘要欄で [行削除] ファンクションキーを押したときに、すぐに 1 行分を削除できるようになりました。

※[仕訳処理-設定]画面の[奉行21設定]ページの明細行の削除で「奉行21形式」を選択すると、すぐに 1 行分削除できます。

※今までは、1 行削除するか、借方または貸方だけを削除するかを選択する画面が、必ず、表示されていました。

なお、摘要欄以外の項目では、今までどおり選択画面が表示されます。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ▼その他の[仕訳処理]関連メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
 - ・ [決算処理]-[締め処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正]メニュー
 - ・ [決算処理]-[締め処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正[IFRS組替]]メニュー
 - ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理]メニュー
 - ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理[IFRS組替]]メニュー
 - ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー
 - ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー
※『管理会計オプション』をお使いの場合

- 定型仕訳を、コードを入力するだけで簡単に呼び出せるようになりました。

定型仕訳を、コードを入力するだけで呼び出せるようになりました。定型仕訳のコードを覚えている場合などに便利です。

※[仕訳処理-設定]画面の[奉行21設定]ページの定型仕訳の呼び出しで「奉行21形式」を選択すると、定型仕訳のコードだけを入力する画面が表示されます。

※今までは、必ず、[定型仕訳検索]画面が表示され、定型仕訳をリストから選択、または検索して定型仕訳を呼び出す方法でした。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー

▼その他の[仕訳処理]関連メニュー

- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]メニューの各メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー

※『管理会計オプション』をお使いの場合

- 仕訳伝票入力時に、誤って[中止]を押したときに確認メッセージを表示します。

仕訳伝票入力時に、誤って[中止]ファンクションキーを押したときに、入力していた仕訳明細がすべてクリアされてしまうのを防ぐため、確認メッセージを表示します。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー

▼その他の[仕訳処理]関連メニュー

- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー

※『管理会計オプション』をお使いの場合

- 登録済みの定型仕訳を複写し、一部異なる新しい定型仕訳を効率的に登録できるようになりました。

すでに登録してある定型仕訳をもとに、一部変更したものを繰り返し登録する場合などに効率的です。

具体的には、[仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニューで、定型仕訳を複写し、新しい定型仕訳を登録できるようになりました。



- 経理担当者の1次承認に加えて、経理責任者が最終的に承認する「2段階での承認」ができるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニューで、今までは、入力担当者が登録した伝票を経理責任者または経理担当者が承認するという「1段階での承認」でしたが、2段階でそれぞれ承認できるようになりました。

◀ 事前設定（管理者） ▶

- ・ 2段階での承認を、[会社運用設定]メニューの[承認設定]ページで設定します。
- ・ 1次承認者や最終承認者の割り当ては、[セキュリティ管理]-[権限管理]-[メニュー権限登録]メニューで設定します。

◀ 事前設定（承認者） ▶

- ・ 承認者は、担当範囲を[仕訳伝票承認]メニューの[条件設定]画面の[承認対象]ページで設定し、条件パターンとして保存します。

※事前設定の詳細や日常の処理については、操作説明の「仕訳伝票承認の流れ」をご確認ください。

- 否認のままの伝票や、未承認のまま長い間未処理の伝票がないかをチェックできるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[未承認伝票確認]メニューが追加され、否認されたままの伝票や、未承認のまま長い間未処理の伝票がないかをチェックできるようになりました。

否認伝票・未承認伝票それぞれの件数を確認できます。

また、未処理の伝票がある場合に、[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニューにジャンプして、承認までできます。

- 承認機能を使用する場合でも、別途「転記」作業をせずに、承認と同時に管理資料に金額を反映させられるようになりました。

今までは、[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニューの承認機能を使用する場合は、必ず、[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票一括転記]メニューで別途「転記」作業が必要でした。

これからは、承認機能を使用する場合でも、別途「転記」作業をせずに、承認と同時に管理資料に金額を反映させられるようになりました。

[会社運用設定]メニューの[承認設定]ページで、転記機能を「0：使用しない」に設定します。

※今までどおり、別途「転記」することもできます。



- 経理責任者が、入力担当者の作業予定を登録したり、作業予定を複数の利用者と共有したりできるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳伝票予約]メニューで、経理責任者が、入力担当者の作業予定を代わりに一括して登録したり、作業予定を複数の利用者と共有したりできるようになりました。

また、入力担当者が退職した場合に、他の担当者へ割り当てなおすこともできます。

※この機能は、管理者でログインしている場合に使用できます。

※[条件設定]画面の[利用者設定]ページで、利用者を設定することで実現できます。

会計帳票



- 元帳で税率を指定して絞込みができるようになりました。

[会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニューで、経過措置の旧税5%の取引内容だけを確認したい場合に便利です。

▼イメージ図

○[元帳]メニュー

※拡張形式

※標準形式

なお、消費税額を検算するには、[仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[消費税手入力確認リスト]メニューを利用すると便利です。

▼イメージ図

○[元帳]メニュー

伝票日付	伝票No.	部門	勘定科目	摘要	税率	課税入	消費税額	消費税額 自動計算	差額
4/05/25	000089	総務部	水運光熱費	水運光熱費 (5%適用分)	5.0%	25,600	1,218	1,218	-1

- 元帳で自科目側の金額で絞込みができるようになりました。

[会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニューで、今まで相手勘定科目側の金額で絞込みができましたが、自動勘定科目側の金額でも絞込みができるようになりました。

▼イメージ図

○[元帳]メニュー

※拡張形式

※標準形式

(例)

以下の仕訳伝票を例に説明します。

行	部門 / 勘定科目 / 補助科目	金額	部門 / 勘定科目 / 補助科目	金額
1	001 第一営業部		001 第一営業部	
	135 売掛金	1,500	500 売上高	2,000
				8.0%
				160
2	001 第一営業部			
	130 受取手形	660		

< 「500 売上高」の元帳で金額を絞り込む際の指定方法>

- ◆ 「135 売掛金」の1,500円で絞り込みたい場合
「自科目の金額で絞り込む」にチェックを付けません。
- ◆ 「500 売上高」の2,000で絞り込みたい場合
「自科目の金額で絞り込む」にチェックを付けます。



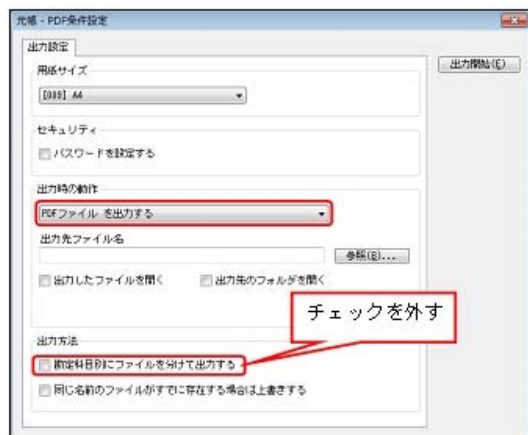
- 元帳をPDFに出力する際に、1つのファイルにまとめて出力できるようになりました。
＜「OMSS」の「Office連携サービス」／『勤定奉行V ERP8』をお使いの場合＞

元帳などの帳票をPDFに出力する際、今までは、勘定科目別や部門別などで必ずPDFが分かれて出力されていましたが、これからは、1つのファイルにまとめて出力することもできます。

※[PDF条件設定]画面で、「〇〇別にファイルを分けて出力する」のチェックを外すと、1つのファイルにまとめて出力されます。

▼イメージ図

○[元帳]メニュー



《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票] メニューの各メニュー
- ・ [分析帳票] メニューの各メニュー
- ・ [予算管理] メニューの各帳票メニュー

配賦処理



- 配賦後の帳票分析の粒度に応じて、配賦伝票をマスター別に作成せずにまとめる設定が付きしました。

[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[配賦設定]ページの「会社運用設定 - 配賦設定」で、以下の帳票ごとに勘定科目レベルに分析の粒度を設定できます。

- ・ 部門共通費配賦後の分析帳票

また、マスターごとに設定できます。

《部門共通費配賦後の分析帳票》

- ・ 取引先
- ・ セグメント

※分析粒度をマスター別でなく勘定科目レベルにすることで、結果的に配賦伝票の作成枚数が減少するため、配賦処理のパフォーマンスアップ、帳票集計のパフォーマンスアップが見込めます。



- 販売費及び一般管理費の間接費を配賦する際に、製造部門へは製造原価の費用科目として配賦できるようになりました。

今までは、配賦先科目は必ずすべての部門で同じでしたが、これからは、[配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績配賦設定]-[部門実績配賦パターン登録]メニューで、部門別に配賦先科目を指定できるようになりました。

共通部門に発生した間接費（販管費）を配賦する際に、製造部門など製造・作成する部門へ、「製造原価の費用科目」として配賦する場合に利用します。

消費税申告

- OCR用とは別に、提出用の消費税申告書を印刷できるようになりました。

[消費税申告]-[消費税申告書]メニューで、OCR用とは別に、提出用の消費税申告書を印刷できるようになりました。

また、提出用・添付書類の印刷部数が指定できます。

※提出用の消費税申告書とは、現物帳票の2枚目以降を指します。

● **消費税計算書で、未承認・未転記の伝票を集計できるようになりました。**

[消費税申告]-[消費税計算書]メニューで、未承認・未転記の伝票を集計することで、伝票確定前に、消費税内容の確認・訂正ができるようになりました。

※科目別課税対象額集計表など、他の消費税管理資料にはすでにこの機能が追加されていますが、消費税計算書についても機能が追加されました。

※他の消費税管理資料と同様、[条件設定]画面の[詳細設定]ページの「未承認仕訳・未転記仕訳を含めて集計する」チェックボックスにチェックを付けると、集計できます。

● **科目別税区分集計表で、金額の検算や誤入力チェックを効率的にできます。**

[消費税申告]-[科目別税区分集計表]メニューに以下の機能が追加され、金額の検算や誤入力チェックを効率的にできます。

○消費税率の指定 （[条件設定]画面の[基本条件]ページ）

消費税率を指定すると、以下のような場合に便利です。

- ・複数の税率が混在している場合に、税率ごとに分けて検算する
- ・頻度の少ない経過措置の旧税率で、誤って仕訳入力していないかを確認する

○売上科目と仕入・費用科目をまとめて一覧で表示 （[条件設定]画面の[詳細条件]ページ）

集計結果のページを、売上科目と仕入・費用科目を分けなくて、まとめて一覧で確認できます。

例えば、建物の購入と売却の結果をまとめて確認できます。

○勘定科目ごとの金額を表示 （[条件設定]画面の[詳細条件]ページ）

勘定科目ごとの金額で、大まかに確認できるようになりました。

※今までは必ず、税率（内訳金額）ごとの確認でした。

決算処理

● **二期間の決算報告書を出力する場合に、帳票ごとにそれぞれ実務に則した集計ができるようになりました。**

[決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書]メニューで、二期間（前期・当期）の決算報告書を出力する場合に、前期の貸借対照表（株主資本等変動計算書も含む）は指定された集計期間に関係なく、会計期末時点の残高で集計できるようになりました。

今までは、貸借対照表と損益計算書を2回に分けて印刷する必要がありましたが、1回の印刷で済みます。

例）中間決算期に、貸借対照表と損益計算書を同時に出力する場合

前期の会計期間：2014年4月1日～2015年3月31日

前期の集計期間：2014年4月1日～2014年9月30日

チェックを付けると、帳票ごとにそれぞれ実務に則した集計がされます。

前期の貸借対照表 ⇒ 2015年3月31日（会計期間末）時点の残高

前期の損益計算書 ⇒ 2014年9月30日までの累計

※[印刷等条件設定]画面の[基本条件]ページで設定できます。



● **決算報告書の表紙のフォントサイズや位置を調整できるようになりました。**

[決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書]メニューで、表紙のフォントサイズや、タイトルや会社名などの各項目の印字位置を調整できるようになりました。

※[決算報告書 - 印刷設定]ページの[設定]ボタンから表示レイアウト形式を「奉行21形式」に変更すると、『奉行21シリーズ』と同じ表紙で印刷できます。（フォントサイズ・位置調整は必要ありません。）

随時処理

- 部門グループを一から作り直す際に、汎用データ受入で効率的にできるようになりました。

組織改編などで部門グループを一から作り直す際、今までは、[随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括削除]-[部門グループデータ一括削除]メニューで部門グループを一旦削除してから、汎用データを受け入れ直す必要がありました。

これからは、[随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[部門グループデータ受入]メニューで、部門グループすべての階層の削除と受け入れを同時にできるようになった(※)ため、効率的に一から作り直すことができます。

※[条件設定]画面で、[拡張項目設定]ページの「すべての部門グループを削除してから汎用データを受け入れる」にチェックを付けます。



- マスターデータを、一括で無効にできるようになりました。

[随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括無効]メニューが追加され、取引先など、新年度から利用しないように、一括で無効にできるようになりました。

以下のマスターを、一括で無効化できます。

取引先／セグメント

※不要なマスターを無効にすることで、マスター数を減らす効果があり、結果、帳票等での集計パフォーマンスを改善できます。

- 特定の補助科目をいくつか指定して、一括で削除できるようになりました。

[随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括削除]-[補助科目データ一括削除]メニューで、今までは勘定科目の指定のため、すべての補助科目が一括で削除されていました。これからは、特定の補助科目をいくつか指定して、部分的な一括削除ができるようになりました。

※今までは、勘定科目だけ指定できました。

- [税区分一括変更]メニューで、定型仕訳の税区分・事業区分も一括で変更できるようになりました。

[随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[税区分一括変更]メニューで、仕訳伝票だけでなく、定型仕訳の税区分・事業区分も一括で変更できるようになりました。

- 合算元にマイナスで計上されている仕訳伝票がある場合は、マイナス金額のまま合算するようになりました。

[随時処理]-[データ領域合算]メニューで、今までは、合算元にマイナスで計上されている仕訳伝票がある場合は、貸借を入れ替えてプラスの金額として合算していました。

これからは、貸借を入れ替えずにマイナス金額のまま合算するようになりました。

▼イメージ図

以下のような仕訳伝票が登録されていた場合に、貸借を入れ替えずに「売掛金」「-500,000」、「売上高」「-500,000」のまま合算します。

001 第一営業部			001 第一営業部		
135 売掛金		-500,000	500 売上高	売上高	-500,000
				8.0%	(-37,007)

グループ企業管理

- 消費税関連の設定は、個社ごとの設定を優先させるため、配信の対象外にしました。

<『勘定奉行V ERP Group Management-Edition』をお使いの場合>

[グループ企業管理]-[マスター配信]-[マスター配信]メニューで、勘定科目の消費税関連（税区分・消費税自動計算・端数処理・事業区分）の設定は、個社ごとに設定するため、配信の対象外にしました。

OMSS業務支援サービス

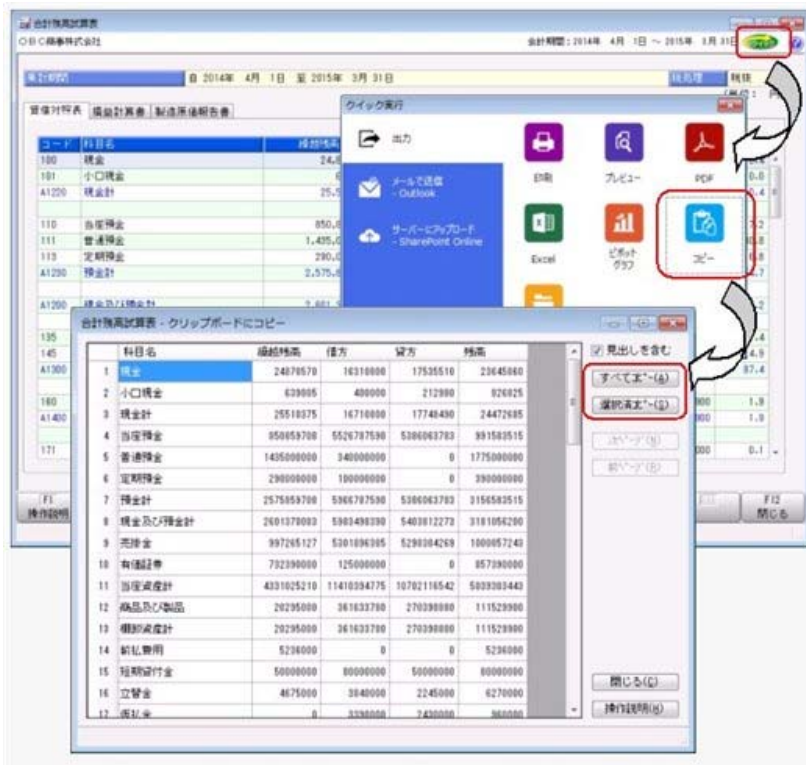


- クイックメニューにコピー機能（クリップボード）が追加され、企業独自のひな形（Excel）に貼り付けて帳票を作成できるようになりました。

＜「OMSS」の「Office連携サービス」／『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合＞

画面の表示内容をコピーして、企業独自のひな形（Excel）に貼り付けて帳票を作成できるようになりました。

▼イメージ図



企業独自のひな形（Excel）に、
コピーした内容を貼り付けます。

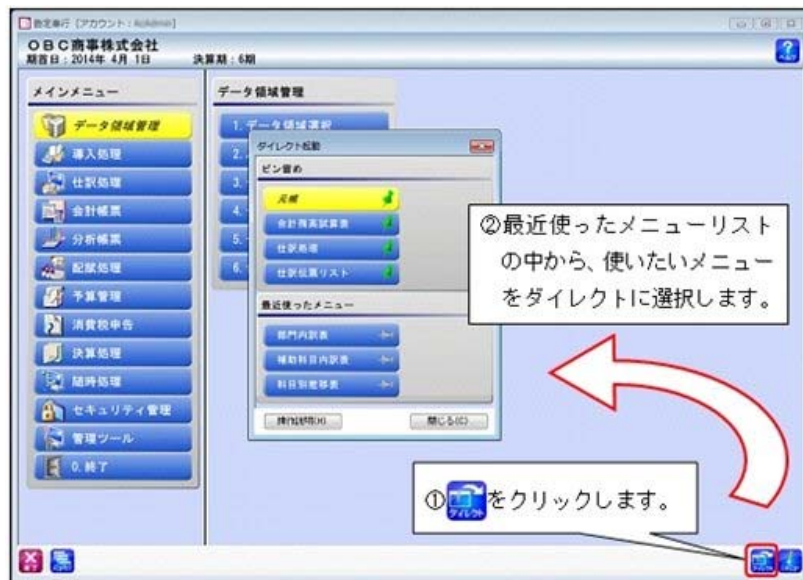


メニュー

- よく使うメニューをすばやく開ける、ダイレクト起動メニューが追加されました。
＜『勤定奉行V ERP8』をお使いの場合＞

ダイレクト起動メニューを利用すると、最近使ったメニューを簡単に開くことができます。
さらに、よく使うメニューをリストに固定表示することで、毎日使用しているメニューをすばやく起動できます。

▼イメージ図



財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.12

【消費税申告】	
税務代理権限証書の様式を改訂しました。	2
【決算処理】	
地方税の電子申告（XBRL Spec2.1 Ver. 2.0）に対応しました。	2

消費税申告

● 税務代理権限証書の様式を改訂しました。

電子申告・書面申告において、「所得税法等の一部を改正する法律」（平成26年法律第10号）に対応しました。

平成26年7月1日以後に提出する税務代理権限証書について、「調査の通知に関する同意」に関する項目の追加など、改訂後の様式で作成できます。

《 関連メニュー 》

[消費税申告]-[税理士添付書面]-[税務代理権限証書]メニュー

決算処理

● 地方税の電子申告（XBRL Spec2.1 Ver.2.0）に対応しました。

地方税の電子申告を、国税の電子申告と同一バージョン（XBRL Spec2.1 Ver.2.0）に対応しました。

具体的には、地方税申告に必要な財務諸表データを XBRL Spec2.1 Ver.2.0 に対応しました。

今までは、法人税申告に加えて地方税申告にも財務諸表データを添付する際は、電子申告科目や注記の登録を別途「地方税申告」用に設定していましたが、今後は共通になります。

《 関連メニュー 》

- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[電子申告]-[電子申告科目設定]メニュー
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[電子申告]-[電子申告注記登録]メニュー
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[電子申告]-[電子申告データ作成[財務諸表]]メニュー


財務会計システム







勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.11 / Ver.2.10

目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【法改正情報】	
	消費税申告書の新レイアウト（平成26年4月1日以降終了課税期間分）に対応しました。	2
	【全般】	
	貸借別に摘要を入力できるようになり、外部システムで借方・貸方科目別に入力された摘要の仕訳伝票も受け入れできます。 ＜『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合＞	2
	【会計帳票】	
	摘要集計表など各集計表から元帳へジャンプできるようになり、内訳明細を確認できます。	3
	【分析帳票】	
	従業員数を部門ごとに入力する際に部門合計が確認できるようになりました。	3
	【随時処理】	
	『人事奉行』の『退職金管理オプション』から退職金支給時の仕訳を受け入れられます。	3
	【OMSS業務支援サービス】	
	Office連携サービスの機能を強化（テンプレート・パスワード）しました。 ＜「OMSS」の「Office連携サービス」をお使いの場合＞	4
	Excelピボットグラフを作成できるメニューが追加されました。 ＜「OMSS」の「Office連携サービス」をお使いの場合＞	5
	【グループ企業管理】	
	勘定科目を未使用にした情報も配信できるようになりました。 ＜『勘定奉行V ERP Group Management-Edition』をお使いの場合＞	6

注意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

法改正情報



- 消費税申告書の新レイアウト（平成26年4月1日以降終了課税期間分）に対応しました。

消費税申告書の新レイアウト（平成26年4月1日以降終了課税期間分）に対応しました。
レイアウトが変更された申告書は、以下の通りです。
電子申告にも対応しています。

原則課税	簡易課税
消費税申告書	消費税申告書
付表 2	付表 4
付表 1	付表 5 - (2)
付表 2 - (2)	

全般

- 貸借別に摘要を入力できるようになり、外部システムで借方・貸方科目別に入力された摘要の仕訳伝票も受け入れられます。

＜『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合＞

「貸借別の摘要」を利用することで、借方科目・貸方科目それぞれ個別に摘要を入力できます。

また、外部システムで貸借別に入力された摘要の仕訳伝票を受け入れられます。（[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニュー）

貸借別に摘要を入力することで、元帳など明細出力する帳票や摘要集計表では、借方または貸方の特定の科目だけに集計できます。

詳細は、操作説明の「貸借別の摘要とは」をご確認ください。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[仕訳帳入力]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計伝票]-[管理会計伝票]メニュー
- ※ 『管理会計管理オプション』をお使いの場合
- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[締め処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正]メニュー
- ・ [決算処理]-[締め処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正[IFRS組替]]メニュー

- ・[決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理]メニュー
- ・[決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理[IFRS組替]]メニュー
- ・[随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー
- ・[随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[定型仕訳データ作成]メニュー
- ・[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニュー
- ・[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[定型仕訳データ受入]メニュー
- ・[自動実行管理]-[汎用データ作成]-[自動実行仕訳伝票データ作成]メニュー
- ※『自動実行管理オプション』をお使いの場合
- ・[自動実行管理]-[汎用データ受入]-[自動実行仕訳伝票データ受入]メニュー
- ※『自動実行管理オプション』をお使いの場合

会計帳票



- 摘要集計表など各集計表から元帳へジャンプできるようになり、内訳明細を確認できます。

元帳にジャンプすることで、効率的に、該当項目の内訳明細を確認できます。
例えば、摘要集計表の場合には、勘定科目ごとに特定の摘要で集計された金額について、その内訳明細を確認できます。

《 関連メニュー 》

[会計帳票]-[集計表]の各メニュー

分析帳票

- 従業員数を部門ごとに入力する際に部門合計が確認できるようになりました。

[分析帳票]-[経営分析]-[従業員数設定]メニューで従業員数を部門別に入力している際に、部門合計の従業員数を確認しながら、入力することができます。最終的に部門合計を全社の従業員数と確認することで、正しく入力できているか確認できます。

随時処理



- 『人事奉行』の『退職金管理オプション』から退職金支給時の仕訳を受け入れられます。

奉行シリーズ『人事奉行』の『退職金管理オプション』を導入している場合に、退職金支給時の仕訳が自動作成され、勘定奉行に連携できます。
仕訳伝票は、[随時処理]-[奉行連動データ受入]-[仕訳伝票受入]メニューで受け入れます。

参 考

○「OMSS」や「業務支援サービス」の詳細については、以下のサイトをご確認ください。

<http://www.obc.co.jp/click/omss/>

○「業務支援サービス」は、「OMSS」の契約期間中に利用できるサービスです。

「OMSS」の契約期間が終了した時点で、「業務支援サービス」も利用できなくなりますので、ご注意ください。

- Office連携サービスの機能を強化（テンプレート・パスワード）しました。
＜「OMSS」の「Office連携サービス」／『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合＞



○Excelピボットグラフのテンプレート機能

ピボットグラフを作成した後、分析しやすいようにExcel上でデザインを変更した場合に、次回以降も同じデザインで作成できます。

当システムでは、同じメニューの同条件で作成したピボットグラフのファイルをテンプレートとして指定すると、毎回独自のデザインでピボットグラフが作成できます。

＜ 関連メニュー ＞

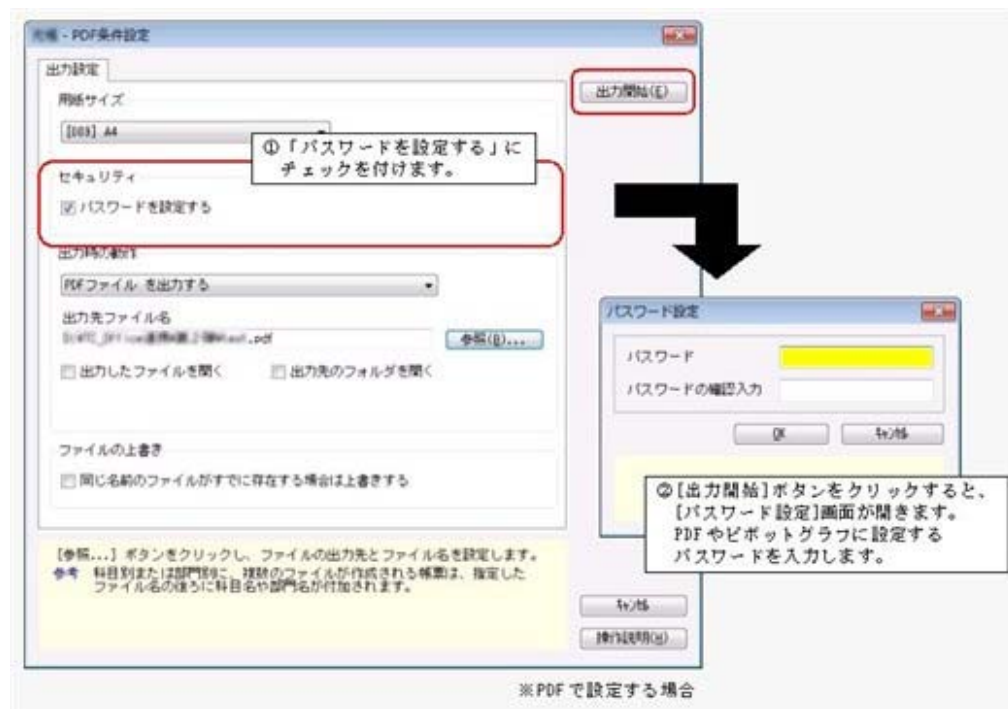
- ・[元帳]-[元帳]メニュー
- ・[分析帳票]-[推移表]-[部門別推移表]メニュー
- ・[分析帳票]-[推移表]-[補助科目別推移表]メニュー
- ・[分析帳票]-[推移表]-[取引先別推移表]メニュー
- ・[分析帳票]-[推移表]-[セグメント別推移表]メニュー
- ※『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合
- ・[分析帳票]-[対比表]-[部門別対比表]メニュー
- ・[分析帳票]-[対比表]-[補助科目別推移表]メニュー
- ・[分析帳票]-[対比表]-[取引先別推移表]メニュー
- ・[分析帳票]-[対比表]-[セグメント別対比表]メニュー
- ※『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合

○Outlook メールのテンプレート機能

当システムでは、作成したPDFやピボットグラフをMicrosoft Outlookのメールに添付して送信する際に、宛先や件名、メール本文が毎回同じ場合は、Microsoft Outlookで保存したテンプレートを利用できます。

○パスワード機能

当システムでは、作成したPDFやピボットグラフにパスワードを設定できます。



- Excelピボットグラフを作成できるメニューが追加されました。
＜「OMSS」の「Office連携サービス」／『勘定奉行V ERP8』をお使いの場合＞

当システムの基幹データをもとに、業務情報の集計表（ピボットテーブル）やグラフ（ピボットグラフ）に出力し、ピボット分析ができるメニューが追加されました。

《 関連メニュー 》

- ・ [分析帳票] - [推移表] - [補助科目別推移表] メニュー
- ・ [分析帳票] - [推移表] - [取引先別推移表] メニュー
- ・ [分析帳票] - [推移表] - [セグメント別推移表] メニュー
- ※ 『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合
- ・ [分析帳票] - [対比表] - [補助科目別対比表] メニュー
- ・ [分析帳票] - [対比表] - [取引先別対比表] メニュー
- ・ [分析帳票] - [対比表] - [セグメント別対比表] メニュー
- ※ 『伝票項目拡張オプション』をお使いの場合



- 勘定科目を未使用にした情報も配信できるようになりました。
＜『勘定奉行V ERP Group Management-Edition』をお使いの場合＞

新しい会計期間で未使用になった勘定科目の情報も配信できるようになり、各グループ会社間で統一することが容易になります。

今までは、グループ会社それぞれで未使用にする設定が必要でした。

具体的には、[グループ企業管理]-[マスター配信]-[配信対象データ設定]メニューで、未使用の勘定科目も画面表示するように設定し、勘定科目の関連付けをします。

また、新規に追加登録した勘定科目がある場合、その並び順も加味して、配信されるようになりました。

今までは、コード順で配信されていたので、配信先で並び順を変更する必要がありました。


財務会計システム



勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.07

目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【法改正情報】	
	平成26年4月施行消費税8%改正に対応しました。	2
	国税電子申告について、平成25年度の電子申告（XBRL Spec2.1 Ver. 2.0）に対応しました。	2
	【仕訳処理】	
	定型仕訳を仕訳伝票と同時に登録する際、金額をクリアしたり、編集してから登録できるようになりました。 また、登録済みの定型仕訳の上書き登録もできます。	4
	【随時処理】	
	定型仕訳の汎用データを作成する際に、詳細な条件を指定できるようになりました。	5
	特定の仕訳明細の税率を一括で変更できるようになりました。	6

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

法改正情報



● 平成26年4月施行消費税8%改正に対応しました。

平成26年4月施行消費税8%改正に伴い、下記項目に対応しました。

- ・ 消費税率8%への引き上げ
- ・ 旧税率5%が適用される経過措置の取引入力
- ・ 消費税申告書と付表のレイアウト変更

具体的な対応内容は、操作説明の「《法改正》平成26年4月1日施行 消費税8%改正」をご参照ください。

● 国税電子申告について、平成25年度の電子申告（XBRL Spec2.1 Ver.2.0）に対応しました。

平成25年度の法人税の電子申告に対応しました。

具体的には、法人税申告に必要な財務諸表データを XBRL Spec2.1 Ver.2.0 に対応しました。

なお、地方税申告は、今までどおりVer.1.0です。そのため、法人税申告に加えて地方税申告にも財務諸表データを添付する際は、別途、電子申告科目や注記を登録する際に、税目を「地方税申告」に切り替えて設定します。

▼イメージ図

○[電子申告科目設定]メニュー

○[電子申告データ作成[財務諸表]]メニュー

電子申告データ作成[財務諸表] - 条件設定

基本条件

申告区分

☒ 確定 (会計期首から会計期末まで)

☐ 中間 (会計期首から6ヵ月目まで)

作成帳票

貸借対照表

損益計算書 (製造原価報告書を含む)

☒ 株主資本等変動計算書

☐ 償却資産表

受入システム

☒ 申告書形式 [法人税・地方税編]

受入方法 ファイル受入

科目

法人税申告

法人税申告

法人税・地方税申告

《 関連メニュー 》

- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[電子申告]-[電子申告科目設定]メニュー
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[電子申告]-[電子申告注記登録]メニュー
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[電子申告]-[電子申告データ作成[財務諸表]]メニュー

仕訳処理

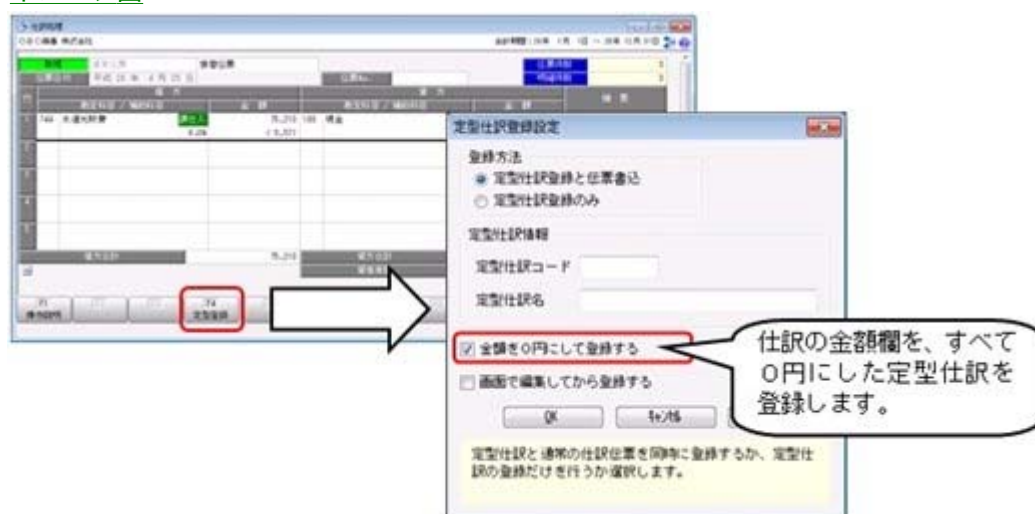


- 定型仕訳を仕訳伝票と同時に登録する際、金額をクリアしたり、編集してから登録できるようになりました。
また、登録済みの定型仕訳の上書き登録もできます。

[仕訳処理]-[仕訳処理]メニューで伝票を登録すると同時に、その仕訳を「定型仕訳」としても登録する際に、今までは必ず金額が入ったままで登録されていましたが、これからは金額を0円で登録できます。

金額が毎回異なるような定型仕訳の場合に、活用します。

▼イメージ図



さらに、摘要を編集したり、部門や取引先などのマスターを未指定にして登録できます。「定型仕訳」を呼び出した後に個別入力させる項目など、一部編集する際に活用します。

▼イメージ図



なお、今までは、新規に追加することしかできませんでしたが、定型仕訳を呼び出して、一部修正した場合に、上書きでその変更内容を、元の定型仕訳に反映できるようになりました。

▼イメージ図



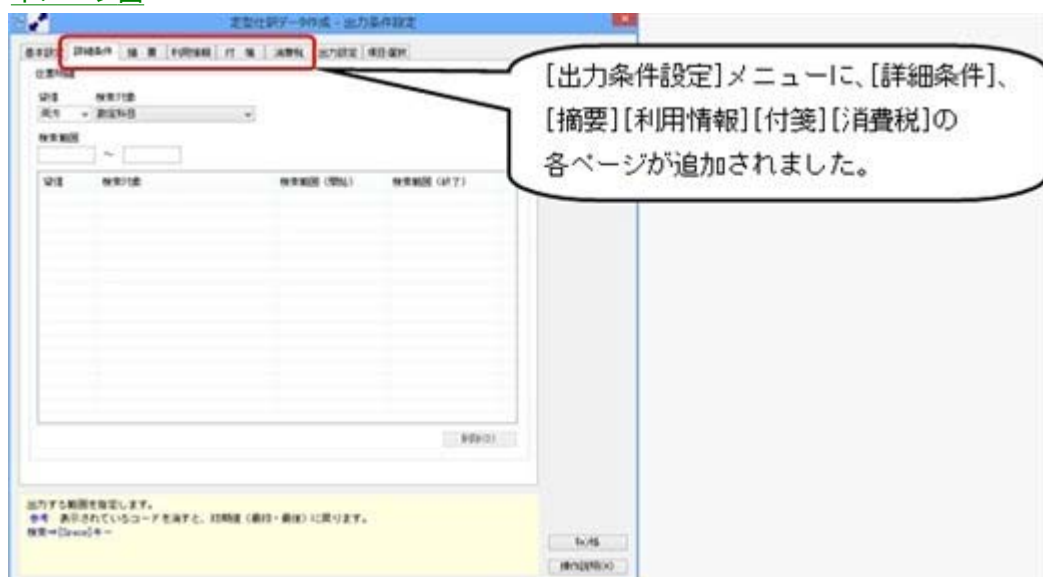
随時処理

- 定型仕訳の汎用データを作成する際に、詳細な条件を指定できるようになりました。

[随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[定型仕訳データ作成]メニューで汎用データを作成する際に、詳細な条件を指定することで、必要なデータだけに絞って出力できます。

一度転送して、Excelなどで加工してから再度受け入れることで、効率的に定型仕訳の内容を更新できます。

▼イメージ図



● **特定の仕訳明細の税率を一括で変更できるようになりました。**

[随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[税率一括変更]メニューが新規に追加され、以下のような場合に、特定の仕訳明細の税率を一括で変更できるようになりました。

新税率から旧税率（経過措置の取引）へ、また、旧税率から新税率へ変更する場合に有効です。

- ・ 外部システムから汎用受入をしているが、外部システムが旧税率の取引に対応していない
- ・ 消費税改正対応プログラムをセットアップする前に、先行登録した新税率施行日（平成26年4月1日など）以後の仕訳伝票

具体例や手順は、操作説明の「税率を一括で変更する具体例と手順」をご確認ください。


財務会計システム







勘定奉行V ERP




機能アップガイド

Ver.2.06

目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【OMSS業務支援サービス】	
	「OMSS OBCメンテナンスサポートサービス」の「業務支援サービス」に対応しました。	3
	【全般】	
	『セグメント管理』オプションの名称が『伝票項目拡張』オプションに変更になり、より多面的な分析に活用できる機能が提供されます。	5
	【帳票全般】	
	「明細区分」を利用することで、金額集計の分析軸や仕訳伝票の付加情報を強化し、多面的な分析に活用できます。 ＜『伝票項目拡張（旧セグメント管理）オプション』をお使いの場合＞	6
	配賦伝票などを、財務会計伝票とは別の「管理会計伝票」として登録することで、財務諸表に影響を与えずに管理会計帳票を作成できるようになりました。 ＜『管理会計オプション』をお使いの場合＞	6
	決算報告書などの特定の帳票だけ、どの利用者でも共通の印刷レイアウトにできるようになりました。	6
	帳票で、複数の集計条件を、用途・目的に合わせてパターン化できます。（集計条件パターン） また、集計条件のマスターコードを、次回以降も固定できます。（コード保存）	7
	【仕訳処理】	
	伝票検索後、条件に該当する明細行が青色で強調表示されるとともに、その行へジャンプでき、見つけやすくなりました。	8
	仕訳伝票の入力時に、借方のサブマスター（取引先など）を貸方に複写する機能が追加され、効率的に入力できます。	9
	仕訳伝票リストや承認の画面上でも、付箋の貼り付けや取り外しができるようになりました。	9
	仕訳伝票承認の業務（通知・否認・付箋）が強化され、承認者と伝票入力担当者間の一連の作業がスムーズになります。	10
	【会計帳票】	
	取引先集計表で、金額が発生している取引先だけを集計するように変更し、パフォーマンスが向上しました。	10
	【分析帳票】	
	推移表・対比表から、直接元帳にジャンプして、金額を追跡できるようになりました。	11
	【配賦処理】	
	配賦実行後に、配賦基準を見直してやり直す場合に、配賦の実行単位で一括で配賦伝票を削除できるようになりました。	11
	【決算処理】	
	決算報告書を、要約印刷する・しないを都度切り替えて出力できるようになりました。	12
	決算報告書を、それぞれの用途に応じて、要約形式（要約設定や見出し項目の内容）を複数用意できるようになりました。	12

	キャッシュ・フロー計算書が「直接法」でも印刷できます。	12
	補助科目ごとに、キャッシュ・フロー属性を設定できるようになりました。	12
	【随時処理】	
	複数の外部システムと連携している場合に、外部システムごとに、仕訳伝票データを「承認済み」として受け入れるかを設定できるようになります。	13
	『SUPER COMPACT Pathfinder』との連携で、貸借対照表は「残高」・損益計算書は「発生」という場合も、一度に集計して、連携できるようになりました。	13
	【その他の変更情報】	
	『参照専用ライセンス』の初期画面を設定できるメニューを追加しました。 ＜『参照専用ライセンス』をお使いの場合＞	14
	メニュー形式が「メニューバー」の場合でも、「奉行iメニュー」を表示できるようになりました。	14
	【財務諸表照会Webオプション】	
	「明細区分」を利用することで、金額集計の分析軸や仕訳伝票の付加情報を強化し、多面的な分析に活用できます。 ＜『伝票項目拡張（旧セグメント管理）オプション』をお使いの場合＞	15
	配賦伝票などを、財務会計伝票とは別の「管理会計伝票」として登録することで、財務諸表に影響を与えずに管理会計帳票を作成できるようになりました。 ＜『管理会計オプション』をお使いの場合＞	15

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

OMSS 業務支援サービス



- 「OMSS OBCメンテナンスサポートサービス」の「業務支援サービス」に対応しました。

「OMSS OBCメンテナンスサポートサービス（以下、OMSS）」にご加入いただいているお客様向けに、当システムを活用して業務生産性や情報活用の向上を支援する「業務支援サービス」をご用意しました。

また、新たに「OMSS+」というサービスも用意しています。「OMSS」にご加入いただいているお客様が、製品や業務カテゴリごとに、さらに充実した便利さを追求いただくにあたり、お客様が選択できるサービスです。

「OMSS」や「業務支援サービス」の詳細については、以下のサイトをご確認ください。

<http://www.obc.co.jp/click/omss/>

注 意

- 「業務支援サービス」は、「OMSS」の契約期間中に利用できるサービスです。
「OMSS」の契約期間が終了した時点で、「業務支援サービス」も利用できなくなりますので、ご注意ください。
- 「OMSS+」は、「OMSS」にご加入いただいているお客様が、別途、追加料金によってご利用いただけるサービスです。

当システムでは、以下の「業務支援サービス」について利用できます。

■電子記録債権連携サービス

参 考

操作説明（ヘルプ）では、以下のように記載しています。

- 「OMSS」の「業務支援サービス」で提供する機能

OMSS

または『OMSS』

- 「OMSS+」の「業務支援サービス」で提供する機能

OMSS PLUS

または『OMSS+』

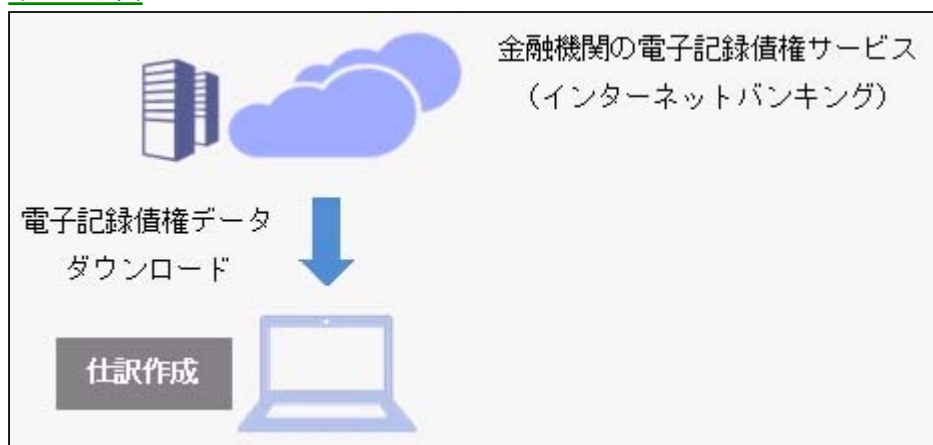
■電子記録債権連携サービス

<「OMSS」をお使いの場合>

「電子記録債権」とは、事業者の資金調達の円滑化等を図るために創設された、既存の手形・売掛債権とは異なる新たな金銭債権です。

このサービスをご利用いただくことで、金融機関の電子記録債権サービスでダウンロードした電子記録債権（債務）データファイルをもとに、簡単に仕訳伝票を作成できます。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

[電子記録債権処理]メニューの各メニュー

電子記録債権連携サービス（てん末管理対応サービス）

<「OMSS+」をお使いの場合>

『OMSS+』の「てん末管理対応サービス」をご利用いただくことで、電子記録債権の仕訳自動作成に加えて、割引や決済のてん末管理が行えるようになります。

また、電子記録債務のデータの生成も可能となります。電子記録債権の管理と業務の効率化を実現します。

上記、「業務支援サービス」の利用期間を確認できる、[管理ツール]-[ライセンス一覧]メニューが追加されました。

当システムで利用できる「業務支援サービス」について、利用期間を一覧で確認できます。

また、当システムおよびオプション製品についても、ライセンス情報（登録番号やライセンスキー等）を一覧で確認できます。

▼イメージ図

製品名	登録番号	利用期限	ライセンスキー またはセットアップキー	ID番号
【勘定奉行】				
○ OMS S				
Office連携	—	2014/09/30	—	—
電子記録簿連携サービス for 勘定奉行	—	2014/09/30	—	—
○ OMS S+				
分散仕訳入力クラウドサービス for 勘定奉行	—	【試用】 2014/09/30	—	—

F1 操作説明 F2 転送 F3 F4 F5 F6 ライセンス読み込み F7 F8 最新 F9 F10 F11 F12 閉じる

※利用期間やライセンス情報の最新情報は、以下の方法で取得できます。

【インターネット接続環境のコンピュータで、当システムをお使いの場合】
常に最新情報が表示されます。

【インターネットに接続されていないコンピュータで、当システムをお使いの場合】
OMS Sにご加入いただいたお客様がダウンロードできる「OMS Sライセンスファイル」を、[ライセンス一覧]メニュー読み込むことで最新情報を表示できます。

※[ライセンス一覧]メニューは、管理者だけに表示されます。

全般

- 『セグメント管理』オプションの名称が『伝票項目拡張』オプションに変更になり、より多面的な分析に活用できる機能が提供されます。

『セグメント管理オプション』の名称が『伝票項目拡張オプション』に変更になりました。

今までのセグメント情報に加え、「明細区分」など、金額集計の分析軸や仕訳伝票の付加情報が強化されて、多面的な分析に活用できる機能が提供されます。



- 「明細区分」を利用することで、金額集計の分析軸や仕訳伝票の付加情報を強化し、多面的な分析に活用できます。

＜『伝票項目拡張（旧セグメント管理）オプション』をお使いの場合＞

「明細区分」を利用することで、「マネジメント・アプローチ」によるセグメント会計の枠にとどまらず、お客様の用途に合わせて、さらなる金額集計の分析軸や、仕訳伝票の付加情報を強化できます。

業務システムから流れてくる情報を「明細区分」として仕訳伝票に取り込むことで、業務にもとづいた多面的な分析に活用できます。

明細区分の使用方法は、操作説明の「明細区分とは」をご参照ください。



- 配賦伝票などを、財務会計伝票とは別の「管理会計伝票」として登録することで、財務諸表に影響を与えずに管理会計帳票を作成できるようになりました。

＜『管理会計オプション』をお使いの場合＞

部門集計表など、管理会計帳票としても活用する帳票では、「管理会計伝票」として登録した共通経費の配賦伝票も含めて集計することで、部門ごとの利益などを正確に確認できます。

一方で、財務会計用の帳票（財務諸表など）では、「管理会計伝票」を集計から除くことで、純粋に財務会計の金額を確認できます。

詳細は、操作説明の「財務諸表（財務会計用の帳票）に影響を与えずに管理会計帳票を作成する」をご確認ください。

- 決算報告書などの特定の帳票だけ、どの利用者でも共通の印刷レイアウトにできるようにしました。

集計条件や印刷の条件を、利用者ごとに保持するか、全利用者で共通で保持するかを設定できるようになりました。

※[会社運用設定]メニューの[基本設定]ページの「条件設定の保持」で設定できます。

以下のような場合に、有効です。

- 決算報告書などの特定の帳票だけ、どの利用者でも共通の印刷レイアウトにする場合
- 税理士事務所など、どの利用者でも同じ設定条件で印刷する場合

- 帳票で、複数の集計条件を、用途・目的に合わせてパターン化できます。（集計条件パターン）

また、集計条件のマスターコードを、次回以降も固定できます。（コード保存）

○集計条件パターンの具体的な利用方法は、操作説明の「複数の集計条件を、用途・目的に合わせてパターン化する」をご確認ください。

○コード保存の具体的な利用方法は、操作説明の「集計条件のマスターコードを、次回以降も固定する」をご確認ください。

※[会計帳票]の各帳票メニューや決算報告書については、すでにこの機能が追加されていますが、他の帳票にも機能が追加されました。

《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票]-[内訳表]-[現預金内訳表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[資金繰]-[資金繰実績推移表]／[資金繰明細表]メニュー
- ・ [分析帳票]-[推移表]／[対比表]の各メニュー
- ・ [予算管理]-[予算実績対比表]の各メニュー
- ・ [消費税申告]-[科目別課税対象額集計表]メニュー／[科目別税区分集計表]メニュー
／[税区分明細表]メニュー
- ・ [決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]-[キャッシュ・フロー計算書]／[キャッシュ・フロー精算表]メニュー

仕訳処理



- 伝票検索後、条件に該当する明細行が青色で強調表示されるとともに、その行へジャンプでき、見つけやすくなりました。

[条件設定]画面で指定した条件と一致する明細行が、青色で強調されて表示されるようになりました。

▼イメージ図

例) 「021 仙台支店」を条件指定した場合

行	借方	貸方	摘要
	部門 / 勘定科目 / 補助科目	金額	部門 / 勘定科目 / 補助科目
1	001 第一営業部	002 経理	広告宣伝費の支払い
T02	広告宣伝費	1,500,000	110 当座預金
	5.0%	(31,428	001 東都中央銀行本店
2	002 第二営業部		
T02	広告宣伝費	1,500,000	
	5.0%	(31,428	
3	011 札幌支店		
T02	広告宣伝費	1,000,000	
	5.0%	(47,619	
4	021 仙台支店		
T02	広告宣伝費	1,000,000	
	5.0%	(47,619	
5	031 札幌東支店		
T02	広告宣伝費	700,000	

また、一致した明細行が次画面以降にある場合でも、[次検索明細] (F8) を押すことで、該当する明細行へジャンプでき、効率的に見つけやすくなりました。

※ [次検索明細] (F8) は、[Ctrl] キーでWindowsファンクションを切り替えると、以下のように表示されます。



《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳処理[IFRS組替]]メニューなど
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正]メニューなど
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理]メニューなど

- 仕訳伝票の入力時に、借方のサブマスター（取引先など）を貸方に複写する機能が追加され、効率的に入力できます。

[仕訳処理]画面で、貸方のサブマスター（取引先など）のコード入力欄にカーソルが入ったときに、借方のサブマスターを複写する機能が追加されました。

※[仕訳処理 - 設定]画面の[複写設定]ページの借方複写で設定

▼イメージ図



※サブマスター：取引先・セグメント

これにより、借方貸方それぞれで、同じサブマスターのコードを指定する煩雑さが解消されます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[仕訳帳入力]メニュー

- 仕訳伝票リストや承認の画面上でも、付箋の貼り付けや取り外しができるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニューや[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニューなどのリスト参照画面上では、今までは、貼ってある付箋を確認できるだけでしたが、貼ったりはがしたり、メモ内容を編集したりできるようになりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [決算処理]-[仕訳処理[IFRS組替]]-[仕訳伝票リスト[IFRS組替]]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[決算仮締め後仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[遡及仕訳伝票リスト]メニュー



- **仕訳伝票承認の業務（通知・否認・付箋）が強化され、承認者と伝票入力担当者間の一連の作業がスムーズになります。**

通知や否認機能・付箋の強化により、仕訳伝票承認で承認者と伝票入力担当者間の一連の作業がスムーズになります。

詳細は、操作説明の「仕訳伝票承認の流れ」をご確認ください。

【承認者】

○承認する伝票がある場合に、当システム起動時にメッセージで通知を受けられます。

※[会社運用設定]メニューの[承認設定]ページの「起動時の承認確認メッセージ」で設定できます。

○承認作業を進める中で、仕訳伝票に誤入力などの問題が見つかった場合、問題のある仕訳伝票を否認して差し戻すことができます。

またその際に、付箋を活用して、否認理由などを入力担当者に伝達することもできます。

【入力担当者】

○否認された伝票がある場合は、当システム起動時に、メッセージで通知されます。

また、その通知メッセージから直接、否認伝票を確認・修正することもできます。

○承認者が否認時に貼り付けた付箋を頼りに、修正すべき該当明細行へジャンプし、スムーズに修正できるようになりました。

会計帳票

- **取引先集計表で、金額が発生している取引先だけを集計するように変更し、パフォーマンスが向上しました。**

[会計帳票]-[集計表]-[取引先集計表]メニューで、取引先を指定せずに集計する際に、金額が発生している取引先だけを集計するように変更しました。

月次残高を利用して集計するように設定している場合に有効です。

詳細は、操作説明の「月次集計の帳票全般で、集計速度を向上させる設定」をご確認ください。

※この機能は、ネットワーク対応製品の場合に使用できます。

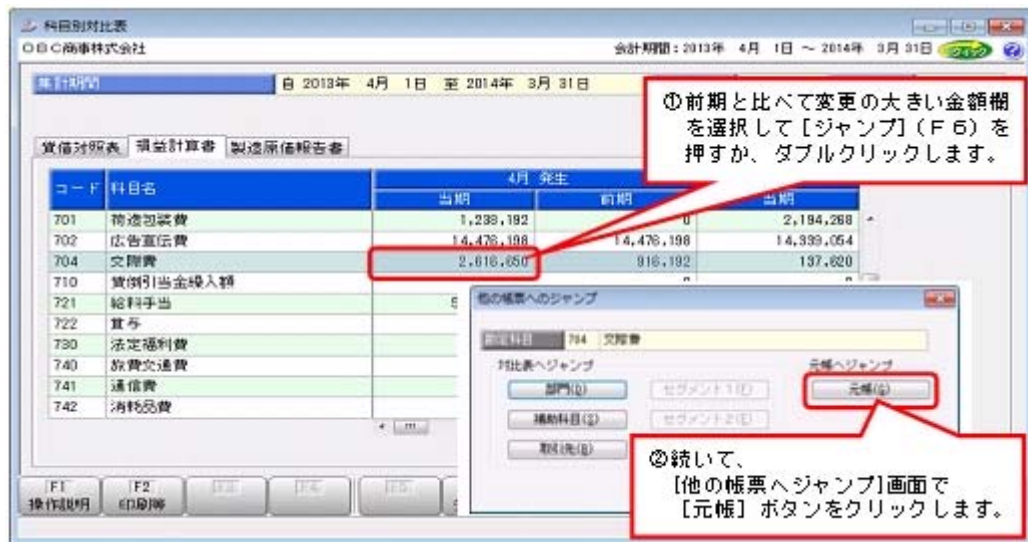
分析帳票



- 推移表・対比表から、直接元帳にジャンプして、金額を追跡できるようになりました。

金額の推移や前年比から変化の大きい科目にあたりをつけて、そのまま元帳に直接ジャンプすることで、効率的に明細レベルでの確認作業ができます。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [分析帳票]-[推移表]の各メニュー
- ・ [分析帳票]-[対比表]の各メニュー

配賦処理

- 配賦実行後に、配賦基準を見直してやり直す場合に、配賦の実行単位で一括で配賦伝票を削除できるようになりました。

配賦基準（配賦パターン）を見直して配賦をやり直す場合、今までは、[仕訳処理]メニューなどで配賦伝票を検索して削除する必要がありましたが、今後は、[配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績配賦履歴]メニューから、配賦の実行単位で配賦伝票を一括削除できます。

詳細は、操作説明の「配賦基準を変更して配賦をやり直す」をご確認ください。

- 決算報告書を、要約印刷する・しないを都度切り替えて、出力できるようになりました。

[決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書]メニューの決算報告書を、要約印刷する場合としない場合を、それぞれの用途に応じて、都度切り替えて出力できるようになりました。今までは、[要約設定]メニューで、要約したり解除したりと煩雑な作業が必要でしたが、今回から、要約設定はそのままに、決算報告書の条件で要約印刷と要約しない印刷を切り替えるだけで、簡単に出力できます。

また、必要に応じて、それぞれの見出し項目を別々に設定できます。

※要約する・しないの使用方法是、操作説明の「決算報告書を作成する」をご参照ください。

- 決算報告書を、それぞれの用途に応じて、要約形式（要約設定や見出し項目の内容）を複数用意できるようになりました。

[決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書]メニューの決算報告書を、社内用や外部向けなどの用途に応じて、要約形式（要約設定や見出し項目の内容）を複数用意できるようになり、決算報告書のパターンと関連付けることで、パターンを切り替えながら効率的に印刷できます。

※要約形式を複数用意する手順は、操作説明の「決算報告書を作成する」をご参照ください。

- キャッシュ・フロー計算書が「直接法」でも印刷できます。

今まで、[決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]-[キャッシュ・フロー計算書]メニューのキャッシュ・フロー計算書の表示方法は、「間接法」だけに対応していましたが、「直接法」でも印刷できるようになりました。

表示方法は、[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニューで選択します。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [分析帳票]-[キャッシュ・フロー確認表]-[キャッシュ・フロー確認表]メニュー
- ・ [決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]（または[分析帳票]-[キャッシュ・フロー確認表]）-[キャッシュ・フロー項目設定]-[キャッシュ・フロー属性設定]メニュー



- 補助科目ごとに、キャッシュ・フロー属性を設定できるようになりました。

1つの勘定科目で複数のキャッシュ・フロー項目へ影響を与える場合や、取引内容によりキャッシュ・フロー項目へ影響したりしなかったりする勘定科目の場合には、補助科目ごとにキャッシュ・フロー属性を設定することで、適切に反映させることができます。

※補助科目ごとに設定する方法は、操作説明の「補助科目ごとにキャッシュ・フロー属性を設定する」をご参照ください。



- 複数の外部システムと連携している場合に、外部システムごとに、仕訳伝票データを「承認済み」として受け入れるかを設定できるようになります。

複数の外部システムと連携している場合に、仕訳伝票データの受入時に承認済みとするシステムとしないシステムが混在する際、今までは、承認済みとしないシステムにあわせて設定する必要がありましたが、今後は、システムごとに設定できます。

※[会社運用設定]メニューの[承認設定]ページの「汎用データ受入伝票」の個別設定で、外部システムごと（受入パターンごと）に「承認済／転記済」を設定できます。

- 『SUPER COMPACT Pathfinder』との連携で、貸借対照表は「残高」・損益計算書は「発生」という場合も、一度に集計して、連携できるようになりました。

[随時処理]-[他システム連携]メニューで『SUPER COMPACT Pathfinder』と連携する際、貸借対照表・損益計算書別々に、集計方法「発生/累計」を選択できるようになりました。

貸借対照表は「残高」・損益計算書は「発生」で集計して連携することが、一度の操作でできます。



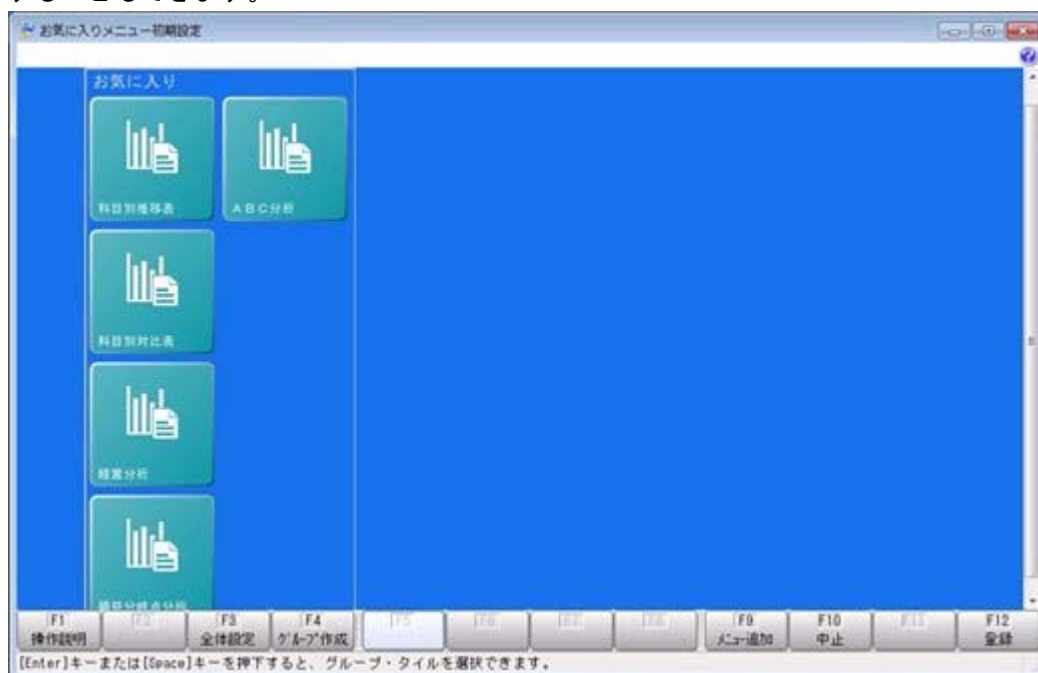
- 『参照専用ライセンス』の初期画面を設定できるメニューを追加しました。

＜『参照専用ライセンス』をお使いの場合＞

『参照専用ライセンス』の[お気に入り]画面について、管理者などが初期設定できる[管理ツール]-[お気に入りメニュー初期設定]メニューが追加されました。


[お気に入り]画面を初期設定すると、『参照専用ライセンス』の利用者がはじめてログインした際に、設定した[お気に入り]画面が初期で表示されます。

『参照専用ライセンス』の利用者は、初期設定内容から、独自の[お気に入り]画面に変更することもできます。



- メニュー形式が「メニューバー」の場合でも、「奉行 i メニュー」を表示できるようになりました。

[管理ツール]-[利用者別設定]メニューの[メニュー設定]ページで設定した、メニュー形式が「メニューバー」の場合でも、「奉行 i メニュー」を表示できるようになりました。

「メニューバー」の右下の  アイコンをクリックすると、別ウィンドウで「奉行 i メニュー」を表示できます。

※「奉行 i メニュー」のご利用には、インターネット接続環境が必要となります。

- 「明細区分」を利用することで、金額集計の分析軸や仕訳伝票の付加情報を強化し、多面的な分析に活用できます。

＜『伝票項目拡張（旧セグメント管理）オプション』をお使いの場合＞

勘定奉行側に、「明細区分」の機能が追加されました。

勘定奉行側で「明細区分」を利用すると、財務諸表照会Webオプションの合計残高試算表でも、明細区分を指定して集計できます。

- 配賦伝票などを、財務会計伝票とは別の「管理会計伝票」として登録することで、財務諸表に影響を与えずに管理会計帳票を作成できるようになりました。

＜『管理会計オプション』をお使いの場合＞

勘定奉行側に、「管理会計伝票」の機能が追加されました。

勘定奉行側で「管理会計伝票」を利用すると、財務諸表照会Webオプションの合計残高試算表でも、「管理会計伝票」を加味した集計ができます。

全社ベースの集計では、配賦伝票などの「管理会計伝票」を集計から除くことで、純粋に財務会計の金額を確認できます。

部門ベースの集計では、「管理会計伝票」として登録した共通経費の配賦伝票も含めて集計することで、部門ごとの利益などを正確に確認できます。

財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.05

目次

【管理会計帳票】	
＜『管理会計オプション』をお使いの場合＞	
管理会計帳票の印刷条件が、パターンごとに保持されるようになりました。	2
【随時処理】	
追加で登録した、仕訳伝票の汎用データの「受入データ形式」を、すべての利用者共通で 利用できるようになりました。	3

＜『管理会計オプション』をお使いの場合＞

- 管理会計帳票の印刷条件が、パターンごとに保持されるようになりました。

管理会計帳票の印刷条件（[印刷条件設定]画面の[印刷設定]ページ・[プリンタ設定]ページの設定）が、パターンごとに保持されるようになりました。

※「基本設定」ページ・「詳細条件」ページの印刷条件は、以前からパターンごとに保持されています。

今までは、[管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[管理会計分析表]メニューなど、1つのメニュー内でパターンごとに帳票レイアウトが異なる場合※に、それぞれの帳票を印刷するたびに用紙サイズや印刷の向きを切り替える必要がありました。

※例えば、1つの帳票が用紙サイズ「A4」の縦で、もう1つの帳票が「B4」の横のような場合

これからはパターンごとに印刷条件が保持されるため、切り替える手間が省けます。

▼イメージ図（印刷条件設定）

「印刷設定」ページ

管理会計ソフト - 印刷条件設定

基本設定 | 印刷範囲 | **印刷条件** | プリント設定

帳簿タイトル
 売上内訳集計分析 印刷範囲

印刷範囲
☒ すべて
☐ 範囲指定 最初 ~ 最終
☐ ページ指定

印刷オプション
☐ 日付を印字する 2011 年 7 月 3 日 ☒ 出力番地を印字する
☒ ページ番号を印字する

戻る 印刷 キャンセル

「プリンタ設定」ページ

[illegible]

《 関連メニュー 》

- ・[管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[管理会計分析表]メニュー
- ・[管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[管理会計集計表]メニュー
- ・[管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[管理会計推移表]メニュー

- 追加で登録した、仕訳伝票の汎用データの「受入データ形式」を、すべての利用者共通で利用できるようになりました。

< 「Ver. 2. 03」 をセットアップして運用していた場合だけ、ご確認ください。 >

「Ver. 2. 03」では、[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニューで「受入データ形式」を追加する場合は、利用者ごとに形式作成が必要でしたが、今後は、すべての利用者共通で運用できます。

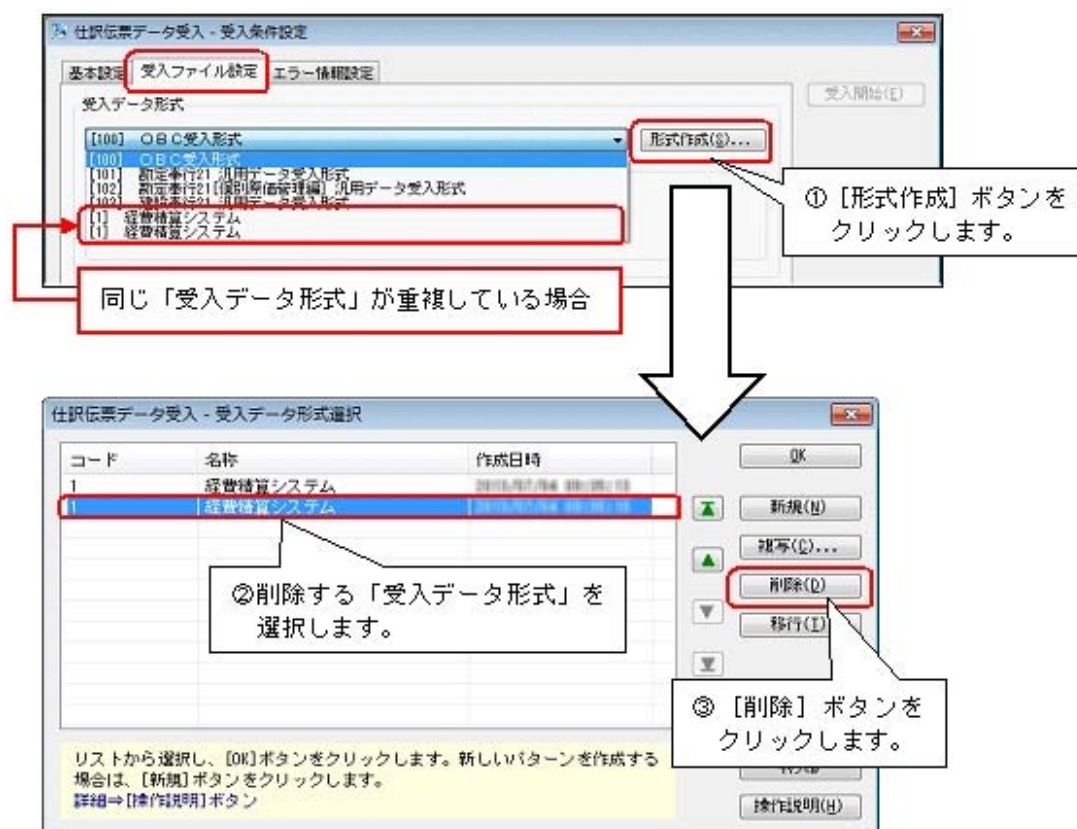
▼イメージ図（受入データ形式）



※「Ver. 2.03」で、[仕訳伝票データ受入]メニューを複数の利用者と運用していた場合、新しいバージョンになると、同じ「受入データ形式」が重複して表示されることがあります。
その場合は、1つだけ残して、他の重複した「受入データ形式」は削除してください。

▼イメージ図（「受入データ形式」の削除）

同じ「受入データ形式」が重複して表示されている場合は、[受入条件設定]画面の[受入ファイル設定]ページで、以下のように削除します。




財務会計システム

勘定奉行V ERP

機能アップガイド

Ver.2.03

目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【帳票全般】	
	IFRS帳簿（IFRS金額）の管理を実現しました。	2
	元帳などの会計帳票や決算報告書で、複数の集計条件を、用途・目的に合わせてパターン化できます。	2
	元帳や内訳表・集計表などの帳票で、集計条件のマスターコードを、次回以降も固定できます。	3
	月次集計の帳票全般で、集計パフォーマンスを向上できます。（仕訳伝票明細が非常に多く登録される場合に、月次残高を最適化する。）	3
	【データ領域管理】	
	『固定資産奉行』をあわせてお使いの場合に、データ領域ごとに利用する製品を設定できるメニューが追加されました。 <div style="text-align: center;">＜『勘定奉行 V ERP Group Management-Edition』をお使いの場合＞</div>	4
	【仕訳処理】	
	仕訳伝票リストを出力する際に、仕訳伝票が非常に多く登録されている場合でも、すべての集計の終了を待たずに、すぐに画面で明細を確認し始められるようになりました。	4
	【会計帳票】	
	元帳の集計（画面・印刷・転送すべて）のパフォーマンスが向上しました。	5
	【配賦処理】	
	配賦を実行する前の確認リストの印刷で、2 ページ以降にも科目名を印字することで、配賦結果が確認しやすくなりました。	5
	【決算処理】	
	法人税電子申告の添付書類「財務諸表 (XBRL)」データの連動で、ファイルを作成せずに、直接、『申告奉行 [法人税・地方税編]』で受け入れられるようになりました。	6
	【随時処理】	
	外部システムで作成された仕訳伝票の汎用データを受け入れる場合など、伝票日付が同じ伝票を 1 枚の仕訳伝票にまとめることができます。	6
	外部システムで作成された仕訳伝票の汎用データなど、摘要の文字数が上限（40 文字）を超えている際に、摘要を加工してその仕訳伝票を受け入れることができます。	6
	仕訳伝票の汎用データを、複数の目的で、定期的に作成している場合に、異なる出力条件をパターン化できます。	7
	仕訳伝票の汎用データを、複数の外部システムから、定期的に受け入れている場合に、異なる受入条件をパターン化できます。	7
	『建設奉行 21』対応のソリューションと連携が可能になりました。	7
	『申告奉行 [法人税・地方税編]』での税金のシミュレーション用に、「四半期」「月次」のデータを連動できるようになりました。	8
	【財務諸表照会 Web オプション】	
	元帳の集計（画面・印刷・転送すべて）のパフォーマンスが向上しました。	8
	マウス操作でも、マスターを検索できるようになりました。	8

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

帳票全般

● IFRS帳簿（IFRS金額）の管理を実現しました。

IFRS（国際財務報告基準）での会計処理に対応するため、日本基準に加え、IFRS帳簿（IFRS金額）の管理を実現しました。

最終的には、日本基準の仕訳とIFRS組替仕訳を合算したIFRS金額を、連結会計システムへ出力します。

※詳細は、操作説明の「IFRS帳簿の適用に際して確認する（事前準備）」、「IFRS帳簿（IFRS金額）を管理するにあたって」をご確認ください。



● 元帳などの会計帳票や決算報告書で、複数の集計条件を、用途・目的に合わせてパターン化できます。

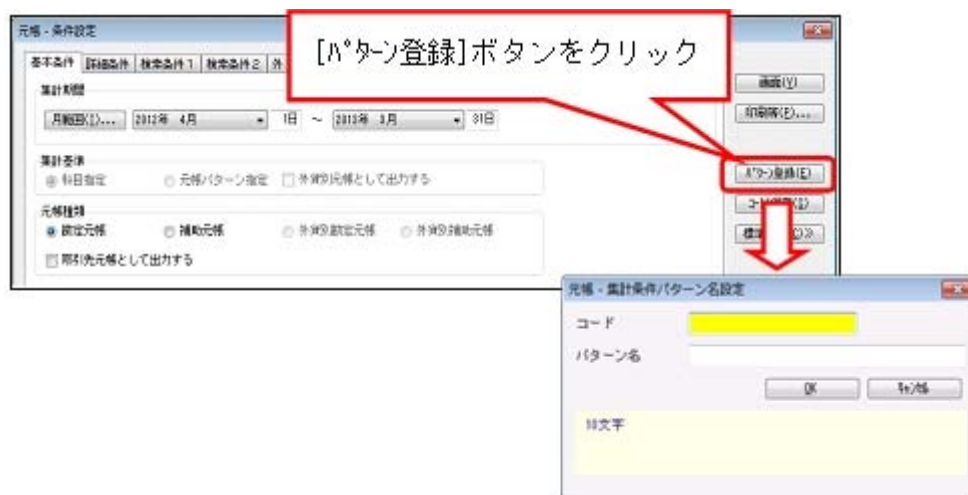
以下のように、用途・目的に合わせてパターン化すると、有効です。

○決算報告書など、貸借対照表は「累計」で出力して損益計算書は「発生」で出力するといったように、帳票ごとに集計方法（発生・累計）を切り替えている場合

○元帳で、勘定科目を分類ごとに毎回、複数回に分けて出力している場合

○固定した複数の部門グループの帳票を、毎回出力している場合

▼イメージ図



集計条件パターンの具体的な利用方法は、操作説明の「複数の集計条件を、用途・目的に合わせてパターン化する」をご確認ください。

《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票] の各帳票メニュー
※ [現預金内訳表] メニュー・ [資金繰実績推移表] メニュー・ [資金繰明細表] メニューを除く
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書] メニュー

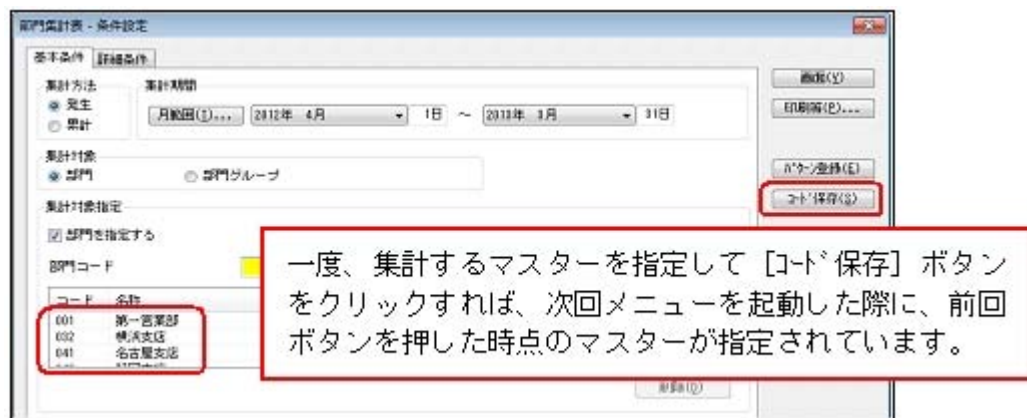


- 元帳や内訳表・集計表などの帳票で、集計条件のマスターコードを、次回以降も固定できます。

以下のような運用の場合、集計条件のマスターコードを次回以降も固定すると、有効です。

- 常に、確認するマスターが固定している場合
- 常に、固定のマスターと、毎回変更するマスターが混在している場合
または
常に、固定のマスターと、全範囲のマスターが混在している場合

▼ イメージ図



コード保存の具体的な利用方法は、操作説明の「集計条件のマスターコードを、次回以降も固定する」をご確認ください。

《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票] の各帳票メニュー
※ [現預金内訳表] メニュー・ [資金繰実績推移表] メニュー・ [資金繰明細表] メニューを除く
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書] メニュー



- 月次集計の帳票全般で、集計パフォーマンスを向上できます。
(仕訳伝票明細が非常に多く登録される場合に、月次残高を最適化する。)

月次集計の帳票全般を、仕訳伝票からではなく、月次残高を利用して集計するように設定できるようになりました。

毎日深夜に月次残高を最適化することで、集計速度が向上します。

仕訳伝票明細が非常に多く登録される場合に、有効です。

詳細は、「月次集計の帳票全般で、集計速度を向上させる設定」をご確認ください。

※この機能は、ネットワーク対応製品の場合に使用できます。

データ領域管理

- 『固定資産奉行』をあわせてお使いの場合に、データ領域ごとに利用する製品を設定できるメニューが追加されました。

＜『勘定奉行V ERP Group Management-Edition』をお使いの場合＞

会計カテゴリの製品（『勘定奉行』シリーズおよび『固定資産奉行』）を統合運用環境でお使いの場合に、データ領域ごとに利用する製品を設定できるメニューが追加されました。

奉行製品上のデータ領域選択画面に、利用するデータ領域だけが表示されます。

○[データ領域管理]-[データ領域保守]-[データ領域別利用製品制限]メニュー

▼利用例

グループ会社の中でも、グループ子会社の規模によって、システム化されていない業務（＝奉行製品）がある場合に設定します。

仕訳処理



- 仕訳伝票リストを出力する際に、仕訳伝票が非常に多く登録されている場合でも、すべての集計の終了を待たずに、すぐに画面で明細を確認し始められるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニューで仕訳伝票リストを出力する際、今までは、すべての集計が終了するまで、仕訳伝票の集計結果を確認できませんでした。

今回から、集計の終了した明細から順次、画面に表示されるため、仕訳伝票リストを効率よく確認できるようになりました。

※元帳については、すでにこの機能が追加されていますが、仕訳伝票リストなど、明細を出力する他のメニューについても機能が追加されました。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[反対仕訳一括起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[自己承認伝票確認リスト]メニュー
- ・ [消費税申告]-[税区分明細表]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[決算仮締め後仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[遡及仕訳伝票リスト]メニュー

- **元帳の集計（画面・印刷・転送すべて）のパフォーマンスが向上しました。**

[会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニューで、取引先元帳や外貨別元帳、部門を個別に表示する場合のような、マスターと勘定科目を組み合わせるケースで、パフォーマンスが向上しました。

「指定された日付範囲に明細がある場合だけ出力する」際に、次の科目を検索するパフォーマンスが向上しています。

※外貨別元帳は、『外貨入力オプション』をお使いの場合に使用できます。

配賦處理

- 配賦を実行する前の確認リストの印刷で、2 ページ以降にも科目名を印字することで、配賦結果が確認しやすくなりました。

[配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績配賦]メニューの配賦リスト（基準確認・結果確認）で、２ページ以降にも科目を印字すると、どの科目の配賦金額が把握しやすくなります。

※[印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページで設定

▼イメージ図

配賦結果確認

(1ページ目)

前年実績配賦リスト

※ 2012年 4月 1日 迄 2013年 3月 31日

○〇〇株式会社

【配賦パターン】

0001

共同債権配賦用パターン

【範囲】

000

その他

PAGE 1

【印刷・集計】

【配賦対象範囲】

科目名	000 合計	001 第一主簿記	002 第二主簿記	003 共同主簿記	004 繰上主簿記
借方	8,914,757	402,189	808,927	28,724,183	284,227
	-8,914,757	560,502	240,524	208,717	243,077
貸方	0	799,771	748,189	28,883,800	473,114
	8,914,757	402,189	808,927	28,724,183	284,227
	-8,914,757	560,502	240,524	208,717	243,077
	0	799,771	748,189	28,883,800	473,114
貸方品目	1,198,293	93,288	75,832	184,224	85,249
	-1,198,293	124,279	30,597	88,918	56,183
	0	217,894	187,499	285,568	117,198
貸方品目	1,198,293	93,288	75,832	184,224	85,249
	-1,198,293	124,279	30,597	88,918	56,183
	0	217,894	187,499	285,568	117,198

累計科目名

累計科目名

大連支店

大連支店

印刷用

前年実績配賦リスト

※ 2012年 4月 1日 迄 2013年 3月 31日

○〇〇株式会社

【配賦パターン】

0002

共同債権配賦用パターン

【範囲】

000

その他

【配賦対象範囲】

科目名	000 合計	001 第一主簿記	002 第二主簿記	003 共同主簿記
貸方	8,914,757	402,189	808,927	28,724,183
	-8,914,757	560,502	240,524	208,717
貸方品目	1,198,293	93,288	75,832	184,224
	-1,198,293	124,279	30,597	88,918
	0	217,894	187,499	285,568

2ページ以降も、科目が

(2ページ目)

2ページ以降も、科目が印字されます。

[illegible]

なお、科目をすべてのページに印字する場合は、別途、[印刷設定]ページで各情報の列の間隔を狭く補正することで、確認しやすいリストになり、印刷枚数も抑えられます。
また、合計を表示できる機能も追加されています。
※[条件設定]画面の[詳細条件]ページで設定できます。

決算処理



- 法人税電子申告の添付書類「財務諸表(XBRL)」データの連動で、ファイルを作成せずに、直接、『申告奉行[法人税・地方税編]』で受け入れられるようになりました。

『申告奉行[法人税・地方税編]』と連動する場合、[決算処理]-[決算報告書]-[電子申告]-[電子申告データ作成[財務諸表]]メニューで作成した電子申告データ「財務諸表(XBRL)」を、受け入れる方法が2通りになりました。

- ・直接、『申告奉行[法人税・地方税編]』で受け入れる
- ・ファイルを作成してから、『申告奉行[法人税・地方税編]』で受け入れる ※今まではこの方法

『申告奉行[法人税・地方税編]』が、当システムと同じコンピュータにセットアップされている場合は、「直接受入」を選択します。異なるコンピュータの場合は、「ファイル受入」を選択します。

随時処理



- 外部システムで作成された仕訳伝票の汎用データを受け入れる場合など、伝票日付が同じ伝票を1枚の仕訳伝票にまとめることができます。

[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニューから、外部システムで1伝票1明細で作成された仕訳伝票データを受け入れる場合など、伝票日付が同じ伝票を1枚の仕訳伝票にまとめることができます。

※1伝票あたり、最大9,999明細までまとめます。

※[仕訳伝票データ受入]メニューの[拡張項目]ページで設定できます。

なお、1枚の伝票にまとめることで、一度に大量のデータを受け入れる際に、その時間を短縮する効果もあります。

＜ 関連メニュー ＞

[自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ受入]-[自動実行仕訳伝票データ受入]メニュー

※このメニューは、『自動実行管理オプション』をお使いの場合に使用できます。



- 外部システムで作成された仕訳伝票の汎用データなど、摘要の文字数が上限（40文字）を超えている際に、摘要を加工してその仕訳伝票を受け入れることができます。

[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニューで、今までは、摘要の文字数の上限（40文字）を超えている場合、必ず未受入になっていましたが、今後は、摘要を加工して受け入れられるようになりました。

摘要文字をすべて受け入れるか、上限を超えた文字（41文字以降）を切り捨てて受け入れるかを選択できます。

※[仕訳伝票データ受入]メニューの[拡張項目]ページで設定できます。

外部システムで作成された、仕訳伝票の汎用データを受け入れる場合などに有効です。外部システム側で別途、摘要の文字数を当システムに合わせる必要はありません。

《 関連メニュー 》

[自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ受入]-[自動実行仕訳伝票データ受入]メニュー

※このメニューは、『自動実行管理オプション』をお使いの場合に使用できます。



- **仕訳伝票の汎用データを、複数の目的で、定期的に作成している場合に、異なる出力条件をパターン化できます。**

[随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニューで、仕訳伝票の汎用データを、以下のような複数の目的で、定期的に作成している場合に、それぞれパターンとして登録すると、有効です。

- ・ 仕訳伝票データを外部システムで使用する
- ・ 仕訳伝票のチェックや分析用に、データを加工して2次利用する

※詳細は、操作説明の「出力条件パターンの利用方法」参照



- **仕訳伝票の汎用データを、複数の外部システムから、定期的に受け入れている場合に、異なる受入条件をパターン化できます。**

[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニューで、仕訳伝票の汎用データを、「経費精算システム」「販売管理システム」といった複数の外部システムから、定期的に作成している場合に、受入条件が異なるときは、それぞれパターンとして登録すると有効です。

- ・ 「経費精算システム」と「販売管理システム」で、受入データ形式が異なる
- ・ 販売管理システムの仕訳伝票データは、同じ日付の伝票を1枚にまとめて受け入れる

※詳細は、操作説明の「受入条件パターンの利用方法」参照

- **『建設奉行21』対応のソリューションと連携が可能になりました。**

[随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニューで、建設奉行21形式の汎用データを作成できるようになりました。

※奉行21シリーズの「他ソフト編集」形式と同じ項目レイアウトで出力できます。

また、[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニューで、『建設奉行21』のソリューション製品で作成した仕訳伝票のデータを受け入れるようになりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [随時処理]-[奉行間連動]-[連動データ受入]-[仕訳伝票受入]メニュー
- ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[自動実行仕訳伝票データ作成]メニュー
- ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ受入]-[自動実行仕訳伝票データ受入]メニュー

※[自動実行管理]の各メニューは、『自動実行管理オプション』をお使いの場合に使用できます。

- 『申告奉行[法人税・地方税編]』での税金のシミュレーション用に、「四半期」「月次」のデータを連動できるようになりました。

[申告奉行データ作成]メニューで、今までは、税務申告として必要な「確定」「中間」だけの連動でしたが、「四半期」「月次」での税金のシミュレーション用の連動もできます。

財務諸表照会 Webオプション

- 元帳の集計（画面・印刷・転送すべて）のパフォーマンスが向上しました。

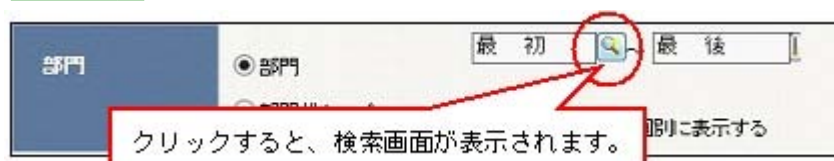
勘定奉行側と同様、取引先元帳や部門を個別に表示する場合のような、マスターと勘定科目を組み合わせるケースで、パフォーマンスが向上しました。

「指定された日付範囲に明細がある場合だけ出力する」際に、次の科目を検索するパフォーマンスが向上しています。

- マウス操作でも、マスターを検索できるようになりました。

今までは、[Space]キー（キーボード）での検索だけでしたが、コード入力欄に検索ボタンが追加され、マウス操作でもマスターを検索できるようになりました。

▼イメージ図




勘定奉行 **VERP**





機能アップガイド







Ver.2.01 / Ver.2.00



目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

【メニュー体系】	
メニューの構成を変更しました。	4
【帳票全般】	
転送のパフォーマンスが向上しました。	4
【導入処理】	
[会社運用設定]メニューに、[承認設定]ページが追加されました。	4
勘定科目リストに、[仕訳処理]メニューで使用する勘定科目だけを印刷できるようになりました。	4
1科目を1行で印字することで、印刷枚数を減らすことができるようになりました。	5
印刷する際に、項目ごとの間隔を、お客様の見やすさに合わせて調整できるようになりました。	5
勘定科目リストを印刷する際に、科目区分や税区分の区分コードを除くことで、印刷枚数を減らすことができるようになりました。	5
補助科目のコード表を印刷できるようになりました。	6
補助科目などのマスターのリスト印刷に、件数が印字されるようになりました。	7
【仕訳処理】	
仕訳伝票リストで、伝票の途中で改ページされた場合、改ページの先頭に、伝票日付・伝票No. を印刷できるようになりました。	8
仕訳伝票リストを印刷する際に、空白の明細行を上へ詰めるか設定できるようになりました。	10
専用用紙・応用用紙（標準形式）でも、伝票No. 印字の有無を選択できるようになりました。	10
仕訳処理で、1画面に表示する明細行数を、より簡単に増やすことができるようになりました。	11
帳簿入力の画面上段で自科目の取引先・補助科目を切り替える際に、その場で未登録の科目を追加する操作が、簡単になりました。	13
 他の奉行シリーズまたは他システムで作成された仕訳伝票を受け入れる際に、「承認済み」として、そのまま登録できるようになりました。	14
 仕訳伝票の承認作業を、段階的に効率よくできるようになりました。	14
 定型仕訳のコード表を印刷できるようになりました。	14
[定型仕訳登録]メニューで、付箋機能を使用できるようになりました。	15
【会計帳票】	
 元帳を出力する際に、仕訳伝票が非常に多く登録されている場合でも、すべての集計の終了を待たずに、すぐに画面で明細を確認し始められるようになりました。	15

	【分析帳票】	
	各項目（科目区分）の帳票全体に占める割合（構成比）やその金額推移を視覚的にとらえられる、構成グラフのメニューが追加されました。	15
	【管理会計帳票】	
	＜『管理会計オプション』をお使いの場合＞	
	管理会計帳票を作成する際に、奉行上のメニューではおぎないきれない計算でも、Excelの計算式（関数）を組み込むことで、お客様独自の分析ができるようになりました。	16
	管理会計帳票で、科目名（行項目の名称）をバランスよく均等割り付けして出力できるようになりました。	17
	管理会計帳票で、行項目の名称セル内側の縦罫線を出力しない設定ができるようになりました。	18
	[帳票出力設定]メニューの位置を変更しました。	18
	帳票出力設定が印刷できるようになり、設定内容を確認しやすくなりました。	18
	管理会計の予算額など、実際に合算する前に、合算結果の金額をシミュレーションできるようになりました。	19
	【消費税申告】	
	消費税の還付申告に関する明細書で、取引先マスターを検索して、取引先情報（氏名・住所）を入力できるようになりました。	19
	科目別課税対象額集計表などの消費税管理資料で、未承認・未転記の伝票を集計できるようになりました。	19
	【決算処理】	
	決算報告書の印刷形式「勘定式」と「二期間」で共通だった、見出し項目設定や要約設定を、それぞれ個別の設定で印刷できるようになりました。	20
	[期末残高繰越]画面で、「繰越利益剰余金科目・消費税科目」の繰越残高の算出方法を確認できるようになりました。	21
	1つも部門が登録されていない場合は、取引先など、マスターごとに繰越利益剰余金を繰り越さず、全社の金額として繰り越されるようになりました。	21
	【随時処理】	
	他の奉行シリーズまたは他システムで作成された仕訳伝票の伝票No. を、当システムで手入力した仕訳伝票の伝票No. とは分けて、付番管理できるようになりました。	22
	勘定科目マスターの項目「使用」の名称を、「使用区分」に変更しました。	22
	[消費税一括自動計算]メニューで、特定の仕訳明細の消費税を、一括で自動計算できるようになりました。	22
	[税区分一括変更]メニューで、税区分に加えて、特定の仕訳明細の事業区分を一括で変更できるようになりました。	23
	データ領域合算で、合算時に設定した勘定科目の関連付けを、前回情報として保持できるようになりました。	23

【その他の変更情報】		
登録したスケジュールが正しく実行されるかを、事前に確認できるようになりました。 ＜『自動実行管理オプション』をお使いの場合＞		23
Windowsの[スタート]ボタンからの、ヘルプ等の起動方法が変更になりました。		24
【奉行クラウドオプション】		
本社の経理責任者が、一括で拠点の管理をできるようになりました。		25
拠点内に所属する利用者を組織単位で設定することで、『OBC Management Studio』で一元管理ができるようになりました。 ＜『OBC Management Studio』をお使いの場合＞		25

注意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

メニュー体系

- メニューの構成を変更しました。

＜『管理会計オプション』をお使いの場合＞

変更前	変更後
[管理会計帳票]-[帳票レイアウト設定]-[帳票出力設定]メニュー	[管理会計帳票]- [管理会計帳票出力] - [帳票出力設定] -[帳票出力設定]メニュー

帳票全般

- 転送のパフォーマンスが向上しました。

複数の部門個別の集計など、マスター別に連続して転送する場合に、パフォーマンスが向上しました。

例えば、科目別推移表（[科目別推移表]）のように、「前部門」「次部門」の集計ができる帳票でパフォーマンスが向上しています。

導入処理

- [会社運用設定]メニューに、[承認設定]ページが追加されました。

[会社運用設定]メニューに[承認設定]ページが追加され、[伝票設定]ページから承認に関する設定を移動しました。

- 勘定科目リストに、[仕訳処理]メニューで使用する勘定科目だけを印刷できるようになりました。

勘定科目リストを印刷する際に、今までは、未使用の勘定科目（[勘定科目登録]画面の[基本]ページで「未使用にする」にチェックを付けた科目）も印刷されていましたが、実際に、[仕訳処理]メニューで使用する勘定科目だけを印刷できるようになりました。

[勘定科目登録 - 印刷条件設定]画面の[基本設定]ページで、「未使用の科目を含める」のチェックを外すと、未使用の勘定科目を除いて印刷できます。

- 1科目を1行で印字することで、印刷枚数を減らすことができるようになりました。

今までのコードと名称の2段印字ではなく、1科目を1行で印字することで、印刷枚数を減らすことができるようになりました。

[印刷条件設定]画面の[基本設定]ページの印刷段数で、「1段」を選択すると、1科目が1行で印字されます。

▼イメージ図

勘定科目リスト		
会計期間：2012年 4月 1日 ～ 2013年 3月 31日		
OBC商事株式会社		
勘定科目	貸借区分	科目区分
100 現金	借方	A1220 現金計
101 小口現金	借方	A1220 現金計
110 当座預金	借方	A1230 預金計

1つの勘定科目の情報を1行で印字します。

《 関連メニュー 》

- ・ [導入処理]-[科目体系登録]-[勘定科目登録]メニュー
- ・ [導入処理]-[科目体系登録]-[補助科目登録]メニュー
- ・ [導入処理]-[科目体系登録]-[科目体系登録]メニュー
- ・ [導入処理]-[科目体系登録]-[管理会計科目登録]メニュー
- ※このメニューは、『管理会計オプション』をお使いの場合に使用できます。
- ・ [導入処理]-[科目体系登録]-[出力様式登録]メニュー

- 印刷する際に、項目ごとの間隔を、お客様の見やすさに合わせて調整できるようになりました。

項目ごとの間隔を、お客様の見やすさに合わせて調整して印刷できるようになりました。

調整することで、印刷枚数を減らすこともできます。

※間隔補正値は、[印刷条件設定]画面の[印刷設定]ページで設定できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [導入処理]-[科目体系登録]-[勘定科目登録]メニュー
- ・ [導入処理]-[科目体系登録]-[補助科目登録]メニュー
- ・ [導入処理]-[科目体系登録]-[科目体系登録]メニュー
- ・ [導入処理]-[科目体系登録]-[管理会計科目登録]メニュー
- ※このメニューは、『管理会計オプション』をお使いの場合に使用できます。
- ・ [導入処理]-[科目体系登録]-[出力様式登録]メニュー

- 勘定科目リストを印刷する際に、科目区分や税区分の区分コードを除くことで、印刷枚数を減らすことができるようになりました。

勘定科目リストを印刷する際に、科目区分や税区分（事業区分）の区分コードを除いて、科目コードなど、必要なコードだけを印字することで、印刷枚数を減らすことができるようになりました。

[勘定科目登録 - 印刷条件設定]画面の[基本設定]ページで、「コードを印刷する」にチェックを付けて、「勘定科目コードだけを印刷する」を選択すると、区分コードを除いて印刷されます。

● 補助科目のコード表を印刷できるようになりました。

補助科目のコード表（「補助科目のコード・名称」「勘定科目ごとの補助科目の件数」だけの一覧表）を印刷できるようになりました。

[補助科目登録 - 印刷条件設定]画面の[基本設定]ページの印刷形式で、「コードリスト」を選択すると、補助科目のコード表を印刷できます。

▼イメージ図

補助科目コードリスト			
OBC商事株式会社		会計期間：2012年 4月 1日 ～ 2013年 3月 31日	
		PAGE: 1	
勘定科目	件数	勘定科目	件数
補助科目		補助科目	
110 当座預金	29 件	004 南の島銀行本店	
001 東都中央銀行本店		005 北海道銀行本店	
002 北日本銀行本店		006 東北銀行本店	
003 西部銀行本店		007 関東銀行本店	
004 南の島銀行本店		008 信越銀行本店	
005 北海道銀行本店		009 北陸銀行本店	
006 東北銀行本店		010 東海銀行本店	
007 関東銀行本店		011 近畿銀行本店	
008 信越銀行本店		000 その他	
009 北陸銀行本店			
010 東海銀行本店		704 交際費	3 件
011 近畿銀行本店		001 通常課税分	
012 中国銀行本店		002	
013 四国銀行本店		000	
014 九州銀行本店			
015 沖縄銀行本店			
016 関西銀行本店			
017 東京銀行本店			
018 神奈川銀行本店			
019 千葉銀行本店			

「補助科目コード」「補助科目名称」
「各勘定科目の補助科目の件数」が
印字されます。

- 補助科目などのマスターのリスト印刷に、件数が印字されるようになりました。

[導入処理]-[部門登録]-[部門登録]メニューの「部門リスト」や、[導入処理]-[科目体系登録]-[補助科目登録]メニューの「補助科目リスト」に、件数が印字されるようになりました。

▼イメージ図

補助科目コードリスト			
〇ＢＣ商事株式会社		会計期間：2012年 4月 1日 ～ 2013年 3月 31日	
		PAGE: 1	
勘定科目	件数	勘定科目	件数
補助科目		補助科目	
110 当座預金	5 件		
001 東都中央銀行本店			
002 北日本銀行本店			
003 西部銀行本店			
004 南の島銀行本店			
000 その他			
111 普通預金	6 件		
001 東都中央銀行本店			
002 北日本銀行本店			
003 西部銀行本店			
004 南の島銀行本店			
105 三井住友銀行			
000 その他			
113 定期預金	5 件		
001 東都中央銀行本店			
002 北日本銀行本店			
003 西部銀行本店			
004 南の島銀行本店			
000 その他			
704 交際費	3 件		
001 通常課税分			
002 軽減税率非課税分			
000 その他			

例) 補助科目コードリスト
勘定科目ごとの補助科目
の件数が印字されます。

《 関連メニュー 》

- ・ [導入処理]-[科目体系登録]-[勘定科目登録]メニュー
 - ・ [導入処理]-[取引先登録]-[取引先一括登録]メニュー
 - ・ [導入処理]-[セグメント登録]-[セグメント1／2]メニュー
 - ・ [導入処理]-[外貨登録]-[外貨登録]メニュー
- ※このメニューは、『外貨入力オプション』をお使いの場合に使用できます。

- 仕訳伝票リストで、伝票の途中で改ページされた場合、改ページの先頭に、伝票日付・伝票No. を印刷できるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニューの仕訳伝票リストで、1つの伝票が複数のページにまたがる場合に、そのつながりがわかるよう、改ページ後の先頭に伝票日付・伝票No. を出力できるようになりました。

枝番がついているため、連続性もわかります。

▼イメージ図

仕訳伝票リスト

日 2012年 5月 1日 至 2012年 5月 31日

OBC商事株式会社

PAGE: 1

借方 貸方 借方 貸方 借方 貸方 借方 貸方

部門・勘定科目・補助科目 金額 部門・勘定科目・補助科目 金額 部門・勘定科目・補助科目 金額 部門・勘定科目・補助科目 金額

[伝票日付] 2012年 5月 1日 [伝票No.] 000003 [伝票区分] 通常伝票 [所在地区分] 関東営業

002 龍尾興業店
604 仕入高

002 龍尾興業店
604 仕入高

002 龍尾興業店
604 仕入高

[伝票日付] 2012年 5月 8日 [伝票No.]
011 北関東支店
105 売掛金

001 松島支店
105 売掛金

003 牛久保支店
105 売掛金

[伝票日付] 2012年 5月 8日
001 第一富岡部
105 売掛金

[伝票日付] 2012年 5月 [伝票No.] 000007 [伝票区分] 通常伝票 [所在地区分] 関東営業

001 第一富岡部
105 売掛金 427,360 900 売上高 427,360

001 第一富岡部
売上控引き及び戻り高 31

002 横浜支店
105 売掛金

[伝票日付] 2012年 5月 8日 [伝票No.] 000009-1 [伝票区分] 通常伝票 [所在地区分] 関東営業

001 北関東支店
105 売掛金 1,480,000 900 売上高 1,480,000

仕訳明細が2行の伝票

2012年 5月 5日 [伝票No.] 000009-1

001 北関東支店
105 売掛金 1,480,000 900 売上高 1,480,000

仕 訳 伝 票 リ ス ト

日 2012年 5月 1日 至 2012年 5月 31日

PAGE: 2

B C 商事株式会社		業 務 科 目		税 別 / 税 率		業 務 科 目		税 別 / 税 率		税 別	
【伝票日付】 2012年 5月 5日		【伝票No.】 000009-2									
001 札幌支店		001 札幌支店		001 札幌支店	5.0%	売上伝票 日付: 2012/ 5/ 5: 売上					
110 売掛金	201,000	500 売上高			220,000						
						11,000					
【伝票日付】 2012年 5月 9日		【伝票No.】 000009-3									
001 札幌支店		001 札幌支店		001 札幌支店	5.0%	売上伝票 日付: 2012/ 5/ 9: 売上					
110 売掛金		500 売上高			200						
						400					
041 名古屋支店		001 札幌支店		001 札幌支店	5.0%	売上伝票 日付: 2012/ 5/ 9: 売上					
110 売掛金		500 売上高			5,000						
						1,000					
041 名古屋支店		001 札幌支店		001 札幌支店	5.0%	売上伝票 日付: 2012/ 5/ 9: 売上					
510 売上債権及び買入高		500 売上高			7,000						
						1,000					
041 名古屋支店		001 札幌支店		001 札幌支店	5.0%	売上伝票 日付: 2012/ 5/ 9: 売上					
110 売掛金		500 売上高			800						
						140					
【伝票日付】 2012年 5月 9日		【伝票No.】 000011-1									
001 第一営業部		001 第一営業部		001 第一営業部	5.0%	売上伝票 日付: 2012/ 5/ 9: 売上					
110 売掛金	1,740,000	500 売上高			1,740,000						
001 第一営業部		001 第一営業部		001 第一営業部	5.0%	売上伝票 日付: 2012/ 5/ 9: 債引					
510 売上債権及び買入高		110 売掛金			52,200						
						52,200					
001 札幌支店		001 札幌支店		001 札幌支店	5.0%	売上伝票 日付: 2012/ 5/ 9: 売上					
110 売掛金	804,750	500 売上高			795,000						
						29,750					

《 関連メニュー 》

- ・[導入処理]-[残高入力]-[開始残高入力]-[開始残高一括振替]メニュー
 - ・[仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
 - ・[仕訳処理]-[F B処理]-[F B仕訳起票]メニュー
 - ・[仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[自己承認伝票確認リスト]メニュー
 - ・[仕訳処理]-[月次処理]-[為替換算]-[為替換算]メニュー
- ※このメニューは、『外貨入力オプション』をお使いの場合に使用できます。
- ・[配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績配賦]メニュー

- 仕訳伝票リストを印刷する際に、空白の明細行を上へ詰めるか設定できるようになりました。

仕訳伝票リスト（応用用紙）を印刷する際に、行の途中の空白の明細行について、そのまま空けて出力するか、上へ詰めて出力するかを設定できるようになりました。

▼イメージ図

仕訳伝票リスト									
〇〇〇商事株式会社		日 2012年 11月 8日 至 2012年 11月 8日							
前門 勘定科目 補助科目		税率		前門 勘定科目 補助科目					
金額		金額		金額					
[伝票日付] 2012年 11月 8日		[伝票No.] 0000025		[伝票区分] 通常伝票		[得意区分]			
001 第一営業部				001 第一営業部					
125 売上高		751.218		002 売上高					
002 第二営業部				002 第二営業部					
604 仕入高		642.009		005 買入金					
		642.009							
[合 計]		1,393.227							

このような空白行を、上へ詰めるか、空白のまま出力するかの設定です。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[反対仕訳一括起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[自己承認伝票確認リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[月次処理]-[月次仮締め]-[月次仮締め後変更レポート]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[決算仮締め後仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後変更レポート]-[仕訳伝票変更レポート]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[遡及仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[仕訳伝票履歴]メニュー

- 専用用紙・応用用紙（標準形式）でも、伝票No. 印字の有無を選択できるようになりました。

今までは、応用用紙（簡易形式）の場合だけ、伝票No. 印字の有無を選択できましたが、専用用紙・応用用紙（標準形式）でも、選択できるようになりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー

- 仕訳処理で、1画面に表示する明細行数を、より簡単に増やすことができるようになりました。

今まで、明細行の高さを変更する場合は、[仕訳処理 - 設定]画面の[表示設定]ページで設定

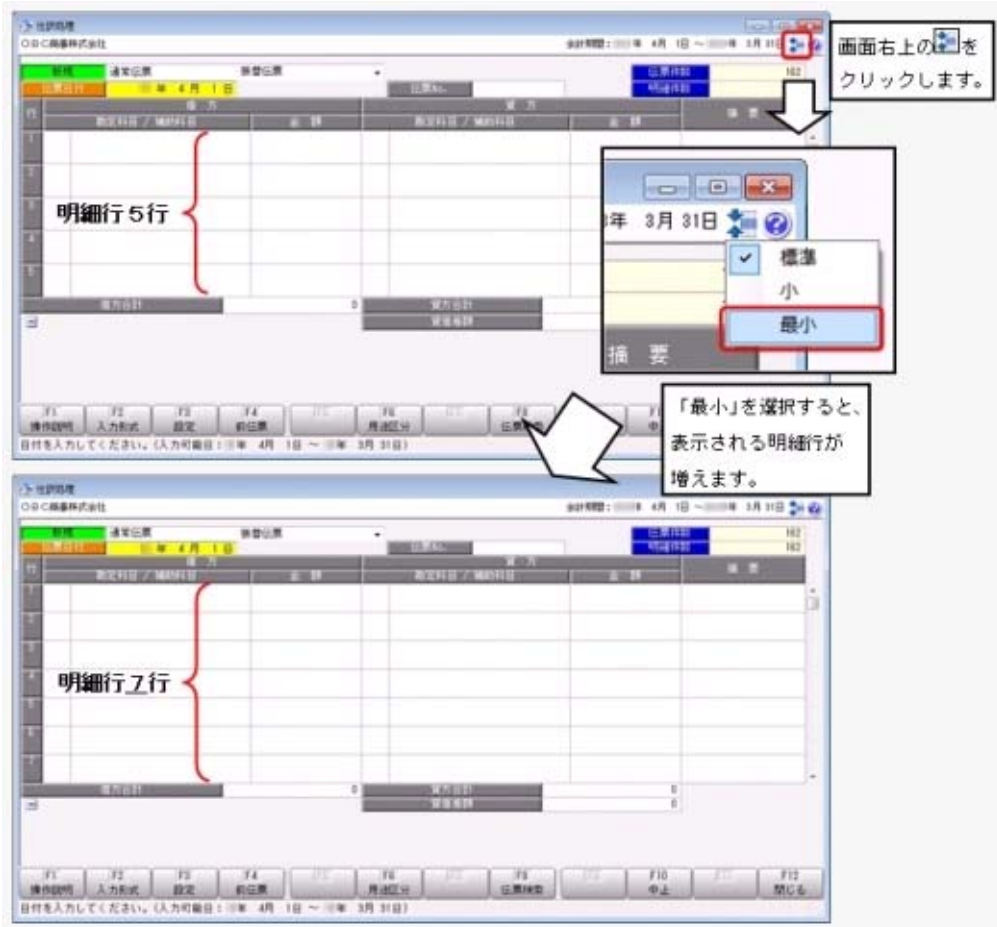
していましたが、直接、画面右上の  アイコンから設定できるようになりました。

より簡単に、1画面に表示する明細行数を増やすことができるようになりました。

※今までは、利用者ごとにすべてのメニューで共通の設定でした。今回から、パソコンごとにメニューそれぞれの設定になりました。

今まで、[仕訳処理 - 設定]画面で設定を変更していた場合は、再設定してください。

▼イメージ図



※この画面は、[仕訳処理]メニューの画面です。

※解像度など環境や、明細上入力するマスター種類の数によって、画面に表示する明細行数は異なります。

◀ 関連メニュー ▶

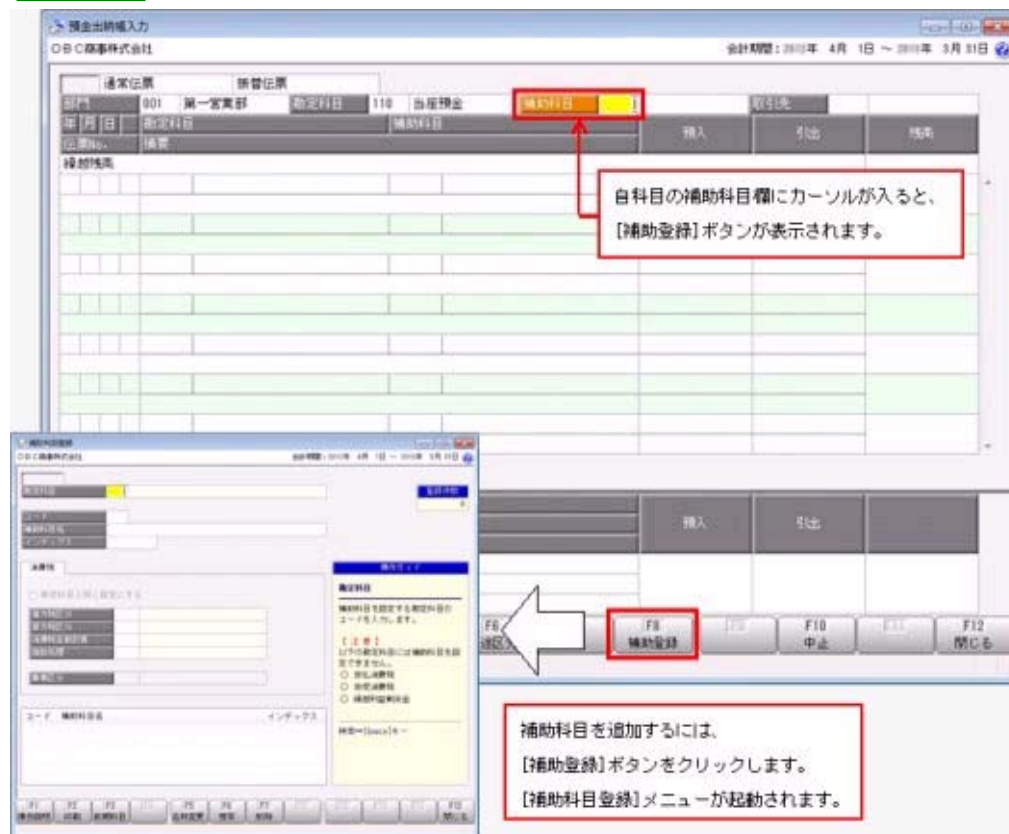
- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[反対仕訳一括起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[自己承認伝票確認リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[月次処理]-[月次仮締め]-[月次仮締め後変更レポート]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票決算仮締め後修正]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[決算仮締め後仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[遡及仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[仕訳伝票履歴]メニュー

- 帳簿入力の上段で自科目の取引先・補助科目を切り替える際に、その場で未登録の科目を追加する操作が、簡単になりました。

今までは、帳簿入力の上段で自科目の取引先・補助科目（部門・勘定科目など）を切り替える際に、未登録の科目を追加する場合は、一度、メニュー選択画面へ戻り、マスターを登録するメニューを、別途、開く必要がありました。

今後は、科目欄にカーソルが入ると、マスターを登録するためのファンクションボタンが表示されるようになり、効率よく帳簿入力を続けられます。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[現金出納帳入力]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[預金出納帳入力]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[元帳入力]メニュー



- 他の奉行シリーズまたは他システムで作成された仕訳伝票を受け入れる際に、「承認済み」として、そのまま登録できるようになりました。

[会社運用設定]メニューの[承認設定]ページの承認の業務別管理で、承認機能の利用を、業務別に管理できるようになりました。

例えば、勘定奉行内で手入力する仕訳伝票については、承認を必要とするのに対し、『商蔵奉行』『償却奉行／固定資産奉行』などの奉行シリーズで作成された仕訳伝票については、そのシステム側で承認済みで内容の正当性が保証されているので、「承認済み」としてそのまま勘定奉行に受け入れることができます。

なお、「汎用データ受入（仕訳伝票データ受入）」についても別に管理できます。



- 仕訳伝票の承認作業を、段階的に効率よくできるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニューで、承認の際、今までは、仕訳明細のすべての情報が表示されていたので、承認する伝票の大枠での確認ができませんでした。今回からは、伝票日付・伝票No.・伝票金額・摘要など、伝票の基本的な情報だけの簡易画面も選択できるようになり、最初に大枠を把握した後、必要に応じて、伝票の詳細を確認しながら承認できるようになりました。

《 関連メニュー 》

[仕訳処理]-[反対仕訳一括起票]メニュー



- 定型仕訳のコード表を印刷できるようになりました。

定型仕訳のコード表（「定型仕訳のコード・名称」だけの一覧表）を印刷できるようになりました。

[定型仕訳登録 - 印刷条件設定]画面の[基本設定]ページの印刷形式で、「コードリスト」を選択すると、定型仕訳のコード表を印刷できます。

▼イメージ図

定型仕訳コードリスト			
OBC商事株式会社		会計期間：2012年 4月 1日 ～ 2013年 3月 31日	
		PAGE: 1	
定型仕訳コード	定型仕訳名	定型仕訳コード	定型仕訳名
azukari_jou	預り住民税を普通預金より支払	kobukounyu	株式購入代金を普通預金より支払
azukari_sho	預り社会保険料を普通預金より支払	kaigaitoko	海外渡航費の現金支払
azukari_sho	預り所得税を普通預金より支払	kaikakefut	買掛金を普通預金より支払
bayudaishi	バス代の現金支払	kaikakegen	買掛金の現金支払
bihinshuf	備品修理費を普通預金より支払	kaikakehog	買掛金を小切手にて支払
bihinshurg	備品修理費の現金支払	kaikaketeg	買掛金を手形で支払
bunbougyo	文房具用品代の現金支払	kaikaketof	買掛金を当座預金より振込、振込料を負担
chakusharai	着払い運賃の現金支払	kaikaketou	買掛金を当座預金より支払
choukiyuu	長期融資により普通預金より支払	kaiteiwa	開店・開業の祝い金
chougendai	中元・歳暮代の現金支払	kakeshineb	借仕入の商品債引
chausharyo	駐車料金の現金支払	kakeurineb	借売上商品債引
denkiroyof	電気料金を普通預金より支払	kappodaiki	割賦代金を普通預金より支払
denkiroyog	電気料金の現金支払	kappuriosh	割賦利息を普通預金より支払
denshadain	電車代の現金支払	kariiburais	仮払清算による現金戻入
densaryouf	電話料金を普通預金より支払	kariirehen	借入金当座預金にて返済
densaryoug	電話料金の現金支払	kariirenyf	銀行から借入により普通預金に入金
dougyousha	同業者団体の会費の現金支払	kariirenyrt	借入金を当座預金に入金
eigyoushas	営業車修理費用の現金支払	kariirerif	借入利息を普通預金より支払
faxyoushid	FAX用紙代の現金支払	kariireris	借入金利息の未払額を決算計上
fudousansf	不動産取得税を普通預金より支払	kariirerit	借入利息を当座預金より支払
fudousang	不動産取得税の現金支払	kanaihoken	火災保険料を小切手にて支払
fukurikous	福利厚生費を普通預金より支払	kashidaork	貸倒引当金の繰入
furikomiry	振込料(当方負担)と売掛金を相殺	kashidaorm	
futsusazuk	普通預金へ預入	kashituke	
futsusihiki	普通預金より引出	keitaiden	
futsuoris	普通預金の利息分の受取	kikaikappu	機械修理費を普通預金より支払
futsuuteik	普通預金から定期預金へ振替	kikaishufu	機械修理費の現金支払
futsuuteis	普通預金から当座預金へ振替	kikaishuge	機械修理費の現金支払
goufuryoukf	ガス料金を普通預金より支払	kikaishouda	機械買置代金を普通預金より支払

「定型仕訳コード」「定型仕訳名」が
印字されます。

- [定型仕訳登録]メニューで、付箋機能を使用できるようになりました。

仕訳処理と同様、[仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニューの定型仕訳に対しても、付箋を貼れるようになりました。

仕訳伝票入力時に、その定型仕訳を呼び出した際には、その付箋も付いて表示されます。

また、貼った付箋をキーに検索もできます。

《 関連メニュー 》

- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[定型仕訳データ作成]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[定型仕訳データ受入]メニュー

会計帳票



- 元帳を出力する際に、仕訳伝票が非常に多く登録されている場合でも、すべての集計の終了を待たずに、すぐに画面で明細を確認し始められるようになりました。

[会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニューで元帳を出力する際、今までは、すべての集計が終了するまで、元帳の集計結果を確認できませんでした。

今回から、集計の終了した明細から順次、画面に表示されるため、元帳を効率よく確認できるようになりました。

分析帳票



- 各項目（科目区分）の帳票全体に占める割合（構成比）やその金額推移を視覚的にとらえられる、構成グラフのメニューが追加されました。

[分析帳票]-[構成グラフ]-[構成グラフ]メニューの構成グラフでは、貸借対照表・損益計算書などの帳票ごとに、各項目（科目区分）の構成比やその金額推移を、グラフにして表示します。

帳票全体に占める割合や推移の概要を視覚的にとらえることができるため、概要把握を容易にできます。

必要に応じて、[分析帳票]-[構成グラフ]-[構成グラフ項目設定]メニューで、構成グラフの色を変更したり、項目を追加することもできます。

<『管理会計オプション』をお使いの場合>



- 管理会計帳票を作成する際に、奉行上のメニューではおぎないきれない計算でも、Excelの計算式（関数）を組み込むことで、お客様独自の分析ができるようになりました。

管理会計帳票（[管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[管理会計分析表]メニュー・[管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[管理会計集計表]メニュー・[管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[管理会計推移表]メニュー）を作成する際に、奉行上のメニューではおぎないきれない計算でも、[管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[帳票出力設定]-[Excel計算式設定]メニューで、Excelの計算式（関数）を組み込むことで、お客様独自の分析ができるようになりました。

組み込んだ計算式（関数）は、管理会計帳票をExcelへ出力する際はもちろんのこと、印刷する際にも反映されます。

※Excelの計算式（関数）の設定イメージは、操作説明の[Excel計算式設定]メニューの「活用例」をご参照ください。

- 管理会計帳票で、科目名（行項目の名称）をバランスよく均等割り付けして出力できるようになりました。

管理会計帳票で、科目名（行項目の名称）の全体の長さをそろえて、均等割り付けして出力できるようになりました。

[条件設定]画面の[出力設定]ページで、「均等割り付する」のチェックを付けると、均等割り付されます。

▼イメージ図

コード	名称
P4000	営業利益
P2000	売上総利益
P1000	純売上高
P1100	売上原価
P3000	販売費及び一般管理費計
P3100	販売費
P3200	人件費

「均等割り付する」のチェックを付けると、行項目名の全体の長さがそろいます。

コード	名称
P4000	営 業 利 益
P2000	売 上 総 利 益
P1000	純 売 上 高
P1100	売 上 原 価
P3000	販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 計
P3100	販 売 費
P3200	人 件 費

また、管理会計帳票を印刷する際は、指定した文字数の幅で、均等割り付することもできます。

[印刷条件設定]画面の[詳細設定]ページで、「文字数を指定して均等割り付する」を選択すると、割り付時の文字数の幅を設定できます。

▼イメージ図

○ 「行項目の幅で均等割り付する」

コード	名称
P4000	営 業 利 益
P2000	売 上 総 利 益
P1000	純 売 上 高
P1100	売 上 原 価
P3000	販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 計
P3100	販 売 費
P3200	人 件 費

「行項目名の幅で均等割り付する」の場合、「販売費」などの文字数が少ない場合は、文字と文字との間隔が大きくなります。

販	売	費
---	---	---

○ 「文字数を指定して均等割り付する」

コード	名称
P4000	営 業 利 益
P2000	売 上 総 利 益
P1000	純 売 上 高
P1100	売 上 原 価
P3000	販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 計
P3100	販 売 費
P3200	人 件 費

文字と文字との間隔があきすぎないように調整する場合は、「文字数を指定して均等割り付する」を選択し、行項目名の全体の長さをそろえるための文字数を設定します。

販	売	費
---	---	---

≪ 関連メニュー ≫

- ・ [管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[管理会計分析表]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[管理会計集計表]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[管理会計推移表]メニュー

- 管理会計帳票で、行項目の名称セル内側の縦罫線を出力しない設定ができるようになりました。

管理会計帳票で、行項目の名称セル内側の縦罫線が不要な場合は、出力しないよう設定できるようになりました。

[条件設定]画面の[出力設定]ページで、「縦罫線を出力する」のチェックを外すと、行項目の名称セル内側の縦罫線は出力されません。

▼イメージ図

コード	名称
P4000	営業利益
P2000	売上総利益
P1000	売上高
P1100	売上原価
P3000	販売費及び一般管理費計
P3100	販売費
P3200	人件費
P3300	一般管理費

「縦罫線を出力する」のチェックを外すと、行項目の名称セルの内側の縦罫線は出力されません。

コード	名称
P4000	営業利益
P2000	売上総利益
P1000	売上高
P1100	売上原価
P3000	販売費及び一般管理費計
P3100	販売費
P3200	人件費
P3300	一般管理費

《 関連メニュー 》

- ・ [管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[管理会計分析表]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[管理会計集計表]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[管理会計推移表]メニュー

- [帳票出力設定]メニューの位置を変更しました。

[管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]メニューの階層の下に、[帳票出力設定]メニューを配置することで、帳票の出力結果を確認後に、続けて、出力設定を変更しやすくなります。

- 帳票出力設定が印刷できるようになり、設定内容を確認しやすくなりました。

[管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[帳票出力設定]-[帳票出力設定]メニューと[帳票レイアウト設定]の各メニューで、印刷機能が追加され、設定内容を確認しやすくなりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [管理会計帳票]-[管理会計帳票出力]-[帳票出力設定]-[帳票出力設定]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[帳票レイアウト設定]-[行項目設定]-[行項目レイアウト設定]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[帳票レイアウト設定]-[列項目設定]-[列項目登録]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[帳票レイアウト設定]-[列項目設定]-[列項目レイアウト設定]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[帳票レイアウト設定]-[列項目設定]-[構成比登録]メニュー

- **管理会計の予算額など、実際に合算する前に、合算結果の金額をシミュレーションでできるようになりました。**

個々の部門の管理会計予算額などを、部門グループの予算に合算する際に、事前に、合算結果の金額をシミュレーションすることで、合算条件が適切であることを確認できるようになりました。

[条件設定]画面の [実行前確認] ボタンをクリックし、グループごとの合算金額が正しいことを、印刷して確認できます。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [管理会計帳票]-[管理会計金額入力]-[管理会計予算額入力]-[管理会計予算額合算]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計金額入力]-[管理会計実績額入力]-[管理会計実績額合算]メニュー
- ・ [管理会計帳票]-[管理会計金額入力]-[非会計情報入力]-[非会計情報合算]メニュー

消費税申告

- **消費税の還付申告に関する明細書で、取引先マスターを検索して、取引先情報（氏名・住所）を入力できるようになりました。**

[消費税申告]-[消費税申告]メニューの[消費税の還付申告に関する明細書]画面で、取引先情報（氏名・住所）を入力時に、取引先マスターを検索できるようになりました。
検索することで、登録済みの取引先情報を活用できるようになりました。



- **科目別課税対象額集計表などの消費税管理資料で、未承認・未転記の伝票を集計できるようになりました。**

[消費税申告]-[科目別課税対象額集計表]メニューなどの消費税管理資料で、未承認・未転記の伝票を集計することで、伝票確定前に、消費税内容の確認・訂正ができるようになりました。

※事前に、[会社運用設定]メニューの[伝票設定]ページで「0：未承認・未転記の仕訳を集計する」に設定します。
消費税管理資料の各メニューの[条件設定]画面の[条件設定]ページで、「未承認仕訳・未転記仕訳を含めて集計する」チェックボックスにチェックを入れると、集計できます。

◀ 関連メニュー ▶

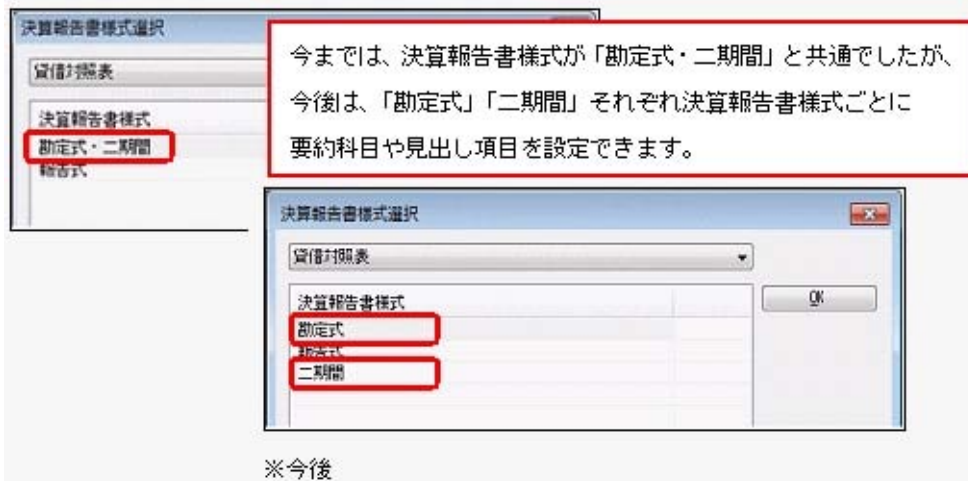
- ・ [消費税申告]-[科目別税区分集計表]メニュー
- ・ [消費税申告]-[税区分明細表]メニュー

- 決算報告書の印刷形式「勘定式」と「二期間」で共通だった、見出し項目設定や要約設定を、それぞれ個別の設定で印刷できるようになりました。

今までは、見出し項目設定と要約設定は、「勘定式」と「二期間」で共通の設定でしたが、それぞれ個別の設定で印刷できるようになり、設定の手間がなくなります。

▼イメージ図

※今まで



※今後

《 関連メニュー 》

- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書]メニュー
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[決算書見出し項目設定]メニュー
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[決算書要約科目設定]-[要約設定]メニュー
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[決算書要約科目設定]-[要約科目表示設定]メニュー

- 「期末残高繰越 - 詳細設定」画面で設定した、「繰越利益剰余金科目・消費税科目」の繰越残高の算出方法が、「期末残高繰越」画面で明示的になり、確認できるようになりました。

[illegible]

- 部門が登録されていない場合は、「繰越利益剰余金」科目は部門ごとに繰り越されないため、取引先などの他のマスターごとにも繰り越さず、全社の金額として繰り越されます。
- 取引先などのマスター（取引先・セグメント1・セグメント2）の繰越利益剰余金は、「0：その他」に集約されます。
- ※セグメントは、『セグメント管理オプション』をお使いの場合に設定できます。



- 他の奉行シリーズまたは他システムで作成された仕訳伝票の伝票No. を、当システムで手入力した仕訳伝票の伝票No. とは分けて、付番管理できるようになりました。

[会計期間設定]メニューの[伝票設定]ページの付番伝票で、伝票No. を、業務別に付番管理できるようになりました。

例えば、勘定奉行内で手入力した仕訳伝票については、伝票No. を月ごとに自動付番していても、『商蔵奉行』『償却奉行／固定資産奉行』などの奉行シリーズで付番した伝票No. をそのまま勘定奉行に受け入れることができるため、伝票No. をもとに受入元のシステム側のデータと突き合わせる際に有効です。

また、『商蔵奉行』は何番台、『償却奉行／固定資産奉行』は何番台、と業務別に付番管理することもできます。

なお、「汎用データ受入（仕訳伝票データ受入）」についても別に管理できます。

さらに、上記の付番管理のほか、[会計期間設定]メニューの[伝票設定]ページの重複チェック伝票で、伝票No. の重複チェックについても、業務別に管理できます。

例えば、勘定奉行内で手入力する仕訳伝票だけ重複していないかチェックして誤入力を防ぐとともに、『商蔵奉行』『償却奉行／固定資産奉行』などで作成された仕訳伝票の伝票No. については、重複を許可し、その伝票No. での受け入れを優先させたい場合に有効です。

- 勘定科目マスターの項目「使用」の名称を、「使用区分」に変更しました。

[随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[勘定科目マスター作成]メニューで作成されるデータについて、項目名「使用」を「使用区分」に変更しました。

《 関連メニュー 》

- ・ [導入処理]-[科目体系登録]-[勘定科目登録]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[勘定科目マスター作成]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[勘定科目マスター受入]メニュー

- [消費税一括自動計算]メニューで、特定の仕訳明細の消費税を、一括で自動計算できるようになりました。

[随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[消費税一括自動計算]メニューで、消費税を計算していない仕訳明細に対し、消費税を一括で自動計算できるようになりました。

前年度が免税業者で、今年度から課税業者になったにも関わらず、免税として消費税の自動計算しないまま、仕訳伝票を登録していた場合などに活用します。

- [税区分一括変更]メニューで、税区分に加えて、特定の仕訳明細の事業区分を一括で変更できるようになりました。

以下のような場合に、[随時処理]-[データー一括変更]-[仕訳伝票データー一括変更]-[税区分一括変更]メニューで事業区分を一括で変更します。

- ・ 免税業者から課税業者（簡易課税）になり、期中で、仕訳明細上の事業区分が誤っていたことに気づいた場合
- ・ 事業区分の初期設定に誤りがあることに気づかず、仕訳伝票を入力していた場合
- ・ 他の奉行シリーズまたは他システムで作成された仕訳伝票上の事業区分に誤りがあった場合



- データ領域合算で、合算時に設定した勘定科目の関連付けを、前回情報として保持できるようになりました。

今までは、合算の都度、[データ領域合算 - コード設定]画面で、勘定科目を関連付ける必要がありました。

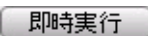
今回から、合算時に設定した勘定科目の関連付けを、前回情報として保持できるようになり、次回以降の再設定は必要なくなります。

その他の変更情報

- 登録したスケジュールが正しく実行されるかを、事前に確認できるようになりました。

＜『自動実行管理オプション』をお使いの場合＞

[自動実行管理]-[スケジュール登録]メニューで、登録したスケジュールが正しく実行されるかを、事前に実行して確認できるようになりました。

[スケジュール登録]画面で今すぐ実行するスケジュールを選択し、を押します。

- Windowsの[スタート]ボタンからの、ヘルプ等の起動方法が変更になりました。

今までは、[スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] - [奉行シリーズ] から、ヘルプ等を起動していました。

▼イメージ図



今回より、[スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] - [奉行シリーズ] - [ツール] - [〇〇奉行 ツール] から、ヘルプ等を起動します。

▼イメージ図





- 本社の経理責任者が、一括で拠点の管理をできるようになりました。
- 拠点内に所属する利用者を組織単位で設定することで、『OBC Management Studio』で一元管理ができるようになりました。

＜『OBC Management Studio』をお使いの場合＞

『奉行クラウドオプション』の機能アップ内容は、以下からダウンロードできる「機能アップガイド」をご参照ください。

OBC Netサービス（<http://www.obcnet.jp/>）の「よくあるお問い合わせ（FAQ）」の文書番号10322「仕訳伝票クラウドオプション for 勘定奉行シリーズのバージョンと機能追加・改正情報の一覧」

※OBC Netサービスのご利用には、インターネット接続環境およびOBC Netサービスの会員登録（無料）が必要です。

※「文書番号」で検索する場合は、「よくあるお問い合わせ（FAQ）」の[キーワードから検索]ページで行います。


勘定奉行VERP




機能アップガイド

Ver.1.64 / Ver.1.62



目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【改正情報】	
	平成23年度消費税法改正（平成24年4月1日以降に適用）に伴い、法改正対応と業務支援機能を追加しました。	2
	【メニュー体系】	
	メニューの名称を変更しました。	6
	【導入処理】	
	取引先一括登録のリスト印刷時に、「住所1」「住所2」の出力幅を調整できるようになりました。	6
	【仕訳処理】	
	[部門別税区分表示設定]メニューで、仕訳伝票入力時に部門ごとに初期表示する税区分をあらかじめ設定できるようになりました。	7
	[帳簿入力]メニューで、自科目として扱う勘定科目が1つだけの場合は、自動的に自勘定科目が表示されるようになりました。	7
	帳簿の入力画面で、定型仕訳の検索機能が向上しました。	8
	新規にデータ領域を作成した場合に、定型仕訳の検索機能が向上しました。	8
	【会計帳票】	
	元帳の転送パフォーマンスが向上しました。	8
	【随時処理】	
	[税区分一括変更]メニューで、特定の明細の税区分を一括で変更できるようになりました。	9
	【仕訳伝票 Webオプション】	
	「部門別の税区分初期表示」（平成23年消費税法改正に伴う業務支援機能）に対応しました。	9

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

改正情報



- 平成23年度消費税法改正（平成24年4月1日以降に適用）に伴い、法改正対応と業務支援機能を追加しました。

平成23年度消費税法改正（平成24年4月1日以降に適用）に対応しました。

▼法改正のポイント

○仕入税額控除制度における「95%ルール」適用要件の見直し

課税売上割合が95%以上の場合に、課税仕入れ等に係る消費税額の「全額」仕入税額控除の対象とする制度について、その課税期間の課税売上高が5億円以下の事業者に限り、適用することとされます。

つまり、課税売上高が5億円を超える事業者は、「全額控除」ではなく、「課税売上割合」を乗じて計算します。

※1 適用時期：平成24年4月1日以降に開始する課税期間から適用

○消費税申告書・付表2のレイアウト変更

仕入税額控除制度における「95%ルール」適用要件の見直しに伴い、消費税申告書・付表2のレイアウトが変更されます。

○還付申告書への「消費税の還付申告に関する明細書」の添付義務化

消費税の還付申告書を提出する際、「消費税の還付申告に関する明細書」（新設）の提出が、義務付けられます。

※2 適用時期：平成24年4月1日以降に提出する還付申告書から適用

○事業者免税点制度の適用要件の見直し

当課税期間の基準期間※aにおける課税売上高が1,000万円以下であっても、当課税期間の前年※bの事業年度開始の日から6ヵ月間の課税売上高が1,000万円を超えた場合は、当課税期間においては、課税事業者となります。

なお、課税売上高に代えて、給与等支払額の合計額により判定することもできます。

例)

当課税期間が「平成25年」の場合、※a当課税期間の基準期間は「平成23年」※b当課税期間の前年は「平成24年」となります。

※3 適用時期：平成25年1月1日以降に開始する事業年度から適用

【法改正】

- 『仕入税額控除制度における「95%ルール」適用要件の見直し』に対応しました。
消費税申告書・付表2のレイアウト変更にも対応しています。

▼消費税申告書のイメージ

○第27-(1)号様式の変更

[illegible]

▼付表2のイメージ

○第 28-(1)号様式の変更

第25-11号様式

付表2 課税売上割合・控除対象仕入税額等の計算表

一 期

課税期間		氏名又は名称	
項	目	金 額	
	課税売上額（税別）①		
	免 税 売 上 額 ②		
	非課税資産の輸出等の金額、海外支店等へ移した資産の価額、③		
課税資産の譲渡等の対価の額（①＋②＋③）④			
	課税資産の譲渡等の対価の額（④の金額）⑤		
	非 課 税 売 上 額 ⑥		
	資産の譲渡等の対価の額（⑤＋⑥）⑦		
課税売上割合（④／⑦）		%	
課税仕入れに係る支払対価の額（税込み）⑧		単位は円	
課税仕入れに係る消費税額（⑧×4／105）⑨		単位は円	
課税貨物に供した		様式が変更されます。	
納税義務の免除を受けな		【変更前】	
場合における消費税額の合		【変更後】	
課税仕入れ等の税額の合			
課税売上割合税引率等			
課税対価の割合	税別対価のうち、課税売上額に相当する部分	95%未満の場合 課税売上割合が	
	税引方式	5億円超又は	
控除対象税額	課税売上割合変動時の課税消費税額の調整	95%未満の場合 課税売上割合が	
	課税対象固定資産を課税に転用した場合の調整	5億円超又は	
差 引	控 除 対 象 （⑧、⑨又は⑩の金額）	95%未満の場合 課税売上割合が	
	控 除 対 象 （⑧、⑨又は⑩の金額）	5億円超又は	
控除対象に係る消費税額⑪			

注1 金額の計算には円単位とし、円未満の端数を切り捨てた。

2 ③欄には、輸送、搬送、搬出、移付など仕入対象の資産等の金額がある場合（仕入対象の資産等の金額が仕入金額から減額調整して算出される）には、その金額を控除した後の金額を記入する。

3 ④欄に該当する場合は、③欄には④の形式で2桁の金額を記入する。

$$\text{課税仕入れに係る消費税額} = \left(\text{課税仕入れに係る支払対価の額} \times \frac{4}{105} \right) - \left(\text{仕入対象の資産等の対価} \times \frac{4}{105} \right)$$

4 ⑩欄の金額は①に⑨を控除した金額、その金額が0円の場合は0と記入する。

《 関連メニュー 》

- ・[消費税申告]-[消費税申告書]メニュー
- ・[消費税申告]-[課税制度別納税額比較表]-[課税制度別納税額比較表]メニュー
- ・[消費税申告]-[課税制度別納税額比較表]-[課税制度別納税額シミュレーション]メニュー
- ・[消費税申告]-[電子申告]-[消費税申告データ作成]メニュー

▼消費税の還付申告に関する明細書のイメージ

[illegible]

平成23年度消費税法改正に伴う業務支援機能として、「部門別の税区分初期表示」「税区分の一括変更」の新規メニューが追加されました。

- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[部門別税区分表示設定]メニュー
- ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[税区分一括変更]メニュー

申告書計算方法	課税売上割合	課税売上高	「95%ルール」 適用要件の見直し
免税事業者	—	—	影響なし
簡易課税	—	—	影響なし
原則課税	課税売上割合95% 以上	課税売上高 5 億円超	必 要
		課税売上高 5 億円以下	影響なし
	課税売上割合95% 未満		影響なし

新規メニューの[仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[部門別税区分表示設定]メニューは、そういった、仕訳伝票入力時の業務の煩雑さを軽減するために有効です。

また、[随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[税区分一括変更]メニューは、「95%ルール」の変更に伴い、特定の税区分を一括で変更する必要がある場合に有効です。

※詳細は、「[部門別税区分表示設定]メニューで、仕訳伝票入力時に部門ごとに初期表示する税区分をあらかじめ設定できるようになりました。」

または「[税区分一括変更]メニューで、特定の明細の税区分を一括で変更できるようになりました。」を参照。

メニュー体系

● メニューの名称を変更しました。

メニューの名称を変更しました。

変更前	変更後
[仕訳処理]-[F B 処理]-[F B 処理設定] -[会社銀行口座登録]メニュー	[仕訳処理]-[F B 処理]-[F B 処理設定] -[会社銀行口座登録 F B]メニュー

導入処理

● [取引先一括登録]メニューの印刷時に、「住所 1」「住所 2」の出力幅を調整できるようになりました。

[導入処理]-[取引先登録]-[取引先一括登録]メニューの印刷補正值に、「住所 1」「住所 2」の幅が追加されました。

項目の幅を補正することで、1 ページ当たりの項目の出力数を調整できるようになりました。

お客様の見やすさに合わせて調整できます。

※項目の幅の設定は、[印刷条件設定]画面の[印刷設定]ページで設定できます。



- [部門別税区分表示設定]メニューで、仕訳伝票入力時に部門ごとに初期表示する税区分をあらかじめ設定できるようになりました。

一般的に、費用などの科目の税区分は、部門ごとの活動内容によって、ある程度確定するケースがあります。

[仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[部門別税区分表示設定]メニューで、部門ごとに初期表示する税区分をあらかじめ設定しておく、仕訳伝票入力時の補助機能として、部門に応じて税区分が初期表示されるので、日々の入力業務の煩雑さを軽減できます。

活用例)

水道光熱費	税区分
●管理部門の存在する事業所の水道光熱費	→「共通売上分課税仕入」
●営業部門だけの事業所の水道光熱費	→「課税売上分課税仕入」

※当システムでは、仕訳伝票入力時に初期表示する税区分を設定できますが、勘定科目の特性により、補助科目別または部門別に設定することが適切なケースがあります。

いずれのケースに当てはまるか、操作説明の「初期表示する税区分の運用・設定方法」でご確認の上、該当のメニューで初期表示する税区分を設定してください。

※平成23年度消費税法改正に伴う機能アップ内容です。平成23年度消費税法改正の詳細は、「平成23年度消費税法改正（平成24年4月1日以降に適用）に伴い、法改正対応と業務支援機能を追加しました。」をご確認ください。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]メニューの各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[F B処理]-[F B仕訳起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー

- [帳簿入力]メニューで、自科目として扱う勘定科目が1つだけの場合は、自動的に自勘定科目が表示されるようになりました。

[導入処理]-[会計期間設定]-[システム科目設定]メニューの[帳簿科目設定]ページで、自科目として扱う勘定科目が1つだけ設定している場合は、入力時に、自動的に自勘定科目が表示されるようになりました。

また、1つも部門が登録されていない場合、かつ自勘定科目に、補助科目が登録されていない場合は、[帳簿入力]メニューを起動すると伝票日付にカーソルが入り、すぐに入力ができ効率的になりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[現金出納帳入力]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[預金出納帳入力]メニュー

● 帳簿の入力画面で、定型仕訳の検索機能が向上しました。

定型仕訳を検索すると、開いている帳簿入力メニューで利用できる定型仕訳だけが一覧表示され、その中から選択できるようになります。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[現金出納帳入力]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[預金出納帳入力]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[元帳入力]メニュー

● 新規にデータ領域を作成した場合に、定型仕訳の検索機能が向上しました。

今まで、初期登録されていた定型仕訳コードは数字でしたが、新規にデータ領域を作成した場合は、定型仕訳の名称が英字で表示されるようになりました。

これにより、定型仕訳の名称で検索をできるので、より効率的に伝票を入力できるようになりました。

※この変更は、新規にデータ領域を作成した段階で反映されます。すでに運用中のデータ領域には影響しません。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[仕訳帳入力]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[現金出納帳入力]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[預金出納帳入力]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[元帳入力]メニュー

会計帳票

● 元帳の転送パフォーマンスが向上しました。

複数の勘定科目を連続して転送する場合や、複数の部門別元帳を連続して転送する場合に、パフォーマンスが向上しました。

随時処理



- [税区分一括変更]メニューで、特定の明細の税区分を一括で変更できるようになりました。

[随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[税区分一括変更]メニューでは、税区分を一括変更する前に、対象となる明細を確認し、その中から特定の明細だけを指定して一括変更することができます。

例えば、部門ごとの活動内容によって税区分を管理することになった場合に、[仕訳処理]メニューで1明細ごとに修正せず、部門ごとに、特定の明細の税区分を一括で変更することができます。

活用例)

月次・決算時など、変更したい期間に応じて一括で税区分を変更します。

※平成23年度消費税法改正に伴う機能アップ内容です。平成23年度消費税法改正の詳細は、「平成23年度消費税法改正（平成24年4月1日以降に適用）に伴い、法改正対応と業務支援機能を追加しました。」をご確認ください。

仕訳伝票Webオプション

- 「部門別の税区分初期表示」（平成23年消費税法改正に伴う業務支援機能）に対応しました。

勘定奉行側に、平成23年度消費税法改正に伴う業務支援機能として、「部門別の税区分初期表示」の新規メニューが追加されました。

勘定奉行側で、部門ごとに初期表示する税区分をあらかじめ設定しておく、仕訳伝票入力時の補助機能として、部門に応じて税区分が初期表示されるので、日々の入力業務の煩雑さを軽減できます。

※平成23年度消費税法改正の詳細は、「平成23年度消費税法改正（平成24年4月1日以降に適用）に伴い、法改正対応と業務支援機能を追加しました。」をご確認ください。

勘定奉行 **VERP**

機能アップガイド

Ver.1.61



【消費税申告】	
科目別課税対象額集計表で、差し引き消費税の根拠となる仮払消費税・仮受消費税の金額を確認しやすくなりました。	2

消費税申告

- 科目別課税対象額集計表で、差し引き消費税の根拠となる仮払消費税・仮受消費税の金額を確認しやすくなりました。

[消費税申告]-[科目別課税対象額集計表]メニューに、以下の行が追加されました。

差し引き消費税の根拠となる仮払消費税・仮受消費税の合計額の内訳表示により、検算に利用できます。

○「合計」行

消費税額の確認において、勘定科目ごとの検算の前に、その総合計額での検算ができるようになりました。

従来の仮払消費税・仮受消費税の合計額の表示に加え、「課税取引額」の合計額も表示されるようになります。売上・売却の科目だけ、または仕入・費用の科目だけなど、[科目別課税対象額集計表 - 条件設定]画面の[基本条件]ページで集計対象にする勘定科目を絞り込むことで、消費税額を検算しやすくなりました。(①)

検算した結果、さらに確認が必要な場合は、勘定科目ごとの課税取引額・消費税額(仮払消費税・仮受消費税)を確認して、原因を追跡できます。(②)

コード	勘定科目名	税率	仕/売	通/送	科目金額(税込)	非課税等	課税取引額	仮払消費税	仮受消費税	科目金額(税抜)
740	旅費交通費	5.0%	仕入	通常	14,800,340	0	14,800,340	704,770	0	14,095,562
741	通信費	5.0%	仕入	通常	10,850,870	0	10,850,870	516,708	0	10,334,162
742	消耗品費	5.0%	仕入	通常	3,029,850	0	3,029,850	143,992	0	2,879,850
743	事務用品費	5.0%	仕入	通常	3,500	0	3,500	166	0	3,334
744	水道光熱費	5.0%	仕入	通常	8,534,000	0	8,534,000	406,380	0	8,127,620
748	新聞図書費	5.0%	仕入	通常	1,801,800	0	1,801,800	85,000	0	1,716,800
756	会議費	5.0%	仕入	通常	6,300	0	6,300	30	0	6,000
【合計】		-	-	-	39,020,660	0	39,020,660	1,858,124	0	37,162,536

○「消費税計」の「対象外(課税対象外)」分と「課税」分の分類

○「課税」分の内訳ごとの「課税取引額」

消費税額を検算するのに有効な金額が表示されます。

「対象外(課税対象外)」行には、仕訳伝票上、「00:対象外」など課税対象外の税区分を指定している仮払消費税・仮受消費税の金額が集計され、中間申告や確定申告時の消費税の精算仕訳が正しく計上されているかを確認できます。(下図の赤色の枠)

また、課税取引額が、税率および取引の種類ごと(売上/売却・仕入/購入/費用・返還など)に集計されるようになります。消費税額の内訳を、課税取引額からも検算できるようになりました。(下図の青色の枠)

コード	勘定科目名	税率	仕/売	通/送	科目金額(税込)	非課税等	課税取引額	仮払消費税	仮受消費税	科目金額(税抜)
102	仮払消費税	-	-	-	-2,372,982	-2,372,982	0	-2,372,982	0	0
203	機械及び装置	5.0%	-	-	0	0	0	36,666	36,666	0
		5.0%	仕入	通常			(770,000	(36,666		
		5.0%	売上	通常			(770,000		(36,666	
930	仮受消費税	-	-	-	-3,757,570	-3,757,570	0	0	-3,757,570	0
500	売上高	5.0%	売上	通常	78,124,000	0	78,124,000	0	3,750,190	74,403,810
515	売上譲引き及び戻し	5.0%	-	-	15,012	0	15,012	0	-714	14,298
		5.0%	売上	返還			(15,012		(714	
604	仕入高	5.0%	仕入	通常	10,050,020	0	10,050,020	476,572	0	9,571,448
612	仕入譲引き及び戻し	5.0%	-	-	8,000	0	8,000	-380	0	7,620
		5.0%	仕入	返還			(8,000	(380		
740	旅費交通費	5.0%	仕入	通常	14,800,340	0	14,800,340	704,770	0	14,095,562
741	通信費	5.0%	仕入	通常	10,850,870	0	10,850,870	516,708	0	10,334,162
742	消耗品費	5.0%	仕入	通常	3,029,850	0	3,029,850	143,992	0	2,879,850
743	事務用品費	5.0%	仕入	通常	3,500	0	3,500	166	0	3,334
744	水道光熱費	5.0%	仕入	通常	8,534,000	0	8,534,000	406,380	0	8,127,620
748	新聞図書費	5.0%	仕入	通常	1,801,800	0	1,801,800	85,000	0	1,716,800
756	会議費	5.0%	仕入	通常	6,300	0	6,300	30	0	6,000
905	固定資産売却益	5.0%	売上	通常	30,000	0	30,000	0	1,400	28,600
【合計】		-	-	-	121,117,140	-6,130,552	127,247,692	0	0	1,168,284
【消費税計】										
	対象外	-	-	-				-2,372,982	-3,757,570	
	課税	-	-	-				-2,372,982	-3,757,570	
	5.0%	-	-	-			127,247,692	2,372,982	3,757,570	
	5.0%	仕入	通常			(49,840,660	(2,373,362			
	5.0%	仕入	返還			(8,000		(380		
	5.0%	売上	通常			(78,924,000		(3,758,284		
	5.0%	売上	返還			(15,012		(714		
	【消費税】									
	仮払消費税							0		


勘定奉行 **VERP**











機能アップガイド














Ver.1.60



目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【メニュー体系】	
	メニューの名称および構成を変更しました。	4
	【画面表示全般】	
	現在作業している会社名および会計年度が、常に画面上に表示されるようになりました。	5
	【帳票全般】	
	管理会計用に仮想組織で管理帳票を作成したり、会計期間中の組織改編に対応できるようになりました。	5
	取引先を、重要取引先とそれ以外の取引先に分類したり、その関連グループ会社単位にまとめて集計できるようになりました。	6
	仕訳伝票リストを印刷する際に、明細行の高さを補正することで、1 ページ当たりの印刷行数を増やせるようになりました。	7
	グラフと帳票を1 枚にあわせて印刷できるようになりました。	8
	【導入処理】	
	グループに属している部門やセグメントも削除できるようになりました。	9
	グループマスターの件数が表示され、グループの総件数を確認できるようになりました。	9
	[取引先登録]メニューで、印刷時に、取引先コードの範囲指定ができるようになりました。	10
	複数の取引先を一覧形式で入力できるようになり、同じ設定や内容を一括で変更できるようになりました。	10
	[勘定科目登録]メニューで、定型仕訳で使用している勘定科目でも、削除および「未使用」に変更できるようになりました。	10
	【仕訳処理】	
	「簡易形式」の仕訳伝票リストでも、セグメントの情報を確認できるようになりました。	11
	「簡易形式」の仕訳伝票リストを印刷する際に、科目などの文字を大きく調整し、見やすくなります。また、印刷方向が「縦形式」の場合でも、摘要40文字をすべて印刷できるようになりました。	11
	[帳簿入力]メニューで、「0：その他」のサブマスターは、コードと名称を空欄で表示・印刷するように変更しました。	11
	[汎用データ受入]メニューで受け入れた伝票など、外部のシステムですでに承認済みで、正当性が保証されている伝票を、簡易的に承認できるようになりました。	12
	[仕訳伝票承認]メニューで、承認後の取り消し伝票（反対仕訳）を簡単に判別するための「反仕」マークが表示されるようになりました。	12
	[仕訳伝票承認]メニューなどで、処理中に経過件数を確認できるようになりました。	12
	[自己承認伝票確認リスト]メニューで、承認済みの伝票の中から、登録者と承認者が同一である伝票（自己承認伝票）だけを、一覧で確認できるようになりました。	13
	[伝票No. 欠番確認リスト]メニューで、伝票No. の欠番を一覧で確認できるようになりました。	13

	[消費税手入力確認リスト]メニューで、仮払消費税・仮受消費税の金額を手入力した仕訳明細だけを、一覧で確認できるようになりました。	13
	定型仕訳が、初期登録されるようになりました。	14
	【会計帳票】	
	[元帳]メニューで、消費税情報（税区分・事業区分・税率）を、金額欄ではなく「科目名欄」に印刷できるようになりました。	14
	[元帳パターン登録]メニューで、勘定科目を複数指定する際に、[勘定科目検索]画面から一度に複数選択できるようになりました。	16
	[部門内訳表]メニューで、集計部門の個別指定に加えて、範囲指定して集計できるようになりました。	16
	[取引先内訳表]メニューで、すべての取引先集計に加えて、取引先を個別指定して集計できるようになりました。	17
	[現預金内訳表]メニューで、勘定科目だけを表示するように、補助科目の内訳表示の選択ができるようになりました。	17
	【配賦処理】	
	配賦する際に、関連グループ会社だけで配賦元の金額を絞り込めるようになりました。	17
	[部門実績一括配賦]メニューで、複数の配賦を一括で実行できるようになりました。	17
	[部門実績配賦履歴]メニューで、部門実績配賦の履歴を確認できるようになりました。	18
	【消費税申告】	
	電子申告の手続き前に、[電子申告]メニューを擬似的に操作して確認できるようになりました。	18
	[消費税申告書]メニューで消費税申告書を印刷する際に、関与税理士の「事務所名」「税理士名」の印字の有無を個々に設定できるようになり、自署する場合などに「税理士名」だけを印字しないようにできます。	19
	[科目別課税対象額集計表]メニューで、税率ごとの内訳に加え、取引の種類ごとの内訳金額（売上/売却・仕入/購入/費用・返還など）を、個々に確認できるようになりました。	20
	[税務代理権限証書]メニューで、「年月日」の項目は未入力でも登録できるようになりました。	20
	【決算処理】	
	株主資本等変動計算書の「横様式（一段表示）」「横様式（二段表示）」の印刷で、フォントサイズ、間隔補正値を設定することで、1ページ内に均等に印刷できるようになりました。	21
	【随時処理】	
	取引先を分類するための属性（取引先区分）を転送・受入できるようになりました。	21
	マスターデータの上書き受入の際に、受入処理のパフォーマンスを改善しました。	22
	汎用データの受け入れにおいて、テキストファイル内の「改行コード」と「最終行」の判定の精度を高めました。	22
	申告奉行[法人税・地方税編]に連動可能なファイルを作成するメニューが追加されました。	22
	連結決算会計システム『DivaSystem』または『STRAVIS』に連携する場合に、内部取引金額の相殺データの連携に際して、自社グループ内の取引先だけに絞り込めるようになりました。	23

連結決算会計システム『STRAVIS』に連携する場合に、月次での連携をはじめ、より運用に即した連携データを作成できるようになりました。	23
連結決算会計システム『連結大王SUMMIT』の後継商品『BTrex』との連携に対応しました。	23
[仕訳伝票一括削除]メニューなどで、処理中に経過件数を確認できるようになりました。	23
仕訳伝票を一括削除する前に、「対象伝票件数」と「合計金額」を確認できるようになりました。	23
【その他の変更情報】	
『自動実行管理オプション』で利用しているサービス名を変更しました。 ＜『自動実行管理オプション』をお使いの場合＞	24
スケジュール完了通知メールの暗号化（SSL）に対応しました。 ＜『自動実行管理オプション』をお使いの場合＞	24
自動実行完了通知メールに、「パターン名」も明示されるようになりました。 ＜『自動実行管理オプション』をお使いの場合＞	25
【財務諸表照会 Webオプション】	
管理会計用に仮想組織で管理帳票を作成したり、会計期間中の組織改編に対応できるようになりました。	25
取引先を、重要取引先とそれ以外の取引先に分類したり、その関連グループ会社単位にまとめて集計できるようになりました。	26

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

メニュー体系

● メニューの名称および構成を変更しました。

メニューの名称を変更しました。

変更前	変更後
[配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門配賦設定] -[部門配賦パターン登録]メニュー -[部門別配賦基準登録]メニュー -[実績配賦基準科目登録]メニュー	[配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門 実績 配賦設定] -[部門 実績 配賦パターン登録]メニュー -[部門別配賦基準登録]メニュー -[実績配賦基準科目登録]メニュー
[随時処理]-[奉行連動データ作成] -[内訳書／概況書データ作成]メニュー	[随時処理]-[奉行連動データ作成] -[申告奉行 データ作成]メニュー

メニューの構成を変更しました。

変更前	変更後
[導入処理]-[取引先登録]メニュー	[導入処理]- [取引先登録] - [取引先登録] メニュー ※[取引先一括登録]メニュー・[取引先区分登録]メニューの追加に伴う変更。

画面表示全般

- 現在作業している会社名および会計年度が、常に画面上に表示されるようになりました。

現在作業している会社名および会計年度が、常に画面上で確認できるようになりました。これにより、決算期の変わり目など、現在作業している会計年度に誤りがないかを簡単に確認できます。

また、会社名を常に確認できるので、シェアードサービスでの運用など、グループ企業のデータ領域を複数管理しているような場合にも有効です。

▼イメージ図

The screenshot shows a software window titled "仕訳処理" (Journal Entry Processing). At the top, it displays "〇BC商事株式会社" (OBC Co., Ltd.) and the accounting period "会計期間: 2011年 4月 1日 ~ 2011年 3月 31日". Below this, there are fields for "伝票No." (Document No.) and "伝票枚数" (Document Count). The main area is a table with columns for "部門 / 勘定科目 / 補助科目" (Department / Accounting Item / Sub-accounting Item), "金額" (Amount), and "借 借" (Debit/Credit). The table is currently empty.

帳票全般



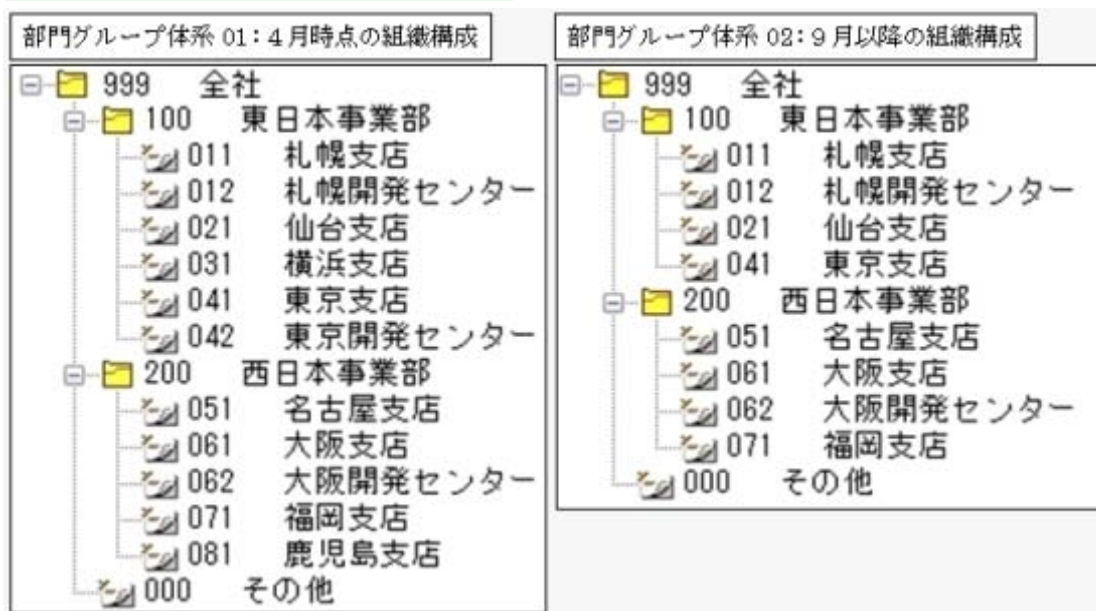
- 管理会計用に仮想組織で管理帳票を作成したり、会計期間中の組織改編に対応できるようにしました。

部門グループは、通常、標準の組織体系を1つ管理しますが、以下のように、別途、用途ごとに部門グループ体系を分けて、複数の組織体系パターンを管理できるようになりました。

▼管理会計用に、別途仮想組織を分けて管理する場合の例



▼会計期間中に組織改編に対応する場合の例



《 関連メニュー 》

- ・ 部門グループ単位で集計できる帳票メニュー
- ・ [仕訳処理]-[月次処理]-[為替換算]-[為替換算]メニュー
- ・ [導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニュー
- ・ [導入処理]-[部門登録]-[部門グループ登録]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ作成／受入]-[マスターデータ作成／受入]-[部門グループデータ作成／受入]メニュー
- ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括削除]-[部門グループデータ一括削除]メニュー



- 取引先を、重要取引先とそれ以外の取引先に分類したり、その関連グループ会社単位にまとめて集計できるようになりました。

[導入処理]-[取引先登録]-[取引先区分登録]メニューが新規に追加され、取引先を分類するための属性（取引先区分）を付加できるようになりました。

取引先区分を追加して、[導入処理]-[取引先登録]-[取引先登録]メニューの[区分]ページで、取引先にその属性を付加することで、以下のような分類ごとの集計や、確認ができます。

- ・ 自社の子会社や関連会社などの内部取引先と、外部取引先を区分けする
- ・ 外部取引先を、重要取引先とそれ以外の取引先に区分けする
- ・ 外部取引先を、関連グループ会社単位でまとめる

《 関連メニュー 》

- ・ [導入処理]-[取引先登録]の各メニュー
- ・ [会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー
- ・ [会計帳票]-[集計表]-[取引先内訳表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[集計表]-[外貨内訳表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[集計表]-[取引先集計表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[集計表]-[外貨集計表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[一覧表]-[取引先一覧表]メニュー

- ・ [分析帳票]-[推移表]-[取引先別推移表]メニュー
- ・ [分析帳票]-[対比表]-[取引先別対比表]メニュー
- ・ [分析帳票]-[ABC分析]メニュー
- ・ [決算処理]-[決算報告書]メニュー
- ・ [随時処理]-[他システム連携]メニュー



- 仕訳伝票リストを印刷する際に、明細行の高さを補正することで、1ページ当たりの印刷行数を増やせるようになりました。

仕訳伝票をリスト形式で印刷する際に、明細行の高さを補正することで、1ページ当たりの印刷行数を調整できるようになりました。

お客様の見やすさに合わせて調整できます。

※明細行の高さは、[印刷条件設定]画面の[印刷設定]ページで設定できます。

※会計帳票や決算報告書など、他の帳票については、すでに行の高さを補正できる機能が追加されていますが、仕訳伝票リストについても機能が追加されました。

《 関連メニュー 》

- ・ [導入処理]-[残高入力]-[開始残高入力]-[開始残高一括振替]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[月次処理]-[為替換算]-[為替換算]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[FB処理]-[FB仕訳起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[仕訳帳入力]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[月次処理]-[月次仮締め]-[月次仮締め]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[決算仮締め後仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後変更レポート]-[仕訳伝票変更レポート]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[遡及仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績配賦]メニュー
- ・ [随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[仕訳伝票履歴]メニュー



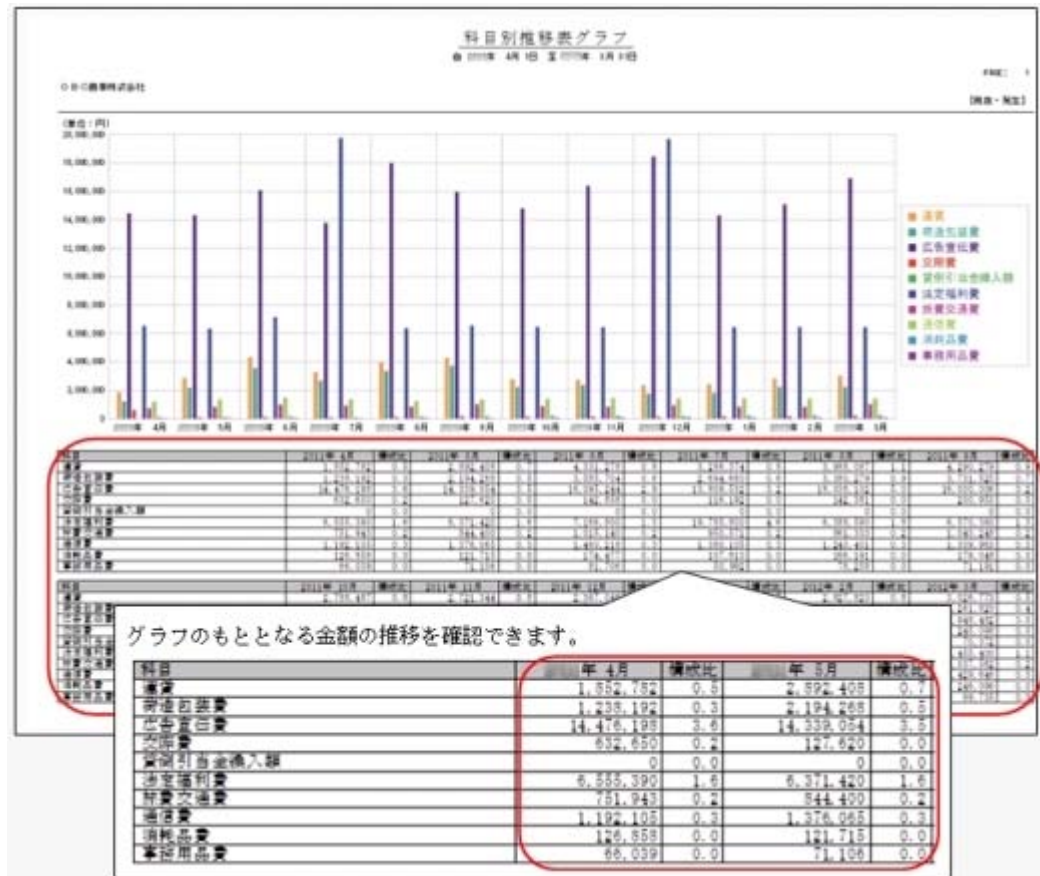
- グラフと帳票を1枚にあわせて印刷できるようになりました。

[予算管理]-[予算実績対比表]の各帳票メニューに、グラフ作成の機能が追加されました。

あわせて、推移表や対比表など、すでにグラフを作成できるメニューにおいても、グラフとその金額推移を、同時に確認できるようになりました。

印刷時に、グラフだけの印刷か、グラフ・帳票印刷を一緒に印刷するかを選択します。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [分析帳票]-[推移表]の各帳票メニュー
- ・ [分析帳票]-[対比表]の各帳票メニュー
- ・ [分析帳票]-[損益分岐点分析]-[損益分岐点分析]メニュー
- ・ [予算管理]-[予算実績対比表]の各帳票メニュー

- グループに属している部門やセグメントも削除できるようになりました。

今まで、グループに属している部門やセグメントを削除する際は、事前に、グループから解除する必要がありました。

今後は、部門やセグメントを削除の際に、あわせてグループから解除する旨のメッセージが表示され、そのまま削除できます。（事前に、グループから削除する必要がなくなりました。）

《 関連メニュー 》

- ・ [導入処理]-[部門登録]-[部門登録]メニュー
- ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括削除]-[部門データ一括削除]メニュー
- ・ [導入処理]-[セグメント登録]-[セグメント登録]メニュー
- ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括削除]-[セグメントデータ一括削除]メニュー

※セグメント系メニューは、『セグメント管理オプション』をお使いの場合に使用できます。

- グループマスターの件数が表示され、グループの総件数を確認できるようになりました。

画面右上にグループマスターの件数が表示され、グループの総件数を確認できるようになりました。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [導入処理]-[部門登録]-[部門グループ登録]メニュー
- ・ [導入処理]-[セグメント登録]-[セグメントグループ登録]メニュー

※このメニューは、『セグメント管理オプション』をお使いの場合に使用できます。

- [取引先登録]メニューで、印刷時に、取引先コードの範囲指定ができるようになりました。

[導入処理]-[取引先登録]-[取引先登録]メニューで、取引先リスト（台帳形式）を印刷する際に、取引先コードの範囲指定ができるようになりました。新しく追加した取引先や修正した取引先だけのリストを印刷する際に便利です。



- 複数の取引先を一覧形式で入力できるようになり、同じ設定や内容を一括で変更できるようになりました。

[導入処理]-[取引先登録]-[取引先一括登録]メニューが新規に追加され、複数の取引先を一覧形式で入力・登録できるようになりました。複数の取引先の特定の項目を一括で入力・修正する場合などに利用します。

例えば、複数の取引先に対して同じ設定や内容を登録する一括変更機能や、すでに入力・設定済みの内容を一括でクリアする機能を利用することで、効率的に登録できます。

▼イメージ図

コード	取引先フリガナ	取引先名	有効期間 (開始)	有効期間 (終了)	インデックス
00000001	タイセイパル	太平洋販売株式会社	2000年 4月 1日	2000年 12月 31日	タイセイパル
00000002	カワサキイロ	株式会社岩手産業	2000年 4月 1日	2000年 12月 31日	カワサキイロ
00000003	カワサキイロ	株式会社茨城電機	2000年 4月 1日	2000年 12月 31日	カワサキイロ
00000004	クワダ	群馬事務機株式会社	2000年 4月 1日	2000年 12月 31日	クワダ
00000005	サイマツ	埼玉商事株式会社	2000年 4月 1日	2000年 12月 31日	サイマツ
00000006	カワサキイロ	株式会社千葉デンキ	2000年 4月 1日	2000年 12月 31日	カワサキイロ
00000007	トウケツ	東京事務機販売株式会社	2000年 4月 1日	2000年 12月 31日	トウケツ
00000008	カガワ	神奈川物産株式会社	2000年 4月 1日	2000年 12月 31日	カガワ
00000009	ニハ	新潟工業株式会社	2000年 4月 1日	2000年 12月 31日	ニハ
00000010	イカ	石川販売株式会社	2000年 4月 1日	2000年 12月 31日	イカ
00000011	カト	名古屋電機商事株式会社	2000年 4月 1日	2000年 12月 31日	カト
00000012	オカ	大府事務株式会社	2000年 4月 1日	2000年 12月 31日	オカ
00000013	ウダ	横田商事株式会社	2000年 4月 1日	2000年 12月 31日	ウダ

また、取引先情報の印刷は、[導入処理]-[取引先登録]-[取引先登録]メニューで印刷する今までの台帳形式に加えて、当メニューにて一覧形式で印刷できるようになりました。

- [勘定科目登録]メニューで、定型仕訳で使用している勘定科目でも、削除および「未使用」に変更できるようになりました。

今まで、定型仕訳を使用している勘定科目を削除する際は、事前に、その定型仕訳を削除する必要がありました。

今後は、勘定科目を削除または「未使用」に変更する際に、定型仕訳もあわせて削除する旨のメッセージが、表示され、そのまま削除できます。



- 「簡易形式」の仕訳伝票リストでも、セグメントの情報を確認できるようになりました。

「簡易形式」の仕訳伝票リストでも、セグメントの情報を確認できるようになりました。今まで、セグメントの情報を確認できたのは、「標準形式」での印刷だけでしたが、今後は、「簡易形式」でも確認できます。

※セグメントは、『セグメント管理オプション』をお使いの場合に使用できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー



- 「簡易形式」の仕訳伝票リストを印刷する際に、科目などの文字を大きく調整し、見やすくできます。また、印刷方向が「縦形式」の場合でも、摘要40文字をすべて印刷できるようになりました。

「簡易形式」の仕訳伝票リストを印刷する際に、科目や部門などの各マスター、摘要のフォントサイズを変更できるようになりました。お客様の見やすさに合わせて調整できます。

また、印刷方向が「縦形式」の場合でも、摘要のフォントサイズを「5」に設定することで、摘要40文字をすべて印刷できます。

以下の項目印字の有無も、設定できるようになりました。

セグメント1・セグメント2

※セグメントは、『セグメント管理オプション』をお使いの場合に使用できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー

- [帳簿入力]メニューで、「0：その他」のサブマスターは、コードと名称を空欄で表示・印刷するように変更しました。

[仕訳処理]-[仕訳処理]メニューと同様に、[仕訳処理]-[帳簿入力]メニューの各メニューでも、「0：その他」のサブマスター（取引先、セグメント）のコードと名称は空欄で表示・印刷するようになりました。

※セグメントは、『セグメント管理オプション』をお使いの場合に使用できます。



- [汎用データ受入]メニューで受け入れた伝票など、外部のシステムですでに承認済みで、正当性が保証されている伝票を、簡易的に承認できるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニューに、今までの、伝票内容を画面で確認後に承認を個別に付与する方法のほかに、承認を一括で付与できる機能が追加されました。

主に、[汎用データ受入]メニューで受け入れた伝票など、外部のシステムですでに承認済みで、正当性が保証されている伝票に対して処理を行うときに有効です。

また、承認を一括で付与する際、処理前に、参考情報として「対象伝票件数」と「合計金額」を確認できるため、例えば、[汎用データ受入]メニューで受け入れた情報との突き合わせに利用できます。

- [仕訳伝票承認]メニューで、承認後の取り消し伝票（反対仕訳）を簡単に判別するための[反仕]マークが表示されるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニューの[仕訳伝票承認]画面上、取り消し伝票（反対仕訳として登録された伝票）には、[反仕]マークが表示されるようになりました。その伝票を選択して **反対仕訳元**（[F9]キー）を押すと、反対仕訳の作成元の仕訳伝票を確認できます。

[反仕]マークは、承認時の細かい確認作業を省略できるかの目安にするなど、承認作業をスムーズに行う上で活用できます。

- [仕訳伝票承認]メニューなどで、処理中に経過件数を確認できるようになりました。

以下のメニューで、処理中の経過件数が、実行中のメッセージに表示されるようになりました。

進捗過程の確認、どれくらいで処理が完了するかの目安になります。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票一括転記]メニュー



- **[自己承認伝票確認リスト]メニューで、承認済みの伝票の中から、登録者と承認者が同一である伝票（自己承認伝票）だけを、一覧で確認できるようになりました。**

[仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[自己承認伝票確認リスト]メニューが追加されました。

承認済みの伝票の中から、登録者と承認者が同一である伝票（自己承認伝票）だけを、一覧で確認できます。

経営責任者や監査人などが、不正のリスクの高い自己承認伝票をチェックする場合に活用できます。

なお、表示形式として「簡易表示」を選択すると、伝票日付や伝票No.などの伝票の基本的な情報が一覧表示されるため、まずは、該当する伝票の全体を把握できます。

その後、「詳細表示」を選択し、仕訳明細の内容を細かく確認するなど、段階的な確認もできます。

自己承認伝票を最終的にチェックするのではなく、完全に、自己承認自体を制限することもできます。

[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[伝票設定]ページの「自己承認の許可」で制限することで、仕訳伝票を登録または修正した本人は、その伝票を承認・転記できなくなります。



- **[伝票No. 欠番確認リスト]メニューで、伝票No.の欠番を一覧で確認できるようになりました。**

[仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[伝票No. 欠番確認リスト]メニューが追加されました。

[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニューの[伝票設定]ページの「付番方法」や「付番基準」に応じて、伝票No.の欠番を一覧で確認できます。

伝票No.の欠番が発生している場合に、それが入力漏れによるものなのか、伝票の修正・削除によるものなのかを確認できます。修正・削除による欠番の場合には、その処理日時（処理アカウント）などの参考情報も出力されるため、内容確認する際に有効です。



- **[消費税手入力確認リスト]メニューで、仮払消費税・仮受消費税の金額を手入力した仕訳明細だけを、一覧で確認できるようになりました。**

[仕訳処理]-[仕訳伝票入力内容チェック]-[消費税手入力確認リスト]メニューが追加されました。

以下のような、仮払消費税・仮受消費税の金額を手入力した仕訳明細だけを、一覧で確認できます。

○自動計算された消費税金額を手修正している場合

○仮払消費税科目・仮受消費税科目を直接計上している場合

該当の仕訳明細だけを一覧で確認できるため、消費税金額の計上の誤りをチェックする際に有効です。

● 定型仕訳が、初期登録されるようになりました。

今まで、必要な定型仕訳を一から作成する必要がありましたが、あらかじめ、毎月発生する仕訳や頻繁に使用する仕訳が初期登録されるようになりました。

初期登録されている定型仕訳の内容を必要に応じて変更し、仕訳伝票を登録する際に利用できます。

※この変更は、新規にデータ領域を作成した段階から反映されます。すでに運用中のデータ領域には影響しません。

なお、初期登録されている定型仕訳が不要な場合は、[随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[定型仕訳一括削除]メニューで削除します。

会計帳票



● [元帳]メニューで、消費税情報（税区分・事業区分・税率）を、金額欄ではなく「科目名欄」に印刷できるようになりました。

元帳を表示・印刷する際や、帳簿を印刷する際に、消費税情報（税区分・事業区分・税率）を「金額欄」ではなく「科目名欄」に出力できるようになりました。

元帳を表示・印刷する場合は、[条件設定]画面の[基本条件]ページ（拡張形式の[条件設定]画面の場合は、[詳細条件]ページ）で、「表示設定」の「税区分・事業区分・税率を金額欄に表示する」のチェックを外します。

帳簿を印刷する場合は、[印刷条件設定]画面の[基本設定]ページで、「表示設定」の「税区分・事業区分・税率を金額欄に表示する」のチェックを外します。

▼イメージ図

○「金額欄」に出力する場合

500 売上高				
○B C 商事株式会社			税号: 1 【税抜】 【標準元帳】	
伝票日付 伝票No.	相手勘定科目 / 補助科目 摘要	借方	貸方	残高
	繰越金額			0
04/01 000001	110 当座預金 001 東都銀行	売上上 5.0%	50,000	50,000
04/15 000002	110 当座預金 001 東都銀行	売上上 5.0%	85,000	135,000
04/25 000003	110 当座預金 001 東都銀行	売上上 5.0%	110,000	245,000

金額欄に表示されます。

○「明細欄」に出力する場合

500 売上高				
○ B C 商事株式会社			Page: 1	
			【得意】	
			【勘定元帳】	
伝票日付 伝票No.	相手勘定科目 / 補助科目 摘要	借方	貸方	残高
	繰越金額			0
前/04/01 000001	110 当座預金 001 東都銀行 利息 5.0%		50,000	50,000
前/04/15 000002	110 当座預金 001 東都銀行 利息 5.0%		85,000	135,000
前/04/25 000003	110 当座預金 001 東都銀行 利息 5.0%		110,000	245,000

↑
明細欄に表示されます。

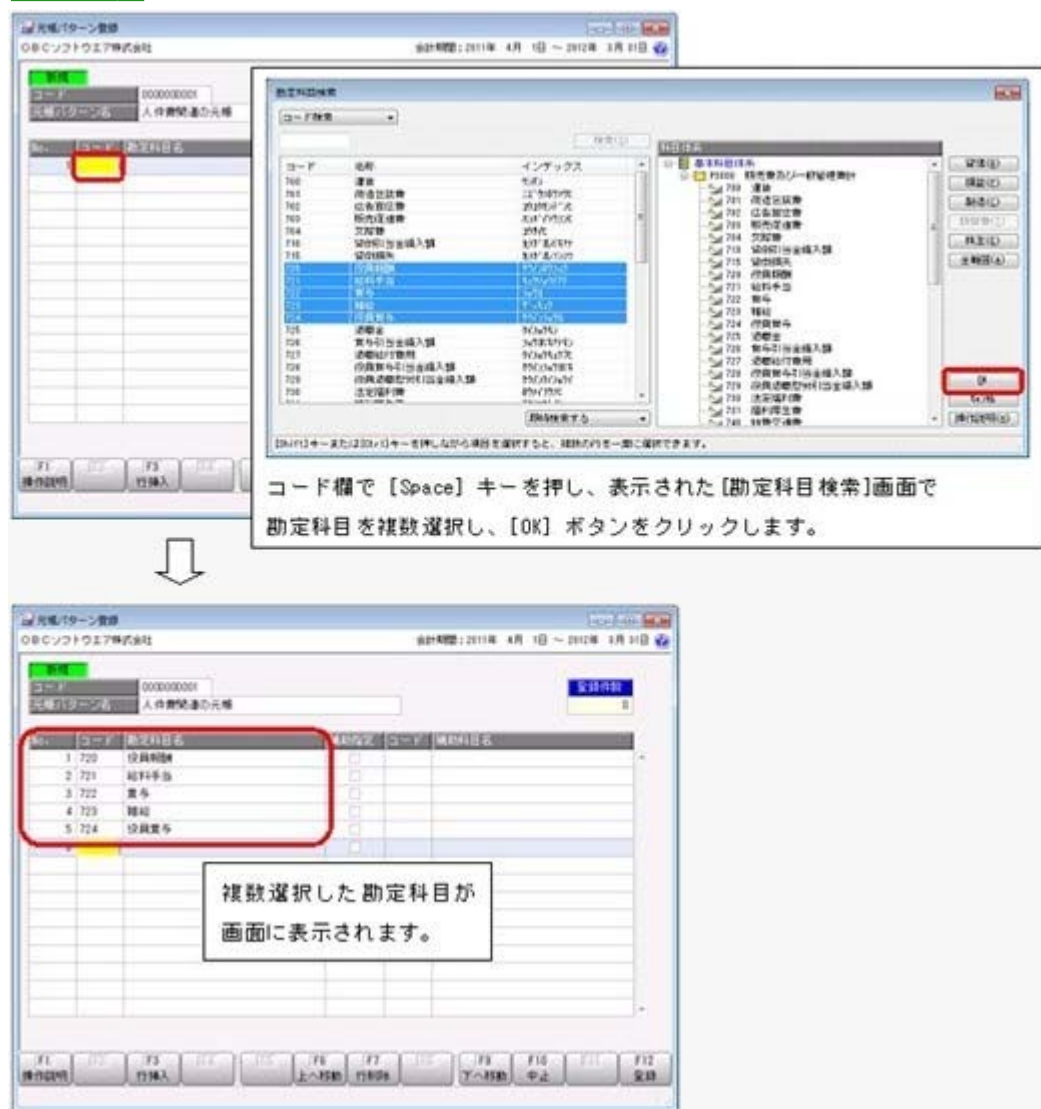
《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[現金出納帳入力]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[預金出納帳入力]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[元帳入力]メニュー

- [元帳パターン登録]メニューで、勘定科目を複数指定する際に、[勘定科目検索]画面から一度に複数選択できるようになりました。

今まで、[補助科目検索]画面では、一度に複数の補助科目を選択できていましたが、勘定科目についても同じように、[勘定科目検索]画面から一度に複数の勘定科目を選択できるようになりました。

▼イメージ図



- [部門内訳表]メニューで、集計部門の個別指定に加えて、範囲指定して集計できるようになりました。

[会計帳票]-[内訳表]-[部門内訳表]メニューで、複数の部門の内訳を確認する場合は、今まで、複数の部門を個別に指定するか、検索画面から指定するだけでしたが、部門コードを範囲指定できるようになり、指定しやすくなりました。

また、[基本条件2]ページで、部門を指定していましたが、[基本条件]ページで指定できるようになりました。



- **[取引先内訳表]メニューで、すべての取引先集計に加えて、取引先を個別指定して集計できるようになりました。**

[会計帳票]-[内訳表]-[取引先内訳表]メニューで、すべての取引先集計に加えて、取引先を個別指定して集計できるようになりました。

以下の例のように、目的にあわせて分類したまとまりで、集計できるようになりました。

【例】

- ・ 自社の子会社や関連会社などの内部取引先と、外部取引先を区分けする場合
- ・ 外部取引先を、重要取引先とそれ以外の取引先に区分けする場合



- **[現預金内訳表]メニューで、勘定科目だけを表示するように、補助科目の内訳表示の選択ができるようになりました。**

[会計帳票]-[内訳表]-[現預金内訳表]メニューで、今までは金額が発生している補助科目は必ず出力されていましたが、補助科目を表示するかどうか選択できるようになり、勘定科目だけの表示が可能になりました。

配賦処理

- **配賦する際に、関連グループ会社だけで配賦元の金額を絞り込めるようになりました。**

[導入処理]-[取引先登録]-[取引先区分登録]メニューで設定した取引先区分を使用して、取引先を関連グループ会社単位でまとめておくと、配賦元の金額を関連グループ会社だけの金額を絞り込めるようになりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績配賦]メニューなど

- **[部門実績一括配賦]メニューで、複数の配賦を一括で実行できるようになりました。**

共通部門の実績金額を、複数回、他の部門に配賦する場合に、今までは複数の配賦パターンを手動で順番に実行していました。

今後は、前準備として、[配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績一括配賦設定]-[部門実績配賦条件パターン登録]メニュー・[配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績一括配賦設定]-[部門実績一括配賦フロー登録]メニューであらかじめ設定することで、[配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績一括配賦]メニューで複数の配賦を一括で実行できます。

仕訳伝票の承認機能を利用していない場合は、多段階配賦を一括で実行する際にも有効です。

- [部門実績配賦履歴]メニューで、部門実績配賦の履歴を確認できるようになりました。

[配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績配賦履歴]メニューが追加され、[配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績配賦]メニューまたは、[配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績一括配賦]メニューで実行した、部門実績配賦の履歴を確認できます。

消費税申告

- 電子申告の手続き前に、[電子申告]メニューを擬似的に操作して確認できるようになりました。

電子申告の手続きをしなくても、『国税受付システム（e-Tax）』にログインしたイメージ（オフライン）で、[電子申告]メニューを擬似的に操作して確認できるようになりました。

※すべての操作はオフラインで実行されるため、実際に電子申告されることは一切ありません。

- [消費税申告書]メニューで消費税申告書を印刷する際に、関与税理士の「事務所名」「税理士名」の印字の有無を個々に設定できるようになり、自署する場合などに「税理士名」だけを印字しないようになります。

今までは、[消費税申告]-[消費税申告書]メニューで消費税申告書を印刷すると、[導入処理]-[消費税基本登録]-[消費税基本登録]メニューの[関与税理士設定]ページで登録している関与税理士の「事務所名」「税理士名」の両方が必ず印字されていました。

今後は、自署する場合などに「税理士名」だけを印字しないことや、「事務所署名」は印字せずに「税理士名」だけを印字できるようになりました。

※関与税理士の「事務所名」と「税理士名」を印字する箇所は、イメージ図をご参照ください。

▼イメージ図



- **[科目別課税対象額集計表]メニューで、税率ごとの内訳に加え、取引の種類ごとの内訳金額（売上/売却・仕入/購入/費用・返還など）を、個々に確認できるようになりました。**

[消費税申告]-[科目別課税対象額集計表]メニューで、今までは、売上・仕入や返還などが混在していた場合に、「売上・仕入」「返還」それぞれの金額を確認できず、勘定科目単位での金額だけしか確認できませんでした。

今後は、[条件設定]画面の[詳細条件]ページの「税率等の内訳を個別表示する」にチェックを付けることで、取引の種類ごとの内訳金額を個々に確認できるようになりました。

- **[税務代理権限証書]メニューで、「年月日」の項目は未入力でも登録できるようになりました。**

税務代理権限証書の「委任年月日」の日にちを、後で手書きするために、未入力でも登録できるようにしました。（他の「年月日」の項目も、未入力で登録できるようになりました。）

決算処理



- 株主資本等変動計算書の「横様式（一段表示）」「横様式（二段表示）」の印刷で、フォントサイズ、間隔補正値を設定することで、1ページ内に均等に印刷できるようになりました。

[決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書]メニューで、株主資本等変動計算書「横様式（一段表示）」「横様式（二段表示）」を印刷する際に、フォントサイズや間隔補正値を設定できるようになりました。

今までは、勘定科目数が少ない場合は、金額列の幅が固定であったため、左寄りに印刷されました。金額列幅を設定することにより、1ページ内に均等に印刷できるようになりました。

▼イメージ図

株主資本等変動計算書

〇〇〇〇年 4月 1日 至 〇〇〇〇年 3月 31日

(当期累計額)

〇〇〇株式会社

(単位：円)

	株主資本						純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計	
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金			
				引当金	繰越利益剰余金		
当期首残高	300,000,000	30,000,000	120,000,000	240,000,000	3,317,314,300	3,697,314,300	4,087,314,300
当期変動額							
利益準備金に繰り入れ			30,000,000			30,000,000	
資本準備金に繰り入れ				30,000,000		30,000,000	
引当金に繰り入れ				30,000,000		30,000,000	
当期変動合計	0	0	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	1,021,320,000
当期末残高	300,000,000	30,000,000	150,000,000	270,000,000	3,347,314,300	3,727,314,300	5,108,634,300

左寄りに印刷された（余白がある）場合は、金額の列幅を広くすると、1ページ内に均等に印刷できます。

株主資本等変動計算書

〇〇〇〇年 4月 1日 至 〇〇〇〇年 3月 31日

(当期累計額)

〇〇〇株式会社

(単位：円)

	株主資本						純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計	
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金			
				引当金	繰越利益剰余金		
当期首残高	300,000,000	30,000,000	120,000,000	240,000,000	3,317,314,300	3,697,314,300	4,087,314,300
当期変動額							
利益準備金に繰り入れ			30,000,000			30,000,000	
資本準備金に繰り入れ				30,000,000		30,000,000	
引当金に繰り入れ				30,000,000		30,000,000	
当期変動合計	0	0	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	1,021,320,000
当期末残高	300,000,000	30,000,000	150,000,000	270,000,000	3,347,314,300	3,727,314,300	5,108,634,300

随時処理

- 取引先を分類するための属性（取引先区分）を転送・受入できるようになりました。

[随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[取引先区分データ作成]メニュー・[随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[取引先区分データ受入]メニューが追加され、取引先を分類するための属性（取引先区分）を転送・受入できるようになりました。

また、[随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[取引先区分データ作成]メニュー・[随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[取引先区分データ受入]メニューで、取引先データを転送・受入する際に、取引先を分類するための属性（取引先区分）も、あわせて転送・受入できるようになりました。

- **マスターデータの上書き受入の際に、受入処理のパフォーマンスを改善しました。**

[マスターデータ受入]の各メニューで、すでに登録済みのマスターと同じ設定のデータを受け入れた場合（受入項目すべてで変更点がない場合）は、受入処理のパフォーマンスを改善しました。

その際は、マスター項目は何も変更されないため、変更履歴情報も保存しません。

《 関連メニュー 》

[随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]の各メニュー

- **汎用データの受け入れにおいて、テキストファイル内の「改行コード」と「最終行」の判定の精度を高めました。**

汎用データのテキストファイルを受け入れる際に、1行データの区切りである「改行コード」について、今までは「CR+LF」だけを「改行」と認識していましたが、「CR」または「LF」だけの場合でも改行と認識するようになりました。

また、テキストファイルの最終行が「Tab」または「スペース」だけの場合に、今まではデータ行と認識して未受入データにしていたましたが、データ行とは認識せずに未受入データに含めないようになりました。



- **申告奉行[法人税・地方税編]の別表とデータ連動ができるようになり、業務が効率化されます。**

申告奉行[法人税・地方税編]の別表へ、データ連動ができるようになりました。

▼合計残高試算表の金額

- ・別表一(一) 売上金額
- ・別表四 当期利益又は当期欠損の額
- ・別表五(一) 利益準備金、別途積立金などの各種積立金、資本金、資本準備金
- ・別表六(一) 預貯金の利子
- ・別表十五 交際費の支出額

▼取引先内訳表・補助科目内訳表の金額

- ・別表六(一) 受取配当金の銘柄、収入金額
- ・別表八(一) 配当を受ける法人名又は銘柄、受取配当の額
- ・第六号様式別表五の四 借入先、支払利子額、貸付先、受取利子額

会計システムから申告書作成システムへデータ連動することで、一連の業務の効率化と共に、入力ミスを低減します。

[内訳書／概況書データ作成]メニューが[随時処理]-[奉行連動データ作成]-[申告奉行データ作成]メニューにメニュー名が変更になり、当メニューで、申告奉行[法人税・地方税編]と申告奉行[内訳書・概況書編]の両方の連動データを作成（ファイル連動）できます。

※申告奉行の[奉行連動データ受入]メニューから、「直接連動」もできます。

- **連結決算会計システム『DivaSystem』または『STRAVIS』に連携する場合に、内部取引金額の相殺データの連携に際して、自社グループ内の取引先だけに絞り込めるようになりました。**

[随時処理]-[他システム連携]メニューで、『DivaSystem』または『STRAVIS』に連携する場合に、今までは、すべての取引先のデータを連携していましたが、自社グループ内の取引先だけに絞り込めるようになったため、連結決算システム側で区別する業務が必要なくなります。

- **連結決算会計システム『STRAVIS』に連携する場合に、月次での連携をはじめ、より運用に即した連携データを作成できるようになりました。**

[随時処理]-[他システム連携]メニューで、『STRAVIS』に連携する場合に、月次での連携、セグメント内訳の連携を強化しました。

また、入力必須項目の軽減や、出力ファイルの選択など、必要な連携データだけを出力できるようになりました。

※セグメントは、『セグメント管理オプション』をお使いの場合に使用できます。

- **連結決算会計システム『連結大王SUMMIT』の後継商品『BTrex』との連携に対応しました。**

連結決算会計システム『連結大王SUMMIT』の後継商品『BTrex』に対応しました。[随時処理]-[他システム連携]メニューで、連携先として『BTrex / 連結大王SUMMIT』を選択します。

- **[仕訳伝票一括削除]メニューなどで、処理中に経過件数を確認できるようになりました。**

以下のメニューで、処理中の経過件数が、実行中のメッセージに表示されるようになりました。

進捗過程の確認、どれくらいで処理が完了するかの目安になります。

《 関連メニュー 》

- ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[伝票No. 再付番]メニュー
- ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[仕訳伝票一括削除]メニュー

- **仕訳伝票を一括削除する前に、「対象伝票件数」と「合計金額」を確認できるようになりました。**

[随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[仕訳伝票一括削除]メニューで仕訳伝票を一括削除する際、処理前に、対象伝票件数と合計金額を確認できるようになりました。

処理を実行しようとしている伝票の範囲に誤りがないか、最終確認できます。

その他の変更情報

- 『自動実行管理オプション』で利用しているサービス名を変更しました。
＜『自動実行管理オプション』をお使いの場合＞

『自動実行管理オプション』で利用しているWindowsサービスは、今まで製品ごとに異なっていたサービス名「OBC AutoExec AC (Single) Service」でしたが、今回より製品共通のサービス名「OBC Management (Single) Service」に変更されました。

これにより、複数の奉行製品で『自動実行管理オプション』をお使いの場合で、ネットワーク上の共有フォルダにバックアップや汎用データの作成・受入などを行う場合に、製品ごとのサービスそれぞれに対して、ログオンアカウントを設定する必要がなくなりました。

「OBC Management (Single) Service」に対してだけ、ログオンアカウントを設定するようになります。

注 意

すでに、今までのサービス「OBC AutoExec AC (Single) Service」に個別のログオンアカウントを設定済みの場合は、今回のプログラムをセットアップした後に、新しいサービス「OBC Management (Single) Service」に対して再設定してください。

- スケジュール完了通知メールの暗号化（SSL）に対応しました。
＜『自動実行管理オプション』をお使いの場合＞

メールサーバーによっては、メールの内容を暗号化（SSL）しないと送信できませんが、その場合は「暗号化する」を設定すると、送信できるようになります。

[管理ツール]-[メールサーバー設定]メニューの[詳細設定]ページの「暗号化接続（SSL）」で設定します。

- 自動実行完了通知メールに、「パターン名」も明示されるようになりました。
 <『自動実行管理オプション』をお使いの場合>

[自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[自動実行仕訳伝票データ作成]メニュー・[自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ受入]-[自動実行仕訳伝票データ受入]メニュー・[自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ受入]-[自動実行取引先データ受入]メニューの自動実行完了通知メールに、「パターン名」と「パターンコード」も明示されるため、実行内容の詳細が把握しやすくなります。

▼イメージ図

【製品名】 勘定奉行V	
【スケジュール名】 仕訳伝票データ受入用スケジュール	
【処理結果概要】 成功 : 1 件 失敗 : 0 件	
【成功処理】 仕訳伝票データ受入 販売システムからの伝票データ受入 : 1 受入件数 : 200 件 未受入件数 : 0 件	
【データ補域】 会社コード : 0000000001 会社名 1 : OBC商事株式会社 データベース名 : obc1mcol	
【実行日時】 開始日時 : 2012/04/20 14:18:20 終了日時 : 2012/04/20 14:18:28	
以上	
Copyright (C) OBIC BUSINESS CONSULTANTS CO., LTD. All Rights Reserved.	

財務諸表照会 Webオプション

- 管理会計用に仮想組織で管理帳票を作成したり、会計期間中の組織改編に対応できるようになりました。

部門グループは、通常、標準の組織体系を1つ管理しますが、勘定奉行側で、別途、用途ごとに部門グループ体系を分けて、複数の組織体系パターンを管理できるようになりました。

部門グループ体系を複数管理している場合、各帳票や金額入力メニューの集計条件指定で、部門グループコードを入力する際に、「区分種別」を指定し、組織体系パターンを切り分けます。

元帳または合計残高試算表を照会する際に条件を設定する画面の、[詳細条件]ページで指定できます。

- **取引先を、重要取引先とそれ以外の取引先に分類したり、その関連グループ会社単位にまとめて集計できるようになりました。**

勘定奉行側に[取引先区分登録]メニューが新規に追加され、取引先を分類するための属性（取引先区分）を付加できるようになりました。

取引先区分を追加して、取引先にその属性を付加することで、分類ごとの集計を容易にし、自社グループ内取引だけの集計や、外部取引先をそのグループ企業ごとに集約した実績確認などを実現します。

- ・ 自社の子会社や関連会社などの内部取引先と、外部取引先を区分けする
- ・ 外部取引先を、重要取引先とそれ以外の取引先に区分けする
- ・ 外部取引先を、関連グループ会社単位でまとめる

取引先区分は、元帳を照会する際に条件を設定する画面の、[取引先]ページで指定できます。


勘定奉行 **VERP**





機能アップガイド












Ver.1.59/Ver.1.58/Ver.1.57



目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【改正情報】	
	企業会計基準第6号「株主資本等変動計算書に関する会計基準」の改正に対応しました。	5
	【帳票全般】	
	部門コードの範囲指定を行えるようになり、複数部門の集計が容易になりました。	6
	勘定科目コード、科目区分コードの出力の有無をそれぞれ分けて設定できるようになりました。	6
	条件設定画面で日付指定する際に、月末日付が自動的に表示されるようになりました。	7
	転送の際に、画面表示と同じ項目を選択せずに転送できるようになりました。	7
	【グループ企業管理】	
	＜『勘定奉行VGroup Management Edition』をお使いの場合＞	
	勘定科目の3つの属性に関してマスタ配信できるようになりました。	8
	グループ企業合算処理のパフォーマンスが向上しました。	8
	【データ領域管理】	
	[データ領域選択]メニューからも、会計期間を切り替えられるようになりました。	8
	【導入処理】	
	[勘定科目検索]画面と[補助科目検索]画面でタイトルをクリックすると、自動的にコード順に表示されるようになりました。	8
	[勘定科目検索]画面の「標準形式」でも帳票ごとに勘定科目を絞り込むことができるようになりました。	9
	印刷する際に、行の高さの補正やフォントサイズの変更ができるようになりました。	10
	【仕訳処理】	
	仕訳処理画面の見易さと、入力の操作性が向上しました。	11
	○表示する明細行数を調整することで、多くの行数を表示できるようになりました。	11
	○画面下の更新履歴を隠すことで、表示する明細行数を増やすことができるようになりました。	11
	○伝票部門や伝票区分について、前回指定した項目が記憶できるようになり、部門や利用者ごとに固定されている場合は、効率良く入力できるようになりました。	11
	○明細行に背景色を設定することで、行と行の区切りをより明確にできるようになりました。	12
	○コクヨ式の場合に、借方の金額欄から入力できるようになりました。	12
	○伝票日付入力時に、画面下部のステータスバーに入力可能期間を表示し、常に入力期間を把握できるようになりました。	12
	○消費税率を非表示にすることで、補助科目名称の表示文字数を増やすことができるようになりました。	12
	○簡単に、複数の摘要を組み合わせで入力できるようになりました。	13
	○[摘要]（F7キー）を押した後に、[連想摘要一覧]画面ではなく、[摘要一覧]画面が表示されるようになりました。	13

	○摘要名の折り返し位置が入力時と確定後の表示時と一致するようになりました。	13
	○摘要入力済みの明細行で、再度摘要を検索した際に、入力済みの摘要を削除してから摘要を追加できるようになりました。	13
	○定型仕訳の検索画面でも、前回指定項目を初期選択して表示できるようになりました。	13
	○固定部門の入力時に未入力のまま確定した際に、「0：その他」部門を自動でセットするようになりました。	14
	○仕訳伝票の承認画面で「コクヨ形式」で表示できるようになりました。	14
	反対仕訳の一括起票ができるようになりました。	14
	日々の仕訳のチェック作業時の操作性が向上しました。	14
	○本日分の伝票を検索し易くなりました。	14
	○仕訳伝票リスト表示後に、伝票の頭出しができるようになりました。	15
	○明細行数が多い仕訳伝票を参照する場合に、ヘッダー情報（伝票日付や伝票No. など）を固定表示し、対象伝票を特定・把握できるようになりました。	15
	○登録後に、一度も修正していない伝票だけを絞り込めるようになりました。	15
	営業日を考慮した仕訳起票スケジュールを管理できるようになりました。	16
	仕訳伝票の専用用紙印刷で、コード桁数設定に応じてコードの印字幅が調整され、できるだけ科目名が多く印字されるようになりました。	16
	金額0円の明細が登録できないように制限できるようになりました。	16
	応用用紙で仕訳伝票リストを印刷する際に、印刷開始ページ番号を指定して印刷できるようになりました。	16
	誤って2度受け入れてしまった場合など、一度受け入れたF Bデータを削除できるようになりました。	17
	F Bデータの処理状況を確認できるようになりました。	17
	F Bデータの変換ルールを一括変更・削除できるメニューが追加されました。	17
	【会計帳票】	
	試算表の印刷条件の拡充により、詳細項目を確認できるようになり、また無駄な印刷も軽減できるようになりました。	17
	○現預金内訳や棚卸資産内訳など特定の科目区分の内訳を、貸借対照表の右下に印字できるようになりました。	17
	○損益計算書と製造原価報告書をページを切り替えずに一枚に印刷できるようになりました。	18
	○金額の発生の有無に関わらず、毎月同じレイアウトで印刷できるようになりました。	19
	元帳の検索条件を拡充し、元帳を効率良くチェックできるようになりました。	19
	元帳の印刷条件の拡充により、見易さが向上し、また無駄な印刷も軽減できるようになりました。	20
	○本体金額と消費税金額の印字位置（上段か下段か）を選択して出力できるようになりました。	20
	○明細の発生していない月の月計を非表示にし、不要な情報を省くことができるようになりました。	20
	○累計行の印字位置（左寄せか右寄せか）を選択して出力できるようになりました。	21
	○タイトル部分の勘定科目名を均等割り付け印刷機能が追加されました。	21

	○余白部分に罫線を印字し、どのページでも同じデザインで元帳を印刷できるようになりました。	21
	○「○：その他」の付属マスターを非表示できる機能が追加されました。	22
	○奉行21シリーズと同様の伝票日付の印字形式（年月日の区切り「/」なし）で印刷できるようになりました。	22
	○伝票No. の印字の有無が設定できます。	23
	元帳の集計パフォーマンスが向上しました。	23
	元帳で摘要の出力方法が変更されました。	23
	【分析帳票】	
	分析用のキャッシュ・フロー帳票が追加されました。	24
	経営分析の一覧表で、指標と計算方法を印刷できるようになりました。	25
	帳票画面とグラフ画面を同時に起動できるようになりました。	25
	【予算管理】	
	予算設定が必要な科目（勘定科目単位、補助科目単位）を設定できるようになりました。	26
	予算管理する科目設定にて、帳票単位での設定変更が一括でできるようになりました。また、科目追加時には、その勘定科目・補助科目で絞り込むことで、効率よく設定できます。	26
	【消費税申告】	
	消費税申告書作成のための事前確認帳票が追加されました。	27
	期中導入の際など、仕訳伝票を登録していない場合でも、消費税申告書に金額を直接入力して作成できるようになりました。	30
	科目別税区分集計表で、金額が発生している税区分だけを表示できるようになりました。	30
	翌年度の消費税課税方法変更の検討、分析ができるようになりました。	31
	【決算処理】	
	消費税の残高を共通部門に集約して、翌年度に繰り越せるようになりました。	31
	キャッシュ・フロー調整金額明細が、計算書と同じ条件で作成されるようになりました。	31
	遡及処理で確定した金額が翌年度に、自動繰越されるようになりました。	32
	遡及処理を開始する際に、実行決算期を自動決定するようになりました。	32
	廃止したマスターの遡及期首残高を、他のマスターの期首残高へ一括振り替えできるようになりました。	32
	【随時処理】	
	仕訳伝票データ受入時、1伝票明細上限9,999行まで受け入れできるようになりました。	33
	「貸借別の発生金額」での合算処理のパフォーマンスが向上しました。	33
	前回転送後に、差分登録したマスターと仕訳伝票だけを転送できるようになりました。	33
	内部監査時に有効な項目となる行番号、登録日付、登録者等の履歴情報、本体金額（税抜き）、消費税自動計算金額を転送できるようになりました。	34
	奉行21シリーズの「他ソフト編集」形式で出力できるようになりました。	34
	勘定科目の資金繰属性、キャッシュ・フロー属性を作成／受け入れできるようになりました。	35
	仕訳伝票データ受け入れ業務の誤操作の制御を強化しました。	35



○マスター情報が必須の科目の仕訳伝票データ受け入れ時に、マスター情報が未設定のデータを受け入れできないようにしました。	35
○金額0円の仕訳伝票を受け入れないように制限できるようになりました。	35
処理状態（新規／修正）や処理日時でマスターの履歴を絞り込めるようになりました。	36
整理仕訳と日常仕訳を区別して合算できるようになりました。	36
科目の調整伝票（仕訳明細が250行を超えた時に自動作成される伝票）が作成されなくなりました。	36
【その他の変更情報】	
「マイページ」のサポートサービス情報などを、「奉行 i メニュー」に一元化しました。	36

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

改正情報

- 企業会計基準第6号「株主資本等変動計算書に関する会計基準」の改正に対応しました。

企業会計基準第6号・企業会計基準適用指針第9号の改正に対応いたしました。本改正は、平成23年4月1日以後開始する事業年度から適用になる会計基準のため、会計期首が平成23年4月1日以降の会計期間が選択されている場合に、「当期首残高」と出力されます。

▼イメージ図

<会計期間平成22年4月1日～平成23年3月31日 株主資本等変動計算書>

株主資本等変動計算書		
自 平成 22年 4月 1日 至 平成 23年 3月 31日 (当期累計期間)		
〇ＢＣ商事株式会社		
[決算本稿実行済み] (単位：円)		
科 目	変 動 事 由	金 額
【株主資本】		
【資本金】	前期末残高及び当期末残高	300,000,000
【資本剰余金】		
資本準備金	前期末残高及び当期末残高	120,000,000
資本剰余金合計	前期末残高及び当期末残高	120,000,000
【利益剰余金】		
利益準備金	前期末残高 当期変動額 利益準備金の積立て	120,000,000 30,000,000

<会計期間平成23年4月1日～平成24年3月31日 株主資本等変動計算書>

株主資本等変動計算書		
自 平成 23年 4月 1日 至 平成 24年 3月 31日 (当期累計期間)		
〇ＢＣ商事株式会社		
[決算本稿実行済み] (単位：円)		
科 目	変 動 事 由	金 額
【株主資本】		
【資本金】	当期首残高及び当期末残高	300,000,000
【資本剰余金】		
資本準備金	当期首残高及び当期末残高	90,000,000
資本剰余金合計	当期首残高及び当期末残高	90,000,000
【利益剰余金】		
利益準備金	当期首残高 当期変動額 利益準備金の積立て	120,000,000 30,000,000

- 部門コードの範囲指定を行えるようになり、複数部門の集計が容易になりました。

今までは、確認する複数部門の集計パターンを[導入処理]-[部門登録]-[部門グループ登録]メニューで事前に設定する必要がありましたが、部門コードを使用して範囲指定できるようになりました。

[合計残高試算表]メニュー、[元帳]メニュー、[日計表]メニュー、[内訳表]メニューの各帳票メニューでは、すでに部門コードの使用して範囲指定できましたが、以下の帳票メニューでもできるようになりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票]-[集計表]の各メニュー
- ・ [会計帳票]-[一覧表]-[取引先一覧表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[資金繰]の各帳票メニュー
- ・ [分析帳票]の各帳票メニュー
- ・ [予算管理]の各帳票メニュー
- ・ [決算処理]-[決算報告書]メニュー
- ・ [決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]の各帳票メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[キャッシュ・フロー調整金額]の各帳票メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[キャッシュ・フロー調整金額]-[調整金額遡及処理]メニュー

- 勘定科目コード、科目区分コードの出力の有無をそれぞれ分けて設定できるようになりました。

今までは、勘定科目コードと科目区分コードをあわせて出力の有無を設定していました。これからは、勘定科目コードは出力するが、科目区分コードは出力しないように帳票を出力できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票]-[内訳表]-[現預金内訳表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[集計表]-[部門集計表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[集計表]-[取引先集計表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[集計表]-[セグメント集計表]メニュー
- ※このメニューは、『セグメント管理オプション』をお使いの場合に使用できます。
- ・ [会計帳票]-[集計表]-[摘要集計表]メニュー
- ・ [分析帳票]-[推移表]-[科目別推移表]メニュー
- ・ [分析帳票]-[対比表]-[科目別対比表]メニュー
- ・ [予算管理]-[予算実績集計表]メニュー
- ・ [予算管理]-[予算実績対比表]-[科目別予算実績対比表]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[科目別遡及金額確認表]メニュー

- 条件設定画面で日付指定する際に、月末日付が自動的に表示されるようになりました。

条件設定画面で日付指定する際に、月末日付が事前に指定されている月を、他の月に変更すると、自動的にその月の月末日付が表示されるようになりました。月次単位で集計する場合に便利になります。

▼イメージ図

4月1日～4月30日の月範囲を指定している場合を、例に説明します。

○終了月を変更する場合

○開始月を変更する場合

《 関連メニュー 》

- ・ 帳票の各メニューなど

- 転送の際に、画面表示と同じ項目を選択せずに転送できるようになりました。

今までは、画面と同じ項目を一つずつ選択する必要がありましたが、[転送条件設定]画面の「画面表示と同じ項目で転送」を選択するだけでできるようになりました。

▼イメージ図

[転送条件設定]画面の[詳細設定]ページ

《 関連メニュー 》

- ・ [分析帳票]-[推移表]の各帳票メニュー
- ・ [分析帳票]-[対比表]の各帳票メニュー
- ・ [予算管理]-[予算実績集計表]メニュー
- ・ [予算管理]-[予算実績対比表]-[科目別予算実績対比表]メニュー

グループ企業管理

＜『勘定奉行VGroup Management Edition』をお使いの場合＞



- 勘定科目の3つの属性に関してマスタ配信できるようになりました。

マスター配信可能な項目に、勘定科目の以下の3つの属性も配信できるようになりました。

- ・ 棚卸設定（[導入処理]-[科目体系登録]-[勘定科目登録]メニューで設定）
- ・ 資金繰属性（[会計帳票]-[資金繰]-[資金繰項目設定]-[資金繰属性設定]メニューで設定）
- ・ キャッシュ・フロー属性（[決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]-[キャッシュ・フロー項目設定]-[キャッシュ・フロー属性設定]メニュー・[分析帳票]-[キャッシュ・フロー確認表]-[キャッシュ・フロー項目設定]-[キャッシュ・フロー属性設定]メニューで設定）



- グループ企業合算処理のパフォーマンスが向上しました。

[グループ企業管理]-[グループ企業合算]-[グループ企業合算]メニューにおける合算処理のパフォーマンスが向上しました。

データ領域管理



- [データ領域選択]メニューからも、会計期間を切り替えられるようになりました。

前年度の仕訳伝票を修正する際など、別の会計年度の処理を行う場合は、今までは、[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間選択]メニューで切り替えていましたが、[データ領域管理]-[データ領域選択]メニューからも **期間選択** を押して切り替えられるようになりました。

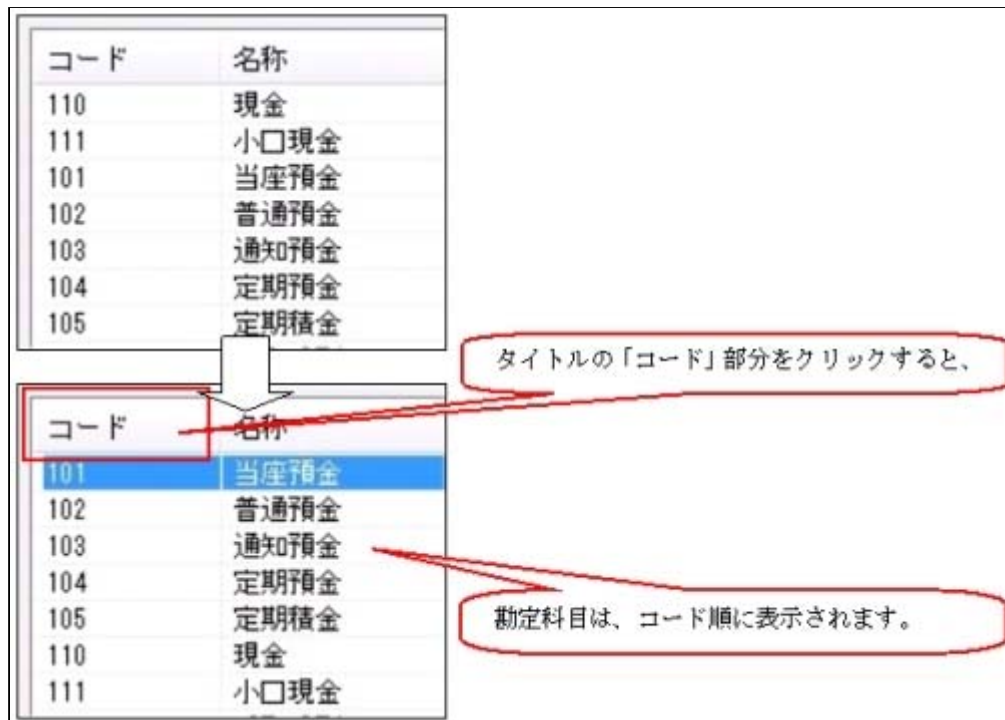
導入処理



- [勘定科目検索]画面と[補助科目検索]画面でタイトルをクリックすると、自動的にコード順に表示されるようになりました。

初期では、科目区分+勘定科目コード順で表示されていますが、タイトル欄をクリックすると、自動的にコード順に表示されるようになり、コード順で科目検索する場合に便利です。

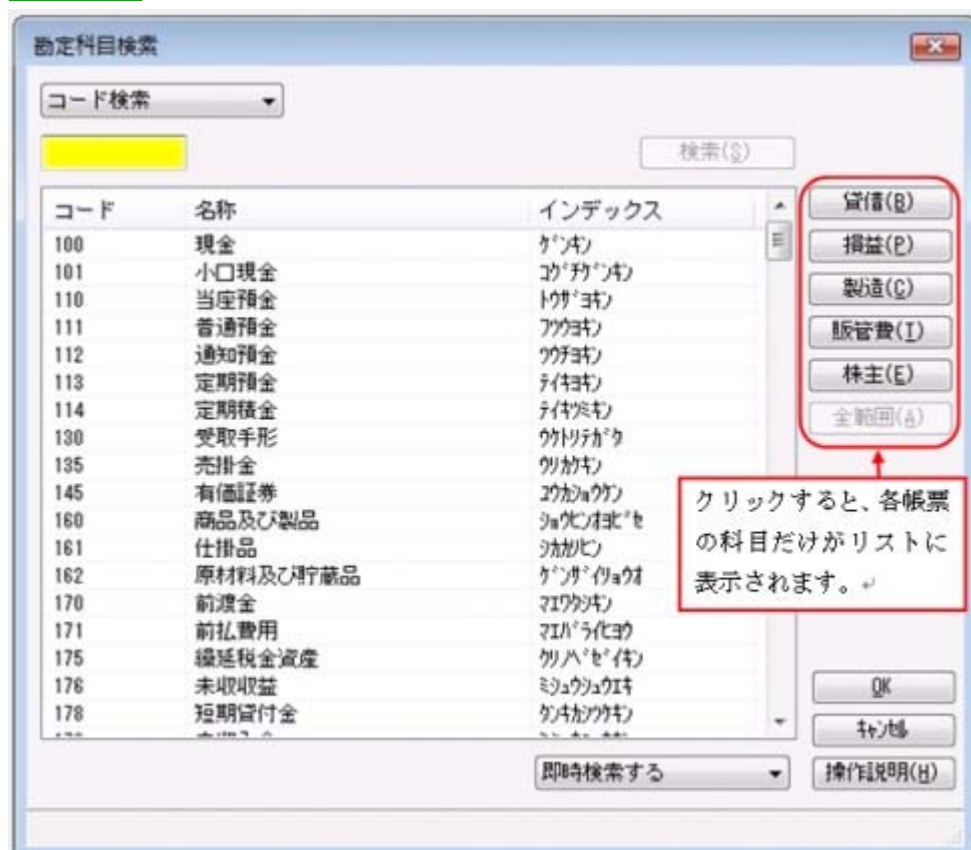
▼イメージ図



- [勘定科目検索]画面の「標準形式」でも帳票ごとに勘定科目を絞り込むことができるようになりました。

「拡張形式」と同様に[貸借] [損益] ボタン等で帳票の勘定科目を絞り込めるようになりました。

▼イメージ図



- 印刷する際に、行の高さの補正やフォントサイズの変更ができるようになりました。

行の高さを補正したり、集計結果部分のフォントサイズを変更することで、1ページ当たりの印刷行数を調整できるようになりました。

お客様の見やすさに合わせて調整できます。

※行の高さ・フォントサイズは、[印刷条件設定]画面の[印刷設定]ページで設定できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [導入処理]-[科目体系登録]-[勘定科目登録]メニュー
- ・ [導入処理]-[科目体系登録]-[補助科目登録]メニュー
- ・ [導入処理]-[科目体系登録]-[科目体系登録]メニュー
- ・ [導入処理]-[出力様式登録]-[出力様式登録]メニュー
- ・ [導入処理]-[部門登録]の各メニュー
- ・ [導入処理]-[セグメント登録]メニュー
※このメニューは、『セグメント管理オプション』をお使いの場合に使用できます。
- ・ [導入処理]-[残高入力]-[開始残高入力]-[開始残高入力]メニュー
- ・ [導入処理]-[残高入力]-[開始残高入力]-[外貨別開始残高入力]メニュー
※このメニューは、『外貨入力オプション』をお使いの場合に使用できます。
- ・ [導入処理]-[残高入力]-[科目別金額確認リスト]メニュー
- ・ [導入処理]-[摘要登録]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[部門別科目入力制限]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[科目別マスター入力設定]メニュー
- ・ [会計帳票]-[合計残高試算表]-[試算表見出し項目設定]メニュー
- ・ [会計帳票]-[合計残高試算表]-[試算表要約科目設定]メニュー
- ・ [会計帳票]-[資金繰]-[資金繰項目設定]-[資金繰属性設定]メニュー
- ・ [分析帳票]-[損益分岐点分析]-[費用区分設定]メニュー
- ・ [決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]-[キャッシュ・フロー項目設定]-[キャッシュ・フロー属性設定]メニュー
- ・ [予算管理]-[予算額登録]メニュー
- ・ [予算管理]-[予算管理設定]-[科目別予算管理設定]メニュー
- ・ [消費税申告]-[科目別課税対象額集計表]メニュー
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[決算書見出し項目設定]メニュー
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[決算書要約科目設定]-[要約設定]メニュー
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[決算書要約科目設定]-[要約科目表示設定]メニュー
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[株主資本等変動計算書登録]-[当期変動額登録]メニュー
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[電子申告]-[電子申告科目設定]メニュー
- ・ [決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]-[キャッシュ・フロー精算表]-[調整金額リスト]メニュー
- ・ [決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]-[キャッシュ・フロー精算表]-[調整金額入力]メニュー
- ・ [決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]-[キャッシュ・フロー項目設定]-[キャッシュ・フロー属性設定]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[キャッシュ・フロー調整金額]-[決算仮締め後調整金額リスト]メニュー
- ・ [決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[期首残高]-[遡及期首残高確認リスト]メニュー

仕訳処理

- 仕訳処理画面の見易さと、入力の操作性が向上しました。

仕訳処理画面、入力に関する設定条件を拡充し、見易さ、操作性が向上しました。



- 表示する明細行数を調整することで、多くの行数を表示できるようになりました。
仕訳画面の明細行の間隔を、（通常、小、最小）の中から指定できるようになりました。
小さい間隔にすると、1画面により多くの明細行を表示できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[反対仕訳一括起票]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
- ・ [随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[仕訳伝票履歴]メニュー

- 画面下の更新履歴を隠すことで、表示する明細行数を増やすことができるようになりました。

伝票入力画面左下の「+」「-」で更新履歴の表示／非表示を切り替えることができるようになりました。普段は、不要な更新履歴を非表示にしておき、必要に応じて表示するように切り替えます。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー



- 伝票部門や伝票区分について、前回指定した項目が記憶できるようになり、部門や利用者ごとに固定されている場合は、効率良く入力できるようになりました。

[仕訳処理 - 設定]画面で、前回指定した項目を記憶するか否かを設定できます。伝票区分や伝票部門が固定されている場合は、前回指定した項目を記憶すると、効率良く作業できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[F B処理]-[F B仕訳起票]メニュー

- 明細行に背景色を設定することで、行と行の区切りをより明確にできるようになりました。

[仕訳処理 - 設定]画面で、明細行の背景色を交互に色分けすることで、明細行の区切りをより明確にできます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー

- コクヨ式の場合に、借方の金額欄から入力できるようになりました。

今までは、コードの欄から入力が始まっていました。[仕訳処理設定]画面で、コクヨ形式の入力順序を「左から順に入力する」を選択すると、借方の金額欄から入力を開始できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー

- 伝票日付入力時に、画面下部のステータスバーに入力可能期間を表示し、に入力期間を把握できるようになりました。

伝票日付入力時に、画面下部のステータスバーに入力可能な期間が表示され、入力中の会計年度の確認や入力期間の制限情報が確認できるようになりました。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[F B処理]-[F B仕訳起票]メニュー

- 消費税率を非表示にすることで、補助科目名称の表示文字数を増やすことができるようになりました。

[仕訳処理-設定]画面で、消費税の税率を表示するか否かを設定できます。旧税（3%）での登録が稀な現在では、非表示にすることは有効です。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー

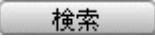
- 簡単に、複数の摘要を組み合わせて入力できるようになりました。

摘要を入力する際に、摘要欄で[Esc]キーを押して入力する摘要を指定すると、入力済みの摘要の後ろに、指定した摘要を追加することができます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー

- [摘要]（F7キー）を押した後に、[連想摘要]画面ではなく、[摘要一覧]画面が表示されるようになりました。

今までは、連想摘要が登録されている勘定科目の明細行で （[F7]キー）を押すと、[連想摘要一覧]画面が表示されていましたが、[摘要一覧]画面を表示するようになります。

摘要コード入力時に[Space]キーを押すと、[連想摘要一覧]画面を表示できます。

※この機能は、[仕訳処理設定]画面の「ファンクションキーの配置」が「奉行21形式」の場合に使用できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー

- 摘要名折り返し位置が入力時と確定後の表示位置と一致するようになりました。

今までは、入力中では「10文字」で折り返され、確定後は「11文字」で折り返されていました。確定後も「10文字」で折り返されるようにして、入力中と確定後の表示位置をあわせました。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー

- 摘要入力済みの明細行で、再度摘要を検索した際に、入力済みの摘要を削除してから摘要を追加できるようになりました。

今までは、必ず入力済みの摘要の後ろに、[摘要検索]画面で選択した摘要が追加されていましたが、[仕訳処理 - 設定]画面で入力済みの摘要を削除して追加するか、入力済みの摘要の後ろに追加するかを選択できるようになりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー

- 定型仕訳の検索画面でも、前回指定項目を初期選択して表示できるようになりました。

仕訳処理 - 設定画面の「マスター検索画面の前回指定項目表示」を「表示する」に設定すると、定型仕訳の検索画面を開いた時に、前回指定した定型仕訳が反転された状態で初期表示されます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー

- 固定部門の入力時に未入力のまま確定した際に、「0；その他」部門を自動でセットするようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳処理]メニューで、伝票ごとに部門を指定している際に、伝票の部門が未入力のままでも、「0：その他」部門を自動的にセットすることで、入力操作を軽減できます。

- 仕訳伝票の承認画面で「コクヨ形式」で表示できるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニューで、伝票ごとに部門を指定している際に、伝票の部門が未入力のままでも、「0：その他」部門を自動的にセットすることで、入力操作を軽減できます。



- **反対仕訳の一括起票ができるようになりました。**

反対仕訳を一括で起票するためのメニューとして、[仕訳処理]-[反対仕訳一括起票]メニューが追加されました。

四半期、中間決算、本決算時に起票した整理仕訳を振り戻し（振戻仕訳）する際や、締処理後や承認済みの伝票を修正（取消仕訳）する際に、一括で反対仕訳を起票できます。効率良く伝票取消業務ができるようになりました。

- **日々の仕訳のチェック作業時間の操作性が向上しました。**

日々の受入伝票、入力伝票のチェック、または承認時に「本日分」だけ抽出できる設定や明細行数が多い伝票を参照し易い設定を追加し、見易さと操作性が向上しました。



- 本日分の伝票を検索しやすくなりました。

[伝票検索]画面（拡張形式）の場合は、[利用情報]ページの「本日分」にチェックを付けると、本日分の仕訳伝票を検索できます。

▼イメージ図

[伝票検索]画面（標準形式）の場合は、[基本条件]ページの「日付種類選択」で処理日時を選択すると、本日の日時が初期表示されるため、本日分の仕訳伝票を検索できます。

▼イメージ図

この設定を条件パターンとして登録することで、毎日効率的に仕訳伝票をチェックできるようになります。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]の各メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー



○ 仕訳伝票リスト表示後に、伝票の頭出しができるようになりました。

仕訳伝票リスト表示後に **前伝票**（[F4] キー）や **次伝票**（[F5] キー）を押すことで、仕訳伝票の頭出しができるようになりました。

明細行数が多い仕訳伝票を参照する場合など、次の伝票や前の伝票を頭出しする際に便利です。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]の各メニュー

○ 明細行数が多い仕訳伝票を参照する場合に、ヘッダー情報（伝票日付や伝票No. など）を固定表示し、対象伝票を特定しました。

仕訳伝票リスト]画面の「+」「-」で、伝票のヘッダー情報（伝票日付や伝票No. など）の表示／非表示を切り替えることができるようになりました。

明細行数が多い伝票を参照する際に表示させると、対象伝票を特定・把握しやすくなります。

▼イメージ図

行	借方	金額
	取引先	
[伝票日付] 04年 4月 3日 [伝票No.] 000005		
14	002 第二営業部 604 仕入高	500,000 (23,808)
	00000008 神奈川物産株式会社	
15	011 札幌支店 604 仕入高	2,210,000

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー

○ 登録後に、一度も修正していない伝票だけを絞り込めるようになりました。

拡張形式の[条件設定]画面の[登録情報]ページの「登録区分（修正）」で「修正なし」を選択すると、登録後に一度も修正していない伝票だけを絞り込めるようになりました。

▼イメージ図

登録区分(修正) 修正なし

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー



- 営業日を考慮した仕訳起票スケジュールを管理できるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳伝票予約]メニューで、営業日を考慮した仕訳伝票起票のスケジュールを登録できるようになりました。

会社の休日を登録することで、予約した仕訳伝票のスケジュールが会社の休日に当たる場合に、会社の営業日に合わせて、自動的に仕訳伝票を起票できます。起票日は、前営業日・翌営業日か選択できます。



- 仕訳伝票の専用用紙印刷で、コード桁数設定に応じてコードの印字幅が調整され、できるだけ科目名が多く印字されるようになりました。

部門コードが6桁、勘定科目コードが4桁、補助科目コードが3桁の場合は、マスターの印字位置を揃えて印字すると、6桁の位置に揃えて印字するようになりました。また、印字位置を揃えず印字することで、勘定科目名や補助科目名をより多く印字することもできます。

- 金額0円の明細が登録できないように制限できるようになりました。

[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[伝票設定]ページの金額が0円の明細登録許可で、金額が0円の明細を登録できないように設定できます。0円の明細を誤って登録することを防ぐことができるため、業務処理統制に役立ちます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]の各メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニュー

- 応用用紙で仕訳伝票リストを印刷する際に、印刷開始ページ番号を指定して印刷できるようになりました。

応用用紙で仕訳伝票リストを印刷する際に、[印刷設定]ページでページの開始番号を指定して印刷できるようになりました。

前日の印刷ページの後から続けてページ数を付番して印刷できるようになり、バインダに月単位などの一定の範囲で、連番で綴っている際に有効です。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー

- 誤って2度受け入れてしまった場合など、一度受け入れたF Bデータを削除できるようになりました。

[仕訳処理]-[F B処理]-[F B仕訳起票]メニューの[条件設定]画面で、対象のF Bデータを選択して[削除] ボタンをクリックすると、F Bデータを削除できます。

- F Bデータの処理状況を確認できるようになりました。

[仕訳処理]-[F B処理]-[F B仕訳起票]メニューの[条件設定]画面で、[処理済履歴] ボタンをクリックすると、今までの処理済履歴の画面が表示され処理状況を確認できます。

- F Bデータの変換ルールを一括変更・削除できるメニューが追加されました。

F Bデータの変換ルールを一括変更・削除するためのメニューとして、[仕訳処理]-[F B処理]-[F Bデータ変換ルール保守]メニューが追加されました。

金融機関からの入出金のF Bデータを仕訳変換する関連付けにおいて、変更が必要な変換ルール、また使用しなくなった変換ルールを一括変更・削除できるようになりました。

変換ルールのメンテナンスが向上し、自動変換する際の精度が高まるため、確認・編集作業を軽減できます。

会計帳票

- 試算表の印刷条件の拡充により、詳細項目を確認できるようになりました。

試算表の印刷業務において、要約印刷／精算表印刷時の条件を拡充し、現預金内訳や棚卸資産内訳などの詳細項目を確認できるようになりました。



- 現預金内訳や棚卸資産内訳など特定の科目区分の内訳を、貸借対照表の右下に印字できるようになりました。

[会計帳票]-[合計残高試算表]-[合計残高試算表]メニューの要約印刷・精算表印刷で、現預金内訳や棚卸資産内訳など特定の科目区分の内訳を、貸借対照表の右下に印字できるようになりました。

印字する科目区分は、事前に[試算表見出し項目設定]メニューで行います。勘定奉行21シリーズでは、現預金内訳と棚卸資産内訳だけでしたが、当システムでは、それ以外の科目区分の内訳を別枠に印字できるようになりました。

▼イメージ図

会計帳票試算表「貸借対照表」
2012年 12月 31日 現在

科目区分「現金及び預金計」が別枠に印刷されます。

科目名	勘定別高	借方	貸方	残高
現金	100	52,595,000	5,000,000	53,745,550
小口現金	101	200,000	0	200,000
当座預金	110	1,062,800,000	1,707,084,400	710,220,110
定期預金	111	75,000,000	2,250,000,000	300,000,000
有価証券	112	0	0	0
短期債	113	90,000,000	0	90,000,000
長期債	114	0	0	0
現金預金計	61200	323,985,000	1,937,084,400	1,154,165,770



- 損益計算書と製造原価報告書をページを切り替えずに一枚に印刷できるようになりました。

[会計帳票]-[合計残高試算表]-[合計残高試算表]メニューの要約印刷・精算表印刷で、損益計算書に続けて、製造原価報告書をページを切り替えずに一枚で印刷できるようになりました。用紙を節約することができて便利です。

▼イメージ図

会計帳票試算表「損益計算書」
2012年 12月 31日 現在

損益計算書に続けて、製造原価報告書が印刷されます。

科目名	勘定別高	借方	貸方	残高
製造材料費原価	600	0	0	0
材料仕入費	600	0	23,851,661	23,851,661
材料仕入値引き戻し金	602	0	0	0
期末材料原価	603	0	0	0
材料費計		0	23,851,661	23,851,661



- 金額の発生の有無に関わらず、毎月同じレイアウトで印刷できるようになりました。
[会計帳票]-[合計残高試算表]-[合計残高試算表]メニューの要約印刷・精算表印刷で、金額0の勘定科目を表示しない場合でも、空白行で印字できるようになりました。この機能により、金額の有無に関わらず、毎月同じレイアウトで印刷できるようになります。

▼イメージ図



- 元帳の検索条件を拡充し、元帳を効率良くチェックできるようになりました。

元帳の出力条件を指定する際に、基本的な項目だけの形式（標準形式）と拡張的な項目を含めた形式（拡張形式）を、必要な時に切り替えて利用できるようになりました。効率良く元帳を出力できます。

▼イメージ図



- 元帳の印刷条件の拡充により、見易さが向上し、また無駄な印刷も軽減できるようになりました。

元帳の印刷業務において、印刷条件を拡充し、見易さの向上とともに、無駄な印刷も軽減できるようになりました。



- 本体金額と消費税金額の印字位置（上段か下段か）を選択して出力できるようになりました。

元帳の[条件設定]画面の[詳細設定]ページで、本体金額を下段（消費税金額を上段）で印字するかどうかを設定できるようになりました。

▼イメージ図

	135 売掛金		消費税	143,500	
000006	売上高 日付: 2000/4/3			2,326,500	6,469,500
	135 売掛金			(14,600)	
000006	売上高 日付: 2000/4/3			306,600	6,776,100



- 明細の発生していない月の月計を非表示にし、不要な情報を省くことができるようになりました。

元帳の[印刷条件設定]画面の「明細のある月だけ月計を出力する」項目の設定により、明細の発生していない月の月計を非表示にできるようになりました。この機能により、不要な情報を省くことができ、印刷枚数を節約できます。

- 累計行の印字位置（左寄せか右寄せか）を選択して出力できるようになりました。
元帳の[印刷条件設定]画面の「設定」ボタンから、金額計項目を左上に印字するか、右下に印字するかを設定できるようになりました。「繰越金額」「〇月計」を明細と区別する場合は、右下に印字します。

▼イメージ図

0428	135 売掛金	
000033	売上伝票	
		4月計
		前月繰越

- タイトル部分の勘定科目名を均等割り付け印刷機能が追加されました。
元帳の[印刷条件設定]画面に「印刷タイトル（自マスター）を均等割付する」項目が追加され、印刷時に均等割り付けできるようになりました。

▼イメージ図

均等割り付けする	110 当 座 預 金	PAGE: 1
〇〇〇商事株式会社		
【税抜】 【標準元帳】		
伝票日付 伝票No.	相手勘定科目 / 補助科目 摘要	借 方 貸 方 残 高
均等割り付けしない	110 当座預金	PAGE: 1
〇〇〇商事株式会社		
【税抜】 【標準元帳】		
伝票日付 伝票No.	相手勘定科目 / 補助科目 摘要	借 方 貸 方 残 高

- 余白部分に罫線を印字し、どのページでも同じデザインで元帳を印刷できるようになりました。

元帳の[印刷条件設定]画面の「設定」ボタンから、元帳の余白部分に罫線を印字するかどうか設定できるようになりました。この機能により、どのページでも同じデザインで元帳を印刷できるようになります。

▼イメージ図

145 有価証券				
〇〇〇〇株式会社		第145号 1		
伝票日付 伝票No. 振込額科目 / 補助科目		借方	貸方	残高
振込額				
振込金額				732,320,000
4月計		0	0	
前月繰越				732,320,000
5月計		0	0	
前月繰越				732,320,000
6月計		0	0	
前月繰越				732,320,000
7月計		0	0	
前月繰越				732,320,000
8月計		0	0	
前月繰越				732,320,000
9月計		0	0	
前月繰越				732,320,000
10月計		0	0	
前月繰越				732,320,000
11月計		0	0	
前月繰越				732,320,000
12月計		0	0	
前月繰越				732,320,000
1月計		0	0	
前月繰越				732,320,000
2月計		0	0	
前月繰越				732,320,000
003/30 000025	110 当座振込 003 西京銀行本店	125,000,000		857,320,000
3月計		125,000,000	0	
累計		125,000,000	0	857,320,000
余白部分に罫線が印字されます。				

○ 「〇：その他」の付属マスターを非表示にできる機能が追加されました。

元帳を画面表示、または、印刷する際に「〇：その他」の付属マスターを非表示にできるようになりました。画面表示する際には、[条件設定]画面の各マスターページの「「〇：その他」〇〇を表示する」、印刷する際には、[印刷条件設定]画面の各マスターのページの「「〇：その他」〇〇を出力する」で設定します。

○ 奉行21シリーズと同様の伝票日付の印字形式（年月日の区切り「/」なし）で印刷できるようになりました。

元帳の[印刷条件設定]画面の[設定] ボタンから、伝票日付の出力形式を設定できるようになりました。この機能により、奉行21シリーズと同様の形式で伝票日付を印字できるようになります。

▼イメージ図

年月日 伝票No.	相手勘定科目 / 補助科目 摘要
110401 000003	135 売掛金 売上伝票

- 伝票No. の印字の有無が設定できます。

印刷時に、伝票No. の印字の有無を設定できます。伝票No. を設定していない運用時に活用します。



- 元帳の集計パフォーマンスが向上しました。

部門別元帳や取引先別元帳など、マスターと勘定科目を組み合わせる際の集計のパフォーマンスが向上しました。

- 元帳で摘要の出力方法が変更されました。

元帳で仕訳伝票の摘要欄の出力方法が変更されました。「仕訳伝票全体に関わる摘要を入力する場合」「40文字以上の摘要を入力する場合」「借方」「貸方」で異なる摘要を入力する場合は、以下の例のように摘要を入力します。

▼例

- 仕訳伝票全体に関わる摘要を入力する場合

借 方				貸 方			
行	部 門 / 勘定科目 / マスター	金額		部 門 / 勘定科目 / マスター	金額		
1							
2	001 第一営業部			002 経理			
	740 旅費交通費	貸方入 5.0%	52,500 (2,500)	100 現金		54,500	
3	002 第二営業部						
	740 旅費交通費	貸方入 5.0%	42,000 (2,000)				

伝票全体に関わる摘要は、
1行目に摘要だけ入力します。

月の旅費交通費精算
営業部

元 帳

04/30	000001	月の旅費交通費精算営業部	
	000001	100 現金	52,500
	000001	100 現金	42,000

元帳では、伝票の概要（見出し）として扱うため、先頭に表示されます。

○ 40文字以上の摘要を入力する場合

40文字以上の摘要を入力する場合は、残りを2行目に摘要だけ入力します。

行	部 門 / 勘定科目 / 摘要科目	金 額	部 門 / 勘定科目 / 摘要科目	金 額	備 考
1	501 第一営業部 740 旅費交通費	貸付金 5.8%	092 経理 現金	63,000 (3,000)	東京事務機器株式会社大阪支店へ6/10商取のため 東京-新大阪間2名分

元帳で2行目の摘要を表示するためには、「相手科目を個別表示する」にチェックを付けます。

元 帳	10 100 現金	63,000
000001	東京事務機器株式会社大阪支店へ6/10商取のため	
000001	東京 - 新大阪間 2 名分	

○ 借方と貸方に異なる摘要を入力する場合

借方と貸方に異なる摘要を入力する場合は、借方、貸方で明細行を分けて、それぞれの摘要を入力します。

行	部 門 / 勘定科目 / 摘要科目	金 額	部 門 / 勘定科目 / 摘要科目	金 額	備 考
1	130 受取手形	100,000			6/10商取
2			135 売掛金 001 新造商事	100,000	製品販売回収

元帳で借方と貸方それぞれの摘要を表示するためには、「相手科目を個別表示する」にチェックを付けます。

元 帳	10 130 受取手形	100,000
000001	6/10商取	
000001	製品販売回収	

分析帳票



● 分析用のキャッシュ・フロー帳票が追加されました。

[分析帳票]-[キャッシュ・フロー確認表]-[キャッシュ・フロー確認表]メニューが追加されました。財務諸表のキャッシュ・フロー計算書とは別に、毎月のキャッシュフロー分析のためのキャッシュ・フロー計算書を作成できます。[決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]-[キャッシュ・フロー計算書]メニューと違い、常に、期首月からの累計で作成するという財務諸表の制約はありません。期間を1か月単位で指定して発生金額を集計できるため、月ごとや四半期単位でのキャッシュの増減を確認できます。

※[キャッシュ・フロー項目設定]メニューの設定は、[決算処理]メニューと共通に利用します。

- 経営分析の一覧表で、指標と計算方法を印刷できるようになりました。

[分析帳票]-[経営分析]-[経営分析]メニューで、一覧表を印刷、転送する際に、「計算式」「指標」の出力有無を設定できるようになりました。

計算式や分析項目の指標（↑↓）を出力することで、計算過程を把握、分析する際の目安にできます。

また「集計項目」も印刷、転送できるようになり、2次利用できます。

▼イメージ図

一覧表		計算式	指標	範囲内合計
収益性分析	純資本収益率 (%)	純利益 ÷ 純資本 × 100	↑	23.6
	純資本営業利益率 (%)	営業利益 ÷ 純資本 × 100	↑	23.6
	売上高営業利益率 (%)	営業利益 ÷ 売上高 × 100	↑	27.0
	売上高営業利益率 (%)	営業利益 ÷ 売上高 × 100	↑	27.0
	売上高総利益率 (%)	総利益 ÷ 売上高 × 100	↑	55.6
	売上高営業利益率 (%)	営業利益 ÷ 売上高 × 100	↑	27.0
	売上高純利益率 (%)	当期純利益 ÷ 売上高 × 100	↑	20.3
	自己資本収益率 (%)	純利益 ÷ 自己資本 × 100	↑	26.6
	自己資本純利益率 (%)	当期純利益 ÷ 自己資本 × 100	↑	20.0
	純資本回転率 (回)	売上高 ÷ 純資本	↑	0.9
	営業資本回転率 (回)	売上高 ÷ 営業資本	↑	45.2
	売上高回転率 (回)	売上高 ÷ 売上高	↑	5.0
	買掛金回転率 (回)	仕入高 ÷ 買入高	↑	12.6
	自己資本回転率 (回)	売上高 ÷ 自己資本	↑	1.0
	固定資産回転率 (回)	売上高 ÷ 固定資産	↑	9.3
	金利負担率 (%)	(営業利益 + 営業外収益) ÷ 営業外費用 × 100	↑	192450.0
	営業外費用比率 (%)	営業外費用 ÷ 売上高 × 100	↓	0.0
	営業外収益比率 (%)	営業外収益 ÷ 営業外費用 × 100	↓	403.4
	売上高原価率 (%)	売上原価 ÷ 売上高 × 100	↓	44.4
収益性分析	流動比率 (%)	流動資産 ÷ 流動負債 × 100	↑	796.1
	当座比率 (%)	当座資産 ÷ 流動負債 × 100	↑	768.2
	現預金比率 (%)	現預金 ÷ 流動負債 × 100	↑	485.0
	短期資産回転期間 (ヵ月)	短期資産 ÷ (売上高 ÷ 無計画期間)	↓	0.3
	買掛金回転期間 (ヵ月)	売上高 ÷ (買入高 ÷ 無計画期間)	↓	2.4
	買掛金回転期間 (ヵ月)	買入高 ÷ (仕入高 ÷ 無計画期間)	↓	1.0
	運転資本保有月数 (ヵ月)	(流動資産 - 流動負債) ÷ (売上高 ÷ 無計画期間)	↑	10.9
	固定比率 (%)	固定資産 ÷ 自己資本 × 100	↓	10.6
	固定負債割合率 (%)	固定負債 ÷ (自己資本 + 固定負債) × 100	↓	10.6
	負債比率 (%)	(流動負債 + 固定負債) ÷ 自己資本 × 100	↓	12.5
	自己資本比率 (%)	自己資本 ÷ 純資本 × 100	↑	55.6
	固定負債比率 (%)	固定負債 ÷ 自己資本 × 100	↓	0.0
生産性分析	付加価値額	付加価値		2,621,915,468
	労働生産性	付加価値 ÷ 従業員数	↑	0
	労働設備率	有形固定資産 ÷ 従業員数	↑	0
	設備生産性	付加価値 ÷ 有形固定資産 × 100	↑	405.8
	有形固定資産回転率 (回)	売上高 ÷ 有形固定資産	↑	77.0
	付加価値率 (%)	付加価値 ÷ 売上高 × 100	↑	52.0
	一人当たり人件費	人件費 ÷ 従業員数	↑	0
	労働分配率 (%)	人件費	↑	0
生産性分析	一人当たり売上高	売上高	↑	0
	従業員数 (人)			0

- 帳票画面とグラフ画面を同時に起動できるようになりました。

帳票画面とグラフ画面を同時に起動することにより、帳票で金額遷移を確認しながら、グラフ画面での視覚的な分析ができるようになりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [分析帳票]-[推移表]の各メニュー
- ・ [分析帳票]-[対比表]の各メニュー



- 予算設定が必要な科目（勘定科目単位、補助科目単位）を設定できるようになりました。

[予算管理]-[予算管理設定]-[科目別予算管理設定]メニューで、予算管理が必要な科目（勘定科目単位、補助科目単位）を設定できるようになりました。

また、補助科目まで予算管理する場合でも、どの補助科目を管理するかまで、設定できます。

※予算を勘定科目単位で設定するか、補助科目単位で設定するかは、[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニューで設定します。

- 予算管理する科目設定にて、帳票単位での設定変更が一括でできるようになりました。また、科目追加時には、その勘定科目・補助科目で絞り込むことで、効率よく設定できます。

[予算管理]-[予算管理設定]-[科目別予算管理設定]メニューで予算管理する科目を設定する際に、帳票で絞り込むことで、帳票単位での設定変更が一括でできるようになりました。

また、科目追加時には、その勘定科目・補助科目で絞り込むことで、効率よく設定できます。

さらに、補助科目レベルまで予算管理する場合、補助科目が登録されている勘定科目だけを絞り込んで表示できるため、効率よく一括設定ができます。

※予算を勘定科目単位で設定するか、補助科目単位で設定するかは、[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニューで設定します。

▼イメージ図

消費税申告



- 消費税申告書作成のための事前確認帳票が追加されました。

[消費税申告]-[科目別課税対象額集計表]メニューが追加され、勘定科目ごとの非課税額、課税取引額、消費税金額を事前に確認できるようになりました。

当メニューで、金額に疑問を感じた場合は、[消費税申告]-[科目別税区分集計表]メニューにジャンプして、税区分別の金額で誤りを確認します。さらに遡って原因を追究する場合は、[消費税申告]-[税区分明細表]メニューにジャンプして、最終的に[仕訳処理]-[仕訳処理]メニューで誤りを修正します。

▼イメージ図

科目別課税対象額集計表

2011年 4月 1日 至 2012年 3月 31日

コード	勘定科目名	科目金額(税込)	非課税率	課税額(引額)	税込消費税	税引消費税	科目金額(税込)
500	売上高	5,292,285,293	0	5,292,285,293	0	247,859,957	5,044,425,336
	【消費税引】	-	-	-	0	247,859,957	-

税込消費税: 247,859,957

金額に疑問を感じたら、ジャンプします。

ジャンプ

科目別税区分集計表

2011年 4月 1日 至 2012年 3月 31日

売上・売却 | 消費税

コード	勘定科目名	科目金額	税率	税込金額合計	税戻金額
500	売上高	5,292,285,293	5.0%	5,292,285,293	5,044,425,336
	【合計】	-	5.0%	-	5,044,425,336

税区分別の金額を確認します。

原因を追究するために、さらに遡ります。

ジャンプ

税区分明細表

日 2011年 4月 1日 至 2012年 3月 31日

税区No. 0000 課税売上

税率 0002 5.0%

伝票日付	勘定科目	補助科目	税率	税込金額	消費税額	税込金額
11/04/01	売上高		5.0%	300,000	0	300,000
0000003	売上伝票 日付: 2011/ 4/ 1 0: 売上					
11/04/01	売上			4,794,000	0	4,794,000
0000006	売上伝票 日付: 2011/ 4/ 3 0: 売上					
11/04/03	売上高		5.0%	870,000	40,500	910,500
0000006	売上伝票 日付: 2011/ 4/ 3 0: 売上					
11/04/03	売上高		5.0%	290,000	14,000	306,000
0000006	売上伝票 日付: 2011/ 4/ 3 0: 売上					
11/04/03	売上高		5.0%	244,000	0	244,000
0000006	売上伝票 日付: 2011/ 4/ 3 0: 売上					
11/04/04	売上高		5.0%	900,000	40,000	1,040,000
0000006	売上伝票 日付: 2011/ 4/ 4 0: 売上					

明細単位の金額を確認します。

最終的に原因となる伝票を修正するために、
[仕訳処理]メニューへジャンプします。

F1 操作説明 F2 印刷等 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9 F10 F11 F12

操作説明 印刷等 F3 F4 F5 F6 F7 F8 F9 F10 F11 F12

ジャンプ 再集計 条件設定 閉じる

仕訳処理

伝票日付 11年 4月 1日

伝票No. 0000003

伝票件数 408

経記簿 明細件数 7050

行	部 門 / 勘定科目 / 補助科目	金 額	部 門 / 勘定科目 / 補助科目	金 額	備 考
	取引先		取引先		
001	第一営業部		001	第一営業部	売上伝票 日付: 2011/ 4/ 1 0: 売上
135	売掛金	300,000	500	売上高	300,000
0000001	太平洋販売株式会社		0000001	太平洋販売株式会社	
002	第二営業部		002	第二営業部	売上伝票 日付: 2011/ 4/ 1 0: 売上
135	売掛金	4,794,000	500	売上高	4,794,000
0000006	株式会社千歳デンキ		0000006	株式会社千歳デンキ	
	借方合計	5,094,000		貸方合計	5,094,000
				貸借差額	0



- 期中導入の際など、仕訳伝票を登録していない場合でも、消費税申告書に金額を直接入力して作成できるようになりました。

当システムを期中導入した際など、仕訳伝票を登録していない期間があっても、消費税申告書に金額を直接入力して作成できるようになりました。[消費税申告書]画面で、消費税申告書をイメージしながら入力できます。

▼イメージ図

課税標準額	消費税率	課税標準額	消費税率
1	5,044,405.000	1	5,044,405.000
2	201,152.992	2	201,152.992
3	0	3	0
4	107,615.798	4	107,615.798
5	160,318	5	160,318

消費税申告書の金額を直接入力できます。



- 科目別税区分集計表で、金額が発生している税区分だけを表示できるようになりました。

[消費税申告]-[科目別税区分集計表]メニューで、金額が発生している税区分だけを表示して、不要な税区分を非表示にすることで、効率良くチェックできるようになりました。

▼イメージ図

☐ 金額が0の科目と税区分を表示する

チェックを付けないと、金額が発生している科目と税区分だけを表示できます。



- 翌年度の消費税課税方法変更の検討、分析ができるようになりました。

[消費税申告]-[課税制度別納税額比較表]-[課税制度別納税額シミュレーション]メニューが追加され、登録済みの仕訳伝票の金額に加え、シミュレーション金額を入力するだけで、課税制度別の納税額を比較でき、翌年度の消費税課税方法の変更を検討できるようになりました。

複数のシミュレーションが比較できます。

▼イメージ図

決算処理



- 消費税の残高を共通部門に集約して、翌年度に繰り越せるようになりました。

[決算処理]-[期末処理]-[期末残高繰越]メニューで、消費税科目（仮払消費税／仮受消費税）の残高を「0：その他」などの共通部門に集約して、翌年度に繰り越せるようになりました。これからは、指定した共通部門以外の消費税科目の期首残高は、0円になります。

また、取引先などのマスターごとに消費税を管理することは実務上不要なケースが多いため、「0：その他」のマスターへ自動的に集約して繰り越します。

- キャッシュ・フロー調整金額明細が、計算書と同じ条件で作成されるようになりました。

キャッシュ・フロー調整金額明細は、作成元のキャッシュ・フロー計算書と同じ条件で作成されるようになりました。それに伴い、調整金額明細を自動作成する際の条件設定画面は表示されません。

《 関連メニュー 》

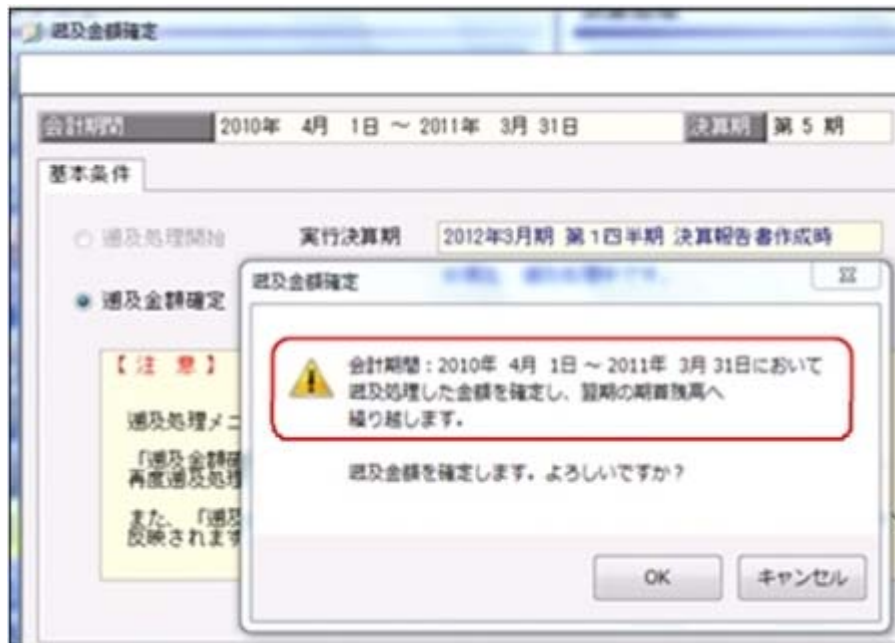
- ・ [決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]の各メニュー



- 遡及処理で確定した金額が翌年度に、自動繰越されるようになりました。

[決算処理]-[遡及処理]-[遡及金額確定]メニューで、遡及処理を確定すると、翌年度の期首残高へ自動更新されます。これからは、確定した金額を翌年度の期首残高に入力する必要がないため、確実に整合性が保たれます。

▼イメージ図



- 遡及処理を開始する際に、実行決算期を決定するようになりました。

今までは、[遡及処理]の各メニューで実行決算期を指定する必要がありましたが、[決算処理]-[遡及処理]-[遡及金額確定]メニューで遡及処理を開始する際に、実行決算期を決定するようになりましたので、画一的に作業できます。

▼イメージ図



- 廃止したマスターの遡及期首残高を、他のマスターの期首残高へ一括振り替えできるようになりました。

[決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[期首残高]-[遡及期首残高一括振替]メニューが追加され、部門統合により今年度から廃止された部門に対して、前期以前の金額を遡及処理した場合、廃止された部門に自動繰越された金額を、他の部門へ一括振り替えできるようになりました。

随時処理



- 仕訳伝票データ受入時、1伝票明細上限9,999行まで受け入れできるようになりました。

他システム（業務システム等）から出力された仕訳伝票データを、[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニューから受け入れる場合、1伝票あたり上限9,999行の仕訳伝票明細データを受け入れできるようになりました。他システムとのデータ連携の向上により、効率的に仕訳伝票データを受け入れることができます。また、受け入れた仕訳伝票は、[仕訳処理]-[仕訳処理]メニューで修正できます。



- 「貸借別の発生金額」での合算処理のパフォーマンスが向上しました。

合算方法が「貸借別の発生金額」（[随時処理]-[データ領域合算]メニューの[基本条件]ページで設定）で、合算した際の合算処理のパフォーマンスが向上しました。



- 前回転送後に、差分登録したマスターと仕訳伝票だけを転送できるようになりました。

前回転送後に、差分登録したマスターや仕訳伝票だけを自動で転送できるようになりました。仕訳伝票は、前回転送後の処理日付を指定することで差分を転送することができましたが、より簡単に、確実に作業できます。また、マスターの差分を転送できるようになったため、変更されたマスターだけを転送し、他システムと連動できるようになります。

▼イメージ図

《 関連メニュー 》

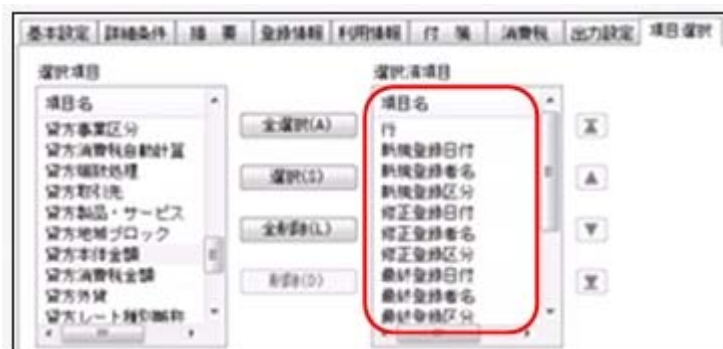
- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]の各メニュー
※[部門グループデータ作成]メニューなど、仕訳伝票入力に関係しないマスターは除く。
- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー
- ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[自動実行仕訳伝票データ作成]メニュー
※このメニューは、『自動実行管理オプション』をお使いの場合に使用できます。



- 内部監査時に有効な項目となる行番号、登録日付、登録者等の履歴情報、本体金額（税抜き）、消費税自動計算金額を転送できるようになりました。

[随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニューで、内部監査時に有効な項目となる行番号、登録日付、登録者等の履歴情報を転送できるようになりました。昨今、内部監査において、CAAT（＝コンピュータ支援監査技法と呼ばれる監査を実施する際の手法）を活用する企業が多く、今回追加した項目は、内部監査や CAAT ツールでのデータ活用などで有効な項目になります。

▼イメージ図



≪ 関連メニュー ≫

- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー
 - ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[自動実行仕訳伝票データ作成]メニュー
- ※このメニューは、『自動実行管理オプション』をお使いの場合に使用できます。

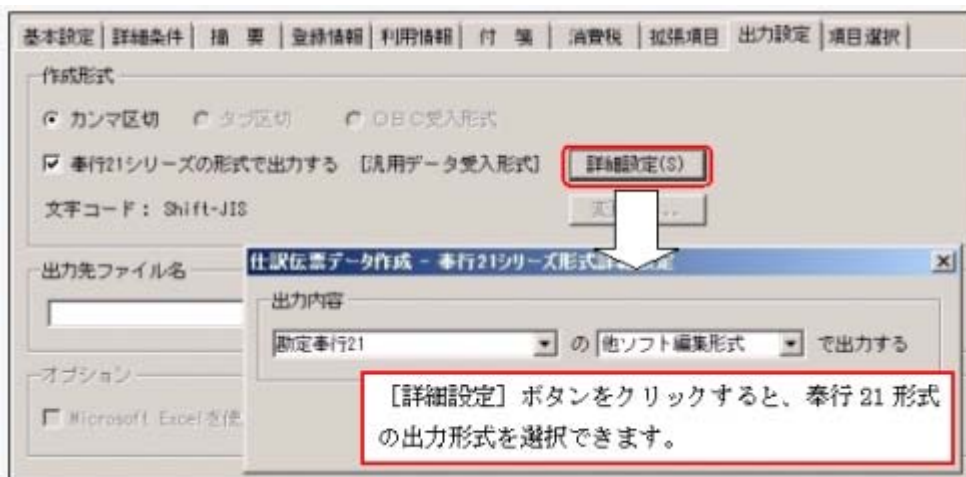


- 奉行21シリーズの「他ソフト編集」形式で出力できるようになりました。

[随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニューで、登録済みの仕訳伝票のデータを、奉行21シリーズの「他ソフト編集」形式と同じ項目レイアウトで出力できるようになりました。

仕訳伝票のデータを二次利用していた際に、スムーズな移行ができます。

▼イメージ図



《 関連メニュー 》

- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー
- ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[自動実行仕訳伝票データ作成]メニュー

※このメニューは、『自動実行管理オプション』をお使いの場合に使用できます。



● 勘定科目の資金繰属性、キャッシュ・フロー属性を作成／受け入れできるようになりました。

[随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[勘定科目データ作成]メニューで、資金繰属性とキャッシュ・フロー属性も作成できるようになりました。

また、作成したデータは、[随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[勘定科目データ受入]メニューで受け入れることもできます。

以下のメニューで登録した属性情報を作成／受け入れできます。

- ・ 資金繰属性（[会計帳票]-[資金繰]-[資金繰項目設定]-[資金繰属性設定]メニューで設定）
- ・ キャッシュ・フロー属性（[決算処理]-[キャッシュ・フロー計算書]-[キャッシュ・フロー項目設定]-[キャッシュ・フロー属性設定]メニューと、[分析帳票]-[キャッシュ・フロー確認表]-[キャッシュ・フロー項目設定]-[キャッシュ・フロー属性設定]メニューで設定）

● 仕訳伝票データ受け入れ業務の誤操作の制御を強化しました。

[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニューで、他システムからの仕訳伝票受け入れ業務において、2つの機能を強化し、誤操作の制御を強化しました。



○ マスター情報が必須項目の仕訳伝票データ受け入れ時に、マスター情報が未設定のデータを受け入れできないようにしました。

例えば、売掛金、買掛金、売上高、仕入高にだけ、必ず取引先を入力するようにしたい場合などは、マスターコードの未入力チェック（[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[伝票設定]ページで設定）を「1：汎用データ受入もチェックする」、未入力確認（[仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[科目別マスター入力設定]メニューで設定）を「2：する（必須入力）」にすると、取引先が未設定の仕訳伝票データは、受け入れることができません。

○ 金額0円の仕訳伝票を受け入れないように制限できるようになりました。

金額が0円の明細登録許可（[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[伝票設定]ページで設定）で、金額が0円の仕訳伝票を受け入れできないように設定できます。0円の伝票を誤って登録することを防ぐことができるため、便利です。

- 処理状態（新規／修正）や処理日時でマスターの履歴を絞り込めるようになりました。

指定した日時以降に新規に追加されたマスター、もしくは修正されたマスターだけを抽出できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[マスター履歴]の各メニュー
- ・ [導入処理]-[外貨登録]-[為替レート登録]メニュー

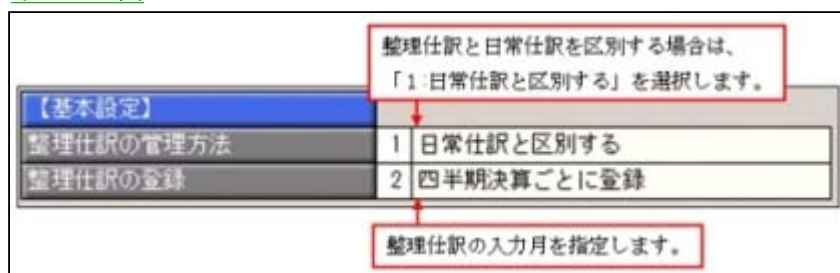
※このメニューは、『外貨入力オプション』をお使いの場合に使用できます。

- 整理仕訳と日常仕訳を区別して合算できるようになりました。

[随時処理]-[データ領域合算]メニューで、整理仕訳と日常仕訳を区別して合算できるようになりました。

整理仕訳の入力月は、合算先データ領域の整理仕訳の登録（[導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニューの[伝票設定]ページで設定）に基づいて合算します。

▼イメージ図



- 科目の調整伝票（仕訳明細が250行を超えた時に自動作成される伝票）が作成されなくなりました。

[随時処理]-[データ領域合算]メニューで合算した際に、仕訳明細が9,999行の伝票まで作成できるようになったため、科目の調整伝票が作成されなくなりました。それに伴い、合計残高試算表等に調整用の勘定科目が表示されなくなりました。

その他の変更情報

- 「マイページ」のサポートサービス情報などを、「奉行iメニュー」に一元化しました。

当システムのメニュー画面右下の「マイページ」で提供していたサポートサービス情報などについて、「奉行iメニュー」に一元化しました。

最新情報や保守加入状況、オンラインサポートなど当システムを運用する際に必要な情報は、「奉行iメニュー」からご確認ください。


勘定奉行 **VERP**










機能アップガイド









Ver.1.54





目次

※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【改正情報】	
	企業会計基準第24号「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」に対応しました。	4
	【メニュー体系】	
	メニューの名称を変更しました。	5
	【帳票全般】	
	勘定科目名・科目区分名をバランスよく均等割り付け印刷する機能が追加されました。	5
	帳票の初期のフォントサイズ・行の高さが、より見やすいサイズになりました。	5
	消費税管理資料・決算報告書を印刷する際に、行の高さの補正やフォントサイズの変更ができるようになりました。	6
	印刷する際に、項目タイトル行・計行・合計行などの網掛けの濃度を調整できるようになりました。	6
	転送する際に、空白行を出力するかを選択できるようになりました。	6
	【データ領域管理】	
	仕訳伝票などの金額データや履歴情報などをすべて消去する機能が追加されました。	8
	【導入処理】	
	[部門グループ登録]メニューの転送機能は、[随時処理]メニューの[部門グループデータ作成]メニューに統合されました。	8
	[開始残高一括振替]メニューで、振替用の仕訳伝票を自動的に作成できるようになりました。	8
	[勘定科目検索]画面の形式に、「標準検索」が追加されました。	8
	【仕訳処理】	
	[仕訳処理]メニューからも、仕訳伝票リスト（応用用紙）を印刷できるようになりました。	9
	仕訳入力時に、税区分を非課税から課税に変更した場合に、消費税を自動計上するように変更しました。	10
	仕訳入力時に便利な「キー割り当て機能（[*] キー）」を充実しました。	10
	[仕訳伝票リスト]メニューからも、専用用紙へ伝票発行ができるようになりました。	12
	仕訳伝票リストの項目タイトルに、「借方」「貸方」の文字を明示的に印字するように変更しました。	12
	F B データをもとに、入金伝票・出金伝票を起票する機能が追加されました。	12
	仕訳伝票予約で、毎月の「繰り返し登録機能」を搭載しました。	13
	[仕訳伝票予約]メニューで、複数の予約伝票を、連続して登録できるようになりました。	14

【会計帳票】		
	元帳の印刷時に、摘要を他のマスター名称より優先して印字できるようになりました。	15
	元帳の印刷時に、自勘定科目のフォントサイズを大きく指定できるようになりました。	15
	[元帳]メニューの[条件設定]画面で、補助科目コードの横に、補助科目名も表示されるようになりました。	16
【分析帳票】		
	A B C のランクに分類し、パレート図を作成して分析するメニューが追加されました。	16
	モノクロプリンタでも、グラフの種類が見分けられるように網掛けで印刷できるように改善されました。	17
【消費税申告】		
	税区分明細表の印刷時に、基準フォントサイズ・金額のフォントサイズを設定できるようになりました。	18
【決算処理】		
	決算報告書の表紙に印字される会社名や住所を、左寄せか中央揃えか選択できるようになりました。	18
	決算報告書の帳票様式ごとに、レイアウト（行の高さやフォントサイズ）を調整できるようになりました。	20
	決算報告書の損益計算書の内訳帳票「製造原価報告書」「販売費及び一般管理費明細書」の構成比の分母に、損益計算書の科目区分も指定できるようになりました。	20
	決算報告書で、前年度に登録した注記を、今年度にコピーできるようになりました。	21
	決算締め履歴で、締めの履歴とは別に、遡及処理の履歴を確認できるようになりました。	21
【随時処理】		
	部門グループとその内訳部門や階層情報を、転送・受入できるようになりました。	22
	勘定奉行21で作成した汎用データを受け入れる機能を改善しました。	22
	仕訳伝票データ受入・定型仕訳データ受入の[受入結果確認]画面で、ファイル行数を確認できるようになりました。	22
	勘定科目履歴・科目区分履歴で、貸借区分の変更履歴を管理できるようになりました。	23
	マスターデータを一括削除できるようになりました。	23
	データ領域合算で、金額の合算方法として、貸借別に合算するか、残高を合算するかを選択できるようになりました。	24
【その他】		
	[会社運用設定]メニューおよび[セキュリティ管理]メニューなどに対して、過去に更新されたデータを一覧で確認できるようになりました。	25
	「O B C 専用モード」のバックアップデータを復元する際に、サイズを自動的に適正サイズに縮小する機能が追加されました。	26
	自動実行結果をメールで通知する機能が追加されました。 ＜自動実行管理オプションをお使いの場合＞	26
	[スケジュール履歴]メニューの機能が強化されました。 ＜自動実行管理オプションをお使いの場合＞	26
	スケジュールを実行した結果の判定が一部変更されました。 ＜自動実行管理オプションをお使いの場合＞	27

	仕訳伝票データの自動受入で、同一ファイルの二重受入を防止する機能が追加されました。 ＜自動実行管理オプションをお使いの場合＞	27
	当システムのオプション製品を使用している場合に、当システムの奉行メニューから、オプション製品の情報も確認できるようになりました。	27
	XenApp 6.0/Windows Server 2003以降のターミナルサービス環境で運用している場合に、バックアップデータや汎用データを、クライアント用コンピュータに作成できるようになりました。 ＜『奉行V ERPシリーズ with Citrix Access』をお使いの場合＞ ＜『奉行V ERPシリーズ with Terminal Service』をお使いの場合＞ ＜『奉行V ERPシリーズ with Citrix Access & Terminal Service』をお使いの場合＞	27
	【仕訳伝票 Webオプション】	
	データ領域選択・会計期間の前回選択情報が、保持されるようになりました。	28
	勘定科目・補助科目・部門・摘要に、インデックスでの検索機能が追加されました。	28
	バージョン情報を確認できる画面を追加しました。	28
	【財務諸表照会 Webオプション】	
	データ領域選択・会計期間の前回選択情報が、保持されるようになりました。	28
	バージョン情報を確認できる画面を追加しました。	28

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

改正情報



- 企業会計基準第24号「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」に対応しました。

企業会計基準第24号「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」

企業会計基準適用指針第24号「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」に対応し、[決算処理]-[遡及処理]メニューが追加されました。

決算本締め処理（[決算処理]-[締処理]-[決算本締め]メニュー）後（開始残高の確定後）、会計方針の変更・過去の誤謬の訂正・表示方法の変更をする際に、その遡及金額（影響額）を登録するメニューです。

▼企業会計基準適用指針第24号「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の摘要指針のポイント」

- ・株主資本等変動計算書やキャッシュ・フロー計算書を含む、財務諸表の確定金額を、専用の[遡及処理]メニューで遡及修正できます。
- ・決算締めにより確定後の金額を、遡及修正できます。（言い換えると、決算本締めや開始残高確定処理で確定していない金額は、遡及修正できません。）
- ・遡及修正を反映する決算期（四半期決算単位）を、「実行決算期」と表現します。
なお、遡及修正は、実際に金額を訂正する会計年度を選択して行ないます。その選択している会計年度は、「遡及修正対象年度」と表現します。

《 追加メニュー 》

- ・[決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[期首残高]-[期首残高遡及処理]メニュー
- ・[決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[期首残高]-[遡及期首残高確認リスト]メニュー
- ・[決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票遡及処理]メニュー
- ・[決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[仕訳伝票]-[遡及仕訳伝票リスト]メニュー
- ・[決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[キャッシュ・フロー調整金額]-[調整金額遡及処理]メニュー
- ・[決算処理]-[遡及処理]-[遡及処理]-[株主資本等変動額]-[当期変動額遡及処理]メニュー
- ・[決算処理]-[遡及処理]-[科目別遡及金額確認表]メニュー
- ・[決算処理]-[遡及処理]-[遡及金額確定]メニュー
- ・[決算処理]-[遡及処理]-[遡及金額確定履歴]メニュー

メニュー体系

- メニューの名称を変更しました。

メニューの名称を変更しました。

変更前	変更後
[随時処理]-[データ一括変更]-[金額データ一括変更]	[随時処理]-[データ一括変更]-[金額データ一括削除]

帳票全般



- 勘定科目名・科目区分名をバランスよく均等割り付け印刷する機能が追加されました。

帳票を印刷する際、勘定科目名・科目区分名の長さ（末尾）を揃えるために、設定した文字数（名称の長さ）で、文字と文字の間隔を均等に自動調整して印字できるようになりました。もちろん、勘定科目以外の「補助科目」「科目区分」「部門」「取引先」名称も均等割り付けできます。事前に、[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[基本設定]ページで、勘定科目・科目区分別に均等割り付けの有無や割付時の桁数を設定し、帳票ごとに、[印刷等条件設定]画面-[印刷設定]ページで「均等割付する」「しない」の設定ができます。

《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票]メニューの各メニュー
- ・ [分析帳票]メニューの各メニュー

- 帳票の初期のフォントサイズ・行の高さが、より見やすいサイズになりました。

初期で、帳票のフォントサイズが大きくなり、行の高さもデータを確認しやすいサイズになりました。

※この変更は、新規にデータ領域を作成した段階から反映されます。すでに運用中のデータ領域は、今までの設定が保持されます。

《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票]メニューの各メニュー
- ・ [分析帳票]メニューの各メニュー
- ・ [予算管理]メニューの各メニュー

- **消費税管理資料・決算報告書を印刷する際に、行の高さの補正やフォントサイズの変更ができるようになりました。**

会計帳票や分析帳票と同様に、行の高さの補正や集計結果部分のフォントサイズを変更することで、帳票の1ページ当たりの印刷行数を調整できるようになりました。

お客様の見やすさに合わせて調整できます。

※行の高さ・フォントサイズは、[印刷条件設定]画面の[印刷設定]ページなどで設定できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [消費税申告]-[消費税計算書]メニュー
- ・ [消費税申告]-[科目別税区分集計表]メニュー
- ・ [消費税申告]-[税区分明細表]メニュー
- ・ [消費税申告]-[課税制度別納税額比較表]メニュー
- ・ [決算報告書]-[決算報告書]メニュー

- **印刷する際に、項目タイトル行・計行・合計行などの網掛けの濃度を調整できるようになりました。**

網掛け印字する帳票において、印刷する際に、[印刷設定]ページで網掛け部分の濃度を調整できるようになりました。これにより、項目タイトル行・計行・合計行など、網掛け部分の色が濃くて見づらい際に薄くすることで、網掛け印字箇所の文字をより見やすくできます。

- **転送する際に、空白行を出力するかを選択できるようになりました。**

合計行の下など、空白行を出力するか選択できるようになりました。

また、見出し行（項目タイトル行）を、繰り返し出力するかを選択もできます。

出力した転送ファイルを他のシステムで二次利用する場合は、途中に出力される空白行・見出し行（項目タイトル行）が不要になるケースが多いため、空白行・見出し行（項目タイトル行）を出力しない設定することで、加工の手間を削減できます。

▼イメージ図（空白行の転送）

出力設定	詳細設定	出力開始(E)
出力方法		
<input checked="" type="checkbox"/> 空白行を出力する <input type="checkbox"/> 帳票ごとに見出し行を繰り返し出力する		

○空白行あり（「空白行を出力する」にチェックを付けた場合）

	A	B	C	D	E
1	メニュー名	会計年度試算表			
2	集計期間	自 2011 年 4 月 1 日 至 2012 年 3 月 31 日			
3	会社名	〇〇〇株式会社			
4	決算書の情報	(期首決算半端定)(決算表決半実行)			
5	税処理	税抜			
6	単位設定	(単位:円)			
7	科目名	繰越残高	借方	貸方	残高
8	現金	24870570	16300000	17619210	23551360
9	小口現金	639805	400000	212980	826825
10	現金計	25510375	16700000	17832190	24378185
11	当座預金	851865708	5526787590	5385886083	992767215
12	普通預金	1435000000	340000000	0	1775000000
13	定期預金	290000000	100000000	0	390000000
14	預金計	2576895708	5966787590	5385886083	3157767215
15	現金及び預金計	2602376083	5983487590	5403718273	3182145400

○空白行なし（「空白行を出力する」にチェックを付けない場合）

	A	B	C	D	E
1	メニュー名	会計年度試算表			
2	集計期間	自 2011 年 4 月 1 日 至 2012 年 3 月 31 日			
3	会社名	〇〇〇株式会社			
4	決算書の情報	(期首決算半端定)(決算表決半実行)			
5	税処理	税抜			
6	単位設定	(単位:円)			
7	科目名	繰越残高	借方	貸方	残高
8	現金	24870570	16300000	17619210	23551360
9	小口現金	639805	400000	212980	826825
10	現金計	25510375	16700000	17832190	24378185
11	当座預金	851865708	5526787590	5385886083	992767215
12	普通預金	1435000000	340000000	0	1775000000
13	定期預金	290000000	100000000	0	390000000
14	預金計	2576895708	5966787590	5385886083	3157767215
15	現金及び預金計	2602376083	5983487590	5403718273	3182145400

▼イメージ図（見出し行の繰り返し転送）

出力設定	詳細設定	出力開始(E)
出力方法		
<input type="checkbox"/> 空白行を出力する <input checked="" type="checkbox"/> 帳票ごとに見出し行を繰り返し出力する		

	A	B	C	D	E
90					
91	自己株式		0	0	0
92	自己株式準当証券金		0	0	0
93	自己株式準当証券金		0	0	0
94	株主資本計	4087163929	0	1020333008	5107496937
95	その他の有価証券評価差額金		0	0	0
96	繰延ヘッジ損益		0	0	0
97	繰延ヘッジ損益		0	0	0
98	繰延ヘッジ損益		0	0	0
99	繰延ヘッジ損益		0	0	0
100	繰延ヘッジ損益		0	0	0
101	繰延ヘッジ損益		0	0	0
102	繰延ヘッジ損益		0	0	0
103	繰延ヘッジ損益		0	0	0
104	繰延ヘッジ損益		0	0	0
105	繰延ヘッジ損益		0	0	0
106	繰延ヘッジ損益		0	0	0
107	繰延ヘッジ損益		0	0	0
108	繰延ヘッジ損益		0	0	0
109	繰延ヘッジ損益		0	0	0
110	繰延ヘッジ損益		0	0	0
111	繰延ヘッジ損益		0	0	0
112	繰延ヘッジ損益		0	0	0
113	繰延ヘッジ損益		0	0	0
114	繰延ヘッジ損益		0	0	0
115	繰延ヘッジ損益		0	0	0
116	繰延ヘッジ損益		0	0	0
117	繰延ヘッジ損益		0	0	0
118	繰延ヘッジ損益		0	0	0

データ領域管理



- 仕訳伝票などの金額データや履歴情報などをすべて消去する機能が追加されました。

[データ領域管理]-[データ領域保守]-[データ領域初期化]メニューで初期化を実行すると、勘定科目や補助科目などの各マスターや、会社運用設定などの運用に必要な部分は残し、仕訳伝票などの金額データや履歴情報などをすべて消去します。

以下のような場合に、初期化を使用すると便利です。

- ・運用前に、テスト用に作成したデータ領域について、マスターはそのまま残し、仕訳伝票などの金額だけを消去して運用を始める場合
- ・科目体系など、マスターが同じテンプレートデータ領域を作成する場合
※「マスターデータ一括削除」機能とあわせて活用します。

導入処理



- [部門グループ登録]メニューの転送機能は、[随時処理]メニューの[部門グループデータ作成]メニューに統合されました。

汎用データの作成・受入機能に、「部門グループデータ作成・受入」が新たに搭載されました。

それに伴い、[随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[部門グループデータ作成]メニューに、[導入処理]-[部門登録]-[部門グループ登録]メニューの転送機能が統合されました。

今までの[部門グループ登録]メニューの転送と同じレイアウトで出力するためには、[部門グループデータ作成]メニューの[出力条件設定]画面の[出力設定]ページで、以下のように入力します。

- ・「カンマ区切」または「タブ区切」を選択する。
- ・「奉行21シリーズの形式で出力する」にチェックを付ける。



- [開始残高一括振替]メニューで、振替用の仕訳伝票を自動的に作成できるようになりました。

開始残高を確定すると、**開始残高の金額**で振り替えることはできません。

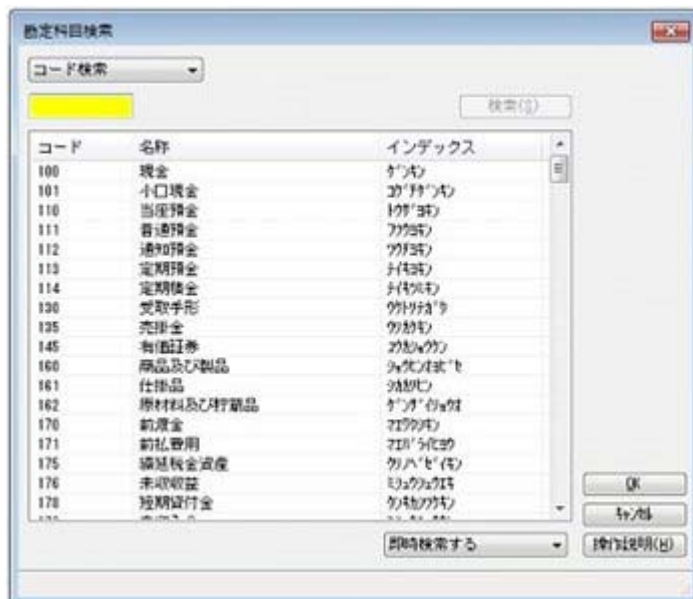
その代わりに、[導入処理]-[残高入力]-[開始残高入力]-[開始残高入力]メニューで、**振り替え用の仕訳伝票を自動的に作成**できるようになりました。

- [勘定科目検索]画面の形式に、「標準検索」が追加されました。

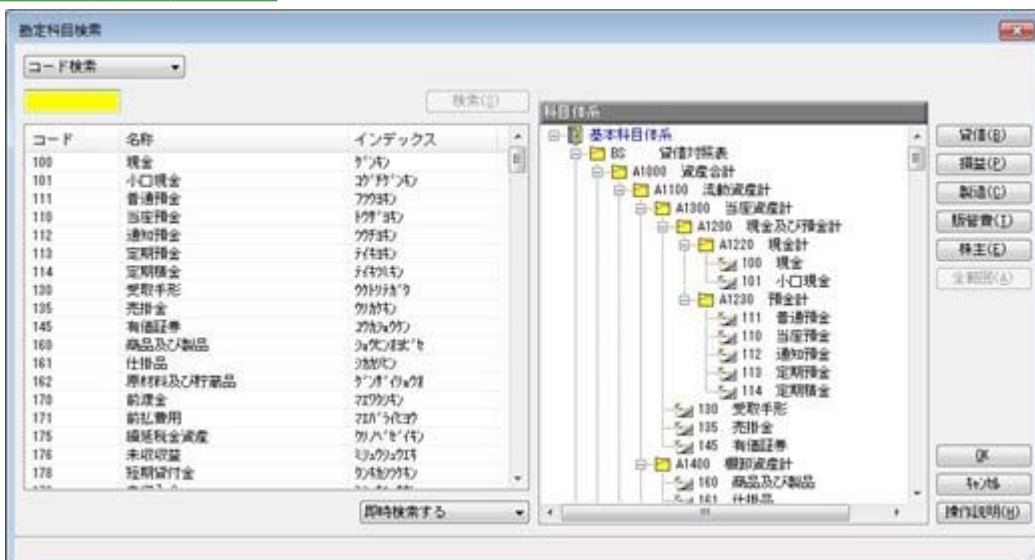
今までの、科目区分別に[導入処理]-[科目体系登録]-[勘定科目登録]メニュー（[導入処理]-[科目体系登録]-[科目体系登録]メニュー）での並び順で表示される形式「拡張検索」に加え、科目区分に関係なく勘定科目コード順に表示される「標準検索」が追加されました。

[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[基本設定]ページの勘定科目検索画面の形式で、「0：標準検索」を選択した場合に使用できます。

▼イメージ図（標準形式）



▼イメージ図（拡張形式）



仕訳処理



- [仕訳処理]メニューからも、仕訳伝票リスト（応用用紙）を印刷できるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニューに切り替えなくても、[仕訳処理]-[仕訳処理]メニューから直接、仕訳伝票リスト（応用用紙）を印刷できるようになりました。

[印刷条件設定]画面の[基本設定]ページの用紙種類で「応用用紙」を選択すると、印刷できます。

- 仕訳入力時に、税区分を非課税から課税に変更した場合に、消費税を自動計上するように変更しました。

仕訳入力時に、税区分を非課税から課税に変更した場合に、その勘定科目に初期設定されている消費税自動計算（自動計算しない・税抜金額から計算・税込金額から計算）に基づいて消費税を計上します。

※消費税自動計算は、導入処理]-[科目体系登録]-[勘定科目登録]メニューまたは[導入処理]-[科目体系登録]-[補助科目登録]メニューで設定できます。

▼イメージ図（消費税自動計上）

例えば、
①交際費を「冠婚葬祭非課税分」で入力します。

◎その後間違えに気づき、「通常課税分」に修正します。

◎消費税が自動計上されます。

- 仕訳入力時に便利な「キー割り当て機能（[*] キー）」を充実しました。

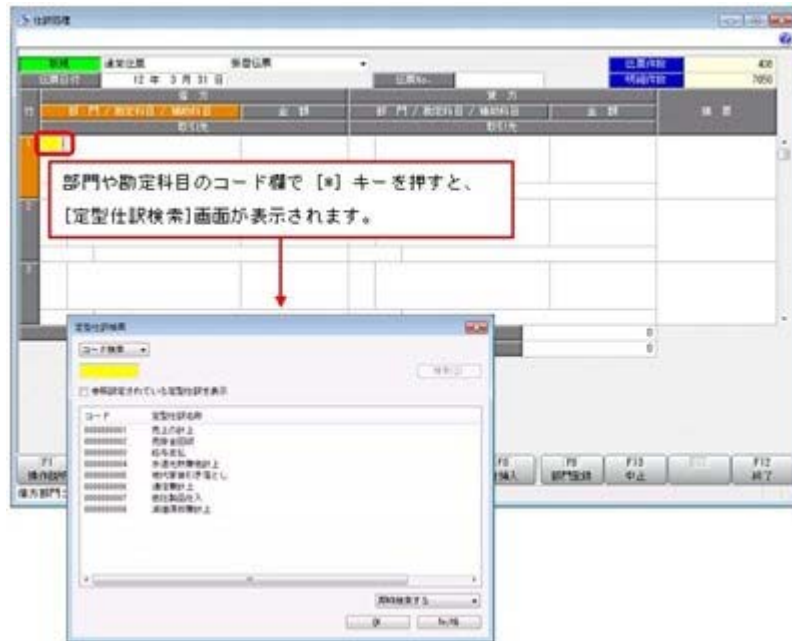
[*] キーに以下の機能を割り当てることで、キーボード操作だけで仕訳を迅速に入力できます。

- ・ 定型仕訳の呼び出し
- ・ 金額の貸借差額調整

※ [*] キーに機能を割り当てる場合は、事前に、伝票入力時の [*] キーの機能（[会社運用設定]メニューの[伝票設定]ページで設定）を「1：使用する」に設定します。

▼イメージ図（キー割り当て機能（[*] キー））

○定型仕訳の呼び出し



○金額の貸借差額調整



《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]メニューの各メニュー
- ※[帳簿入力]メニューの各メニューでは、金額の貸借差額調整はありません。



- [仕訳伝票リスト]メニューからも、専用用紙へ伝票発行ができるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳処理]メニューに切り替えなくても、[仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニューから直接、専用用紙へ伝票発行ができるようになりました。[印刷条件設定]画面の[基本設定]ページの用紙種類で「専用用紙」を選択すると、印刷できます。

- 仕訳伝票リストの項目タイトルに、「借方」「貸方」の文字を明示的に印字するように変更しました。

仕訳伝票リストの「簡易形式」と同様、「標準形式」でも、項目タイトルに「借方」「貸方」の文字を印字するように変更しました。

▼イメージ図（仕訳伝票リスト）

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
100 現金	1,000.00	200 売上高	1,000.00
101 現金	1,000.00	201 売上高	1,000.00

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[月次処理]-[月次仮締め]-[月次仮締め後変更レポート]メニュー
- ・ [配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績配賦]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[決算仮締め後仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後変更レポート]-[仕訳伝票変更レポート]メニュー



- F Bデータをもとに、入金伝票・出金伝票を起票する機能が追加されました。

F Bデータをもとに、入金伝票・出金伝票を起票する機能が追加されました。この機能を利用することで、仕訳起票の効率化と漏れの防止を実現できます。

対象となるF Bデータは、以下の2つです。

全国銀行協会（全銀協）制定フォーマット

- ・ 振込入金通知（振込入金）
- ・ 入出金取引明細（振込入金・口座振替、その他すべての取引）

F Bデータの取り込み方法は、以下の2つです。

- ・ 『OFFICE BANK21』など、当システムに対応したエレクトロニックバンキングシステムを使用し、金融機関からF Bデータを受信して受け入れます。
- ・ インターネットバンキングなどからダウンロードした、F Bデータのファイルを指定して、受け入れます。

さらに、手数料科目が固定であれば、事前に設定しておくことで、手数料の金額だけ入力すれば起票できます。

手取料の金額を入力します。

手取料 515

※FBデータをシステムが仕訳に自動変換した結果（明細状態）ごとに、タブページを分割して集計・表示することができます。

- ・[仕訳処理]-[F B 処理]-[F B 受信データ受入]-[F B 受信データ受入]メニュー
- ・[仕訳処理]-[F B 処理]-[F B 受信データ受入]-[F B 外部ファイル受入]メニュー
- ・[仕訳処理]-[F B 処理]-[F B 仕訳起票]メニュー
- ・[仕訳処理]-[F B 処理]-[F B 処理設定]-[F B 処理設定]メニュー
- ・[仕訳処理]-[F B 処理]-[F B 処理設定]-[会社銀行口座登録]メニュー



[仕訳処理]-[仕訳伝票予約]メニューに、「毎月〇日」など、1回の登録作業で毎月決まった日付を予定日に設定できるようになりました。また、有効期間中の予約も一目瞭然です。

▼イメージ図（繰り返し登録機能）



- [仕訳伝票予約]メニューで、複数の予約伝票を、連続して登録できるようになりました。

本日計上する複数の予約伝票を、一括で実行できるようになり、スムーズかつ確実に処理を完了できます。

また、一括で実行する場合でも、それぞれの仕訳内容は画面で確認でき、登録後、次の伝票が自動表示されます。

今までは、処理する予約伝票が複数あっても、毎回、[仕訳伝票予約]画面（作業予定が一覧で表示される画面）に戻って、1件ずつ、繰り返し処理していました。

- 元帳の印刷時に、摘要を他のマスター名称より優先して印字できるようになりました。

[元帳]-[元帳]メニューの[印刷条件設定]画面の[詳細条件]ページで「摘要を他のマスターより優先して出力する」にチェックを付けると、摘要のフォントサイズが小さくなりすぎたり、印刷文字数が少なくなることを改善できます。

▼イメージ図（摘要優先）

The image shows two examples of a ledger printout for '100 現金' (100 Cash). The top example shows the 'Department Name' (部門名) being prioritized for display, with a red box highlighting the '002 経理部' (002 Accounting Department) entry. The bottom example shows the 'Summary' (摘要) being prioritized for display, with a red box highlighting the '002 経理部' (002 Accounting Department) entry.

伝票日付	(帳簿マスター)	(帳簿マスター)	借方	貸方	残高
伝票No.	勘定科目 / 補助科目 / 部門	摘要			
10/04/12	704 交際費	002 経理部経理課税		20,000	23,706,070
10/04/15	704 交際費	002 経理部経理課税		30,000	23,676,070
10/04/28	110 当座預金	001 東京都中央銀行本	1,000,000		24,676,070
0000013	001 マーケティング課	2010-4-20 経理部経理課税		196,000	24,479,380
10/04/30	経理部	経理部経理課税		196,000	24,283,380

- 元帳の印刷時に、自勘定科目のフォントサイズを大きく指定できるようになりました。

[元帳]-[元帳]メニューの[印刷条件設定]画面の[詳細条件]ページで、自勘定科目のフォントサイズを指定できるようになり、大きく見やすいタイトルが印字できます。

▼イメージ図（自勘定科目のフォントサイズ）

The image shows a ledger printout for '100 現金' (100 Cash). The title '100 現金' is highlighted with a red dashed box, indicating that the font size for self-designated accounts can be increased.

伝票日付	(帳簿マスター)	(帳簿マスター)	借方	貸方	残高
伝票No.	勘定科目 / 補助科目 / 部門	摘要			
10/04/12	704 交際費	002 経理部経理課税		20,000	23,706,070
0000001	002 第一営業部	002 経理部経理課税		30,000	23,676,070
10/04/15	704 交際費	002 経理部経理課税		30,000	23,646,070
0000008	002 仙台支店	002 経理部経理課税		30,000	23,616,070
10/04/28	110 当座預金	001 東京都中央銀行本	1,000,000		24,616,070
0000013	001 マーケティング課	2010-4-20 経理部経理課税		196,000	24,420,070
10/04/30	経理部	経理部経理課税		196,000	24,224,070

- [元帳]メニューの[条件設定]画面で、補助科目コードの横に、補助科目名も表示されるようになりました。

[元帳]-[元帳]メニューの[条件設定]画面で、指定した勘定科目コードの横に、補助科目名も表示されるようになりました。

自マスター			
勘定科目コード	110	当座預金	~ 110 当座預金
補助科目コード	001	東都中央銀行本店	~ 003 西部銀行本店

分析帳票



- A B Cのランクに分類し、パレート図を作成して分析するメニューが追加されました。

[分析帳票]-[A B C分析]メニューが追加されました。

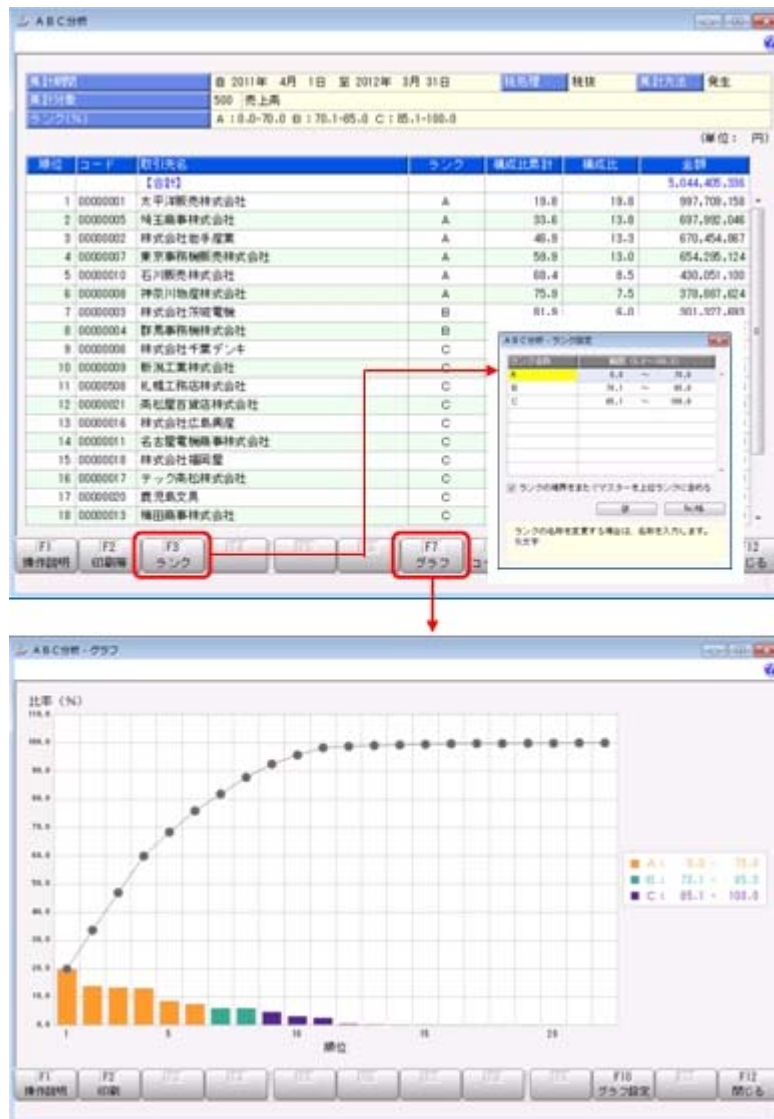
勘定科目（科目区分）の発生額・累計額を、部門や取引先などのマスターごとに集計し、金額の多い順に並べ替えて、A B Cのランクに分類し、パレート図を作成して分析するメニューです。

売上高に基づいて、取引先を順位づけし、「上位2割をAランク」といった分析を行うことで、重要な取引先や売上の低い取引先などを把握できるため、今後の経営戦略を立てる際に役立ちます。

※A B C等のランクは、最大15段階まで追加できます。

※一度ランク付けした後に、ひとつのランクをさらに掘り下げて、A B Cでランク付けできます。

▼イメージ図（ABC分析）



- モノクロプリンタでも、グラフの種類が見分けられるように網掛けで印刷できるように改善されました。

[グラフ印刷条件設定]画面の[グラフ印刷設定]ページで、グラフを網掛けに印刷できるようになりました。

これにより、モノクロで印刷した際に、グラフが塗りつぶされることなく、項目の見分けが付きやすくなりました。

▼イメージ図（グラフの網掛け）



《 関連メニュー 》

- ・ [分析帳票]-[推移表]メニューの各メニュー
- ・ [分析帳票]-[対比表]メニューの各メニュー
- ・ [分析帳票]-[ABC分析]メニュー

消費税申告

- 税区分明細表の印刷時に、基準フォントサイズ・金額のフォントサイズを設定できるようになりました。

[消費税申告]-[税区分明細表]メニューで、印刷時に、基準フォントサイズ・金額のフォントサイズを設定できるようになりました。

マスターごとに個別に設定しない場合に、共通の基準値を設定できます。

また、行の高さの補正もできるようになりました。

※フォントサイズは、[印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページで設定できます。

※行の高さは、[印刷等条件設定]画面の[印刷設定]ページで設定できます。

決算処理

- 決算報告書の表紙に印字される会社名や住所を、左寄せか中央揃えか選択できるようになりました。

[決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書]メニューで、表紙に印字される会社名や住所を、左寄せに印字するか中央揃えで印字するか、選択できるようになりました。

中央揃えで印字する場合は、[印刷等条件設定]画面の[会社情報]ページで、「会社情報を中央揃えで印字する」にチェックを付けます。

▼イメージ図（会社名や住所の印字）

○チェックを付けた場合



○チェックを付けない場合



※開始印字位置を揃えて中央に表示したい場合は、チェックを付けずに、各会社情報の前にスペースを入れます。

各会社情報の前に、スペースを入れます。

会社情報	
会社名1	〇〇〇商事株式会社
会社名2	
住所1	東京都新宿区西新宿6丁目8番1号
住所2	住友不動産新宿オークタワー
<input checked="" type="checkbox"/> 会社情報を中央揃えで印字する	



- 決算報告書の帳票様式ごとに、レイアウト（行の高さやフォントサイズ）を調整できるようになりました。

[決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書]メニューで、帳票様式ごとに、行の高さやフォントサイズを設定できるようになりました。

今までは帳票様式ごとに設定できなかったため、帳票様式ごとに調整が異なる場合は、数回に分けて印刷する必要がありました。

追加されたこの機能により、1度の設定で印刷ができます。

▼イメージ図（決算報告書のレイアウト調整）

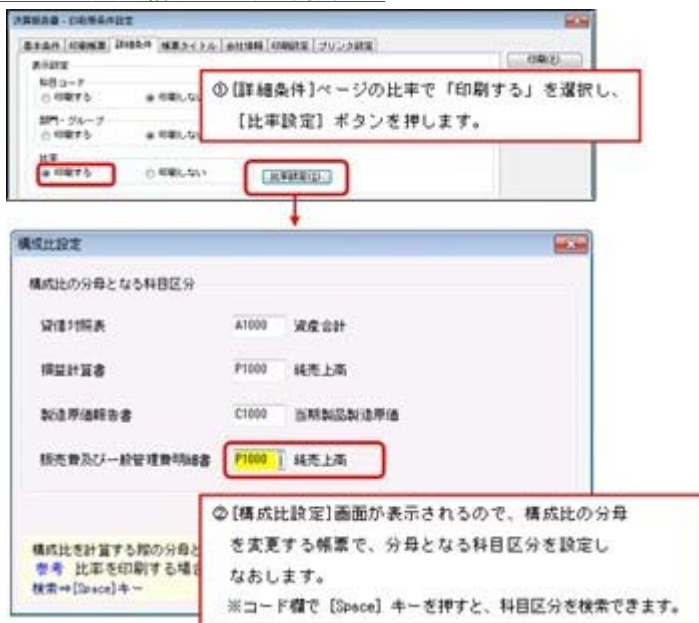


- 決算報告書の損益計算書の内訳帳票「製造原価報告書」「販売費及び一般管理費明細書」の構成比の分母に、損益計算書の科目区分も指定できるようになりました。

[決算処理]-[決算報告書]-[決算報告書]メニューで、損益計算書の内訳帳票「製造原価報告書」「販売費及び一般管理費明細書」の構成比の分母として、損益計算書の科目区分も指定できるようになりました。

例えば、「純売上高」なども指定できるようになりました。

▼イメージ図（構成比の分母指定）





- 決算報告書で、前年度に登録した注記を、今年度にコピーできるようになりました。

事業年度末の注記は、通常、年度末2～3カ月後に登録するため、新年度のデータを作成する時点では、注記内容は登録されておらず、自動的に新年度のデータへ内容を引き継ぐことができません。

この業務の流れを考慮し、[決算処理]-[決算報告書]-[注記登録]メニューで前年度に登録した注記内容を、今年度（新年度）の注記にコピーできるようになりました。

▼イメージ図（前年度の注記コピー）

The image shows a software interface for note registration. The top part is a dialog box titled '注記種類選択' (Note Type Selection). It has a table with columns 'コード' (Code) and '注記名' (Note Name). To the right of the table are buttons: '新規作成(N)' (New Creation), '前年度複写(P)' (Copy from Previous Year), and '検索(C)...' (Search...). The '前年度複写(P)' button is highlighted with a red rectangle. Below the dialog box, a red arrow points to a screenshot of the '個別注記表' (Individual Note Table). This table has a header with '行' (Row) and '注記内容' (Note Content). The first row is highlighted in yellow and contains the text '1. 重要な会計方針' (1. Important Accounting Policy). The second row contains '(1) 資産の評価基準及び評価方法' (1. Asset valuation standards and valuation methods). The third row contains '①有価証券等の評価基準及び評価方法' (① Valuation standards and valuation methods for securities, etc.). The fourth row contains 'ア 時価のあるもの' (A Items with fair value).

注記種類を選択し、[OK] ボタンをクリックし、新しい注記種類を作成するをクリックします。
詳細⇒[操作説明] ボタン

今年度（新年度）の[注記登録]メニューで、
[前年度複写]ボタンをクリックし、複写元として
前年度の注記を選択すると、今年度の注記に
前年度の内容が複写されます。
その後、異なる箇所だけ上書き修正します。

行	注記内容
1	1. 重要な会計方針
2	
3	(1) 資産の評価基準及び評価方法
4	
5	①有価証券等の評価基準及び評価方法
6	
7	ア 時価のあるもの

- 決算締め履歴で、締め履歴とは別に、遡及処理の履歴を確認できるようになりました。

[決算処理]-[締処理]-[決算締め履歴]メニューで、決算締めの履歴と遡及処理の履歴をあわせて確認できるようになりました。



- 部門グループとその内訳部門や階層情報を、転送・受入できるようになりました。

[随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成]-[部門グループデータ作成]メニュー・[随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入]-[部門グループデータ受入]メニューで、部門グループとその内訳部門や階層情報を、転送・受入できるようになりました。



- 勘定奉行21で作成した汎用データを受け入れる機能を改善しました。

今までは、例えば、『勘定奉行21』シリーズで転送する仕訳伝票データにおいて、摘要の文字にカンマ「,」が含まれている場合、当システムではスムーズに受け入れられないという問題がありました。

「固定長」が指定できるようになったことで、摘要の文字にカンマが含まれていても、問題なく受け入れられるようになりました。

※[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニューで、勘定奉行21形式のファイル形式「固定長」で作成された仕訳伝票データを受け入れられるようになりました。

[受入ファイル詳細設定]画面のファイル形式で「固定長」を選択すると、受け入れられます。

▼イメージ図（摘要の文字にカンマ）

額	摘 要
00,000	外販営業による,販売

このように、摘要にカンマ「,」が含まれている仕訳伝票データを受け入れる場合は、受け入れる際に、ファイル形式で「固定長」を選択すると、未受け入れになりません。

《 関連メニュー 》

- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニュー
- ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ受入]-[自動実行仕訳伝票データ受入]メニュー

- 仕訳伝票データ受入・定型仕訳データ受入の[受入結果確認]画面で、ファイル行数を確認できるようになりました。

[受入結果確認]画面で、伝票件数のほかに、ファイル行数も確認できるようになりました。

[受入結果確認]画面に表示されたファイル行数と、作成したファイルの行数との一致確認をすることで、正常受入の判断ができるようになりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[定型仕訳データ受入]メニュー
- ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ受入]-[自動実行仕訳伝票データ受入]メニュー

- 勘定科目履歴・科目区分履歴で、貸借区分の変更履歴を管理できるようになりました。

[随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[マスター履歴]-[勘定科目履歴]メニュー・[随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[マスター履歴]-[科目区分履歴]メニューで、貸借区分を変更した際の履歴管理ができるようになりました。

▼イメージ図（貸借区分の変更履歴）

勘定区分	勘定科目コード	勘定科目名	貸借区分	科目区分コード	科目区分名
新増	100	現金	借方	41200	現金計
新増	101	小口現金	借方	41200	現金計
新増	110	当座預金	借方	41200	現金計
新増	111	普通預金	借方	41200	現金計
新増	112	通知預金	借方	41200	現金計
新増	113	定期預金	借方	41200	現金計
新増	114	定期預金	借方	41200	現金計
新増	130	受取手形	借方	41300	当座貸戻計
新増	135	売掛金	借方	41300	当座貸戻計
新増	145	有価証券	借方	41300	当座貸戻計



- マスターデータを一括削除できるようになりました。

登録されている不要なマスターデータだけを一括で削除します。

これにより、例えば、既存のデータ領域を複数の会社間でテンプレートとして活用するような場合、「データ領域初期化」機能とあわせることで、各社で活用しやすいテンプレートデータを作成できます。

以下のマスターを一括削除できます。

- ・ 補助科目・部門・部門グループ
- ・ 取引先
- ・ セグメント 1 / 2

※セグメントは、『セグメント管理オプション』をお使いの場合に管理できます。

- ・ 摘要

《 追加メニュー 》

- ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括削除]-[補助科目データ一括削除] メニュー
 - ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括削除]-[部門データ一括削除] メニュー
 - ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括削除]-[部門グループデータ一括削除] メニュー
 - ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括削除]-[取引先データ一括削除] メニュー
 - ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括削除]-[セグメント1 データ一括削除] メニュー
 - ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括削除]-[セグメント2 データ一括削除] メニュー
- ※セグメントは、『セグメント管理オプション』をお使いの場合に管理できます。
- ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[マスターデータ一括削除]-[摘要データ一括削除] メニュー



- データ領域合算で、金額の合算方法として、貸借別に合算するか、残高を合算するかを選択できるようになりました。

[随時処理]-[データ領域合算]メニューで、金額の合算方法として、貸借別に合算（借方金額・貸方金額それぞれで合算）するか、残高を合算するかを選択できるようになりました。

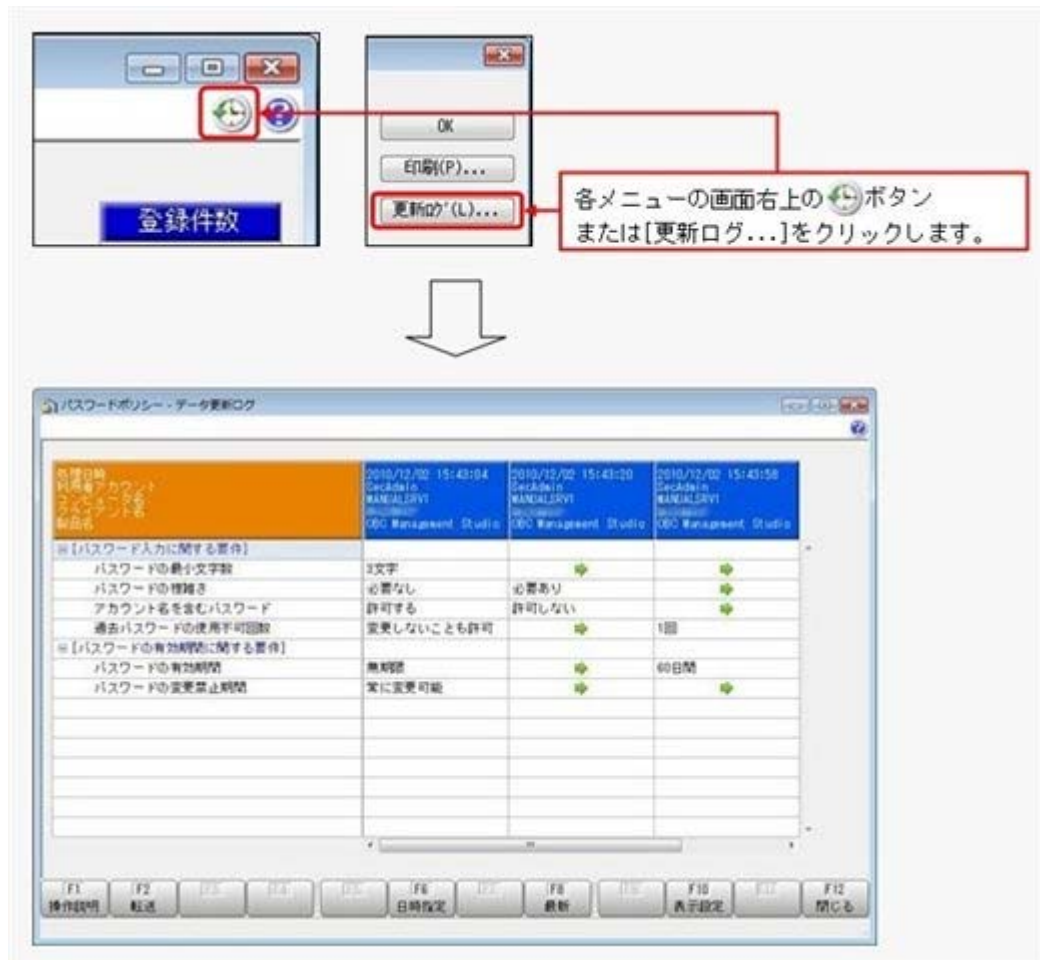
合算後に、合計残高試算表を活用する場合は、「貸借別」に合算します。

科目別推移表や決算報告書など、借方金額・貸方金額を別々に出力しない帳票だけ活用する場合は、「残高」で合算します。



- [会社運用設定]メニューおよび[セキュリティ管理]メニューなどに対して、過去に更新されたデータを一覧で確認できるようになりました。

[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューおよび[セキュリティ管理]-[セキュリティポリシー]の各メニュー)で、過去に更新されたデータの内容を時系列に一覧で確認できるようになりました。



《 関連メニュー 》

- ・ [導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニュー
- ・ [導入処理]-[会計期間設定]-[会計期間設定]メニュー
- ・ [セキュリティ管理]-[セキュリティポリシー]-[アカウントポリシー]メニュー
- ・ [セキュリティ管理]-[セキュリティポリシー]-[パスワードポリシー]メニュー
- ・ [セキュリティ管理]-[セキュリティポリシー]-[データ領域権限評価ポリシー]メニュー

- 「OBC専用モード」のバックアップデータを復元する際に、サイズを自動的に適正サイズに縮小する機能が追加されました。

[データ領域管理]-[バックアップ／復元]-[バックアップ復元]メニューまたは[データ領域管理]-[バックアップ／復元]-[バックアップ履歴]メニューから、「OBC専用モード」で作成したバックアップデータを復元する際に、データ領域やログ領域のサイズを、自動的に適正サイズに縮小する機能が追加されました。



- 自動実行結果をメールで通知する機能が追加されました。
＜『自動実行管理オプション』をお使いの場合＞

[スケジュール登録]画面の[通知設定]ページで、スケジュールが終了した時点で、メールで通知するかを設定できるようになりました。

また、メールで通知したい場合は、今回追加された[管理ツール]-[メールサーバー設定]メニューで、メールサーバーを設定する必要があります。

※複数の製品の『自動実行管理オプション』をお使いの場合、または、『BACKUP for 奉行』を併用してお使いの場合は、いずれか1つの製品でメールサーバーを設定すれば、自動的に他の製品にも同じ設定が反映されます。

※奉行V ERPシリーズの統合運用管理システム『OBC Management Studio』をお使いの場合は、当システムには[メールサーバー設定]メニューは表示されません。『OBC Management Studio』の[運用環境管理]-[メール設定]-[メールサーバー設定]メニューで、一括で設定します。

※『運用管理ツール』をお使いの場合は、当システムには[メールサーバー設定]メニューは表示されません。『運用管理ツール』の[運用環境管理]-[メールサーバー設定]メニューで、一括で設定します。

上記の機能は、『運用管理ツール』のバージョン1.51以降で追加されています。バージョン1.50以前の『運用管理ツール』をお使いの場合は、『運用管理ツール』のバージョン1.51以降をセットアップしてください。

- [スケジュール履歴]メニューの機能が強化されました。
＜『自動実行管理オプション』をお使いの場合＞

以下の機能が追加されました。

○[スケジュール履歴]画面に[詳細]ボタンが追加され、スケジュール履歴の詳細を確認することで、具体的な件数まで把握できます。

○今までは、サーバー用コンピュータにセットアップされている当システムだけしか、[自動実行管理]-[スケジュール履歴]メニューでログファイルを確認できませんでした。今回より、クライアント用コンピュータにセットアップされている当システムの[自動実行管理]-[スケジュール履歴]メニューでも、ログファイルを確認できるようになりました。

○[スケジュール履歴 - 条件設定]画面の[基本設定]ページに「失敗または未処理を含む履歴だけ表示する」が追加され、失敗した履歴だけを確認しやすくなりました。

- **スケジュールを実行した結果の判定が一部変更されました。**
＜『自動実行管理オプション』をお使いの場合＞

[自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[自動実行仕訳汎用データ作成]メニューでスケジュールを実行した結果、該当データがない場合は、今までは処理の結果を「失敗」にしていたですが、今回から「成功」に変更されました。

[スケジュール登録]画面の[実行設定]ページの「エラーが発生した場合は、処理を中断する」にチェックを付けている場合でも、該当データがない場合の後の処理が中断されなくなります。

- **仕訳伝票データの自動受入で、同一ファイルの二重受入を防止する機能が追加されました。**
＜『自動実行管理オプション』をお使いの場合＞

仕訳伝票データを受け入れる複数のスケジュールが同時に実行された場合、ファイルの受け入れ中はファイルをロックして、二重に受け入れされるのを防止します。

受け入れたファイルは、別フォルダへ移動されるため、結果、他のスケジュールでの受入対象から除外されます。

- **当システムのオプション製品を使用している場合に、当システムの奉行 i メニューから、オプション製品の情報も確認できるようになりました。**

当システムのオプション製品を使用している場合に、当システムの奉行 i メニューから、オプション製品の情報も確認できるようになりました。

※セットアップされているオプション製品に関して、当システムの奉行 i メニューから、オプション製品の保守サービスの加入状況等が確認できます。

- **XenApp 6.0/Windows Server 2003以降のターミナルサービス環境で運用している場合に、バックアップデータや汎用データを、クライアント用コンピュータに作成できるようになりました。**

＜『奉行V ERPシリーズ with Citrix Access』をお使いの場合＞

＜『奉行V ERPシリーズ with Terminal Service』をお使いの場合＞

＜『奉行V ERPシリーズ with Citrix Access & Terminal Service』をお使いの場合＞

今までは、XenApp 6.0/Windows Server 2003以降のターミナルサービス環境で運用している場合に、バックアップデータや汎用データを、自動マッピングされたクライアント用コンピュータのドライブに作成できませんでしたが、今回より作成できるようになりました。

仕訳伝票 Webオプション



- データ領域選択・会計期間の前回選択情報が、保持されるようになりました。

データ領域選択・会計期間の前回選択情報が保持されるようになり、都度選択する手間がかからなくなりました。

- 勘定科目・補助科目・部門・摘要に、インデックスでの検索機能が追加されました。

勘定奉行側と同様に、仕訳伝票の入力時、マスターを検索する際に、インデックスを使用して検索候補を絞り込むことができるようになりました。

コード	勘定科目名	インデックス
135	売上金	ウ
500	売上高	ウ
515	売上値引き及び戻り高	ウ
837	売上割引	ウ

- バージョン情報を確認できる画面を追加しました。

勘定奉行とは別に、『仕訳伝票Webオプション』のバージョン情報を確認できる画面を追加しました。

財務諸表照会 Webオプション



- データ領域選択・会計期間の前回選択情報が、保持されるようになりました。

データ領域選択・会計期間の前回選択情報が保持されるようになり、都度選択する手間がかからなくなりました。

- バージョン情報を確認できる画面を追加しました。


勘定奉行とは別に、『財務諸表照会Webオプション』のバージョン情報を確認できる画面を追加しました。






勘定奉行 **VERP**




機能アップガイド

Ver.1.51 / Ver.1.50



※  マークは、おすすめする機能アップ内容や、注目していただきたい変更内容になります。

	【メニュー体系】	
	メニューの名称および構成を変更しました。	4
	【帳票全般】	
	[会計帳票]メニューで、部門コードを範囲で指定できるようになり、簡単に複数部門の集計ができるようになりました。	4
	推移表や対比表を印刷する際に、行の高さの補正やフォントサイズの変更ができるようになりました。	4
	推移表を印刷する際に、列幅を補正することができるようになりました。	5
	網掛け印刷の有無を選択できるようになりました。	5
	【導入処理】	
	勘定科目・補助科目・部門・摘要に、インデックスでの検索機能が追加されました。	5
	[消費税基本登録]メニューに、税理士添付書面の設定項目を追加しました。	6
	[会社運用設定]メニューで、登録件数に応じた、セグメント検索画面の形式を選択できるようになりました。	7
	＜『セグメント管理オプション』をお使いの場合＞	
	[勘定科目登録]メニュー・[部門グループ登録]メニューなどに、ツリー階層を展開・縮小できるファンクションキーが追加されました。	7
	[勘定科目登録]メニューの操作性を改善しました。	7
	[科目体系登録]メニューなどにおける、勘定科目の表示順の並び替えの操作性を改善しました。	8
	[部門権限登録]メニューで、選択されている会計期間で無効な部門も含めて表示できるようになりました。	9
	【仕訳処理】	
	“見やすく” “情報の網羅性が高い” 仕訳伝票の印刷ができるようになりました。	10
	仕訳伝票を専用用紙（単票形式）に印刷する場合に、伝票間の補正ができるようになりました。	10
	仕訳伝票の「標準形式」の検索でも、前年度の伝票を検索し、複写できるようになりました。	10
	仕訳伝票の登録・更新履歴として、[仕訳処理]メニューも表示・印刷するように変更しました。	10
	仕訳伝票を検索する際の、「登録区分」の指定方法を変更しました。	11
	帳簿入力の各メニューでも、承認済・転記済の仕訳伝票を表示できるようになりました。	12
	帳簿入力の各メニューにおいて、「奉行21形式」のファンクションキーの配置でも、伝票区分を登録できるようになりました。	12
	[仕訳伝票予約]メニューで、定期的な仕訳伝票を事前に予約しておくことで、起票漏れを防げるようになりました。	12
	仕訳リストの簡易形式印刷（A4縦印刷）を追加しました。	13

【会計帳票】		
	[元帳]メニューで、印刷タイトル（ヘッダー）部分に出力させる自マスターについて、コードの出力の有無を設定できるようになりました。	13
	[日計表]メニューで、集計期間内に発生金額がある勘定科目だけを集計することができるようになりました。	13
	[合計残高試算表]メニューで、印刷・転送時に、勘定科目と科目区分コードの出力の有無を、別々に設定できるようになりました。	13
	[部門内訳表]メニューで、[部門グループ登録]メニューで設定した部門の並び順で出力できるようになりました。	14
	[セグメント内訳表]メニューで、[セグメントグループ登録]メニューで設定したセグメントの並び順で出力できるようになりました。 ＜『セグメント管理オプション』をお使いの場合＞	14
	[部門集計表]メニューで、部門単位（縦項目繰り返し列）の各科目の金額がすべて0の場合、その列自体を表示しないようにしました。	14
	[部門集計表]メニューで、集計対象が「グループ」の場合でも、合計金額列を表示できるようになりました。	14
	[集計表]メニューの各メニューで、合計金額列の表示の有無を設定表示できるようになりました。	14
【分析帳票】		
	[部門別推移表]メニューで、[部門グループ登録]メニューで設定した部門の並び順で出力できるようになりました。	14
	部門別の推移表・対比表メニューから、補助科目別・取引先別などの推移表・対比表へジャンプできるようになりました。	15
【予算管理】		
	[予算実績集計表]メニューで、部門単位（縦項目繰り返し列）の各科目の金額がすべて0の場合、その列自体を表示しないようにしました。	15
	[部門別予算実績対比表]メニューから、補助科目別予算実績対比表などへジャンプできるようになりました。	15
【消費税申告】		
	消費税申告書をモノクロプリンタで印刷した場合でも、税務署にそのまま提出・申告できるようになりました。	15
	平成22年度用の消費税申告書のレイアウトに対応しました。	16
	[消費税申告データ作成]メニューで、消費税申告データをファイルに出力できるようになりました。	16
	[電子申告]メニューに、国税の納付手続きを自宅やオフィスからインターネット経由などで電子的に行える機能が追加されました。	17
【随時処理】		
	複数のデータ領域の実績金額・予算金額を合算できるようになりました。	17
	[他システム連携]メニューで、「連結大王SUMMIT」連携を強化しました。	17
	[他システム連携]メニューで、「Diva Series」連携を強化しました。	17
【その他】		
	[バックアップ]メニューで、DB依存モードでのバックアップ先にもリムーバブルメディアドライブを指定できるように変更しました。	17

条件設定画面のコードの範囲指定で、1つのコードをスムーズに指定できるように改善しました。	18
[ヘルプ]・[マイページ]メニューの配置を移動しました。	18
奉行シリーズ以外の外部システムからも、自動実行スケジュールを使用できる機能を追加しました。	18
＜『自動実行管理オプション』をお使いの場合＞	
奉行21の『入金管理オプション』『支払管理オプション』のデータをデータコンバートできるようになりました。	19

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

メニュー体系

- メニューの名称および構成を変更しました。

[電子申告]-[利用者情報変更]メニューは[導入処理]メニューに移動し、メニュー名も変更しました。

変更前	変更後
[消費税申告]-[電子申告] - [利用者情報変更] - [利用者情報変更] - [電子証明書変更]	[導入処理] - [電子申告情報変更] - [納税者情報変更] - [納税者電子証明書変更]

帳票全般

- [会計帳票]メニューで、部門コードを範囲で指定できるようになり、簡単に複数部門の集計ができるようになりました。

今までは、確認する複数部門の集計パターンを、[導入処理]-[部門登録]-[部門グループ登録]メニューで事前に設定する必要がありましたが、部門コードを範囲指定できるようになり、簡単に複数部門の集計ができるようになりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票]-[元帳]メニュー
- ・ [会計帳票]-[日計表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[合計残高試算表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[内訳表]メニューの各メニュー

- 推移表や対比表を印刷する際に、行の高さの補正やフォントサイズの変更ができるようになりました。

行の高さを補正したり、集計結果部分のフォントサイズを変更することで、帳票の1ページ当たりの印刷行数を調整できるようになりました。

お客様の見やすさに合わせて調整できます。

※行の高さ・フォントサイズは、[印刷条件設定]画面の[印刷設定]ページなどで設定できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票]-[資金繰]-[資金繰明細表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[資金繰]-[資金繰実績推移表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[一覧表]-[取引先一覧表]メニュー
- ・ [分析帳票]-[推移表]メニューの各メニュー
- ・ [分析帳票]-[対比表]メニューの各メニュー
- ・ [予算管理]-[予算実績集計表]メニュー
- ・ [予算管理]-[予算実績対比表]メニューの各メニュー

● 推移表を印刷する際に、列幅を補正することができるようになりました。

列幅を補正することで、推移表の1ページあたりに出力する月数を調整できるようになりました。
印刷枚数も節約できます。

※列幅は、[印刷条件設定]画面の[印刷設定]ページで補正できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [分析帳票]-[推移表]メニューの各メニュー
- ・ [予算管理]-[予算実績対比表]メニューの各メニュー

● 網掛け印刷の有無を選択できるようになりました。

今まで必ず網掛けで印刷されていた帳票について、網掛けしない状態でも印刷できるようになりました。

プリンタのトナーを節約できます。

※網掛けは、[印刷条件設定]画面の[印刷設定]ページで設定できます。

《導入処理》

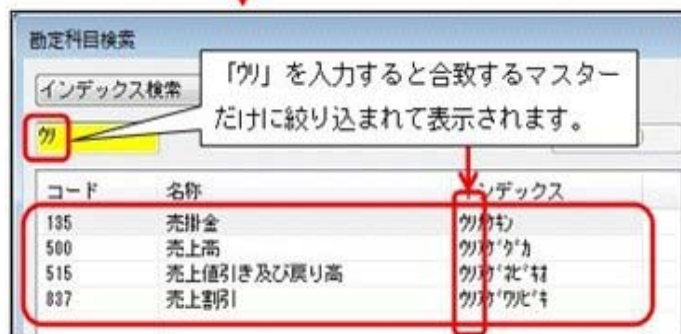
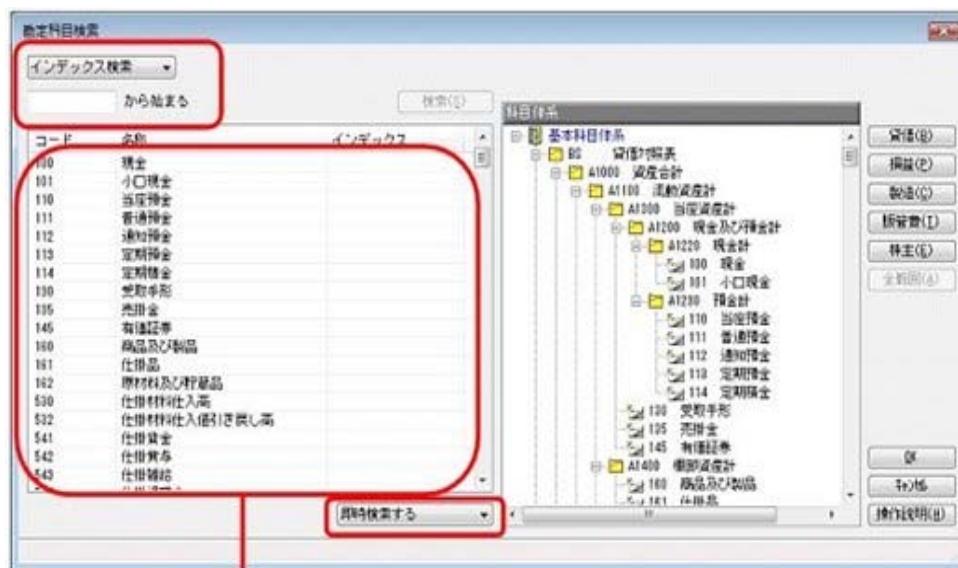
● 勘定科目・補助科目・部門・摘要に、インデックスでの検索機能が追加されました。

インデックスを登録しておく、仕訳伝票の入力時など、マスターを検索する際に、インデックスを使用して検索候補をリアルタイムに絞り込むことができます。

※リアルタイムな絞り込みは、即時検索の機能と組み合わせると実現でき、検索のスピードアップを図れます。

▼例

勘定科目検索を例に挙げて説明します。



図のように、検索画面で「インデックス検索」・「即時検索する」を選択し、「ウ」と入力すると、前方一致で1文字ずつ合致するマスターだけが絞り込まれます。

※「即時検索する」が選択されている場合だけ、リアルタイムにマスターが絞り込まれます。

※他のマスターのインデックス検索も同様です。

《 関連メニュー 》

- ・[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニュー
- ・[導入処理]-[科目体系登録]-[勘定科目登録]メニュー
- ・[導入処理]-[科目体系登録]-[補助科目登録]メニュー
- ・[導入処理]-[部門登録]-[部門登録]メニュー
- ・[導入処理]-[摘要登録]メニュー

● [消費税基本登録]メニューに、税理士添付書面の設定項目を追加しました。

税理士添付書面（税理士法第30条の書面など）の提出有無に関する設定項目を追加しました。

今までは、[消費税申告書]メニューで設定していましたが、税理士署名と同様、[導入処理]-[消費税基本登録]-[消費税基本登録]メニューの[税理士設定]ページで設定するようになりました。

- [会社運用設定]メニューで、登録件数に応じた、セグメント検索画面の形式を選択できるようになりました。

＜『セグメント管理オプション』をお使いの場合＞

当システムで管理するセグメントの件数が何万件にもなる場合は、セグメント検索画面の形式（[導入処理]-[運用設定]-[会社運用設定]メニューの[基本設定]ページで設定）で「拡張検索」を選択すると、仕訳伝票の入力時などにセグメントを検索する際、検索画面をスムーズに表示できます。

- [勘定科目登録]メニュー・[部門グループ登録]メニューなどに、ツリー階層を展開・縮小できるファンクションキーが追加されました。

[導入処理]-[科目体系登録]-[勘定科目登録]メニュー・[導入処理]-[部門登録]-[部門グループ登録]メニューなどに、**展開**（〔F5〕キー）・**縮小**（〔F6〕キー）が追加されました。

展開を押すと、すべての階層を展開します。
縮小を押すと、第一階層の科目区分（部門グループ）を表示し、第二階層以下を縮小します。

これにより、特定の勘定科目・科目区分（部門・部門グループ）を見つけやすくなります。

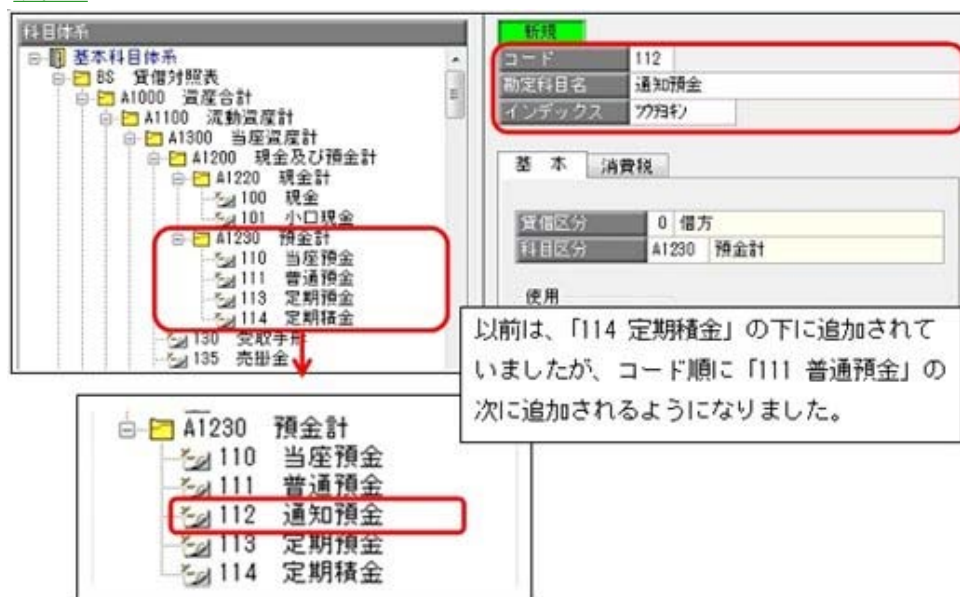


- [勘定科目登録]メニューの操作性を改善しました。

[導入処理]-[科目体系登録]-[勘定科目登録]メニューの操作性の改善点は、以下のとおりです。

- 登録、修正した勘定科目にカーソル位置を保持する
 登録、修正した勘定科目にカーソル位置が保持されるため、連続で勘定科目をメンテナンスしやすくなりました。
- 勘定科目を登録、修正しても、集約されたツリー階層を展開しない
 勘定科目を登録、修正しても、集約されたツリー階層が展開されないため、整理されたツリー上でメンテナンスできます。
- 追加した勘定科目をコード順に配置する
 勘定科目を追加した際に、自動的にコード順に配置されるようになりました。
 今までは、属する階層の一番下に配置されていたため、コード順に並べる場合は、[導入処理]-[科目体系登録]-[科目体系登録]メニューで配置を修正する必要がありました。

▼改善例



◀ 関連メニュー ▶

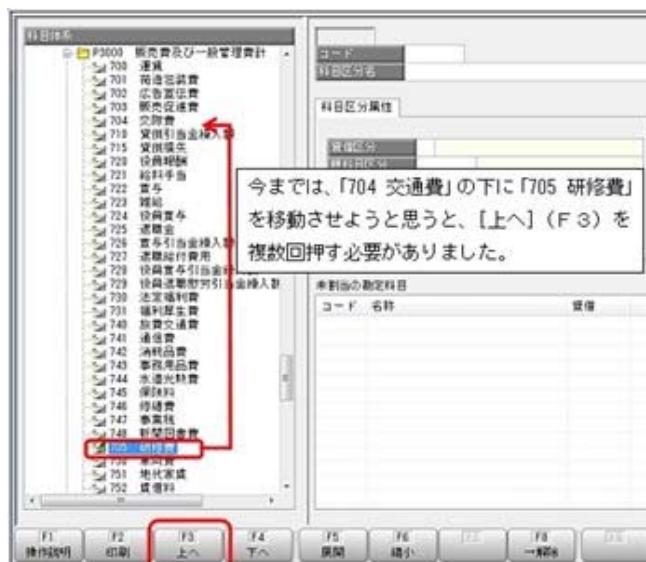
[勘定科目登録]メニューと同様に、操作性を改善しました。

- ・[導入処理]-[部門登録]-[部門グループ登録]メニュー
 - ・[導入処理]-[セグメント登録]-[セグメント1／2グループ登録]メニュー
- ※『セグメント管理オプション』をお使いの場合に使用できます。

- [科目体系登録]メニューなどにおける、勘定科目の表示順の並び替えの操作性を改善しました。

今までは、勘定科目をコード順に並び替えるために、上へ（[F3]キー）や下へ（[F4]キー）を押してメンテナンスする必要がありましたが、下図のように、ドラッグ&ドロップでコード順に並び替えられるようになりました。

また、科目区分に、新規に勘定科目を割り当てた場合も、コード順を考慮して表示されるようになりました。



《 関連メニュー 》

- ・ [導入処理]-[科目体系登録]-[科目体系登録]メニュー
- ・ [導入処理]-[出力様式登録]-[出力様式登録]メニュー

- [部門権限登録]メニューで、選択されている会計期間で無効な部門も含めて表示できるようになりました。

[導入処理]-[権限登録]-[部門権限登録]メニューで、選択されている会計期間で有効な部門だけを表示するか、無効な部門も含めて表示するかを選択できるようになりました。

※この選択は、[条件設定]画面で、部門を指定せずに[部門権限登録]画面を表示させた場合に設定できます。

- “見やすく” “情報の網羅性が高い” 仕訳伝票の印刷ができるようになりました。

○『勘定奉行21』で使用していた以下の専用用紙にも、部門コード・部門名の印刷ができるようになりました。

- ・ [3381]単票仕訳伝票（OBCコクヨ式）
- ・ [3382]単票仕訳伝票（OBC7行）
- ・ [3371]連続仕訳伝票（OBCコクヨ式）
- ・ [3372]連続仕訳伝票（OBC7行）

○すべての専用用紙に、税率・税区分・事業区分の印刷の有無の設定できるようになりました。

※奉行21シリーズと同様の仕様になりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニュー

- 仕訳伝票を専用用紙（単票形式）に印刷する場合に、伝票間の補正ができるようになりました。

仕訳伝票を専用用紙（単票形式）に印刷する場合に、プリンタの機種によってインクを乾かす熱で用紙が伸縮することにより、2枚目以降の印字位置があわないことがあります。

今回の伝票間補正機能により、印字ずれを簡単に調整できます。プリンタ設定の「余白・位置調整」とあわせてお使いください。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニュー

- 仕訳伝票の「標準形式」の検索でも、前年度の伝票を検索し、複写できるようになりました。

仕訳伝票の「標準形式」の検索でも、会計期間を選択し直すことなく前年度の伝票を検索できるようになりました。

前年度の仕訳伝票の複写や振戻仕訳（反対仕訳）を登録する際に有効な機能です。

※「標準形式」は、『勘定奉行21シリーズ』相当の検索画面形式です。

検索画面形式は、[仕訳処理]-[仕訳処理]メニューの[仕訳処理 - 設定]画面の[運用設定]ページで設定します。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]メニューの各メニュー

- 仕訳伝票の登録・更新履歴として、[仕訳処理]メニューも表示・印刷するように変更しました。

仕訳伝票を入力する画面の右下に、登録・更新履歴として処理メニューの名称が表示されますが、今回から[仕訳処理]-[仕訳処理]メニューの場合も出力するように変更しました。

今までは、処理メニューが[仕訳処理]メニュー以外のおきだけ表示していましたが、[仕訳処理]-[帳簿入力]メニューの追加など、複数メニューから仕訳伝票を手入力できるようになったことに伴う変更です。



《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]メニューの各メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票仮締め後修正]メニュー
- ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[決算仮締め後仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー
- ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー
- ※『自動実行管理オプション』をお使いの場合に使用できます。
- ・ [随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[仕訳伝票]メニュー
- ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[仕訳伝票一括削除]メニュー

● 仕訳伝票を検索する際の、「登録区分」の指定方法を変更しました。

今までは、登録済みの仕訳伝票で利用されている登録区分だけを一覧で表示していましたが。今後は、セットアップ済みの奉行シリーズ・オプション製品に応じて、関連のある登録区分を分類ごとに区分けして表示するように変更したので、選択しやすくなりました。



《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]メニューの各メニュー
 - ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
 - ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[仕訳伝票仮締め後修正]メニュー
 - ・ [決算処理]-[締処理]-[決算仮締め後修正]-[仕訳伝票]-[決算仮締め後仕訳伝票リスト]メニュー
 - ・ [随時処理]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー
 - ・ [自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー
- ※『自動実行管理オプション』をお使いの場合に使用できます。
- ・ [随時処理]-[電子帳簿変更履歴]-[仕訳伝票]メニュー
 - ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[仕訳伝票データ一括変更]-[仕訳伝票一括削除]メニュー

- 帳簿入力の各メニューでも、承認済・転記済の仕訳伝票を表示できるようになりました。

[仕訳処理]-[帳簿入力]メニューの各メニューでも、承認済・転記済の仕訳伝票を表示できるようになりました。その伝票を複写して、仕訳伝票を登録できます。

- 帳簿入力の各メニューにおいて、「奉行21形式」のファンクションキーの配置でも、伝票区分を登録できるようになりました。

[仕訳処理]-[帳簿入力]メニューの各メニューにおいて、「奉行21形式」のファンクションキーの配置でも、伝票区分も登録できるようになったので、キーボードだけで仕訳伝票のすべての情報を入力できるようになりました。

- [仕訳伝票予約]メニューで、定期的な仕訳伝票を事前に予約しておくことで、起票漏れを防げるようになりました。

[仕訳処理]-[仕訳伝票予約]メニューで、毎月定期的に発生する家賃や通信費、リース支払などの仕訳伝票を事前に予約することで、予約日が到来すると、当システムの起動時にメッセージが表示され、そのまま仕訳伝票の登録へと導く機能が追加されました。
起票漏れを防げるとともに、定型仕訳をもとに起票できるので、入力作業の軽減にもなります。

- 仕訳リストの簡易形式印刷（A4縦印刷）を追加しました。

仕訳伝票リストを「A4縦」用紙に「伝票形式」で印刷することで、「伝票計」のチェックが容易にできます。

[仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニューの[印刷条件設定]画面で、簡易形式の印刷方向で「縦形式」を選択します。

会計帳票

- [元帳]メニューで、印刷タイトル（ヘッダー）部分に出力させる自マスターについて、コードの出力の有無を設定できるようになりました。

[会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニューの[印刷条件設定]画面に、「印刷タイトル（自マスター）のXXXコードを出力する」の設定が追加されました。

※上記設定の追加に伴い、既存の「〇〇〇コードを出力する」を「明細行のXXXコードを出力する」に変更しました。

※XXXには、各マスターの名称が入ります。

- [日計表]メニューで、集計期間内に発生金額がある勘定科目だけを集計することができるようになりました。

取引のある勘定科目だけ集計されるので、金額のチェックがしやすくなりました。

「印刷行数の削減（＝印刷枚数の削減）」にもつながります。

また、既存の「金額が0の勘定科目を表示する設定」に代わって、以下の設定が[条件設定]画面の[詳細条件]ページに追加されました。

金額が0の場合の出力設定	
<input checked="" type="radio"/>	指定された日付範囲に発生金額がある場合だけ出力する
<input type="radio"/>	発生金額がなくても、残高が0でない場合は出力する
<input type="radio"/>	指定された範囲すべての科目を無条件で出力する

- [合計残高試算表]メニューで、印刷・転送時に、勘定科目と科目区分コードの出力の有無を、別々に設定できるようになりました。

今までは、勘定科目と科目区分コードの出力の有無の設定は、共通で1つでしたが、別々に設定できるようになりました。

設定は、[印刷等条件設定]画面の[基本設定]ページに追加されています。

変更前

出力設定	
<input type="checkbox"/>	コードを出力する

変更後

出力設定	
<input type="checkbox"/>	勘定科目コードを出力する
<input type="checkbox"/>	科目区分コードを出力する

- **[部門内訳表]メニューで、[部門グループ登録]メニューで設定した部門の並び順で出力できるようになりました。**

[会計帳票]－[内訳表]－[部門内訳表]メニューで、[導入処理]－[部門登録]－[部門グループ登録]メニューで設定した部門の並び順で出力できるようになり、部門の内訳金額をさらに確認しやすくなりました。

※今までどおり、コード順でも出力できます。

- **[セグメント内訳表]メニューで、[セグメントグループ登録]メニューで設定したセグメントの並び順で出力できるようになりました。**

＜『セグメント管理オプション』をお使いの場合＞

[会計帳票]－[内訳表]－[セグメント内訳表]メニューで、[導入処理]－[セグメント登録]－[セグメントグループ登録]メニューで設定したセグメントの並び順で出力できるようになり、セグメントの内訳金額をさらに確認しやすくなりました。

※今までどおり、コード順でも出力できます。

- **[部門集計表]メニューで、部門単位（縦項目繰り返し列）の各科目の金額がすべて0の場合、その列自体を表示しないようにしました。**

[会計帳票]－[集計表]－[部門集計表]メニューで、確認する必要のない列（各科目の金額がすべて0の列）を非表示にすることで、「金額を確認・比較しやすい帳票」「横長にならない帳票（＝印刷時の改ページを抑える）」を実現しました。

なお、個別に部門を指定した場合は、金額が0の場合でも列を表示します。

- **[部門集計表]メニューで、集計対象が「グループ」の場合でも、合計金額列を表示できるようになりました。**

集計対象が「グループ」の場合でも、「部門」の場合と同様に、合計金額列を表示できるようになりました。

- **[集計表]メニューの各メニューで、合計金額列の表示の有無を設定表示できるようになりました。**

部門や、グループで内訳部分を表示する場合には、今までは必ず合計金額列を表示していましたが、表示の有無を設定できるようになりましたので、不要な場合には非表示にできます。

《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票]－[集計表]－[部門集計表]メニュー
- ・ [会計帳票]－[集計表]－[補助科目集計表]メニュー
- ・ [会計帳票]－[集計表]－[取引先集計表]メニュー
- ・ [会計帳票]－[集計表]－[摘要集計表]メニュー

分析帳票

- **[部門別推移表]メニューで、[部門グループ登録]メニューで設定した部門の並び順で出力できるようになりました。**

[分析帳票]－[推移表]－[部門別推移表]メニューで、[導入処理]－[部門登録]－[部門グループ登録]メニューで設定した部門の並び順で出力できるようになり、部門の内訳金額をさらに確認しやすくなりました。

※今までどおり、コード順でも出力できます。

- 部門別の推移表・対比表メニューから、補助科目別・取引先別などの推移表・対比表へジャンプできるようになりました。

[分析帳票]-[推移表]-[部門別推移表]メニューから、補助科目別推移表・取引先別推移表・セグメント別推移表へジャンプできるようになりました。

また、[分析帳票]-[対比表]-[部門別対比表]メニューからも、補助科目別対比表・取引先別対比表・セグメント別対比表へジャンプできるようになりました。

これにより、「全社」⇒「部門別」⇒「取引先別」（「補助科目別」・「セグメント別」）と、金額を追跡できるようになりました。

※セグメント別推移表・セグメント別対比表は、『セグメント管理オプション』をお使いの場合に使用できます。

予算管理

- [予算実績集計表]メニューで、部門単位（縦項目繰り返し列）の各科目の金額がすべて0の場合、その列自体を表示しないようにしました。

[会計帳票]-[集計表]-[部門集計表]メニューで、確認する必要のない列（各科目の金額がすべて0の列）を非表示にすることで、「金額を確認・比較しやすい帳票」「横長にならない帳票（＝印刷時の改ページを抑える）」を実現しました。

なお、個別に部門を指定した場合は、金額が0の場合でも列を表示します。

- [部門別予算実績対比表]メニューから、補助科目別予算実績対比表などへジャンプできるようになりました。

[予算管理]-[予算実績対比表]-[部門別予算実績対比表]メニューから、補助科目別予算実績対比表・セグメント別予算実績対比表へとジャンプできるようになりました。

これにより、「全社」⇒「部門別」⇒「補助科目別」（「セグメント別」）と、金額を追跡できるようになりました。

※セグメント別予算実績対比表は、『セグメント管理オプション』をお使いの場合に使用できます。

消費税申告

- 消費税申告書をモノクロプリンタで印刷した場合でも、税務署にそのまま提出・申告できるようになりました。

今までは、モノクロプリンタで、OCR用紙の形式（[消費税申告]-[消費税申告書]メニューの[印刷条件設定]画面の[基本設定]ページで選択）で印刷した消費税申告書は、税務署にそのまま提出・申告できなかったため、税務署から送付されたOCR用紙に手書きで金額などの情報を転記する必要がありました。

今後は、当システムからモノクロプリンタで印刷したOCR用紙の形式の消費税申告書も、税務署にそのまま提出・申告できます。

※なお、税務署が用意している「モノクロ印刷用のOCR用紙」と「カラー印刷用のOCR用紙」は、印刷レイアウトが異なります。当システムでは、印刷レイアウトの相違にも対応していますので、そのまま税務署に提出できます。

- 平成22年度用の消費税申告書のレイアウトに対応しました。

「翌年以降送付不要」欄の項目が追加されました。

この欄は、『勘定奉行』など市販の財務会計システムの使用などにより、税務署から翌年以降の消費税申告書用紙（手書き用）の送付を不要とする場合に、チェックを付けます。

- [消費税申告データ作成]メニューで、消費税申告データをファイルに出力できるようになりました。

e-TaxソフトやPCdeskなど、他のシステムから電子申告を行う際に使用するファイルを出力できるようになりました。

[消費税申告]-[電子申告]-[消費税申告データ作成]メニューで、電子申告データを作成した際に、**ファイル出力**をクリックして出力します。

- **[電子申告]メニューに、国税の納付手続きを自宅やオフィスからインターネット経由などで電子的に行える機能が追加されました。**

[消費税申告]-[電子申告]-[消費税電子納税]メニューで、国税の納税手続きを自宅やオフィスからインターネット経由で行えます。

金融機関の窓口まで出向く必要がないため、金融機関の場所や受付時間などの制約がなくなります。

随時処理

- **複数のデータ領域の実績金額・予算金額を合算できるようになりました。**

[随時処理]-[データ領域合算]メニューで、複数のデータ領域の実績金額・予算金額を合算できるようになりました。

複数のグループ会社の会計データを集計し、データを分析したい場合に利用できます。合算先のデータ領域では、グループ企業全体の金額の確認や分析ができます。

複数のデータ領域を「部門」として合算することもできるため、部門集計表などでグループ会社別の金額も比較・確認できます。

◀ 追加メニュー ▶

- ・ [データ領域管理]-[合算データ領域作成]メニュー

- **[他システム連携]メニューで、「連結大王SUMMIT」連携を強化しました。**

[随時処理]-[他システム連携]メニューで、「連結大王SUMMIT」連携を強化し、以下の2つの情報を連携データとして追加しました。

- ・ 部門集計表情報
- ・ マスター情報ファイル「部門」の情報

- **[他システム連携]メニューで、「Diva Series」連携を強化しました。**

[随時処理]-[他システム連携]メニューで、「Diva Series」連携を強化し、以下の2つの条件を追加しました。

- ・ 月次単位での連携
- ・ 金額の集計方法（発生・累計）

なお、『Diva Series』は、『DivaSystem』に名称を変更しました。

その他

- **[バックアップ]メニューで、DB依存モードでのバックアップ先にもリムーバブルメディアドライブを指定できるように変更しました。**

[随時処理]-[バックアップ]メニュー、[データ領域管理]-[バックアップ/復元]-[一括バックアップ]メニューで、OBC専用モードだけでなくDB依存モードでのバックアップ先にも、「USBフラッシュドライブ（USBメモリ）」や「MOドライブ」などのリムーバブルメディアドライブを指定できるようになります。

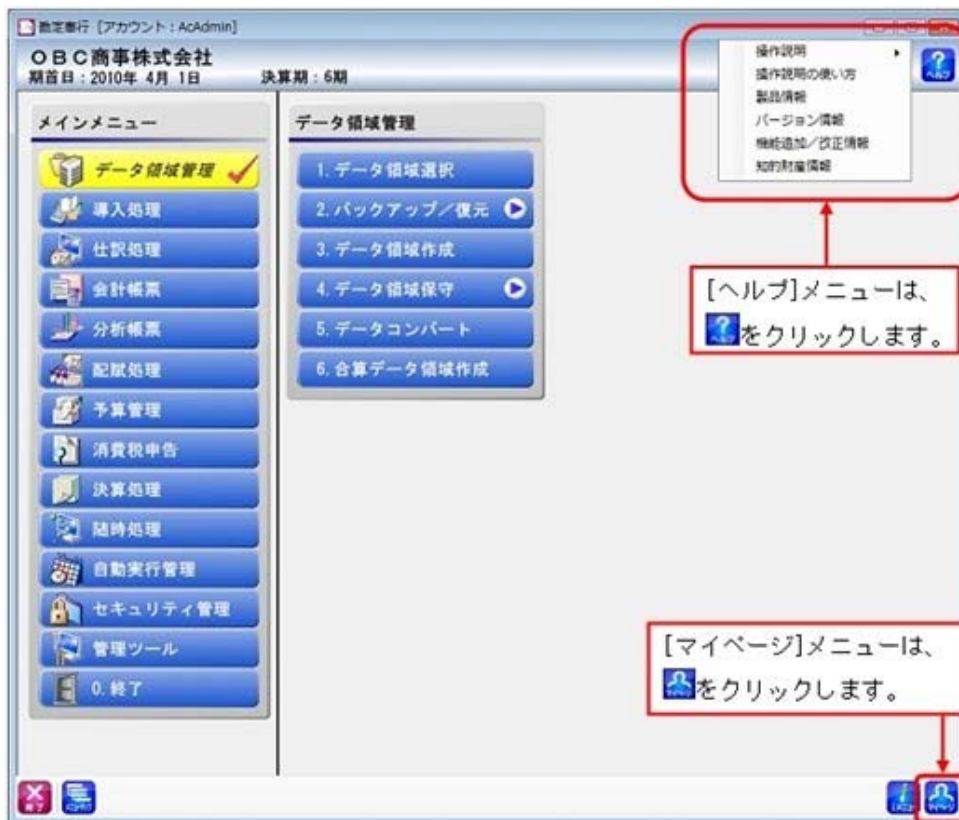
- 条件設定画面のコードの範囲指定で、1つのコードをスムーズに指定できるように改善しました。

条件設定画面のコードの範囲指定において、「終了コード」を空欄にして[Enter]キーで確定すると、「開始コード」と同じコードが「終了コード」欄にもセットされるようになります。これにより、1つのコードを指定する際に、よりスムーズに指定できるようになります。



- [ヘルプ]・[マイページ]メニューの配置を移動しました。

[ヘルプ]メニューを、メインメニューの中から、メニュー画面の右上に移動します。
[マイページ]メニューを、メインメニューの中から、メニュー画面の右下に移動します。



- 奉行シリーズ以外の外部システムからも、自動実行スケジュールを使用できる機能を追加しました。

<『自動実行管理オプション』をお使いの場合>

当システムの[自動実行管理]メニューで登録したスケジュールを、奉行シリーズ以外の外部システムからも実行できるようになります。

※外部システム側から、一定のパラメータを渡すことで、スケジュールを実行できます。

- 奉行21の『入金管理オプション』『支払管理オプション』のデータをデータコンバートできるようにしました。

<『入金管理オプション for 勘定奉行V』をお使いの場合>

<『支払管理オプション for 勘定奉行V』をお使いの場合>

<『債権管理Proオプション for 勘定奉行V』をお使いの場合>

<『債務管理Proオプション for 勘定奉行V』をお使いの場合>

<『債権管理オプション for 勘定奉行V』をお使いの場合>

<『債務管理オプション for 勘定奉行V』をお使いの場合>

奉行21の『入金管理オプション』『支払管理オプション』のデータを、[データ領域管理]-[データコンバート]メニューでコンバートできるようになりました。

詳細は、「データコンバートマニュアル」をご確認ください。

勘定奉行 **VERP**

機能アップガイド

Ver.1.24



機能追加／改正情報

注 意

- 以前の変更内容については、プログラムが変更された時点の内容で記載されているため、メニュー名や画面などが当時の内容で記載されています。
- 機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

Ver. 1.24 変更内容

[メニューの名称および構成を変更しました。](#)

[導入時点での開始残高を確定する機能を追加しました。](#)

[『債権管理オプション』『債務管理オプション』などで自動作成された伝票の摘要だけ修正できるように変更しました。](#)

[法人税等の電子申告における添付書類「財務諸表\(XBRL\)」データを作成できるようになりました。](#)

[連携可能なシステムに『達人シリーズ』が追加されました。](#)

[奉行21・奉行21 Ver. II のすべてのバージョンの会社データをデータコンバートできるようになりました。](#)

機能追加／改正情報

Ver. 1.24 変更内容の詳細

《メニュー体系》

● メニューの名称および構成を変更しました。

メニューの順序および構成を変更しました。

[電子申告]メニューは、[消費税申告]-[電子申告]メニューに移動しました。

変更前	変更後
<ul style="list-style-type: none">[予算管理][消費税申告][決算処理][電子申告]<ul style="list-style-type: none">↳ [消費税]<ul style="list-style-type: none">↳ [消費税申告データ作成]↳ [消費税署名付与]↳ [消費税申告データ送信]↳ [国税メッセージボックス確認]↳ [利用者情報変更]<ul style="list-style-type: none">↳ [利用者情報変更]↳ [電子証明変更][ワークフロー管理][随時処理]	<ul style="list-style-type: none">[予算管理][消費税申告]<ul style="list-style-type: none">↳ [電子申告]<ul style="list-style-type: none">↳ [消費税申告データ作成]↳ [消費税署名付与]↳ [消費税申告データ送信]↳ [国税メッセージボックス確認]↳ [利用者情報変更]<ul style="list-style-type: none">↳ [利用者情報変更]↳ [電子証明変更][決算処理][ワークフロー管理][随時処理]

メニューの名称を変更しました。

変更前	変更後
[導入処理]-[残高入力]-[期首残高入力]-[期首残高入力]	[導入処理]-[残高入力]-[開始残高入力]-[開始残高入力]
[導入処理]-[残高入力]-[期首残高入力]-[期首残高一括振替]	[導入処理]-[残高入力]-[開始残高入力]-[開始残高一括振替]
[導入処理]-[残高入力]-[期首残高入力]-[期首残高入力補助]-[期首残高入力制限]	[導入処理]-[残高入力]-[開始残高入力]-[開始残高入力補助]-[開始残高入力制限]
[導入処理]-[残高入力]-[期首残高入力]-[期首残高入力補助]-[利用者別期首残高入力設定]	[導入処理]-[残高入力]-[開始残高入力]-[開始残高入力補助]-[利用者別開始残高入力設定]
[随時処理]-[汎用データ作成]-[金額データ作成]-[期首残高データ作成]	[随時処理]-[汎用データ作成]-[金額データ作成]-[開始残高データ作成]
[随時処理]-[汎用データ受入]-[金額データ受入]-[期首残高データ受入]	[随時処理]-[汎用データ受入]-[金額データ受入]-[開始残高データ受入]
[随時処理]-[データ一括変更]-[金額データ一括変更]-[期首残高一括削除]	[随時処理]-[データ一括変更]-[金額データ一括変更]-[開始残高一括削除]

<『外貨入力オプション』をお使いの場合>

外貨入力オプションのメニューの名称を変更しました。

変更前	変更後
[導入処理]-[残高入力]-[期首残高入力]-[外貨別期首残高入力]	[導入処理]-[残高入力]-[開始残高入力]-[外貨別開始残高入力]
[随時処理]-[汎用データ作成]-[金額データ作成]-[外貨別期首残高データ作成]	[随時処理]-[汎用データ作成]-[金額データ作成]-[外貨別開始残高データ作成]
[随時処理]-[汎用データ受入]-[金額データ受入]-[外貨別期首残高データ受入]	[随時処理]-[汎用データ受入]-[金額データ受入]-[外貨別開始残高データ受入]

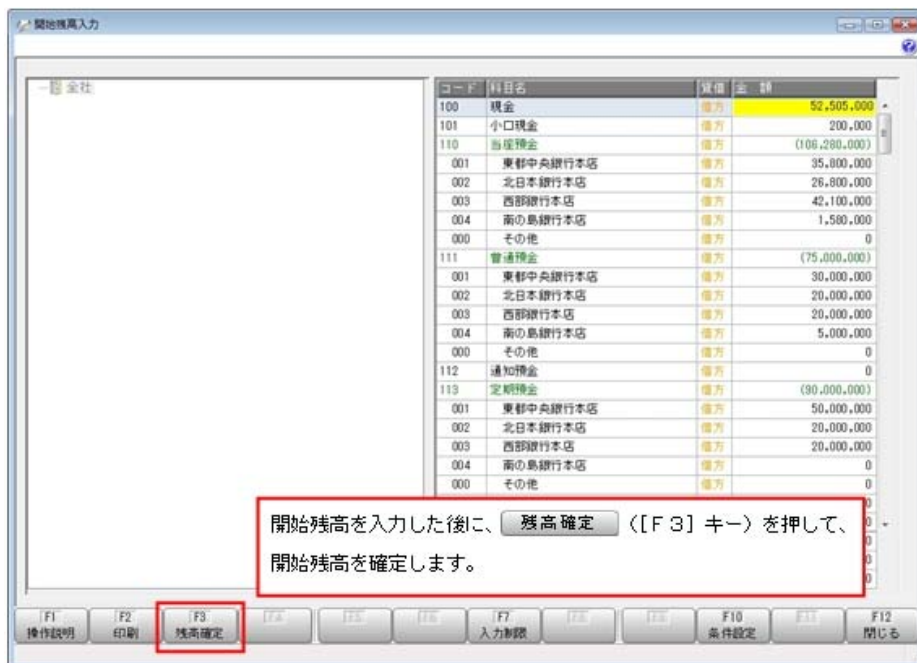
《導入処理》

- 導入時点での開始残高を確定する機能を追加しました。

[開始残高]メニューで開始残高確定処理を行うと、今年度の期首残高に変更が入らないことが保証されます。また、翌年度以降、前年度の残高が翌年度の期首残高に引き継がれることが保証されます。

参 考

開始残高の確定後は、残高のマスター間の振り替えや訂正は、「仕訳伝票」を通じて行います。



《関連メニュー》

○開始残高確定処理を実行し残高を確定すると、以下のメニューで期首残高の登録や修正ができなくなります。

※印刷と参照はできます。

- ・ [導入処理]-[残高入力]-[開始残高入力]-[開始残高入力]メニュー
- ・ [導入処理]-[残高入力]-[開始残高入力]-[外貨別開始残高入力]メニュー

※このメニューは、『外貨入力オプション』をお使いの場合に使用できます。

○開始残高確定処理を実行し残高を確定すると、以下のメニューは非表示になります。期首残高の振り替えや受け入れ、一括削除ができません。

- ・ [導入処理]-[残高入力]-[開始残高入力]-[開始残高一括振替]メニュー
- ・ [導入処理]-[残高入力]-[開始残高入力]-[開始残高入力補助]-[開始残高入力制限]メニュー
- ・ [導入処理]-[残高入力]-[開始残高入力]-[開始残高入力補助]-[利用者別開始残高入力設定]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[金額データ受入]-[開始残高データ受入]メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[金額データ受入]-[外貨別開始残高データ受入]メニュー

※このメニューは、『外貨入力オプション』をお使いの場合に使用できます。

- ・ [随時処理]-[データ一括変更]-[金額データ一括変更]-[開始残高一括削除]メニュー

《仕訳処理》

- 『債権管理オプション』『債務管理オプション』などで自動作成された伝票の摘要だけ修正できるように変更しました。

今までは、[会社運用設定]メニューの「他システム登録伝票編集許可」の設定が「1：編集を許可する」の場合、すべての明細項目を修正できましたが、以下のオプション製品で自動作成された伝票については、摘要だけ修正できるように変更しました。

《 対象オプション製品 》

- ・『債権管理オプション（Proも含む）』『債務管理オプション（Proも含む）』
- ・『入金管理オプション』『支払管理オプション』
- ・『受取手形管理オプション』『支払手形管理オプション』
- ・『資金管理オプション』
- ・『本支店会計オプション』

《 決算処理 》

- 法人税等の電子申告における添付書類「財務諸表 (XBRL)」データを作成できるようになりました。

《 関連メニュー 》

- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[電子申告]-[電子申告科目設定]メニュー
電子申告するために、電子申告用の定められた科目に勘定奉行の決算報告書科目を関連付けます。
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[電子申告]-[電子申告注記登録]メニュー
電子申告するために、電子申告用の定められた形式で注記項目を作成します。
- ・ [決算処理]-[決算報告書]-[電子申告]-[電子申告データ作成[財務諸表]]メニュー
法人税の電子申告の添付書類「財務諸表 (XBRL)」を作成します。
『申告奉行[法人税・地方税編]』や『e-Taxソフト』で申告する際に、このメニューで作成した添付書類「財務諸表 (XBRL)」を使用します。

《 随時処理 》

- 連携可能なシステムに『達人シリーズ』が追加されました。

連携可能なシステムに、税務申告ソフト『達人シリーズ（法人税、内訳書、概況書、消費税）』が追加されました。

[他システム連携]メニューで作成したファイルを、『達人シリーズ』で受け入れることができます。

《 その他 》

- 奉行21・奉行21 Ver. II のすべてのバージョンの会社データをデータコンバートできるようになりました。

[データ領域管理]-[データコンバート]メニューで、以下の製品の会社データもコンバートできるようになります。

- ・ 勘定奉行21 Ver. II
- ・ 勘定奉行21

注 意

○ 勘定奉行21 Ver. III 以前の場合は、事前にデータ変換作業が必要になります。

※ 詳細は、「データコンバートマニュアル 第1章 はじめに コンバートの手順」をご参照ください。

○ 決算日が平成18年4月30日以前の会社データ（会社法に対応していないデータ）は、移行できません。

※ 詳細は、「データコンバートマニュアル 第1章 はじめに コンバートできる会社データ・できない会社データ」をご参照ください。

勘定奉行 **VERP**

機能アップガイド

Ver.1.23



機能追加／改正情報

注 意

- 以前の変更内容については、プログラムが変更された時点の内容で記載されているため、メニュー名や画面などが当時の内容で記載されています。
- 機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

Ver. 1.23 変更内容

《メニュー体系》

[メニューの名称および構成を変更しました。](#)

《帳票全般》

[帳票メニューで、未承認・未転記の仕訳を集計できるようになりました。](#)

[帳票メニューの\[条件設定\]画面で、前回条件を保持する項目として、集計対象の「勘定科目（科目区分）指定」の項目が追加されました。](#)

[帳票メニューから帳票メニューへジャンプした際に、\[条件設定\]（F10）を押すと、さらに条件を絞り込んで集計することができるようになりました。](#)

[会計帳票を印刷する際に、行の高さの補正やフォントサイズの変更ができるようになりました。](#)

[集計表を印刷する際に、列幅を補正することができるようになりました。](#)

《導入処理》

[\[セグメント登録\]メニュー・\[セグメントグループ登録\]メニューで、名称に加えて、「コード」も会計期間ごとに保持できるようになりました。](#)

＜『セグメント管理オプション』をお使いの場合＞

[\[セグメントグループ登録\]メニューで、登録済みのグループ体系を、複写できるようになりました。](#)

＜『セグメント管理オプション』をお使いの場合＞

[税区分の名称の「一般」という表現を「課税」に変更しました。](#)

《仕訳処理》

[仕訳の検索条件を設定する画面（\[条件設定\]画面）を、利用レベルに応じた形式に、切り替えることができます。](#)

[仕訳の検索条件を設定する画面（\[条件設定\]画面）のコード範囲指定において、終了コードを空欄のまま\[Enter\]キーで確定すると、開始コードと同じコードが終了コード欄に自動的に表示されるようになりました。](#)

[\[仕訳処理\]メニューの\[残高表示\]画面に、未承認・未転記の仕訳を含めた金額を表示するかを選択できるようになりました。](#)

[1：1の仕訳をスムーズに入力できる\[仕訳帳入力\]メニューが追加されました。](#)

[\[帳簿入力\]メニューの各メニューに、印刷機能が追加されました。](#)

[部門ごとに、仕訳伝票で指定できる勘定科目を制限できるようになりました。](#)

[部門管理しない勘定科目（貸借対照表の勘定科目など）に対して、仕訳入力時に自動表示する（仕訳入力時に固定する）部門を指定できるようになりました。](#)

[伝票番号の初期No.を設定できるようになりました。](#)

月次締めの実行履歴が、[月次締め履歴]メニューとして独立して、履歴だけを確認できるようになりました。
《会計帳票》
取引先を範囲指定して、取引先ごとに元帳を出力できるようになりました。
元帳を印刷する際に指定できる最大フォントが、「8」から「11」に変更されました。
元帳を印刷する際に、1ページ当たりの印刷行数を調整できるように、行の高さを補正することができるようになりました。
[合計残高試算表]メニューにおける要約印刷・精算表印刷の際に、1ページ当たりの印刷行数を調整できるように、行の高さを補正することができるようになりました。
[部門内訳表]メニューで、「0：その他」部門だけに金額が発生している勘定科目（科目区分）は、表示しないように変更しました。
[取引先内訳表]メニューで、「0：その他」取引先だけに金額が発生している勘定科目は、表示しないように変更しました。
セグメントに関する各帳票メニューで、グループ集計の場合も、セグメント合計を出力できるようになりました。
＜『セグメント管理オプション』をお使いの場合＞
[セグメント内訳表]メニューで、「0：その他」セグメントだけに金額が発生している勘定科目（科目区分）は、表示しないように変更しました。
＜『セグメント管理オプション』をお使いの場合＞
[セグメント集計表]メニューで、セグメント比を出力できるようになりました。
＜『セグメント管理オプション』をお使いの場合＞
《分析帳票》
勘定科目別・取引先別に、金額の推移を確認できるようになりました。
勘定科目別・取引先別に、当期と前期の金額を比較できるようになりました。
《配賦処理》
配賦元とは別のセグメント情報を指定できるようになりました。
＜『セグメント管理オプション』をお使いの場合＞
《予算管理》
縦軸に勘定科目（補助科目）、横軸にサブマスター（部門など）を並べた一覧で、予算と実績の比較をできるようになりました。
《消費税申告》
税区分・申告書計算区分の名称の「一般」という表現を「課税」に変更しました。
《決算処理》
決算締めの実行履歴が、[決算締め履歴]メニューとして独立して、履歴だけを確認できるようにしました。
《随時処理》
連携可能なシステムに、『宝印刷』が追加されました。
『Diva Series』との連携で、相手先別明細情報に対して、勘定科目の指定が追加されました。
『連結大王SUMMIT』との連携で、出力ファイルに「マスターファイル」が追加されました。
《その他》
監査用のアカウント（読み取り専用アカウント）が追加されました。
[メニュー権限登録]・[データ領域権限登録]メニューに一括複写機能が追加されました。

奉行 i メニューの操作性が変更されました。
[知的財産情報]メニューが追加されました。
《仕訳伝票Webオプション》
申請処理のパフォーマンスが向上しました。
[部門別科目入力制限]メニューにより、部門ごとに、仕訳伝票で指定できる勘定科目が制限できるようになりました。
《財務諸表照会Webオプション》
取引先を範囲指定して、取引先ごとに元帳を照会できるようになりました。
元帳を照会する際に条件を設定する画面のコード範囲指定において、終了コードを空欄のまま [Enter] キーで確定すると、開始コードと同じコードが終了コード欄に自動的に表示されるようになりました。

機能追加／改正情報

Ver. 1.23 変更内容の詳細

《メニュー体系》

- メニューの名称および構成を変更しました。

メニューの名称を変更しました。

変更前	変更後
[仕訳処理]-[仕訳入力補助] -[伝票 No.自動付番 <u>保守</u>]	[仕訳処理]-[仕訳入力補助] -[伝票 No.自動付番 <u>設定</u>]
[セキュリティ管理]-[セキュリティポリシー] -[データ領域権限 <u>設定</u>]	[セキュリティ管理]-[セキュリティポリシー] -[データ領域権限 <u>評価ポリシー</u>]

＜『セグメント管理オプション』をお使いの場合＞

セグメント帳票のメニューの構成および名称を変更しました。

変更前	変更後
[セグメント帳票]-[セグメント内訳表] -[セグメント 1 内訳表] -[セグメント 2 内訳表]	[<u>会計帳票</u>]-[<u>内訳表</u>] -[セグメント 1 内訳表] -[セグメント 2 内訳表]
[セグメント帳票]-[セグメント集計表] -[セグメント 1 集計表] -[セグメント 2 集計表]	[<u>会計帳票</u>]-[<u>集計表</u>] -[セグメント 1 集計表] -[セグメント 2 集計表]
[セグメント帳票]-[セグメント推移表] -[セグメント 1 推移表] -[セグメント 2 推移表]	[<u>分析帳票</u>]-[<u>推移表</u>] -[セグメント 1 <u>別</u> 推移表] -[セグメント 2 <u>別</u> 推移表]
[セグメント帳票]-[セグメント対比表] -[セグメント 1 対比表] -[セグメント 2 対比表]	[<u>分析帳票</u>]-[<u>対比表</u>] -[セグメント 1 <u>別</u> 対比表] -[セグメント 2 <u>別</u> 対比表]

《帳票全般》

- 帳票メニューで、未承認・未転記の仕訳を集計できるようになりました。

[会社運用設定]メニューの[伝票設定]ページで、「未承認・未転記の仕訳を集計する」に設定にすると、各帳票メニューで、未承認・未転記の仕訳を集計するかの選択ができるようになりました。

《関連メニュー》

- ・ [会計帳票]メニューの各メニュー
- ・ [分析帳票]メニューの各メニュー
- ・ [予算帳票]メニューの各メニュー

- 帳票メニューの[条件設定]画面で、前回指定した条件を保持する項目として、集計対象の「勘定科目（科目区分）指定」が追加されました。

前回指定した「勘定科目（科目区分）指定」の条件が保持されるようになったため、取引先の帳票

など、勘定科目が常に固定の場合に、効率的に集計できます。

《 関連メニュー 》

[条件設定]画面に、集計対象として「勘定科目（科目区分）指定」項目が用意されているメニューすべてが対象です。

- ・ [会計帳票]-[内訳表]-[部門内訳表]メニューなどの内訳表メニュー
- ・ [分析帳票]-[推移表]-[部門別推移表]メニューなどの推移表メニュー
- ・ [分析帳票]-[対比表]-[部門別対比表]メニューなどの対比表メニュー
- ・ [予算管理]-[予算実績対比表]-[部門別予算実績対比表]メニューなどの予算実績対比表メニュー

- 帳票メニューから帳票メニューへジャンプした際に、[条件設定]（F10）を押すと、さらに条件を絞り込んで集計することができるようになりました。

今までは、ジャンプ先の画面には、[条件設定]（F10）が表示されていませんでした。

[条件設定]（F10）が追加されたことで、たとえば、合計残高試算表から元帳へジャンプした際に、集計期間を変更したり相手科目を指定するなど、表示する情報をさらに絞り込むことができます。

- 会計帳票を印刷する際に、行の高さの補正やフォントサイズの変更ができるようになりました。

行の高さを補正したり、集計結果部分のフォントサイズを変更することで、会計帳票の1ページ当たりの印刷行数を調整できるようになりました。

お客様の見やすさに合わせて調整できます。

※行の高さ・フォントサイズは、[印刷条件設定]画面の[印刷設定]ページなどで設定できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]メニューの各メニュー
- ・ [会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー
- ・ [会計帳票]-[日計表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[合計残高試算表]-[合計残高試算表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[内訳表]-[部門内訳表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[内訳表]-[補助科目内訳表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[内訳表]-[現預金内訳表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[内訳表]-[セグメント内訳表]メニュー
※『セグメント管理オプション』をお使いの場合に使用できます。
- ・ [会計帳票]-[集計表]-[部門集計表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[集計表]-[補助科目集計表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[集計表]-[取引先集計表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[集計表]-[摘要集計表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[集計表]-[外貨集計表]メニュー
※『外貨入力オプション』をお使いの場合に使用できます。
- ・ [会計帳票]-[集計表]-[セグメント集計表]メニュー
※『セグメント管理オプション』をお使いの場合に使用できます。
- ・ [予算管理]-[予算実績集計表]メニュー

- 集計表を印刷する際に、列幅を補正することができるようになりました。

列幅を補正することで、集計表の1ページあたりに出力するマスターの数を調整できるようになりました。

印刷枚数も節約できます。

※列幅は、[印刷条件設定]画面の[印刷設定]ページで補正できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [会計帳票]-[集計表]-[部門集計表]メニュー
- ・ [会計帳票]-[集計表]-[補助科目集計表]メニュー

- ・[会計帳票]-[集計表]-[取引先集計表]メニュー
- ・[会計帳票]-[集計表]-[摘要集計表]メニュー
- ・[会計帳票]-[集計表]-[外貨集計表]メニュー
※『外貨入力オプション』をお使いの場合に使用できます。
- ・[会計帳票]-[集計表]-[セグメント集計表]メニュー
※『セグメント管理オプション』をお使いの場合に使用できます。
- ・[予算管理]-[予算実績集計表]メニュー

《導入処理》

- [セグメント登録]メニュー・[セグメントグループ登録]メニューで、名称に加えて、「コード」も会計期間ごとに保持できるようになりました。

＜『セグメント管理オプション』をお使いの場合＞

セグメント・セグメントグループを会計期間ごとに保持できるようになったことで、会計期間ごとに異なるコード体系・グループ体系を登録できるようになりました。

《関連メニュー》

- ・[導入処理]-[セグメント登録]-[セグメント1登録]メニュー
 - ・[導入処理]-[セグメント登録]-[セグメント2登録]メニュー
 - ・[導入処理]-[セグメント登録]-[セグメントグループ1登録]メニュー
 - ・[導入処理]-[セグメント登録]-[セグメントグループ2登録]メニュー
- [セグメントグループ登録]メニューで、登録済みのグループ体系を、複写できるようになりました。
- ＜『セグメント管理オプション』をお使いの場合＞
- [\[セグメントグループ登録\]メニュー](#)（[\[導入処理\]-\[セグメント登録\]-\[セグメントグループ登録\]メニュー](#)）で、登録済みのグループ体系を、複写できるようになりました。また、前年度のグループ体系も複写できます。

- 税区分の名称の「一般」という表現を「課税」に変更しました。

今までは、「課税売上分一般仕入」のように、税区分の名称に「一般」という表現を使用していましたが、「課税売上分課税仕入」と、「課税」という表現を使用するように変更しました。

（この変更は、新規にデータ領域を作成した段階から反映されます。すでに運用中のデータ領域には、今回の変更は自動的に反映されません。）

《関連メニュー》

- ・[導入処理]-[消費税基本登録]-[税区分登録]メニュー
- ・[税区分検索]画面
- ・[消費税申告]-[消費税計算書]メニュー など

《仕訳処理》

- 仕訳の検索条件を設定する画面（[条件設定]画面）を、利用レベルに応じた形式に、切り替えることができます。

[条件設定]画面の形式は、[\[仕訳処理\]メニュー](#)（[\[仕訳処理\]-\[仕訳処理\]メニュー](#)）などの[設定]画面の[伝票検索画面の形式](#)（[\[仕訳処理\]-\[仕訳処理\]メニュー](#)などの[設定]画面の[運用設定ページ](#)で設定）で切り替えられます。

「標準形式」は、科目の検索条件を単一範囲指定する、シンプルな形式です。

「拡張形式」は、科目の検索条件を複数組み合わせるなど、高度な検索が可能な形式です。

《関連メニュー》

- ・[仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー

- ・[仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・[仕訳処理]-[帳簿入力]メニューの各メニュー
- ・[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
- ・[仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票一括転記]メニュー

- 仕訳の検索条件を設定する画面（[条件設定]画面）のコード範囲指定において、終了コードを空欄のまま[Enter]キーで確定すると、開始コードと同じコードが終了コード欄に自動的に表示されるようになりました。

科目コードなどが対象です。

開始コードと同じコードが終了コード欄に自動的に表示されることによって、コードの単一指定がスムーズになります。

また、今までは、コード欄に「最初～最後」が初期表示されていましたが、空欄になりました。空欄のまま実行すると、「最初～最後」で検索されます。

※奉行21シリーズと同様の仕様になりました。

◀ 関連メニュー ▶

- ・[仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・[仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・[仕訳処理]-[帳簿入力]メニューの各メニュー
- ・[仕訳処理]-[仕訳入力補助]-[定型仕訳登録]メニュー
- ・[会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー
- ・[随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー
- ・[自動実行管理]-[条件設定]-[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニュー

※『自動実行管理オプション』をお使いの場合に使用できます。

- [仕訳処理]メニューの[残高表示]画面に、未承認・未転記の仕訳を含めた金額を表示するかの選択ができるようになりました。

[\[会社運用設定\]メニュー](#)（[\[導入処理\]-\[運用設定\]-\[会社運用設定\]メニュー](#)）の[伝票設定]ページに、未承認・未転記仕訳を含めて集計するかの設定（伝票入力時の科目残高表示）が追加されました。

- 1：1の仕訳をスムーズに入力できる[仕訳帳入力]メニューが追加されました。

[\[仕訳帳入力\]メニュー](#)（[\[仕訳処理\]-\[帳簿入力\]-\[仕訳帳入力\]メニュー](#)）は、1：1の仕訳を連続で大量に入力する際に適しています。

- [帳簿入力]メニューの各メニューに、印刷機能が追加されました。

[\[帳簿入力\]メニュー](#)（[\[仕訳処理\]-\[帳簿入力\]メニュー](#)）の各メニューに、印刷機能が追加されました。

- 部門ごとに、仕訳伝票で指定できる勘定科目を制限できるようになりました。

[\[会社運用設定\]メニュー](#)（[\[導入処理\]-\[運用設定\]-\[会社運用設定\]メニュー](#)）の[伝票設定]ページで、部門別の科目入力制限を「1：使用する」に設定すると、[\[部門別科目入力制限\]メニュー](#)（[\[仕訳処理\]-\[仕訳入力補助\]-\[部門別科目入力制限\]メニュー](#)）で、部門ごとに、仕訳伝票で指定できる勘定科目を制限できます。

例えば、製造部門の伝票にも関わらず、誤って損益計算書科目である消耗品費や水道光熱費を、仕訳伝票で指定してしまうような誤入力を防ぐため、製造部門に対しては製造原価報告書科目だけ指定できるように、[\[部門別科目入力制限\]メニュー](#)（[\[仕訳処理\]-\[仕訳入力補助\]-\[部門別科目入力制限\]メニュー](#)）で設定しておくことができます。

（消耗品費や水道光熱費など、損益計算書科目と製造原価報告書科目で同じ名称の科目がありま

す。)

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]メニューの各メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニュー（編集受入）
- ・ [随時処理]-[奉行連動データ作成]-[仕訳伝票受入]メニュー（編集受入）

- 部門管理しない勘定科目（貸借対照表の勘定科目など）に対して、仕訳入力時に自動表示する（仕訳入力時に固定する）部門を指定できるようになりました。

今までは、「0：その他」部門が表示されていました。

自動表示する部門は、[\[科目別マスター入力設定\]メニュー](#)（[\[仕訳処理\]-\[仕訳入力補助\]-\[科目別マスター入力設定\]メニュー](#)）で設定できます。

《 関連メニュー 》

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]メニューの各メニュー
- ・ [随時処理]-[汎用データ受入]-[仕訳伝票データ受入]-[仕訳伝票データ受入]メニュー（編集受入）
- ・ [随時処理]-[奉行連動データ作成]-[仕訳伝票受入]メニュー（編集受入）

- 伝票番号の初期No. を設定できるようになりました。

[\[伝票No.自動付番設定\]メニュー](#)（[\[仕訳処理\]-\[仕訳入力補助\]-\[伝票No.自動付番設定\]メニュー](#)）

で、伝票番号の初期No. を設定できるようになりました。

当システムの導入時や会計期首・月初など、伝票を初めて入力するときに、[\[仕訳処理\]メニュー](#)（[\[仕訳処理\]-\[仕訳処理\]メニュー](#)）の伝票No. 欄に初期表示される伝票No. の設定です。

伝票No. を、部門ごとに、A部門は1000番台・B部門は2000番台・・・と分けて管理しているような場合に、有効です。

※画面は、[付番基準](#)（[\[導入処理\]-\[会計期間設定\]-\[会計期間設定\]メニューの\[伝票設定\]ページで設定](#)）が「部門別」の場合の表示形式です。

※今までどおり、[\[仕訳処理\]メニュー](#)（[\[仕訳処理\]-\[仕訳処理\]メニュー](#)）の伝票No. 欄に次回表示される伝票No. の設定・変更もできます。（項目名が「伝票No.」から「次回付番No.」に変更されました。）

- 月次締めの実行履歴が、[\[月次締め履歴\]メニュー](#)として独立して、履歴だけを確認できるようになりました。

[\[月次仮締め\]メニュー](#)（[\[仕訳処理\]-\[月次処理\]-\[月次仮締め\]メニュー](#)） ・ [\[月次本締め\]メニュー](#)

— ([仕訳処理]-[月次処理]-[月次本締め]メニュー) から履歴参照と印刷の機能が独立して、新たに[月次締め履歴]メニュー ([仕訳処理]-[月次処理]-[月次締め履歴]メニュー) が追加されました。

[月次仮締め]メニュー ([仕訳処理]-[月次処理]-[月次仮締め]メニュー) ・ [月次本締め]メニュー ([仕訳処理]-[月次処理]-[月次本締め]メニュー) では履歴参照および印刷ができなくなりましたので、履歴は[月次締め履歴]メニュー で確認してください。

※履歴参照および印刷の機能を使用する場合は、[権限管理]メニューで、[月次締め履歴]メニュー ([仕訳処理]-[月次処理]-[月次締め履歴]メニュー) に対してメニュー権限を設定してください。

《会計帳票》

- 取引先を範囲指定して、取引先ごとに元帳を出力できるようになりました。

[元帳]メニュー ([会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー) の[元帳 - 条件設定]画面の[基本条件]ページで、取引先を範囲指定して、取引先ごとに元帳を出力できるようになりました。

- 元帳を印刷する際に指定できる最大フォントが、「8」から「11」に変更されました。

[元帳]メニュー ([会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー) の[元帳 - 印刷等条件設定]画面の[詳細設定]ページなどで、フォントサイズが指定できますが、指定できる最大フォントが「8」から「11」に変更されました。元帳を、必要に応じて大きな文字で印刷できます。

- 元帳を印刷する際に、1ページ当たりの印刷行数を調整できるように、行の高さを補正することができるようになりました。

[元帳]メニュー ([会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー) の[元帳 - 印刷等条件設定]画面の[印刷設定]ページで、1ページ当たりの印刷行数を調整できるように、行の高さを補正できるようになりました。

- [合計残高試算表]メニューにおける要約印刷・精算表印刷の際に、1ページ当たりの印刷行数を調整できるように、行の高さを補正できるようになりました。

[合計残高試算表]メニュー ([会計帳票]-[合計残高試算表]-[合計残高試算表]メニュー) における要約印刷・精算表印刷の際に、[合計残高試算表 - 印刷等条件設定]画面の[印刷設定]ページで、1ページ当たりの印刷行数を調整できるように、行の高さを補正できるようになりました。

- [部門内訳表]メニュー「0：その他」部門だけに金額が発生している勘定科目（科目区分）は、表示しないように変更しました。

[部門内訳表]メニュー ([会計帳票]-[内訳表]-[部門内訳表]メニュー) で、勘定科目（科目区分）の指定をせず、金額0の部門・科目を表示しない条件で集計した場合の変更です。

なお、[条件設定]画面の[基本条件]ページで、勘定科目（科目区分）を直接個別に指定した場合は、「0：その他」部門だけに金額が発生している場合も表示します。

- [取引先内訳表]メニュー「0：その他」取引先だけに金額が発生している勘定科目は、表示しないように変更しました。

[取引先内訳表]メニュー ([会計帳票]-[内訳表]-[取引先内訳表]メニュー) で、勘定科目の指定をせず、金額0の取引先・科目を表示しない条件で集計した場合の変更です。

なお、[条件設定]画面の[基本条件]ページで、勘定科目を直接個別に指定した場合は、「0：その他」取引先だけに金額が発生している場合も表示します。

- セグメントに関する各帳票メニューで、グループ集計の場合も、セグメント合計を出力で

きるようになりました。

＜『セグメント管理オプション』をお使いの場合＞

セグメントに関する各帳票メニューの[条件設定]画面の[詳細条件]ページで、合計を出力するに設定すると、グループ集計の場合もセグメント合計を出力できるようになりました。

《関連メニュー》

- ・[会計帳票]-[内訳表]-[セグメント1内訳表]メニュー
- ・[会計帳票]-[内訳表]-[セグメント2内訳表]メニュー
- ・[分析帳票]-[推移表]-[セグメント1推移表]メニュー
- ・[分析帳票]-[推移表]-[セグメント2推移表]メニュー
- ・[分析帳票]-[対比表]-[セグメント1対比表]メニュー
- ・[分析帳票]-[対比表]-[セグメント2対比表]メニュー

- [セグメント内訳表]メニュー「0：その他」セグメントだけに金額が発生している勘定科目は、表示しないように変更しました。

＜『セグメント管理オプション』をお使いの場合＞

[\[セグメント内訳表\]メニュー](#)（[\[会計帳票\]-\[内訳表\]-\[セグメント内訳表\]メニュー](#)）で、勘定科目の指定をせず、金額0のセグメント・科目を表示しない条件で集計した場合の変更です。

なお、[条件設定]画面の[基本条件]ページで、勘定科目（科目区分）を直接個別に指定した場合は、「0：その他」セグメントだけに金額が発生している場合も表示します。

- [セグメント集計表]メニューで、セグメント比を出力できるようになりました。

＜『セグメント管理オプション』をお使いの場合＞

[\[セグメント集計表\]メニュー](#)（[\[セグメント帳票\]-\[セグメント集計表\]メニュー](#)）で、セグメント比（セグメント/セグメント合計）を出力できるようになりました。

《分析帳票》

- 勘定科目別・取引先別に、金額の推移を確認できるようになりました。

[\[取引先別推移表\]メニュー](#)（[\[分析帳票\]-\[推移表\]-\[取引先別推移表\]メニュー](#)）が追加され、勘定科目別・取引先別の金額の推移を確認できるようになりました。

- 勘定科目別・取引先別に、当期と前期の金額を比較できるようになりました。

[\[取引先別対比表\]メニュー](#)（[\[分析帳票\]-\[対比表\]-\[取引先別対比表\]メニュー](#)）が追加され、勘定科目別・取引先別に、当期と前期の金額を比較できるようになりました。

《配賦処理》

- 配賦元とは別のセグメント情報を指定できるようになりました。

＜『セグメント管理オプション』をお使いの場合＞

今までは、配賦先のセグメントは指定できず、必ず配賦元のセグメントが使用されていましたが、

[\[部門別配賦基準登録\]メニュー](#)（[\[配賦処理\]-\[部門実績配賦\]-\[部門実績配賦設定\]-\[部門別配賦基準登録\]メニュー](#)）で、配賦先のセグメントを指定できるようになりました。

たとえば、配賦元が「共通部門」「共通セグメント」で、配賦先の部門が「製造部門A」、この「製造部門A」が扱っているセグメントが「事務機器」1つだけような場合に、有効です。

《関連メニュー》

- ・[配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績配賦]メニュー

- ・[随時処理]-[汎用データ作成]-[配賦基準データ作成]-[部門別配賦基準データ作成]メニュー
- ・[随時処理]-[汎用データ作成]-[配賦基準データ作成]-[部門共通原価配賦基準データ作成]メニュー

《予算管理》

- 縦軸に勘定科目（補助科目）、横軸にサブマスター（部門など）を並べた一覧で、予算と実績の比較ができるようになりました。

縦軸に勘定科目（補助科目）、横軸に部門などのサブマスターを並べた一覧で、予算と実績の比較ができる[\[予算実績集計表\]メニュー](#)（[\[予算管理\]-\[予算実績集計表\]メニュー](#)）が追加されました。

たとえば、部門ごとに各勘定科目に対する予算実績を比較・分析できます。あわせて部門同士の比較・分析もできます。

《消費税申告》

- 税区分・申告書計算区分の名称の「一般」という表現を「課税」に変更しました。

今までは、「課税売上分一般仕入」のように、税区分・申告書計算区分の名称に「一般」という表現を使用していましたが、「課税売上分課税仕入」と、「課税」という表現を使用するように変更しました。

（税区分の名称の変更は、新規にデータ領域を作成した段階から反映されます。すでに運用中のデータ領域には、今回の変更は自動的に反映されません。）

《関連メニュー》

- ・[消費税申告]-[消費税計算書]メニュー
- ・[消費税申告]-[科目別税区分集計表]メニュー
- ・[消費税申告]-[税区分明細表]メニュー

《決算処理》

- 決算締めの実行履歴が、[\[決算締め履歴\]メニュー](#)として独立され、履歴だけを確認できるようにしました。

[\[決算仮締め\]メニュー](#)（[\[決算処理\]-\[締処理\]-\[決算仮締め\]メニュー](#)）・[\[決算本締め\]メニュー](#)（[\[決算処理\]-\[締処理\]-\[決算本締め\]メニュー](#)）から履歴参照と印刷の機能が独立して、新たに[\[決算締め履歴\]メニュー](#)（[\[決算処理\]-\[締処理\]-\[決算締め履歴\]メニュー](#)）が追加されました。

[\[決算仮締め\]メニュー](#)（[\[決算処理\]-\[締処理\]-\[決算仮締め\]メニュー](#)）・[\[決算本締め\]メニュー](#)（[\[決算処理\]-\[締処理\]-\[決算本締め\]メニュー](#)）では履歴参照および印刷ができなくなりましたので、履歴は[\[決算締め履歴\]メニュー](#)（[\[決算処理\]-\[締処理\]-\[決算締め履歴\]メニュー](#)）で確認してください。

※履歴参照および印刷の機能を使用する場合は、[権限管理]メニューで、[\[決算締め履歴\]メニュー](#)（[\[決算処理\]-\[締処理\]-\[決算締め履歴\]メニュー](#)）に対してメニュー権限を設定してください。

《随時処理》

- **連携可能なシステムに、『宝印刷』が追加されました。**

連携可能なシステムに、『宝印刷』が追加されました。

[\[他システム連携\]メニュー](#)（[\[随時処理\]-\[他システム連携\]メニュー](#)）で作成したファイルを、『宝印刷 X-Editorのサブシステム』で受け入れることができます。

- **『Diva Series』との連携で、相手先別明細情報に対して、勘定科目の指定が追加されました。**

[\[他システム連携\]メニュー](#)（[\[随時処理\]-\[他システム連携\]メニュー](#)）で『Diva Series』と連携する場合の[他システム連携[Diva Series]-条件設定]画面に、相手先別明細情報として勘定科目の指定が追加されました。

- **『連結大王SUMMIT』との連携で、出力ファイルに「マスターファイル」が追加されました。**

[\[他システム連携\]メニュー](#)（[\[随時処理\]-\[他システム連携\]メニュー](#)）で連携する『連結大王SUMMIT』の出力ファイルに、「マスターファイル」が追加されました。

《その他》

- **監査用のアカウント（読み取り専用アカウント）が追加されました。**

監査用のアカウント（読み取り専用アカウント）として、「AcGuest」が追加されました。（初期では「無効」に設定されています。）

「AcGuest」アカウントは、「読み取り専用」の権限が初期で設定されており、メニュー権限を個々に設定しなくても、以下の制限された動作をシステム側で保証します。

- ・データを更新するだけのメニューは、起動自体が制限されます。
- ・データの閲覧と更新をするメニューは、閲覧だけに制限された状態で自動的に起動します。

なお、この「読み取り専用」の権限は、他のアカウントにも設定できます。

- **[メニュー権限登録]・[データ領域権限登録]メニューに一括複写機能が追加されました。**
今までは、メニュー権限・データ領域権限を複写する際に、複写先に1名しか指定できませんでした。
今回より、複写先に複数名を指定して、一括で複写できるようになりました。

- **奉行 i メニューの操作性が変更されました。**

[奉行 i メニュー] ボタンをクリックすると、「サポート時事情報」や「保守会員様向けダウンロード情報」の内容が、最新の情報に更新されるようになりました。

- **[知的財産情報]メニューが追加されました。**

今までは、[ヘルプ]-[バージョン情報]メニューで確認できた「知的財産情報」が、[ヘルプ]-[知的財産情報]メニューに追加されました。

また、特許権および意匠権の詳細を確認できるリンク先が追加されました。

《仕訳伝票Webオプション》

- 申請処理のパフォーマンスが向上しました。

[起票処理]-[仕訳処理]メニューにおける、申請処理のパフォーマンスが向上しました。

- [部門別科目入力制限]メニューにより、部門ごとに、仕訳伝票で指定できる勘定科目が制限できるようになりました。

勘定奉行側の[部門別科目入力制限]メニュー（[\[仕訳処理\]-\[仕訳入力補助\]-\[部門別科目入力制限\]メニュー](#)）で、部門ごとに、仕訳伝票で指定できる勘定科目を制限できるようになりました。

制限されていると、例えば、製造部門の伝票にも関わらず、誤って損益計算書科目である消耗品費や水道光熱費を、仕訳伝票で指定してしまうような誤入力がなくなります。

（消耗品費や水道光熱費など、損益計算書科目と製造原価報告書科目で同じ名称の科目があります。）

《 関連メニュー 》

[起票処理]-[仕訳処理]メニュー

《財務諸表照会Webオプション》

- 取引先を範囲指定して、取引先ごとに元帳を照会できるようになりました。

元帳を照会する際に条件を設定する画面の[基本条件]ページで、取引先を範囲指定して、取引先ごとに元帳を照会できるようになりました。

- 元帳を照会する際に条件を設定する画面のコード範囲指定において、終了コードを空欄のまま[Enter]キーで確定すると、開始コードと同じコードが終了コード欄に自動的に表示されるようになりました。

科目コードなどが対象です。

開始コードと同じコードが終了コード欄に自動的に表示されることによって、コードの単一指定がスムーズになります。

また、今までは、コード欄に「最初～最後」が初期表示されていましたが、空欄になりました。空欄のまま実行すると、「最初～最後」で検索されます。

《 関連メニュー 》

[管理資料]-[元帳]メニュー

勘定奉行 **VERP**

機能アップガイド

Ver.1.21



機能追加 / 改正情報

注 意

機能アップによって新しく追加されたメニューが画面に表示されない場合は、[権限管理]メニューで利用者ごとにメニュー権限を設定してください。

Ver. 1 . 2 1 変更内容

メニュー体系

[メニューの順序および構成を変更しました。](#)

[メニューの名称および構成を変更しました。](#)

[奉行 i メニューを追加しました。](#)

導入処理

[\[部門登録\]メニューで、名称に加えて「コード」も、会計期間ごとに保持できるようになり、異なるコード体系を登録できるようになりました。](#)

[\[部門グループ登録\]メニューで、コード/名称を、会計期間ごとに保持できるようになり、異なるコード体系/組織体系を登録できるようになりました。](#)

仕訳処理

[\[仕訳処理\]-\[仕訳処理\]メニューで、\[反対仕訳\]（\[F8\]）キーを押して反対仕訳を登録した場合は、登録した伝票が特殊仕訳の場合でも、登録時の確認のメッセージを表示しないように変更しました。](#)

[仕訳処理から各マスター画面へジャンプする際に、スムーズにジャンプ先を選択できるように、選択肢をボタンで表示するようにしました。ジャンプ先を選択する際に、1回のクリックでジャンプできます。](#)

[仕訳を入力する際に、「1：N」「N：1」の入力形式を支援します。](#)

[検索画面に、\[条件登録\]ボタンを追加しました。そのボタンを押すことで、検索条件を保存でき、再度利用することが可能になりました。](#)

[検索画面に、\[条件クリア\]ボタンを追加しました。そのボタンを押すことで、指定した条件を一括クリアする（初期値に戻す）ことが可能になりました。1項目1項目変更していく手間を省くことができます。](#)

[仕訳リストの印刷形式に、勘定奉行21の仕訳リスト1相当の形式「簡易形式」を追加しました。](#)

[仕訳伝票を専用用紙に印刷する際に、伝票区分を印字させるかを選択できるようになりました。](#)

[入力科目（自動定科目）を固定して1：1の仕訳を連続で入力するメニューを追加しました。](#)

[外貨取引の入力ができるようになりました。](#)

[為替差損益を計上する伝票を自動的に作成できるようになりました。](#)

会計帳票

[元帳メニューから仕訳処理画面にジャンプした際に、複数の仕訳処理画面を表示できるようにしました。](#)

[元帳メニューで集計科目を切り替えるボタン名を変更しました。](#)

[元帳を印刷する際に、1ページ当たりの印刷行数が調整できるようになりました。](#)

[部門集計表で、部門比に加えて「構成比」が出力できるようになりました。](#)

[帳票メニューから帳票メニューへジャンプする際に、ジャンプ先を簡単に選択できるようにしまし](#)

た。
外貨元帳、外貨内訳表、外貨集計表が出力できるようになりました。
予算管理
予算額登録メニューで、科目の並び順が「科目体系順」に変更になりました。
予算額登録メニューで、補助科目・部門・セグメントを削除した場合に、登録済みの予算額を振り替えます。
消費税申告
[消費税申告]-[消費税申告書]メニューで、税務署欄を入力する際に、税務署の検索機能が追加されました。
消費税申告書に添付する税理士添付書を印刷できるようになりました。
決算処理
[決算処理]-[期末処理]-[期末残高繰越]メニューで、期末残高繰越を実行した際の履歴が確認できるようになりました。
電子申告
消費税申告書の電子申告に対応しました。
その他
[データ領域管理]-[データコンバート]メニューで、勘定奉行21シリーズのデータをコンバートする際に、処理スピードを改善しました。
[汎用データ作成]-[仕訳伝票データ作成]メニューで、勘定奉行21対応のソリューションと連携が可能になりました。
連携可能なシステムが追加されました。 ・連結会計システム「SUPER COMPACT Pathfinder」 ・法定開示書類自動作成システム「決算報告書エクスプレス」
自動実行する際に、複数のパターンの条件設定を保持できるようになりました。＜自動実行オプションをご利用の場合＞
当システムを起動する際のセキュリティを強化しました。
[セキュリティ管理]メニューのメニュー構成を変更しました。
汎用データレイアウト集をExcel ファイルでの提供に変更しました。
出力帳票一覧をDVD-ROM内に追加しました。
仕訳伝票Webオプション
メニュー全般で、PDF出力する際に、網掛け箇所を網掛けしないで印刷することができるようになりました。
[仕訳処理]メニュー・[定型仕訳登録]メニューで、各項目の入力時のカーソルの移動が、勘定奉行側と同様になりました。
[仕訳処理]メニューで、1つの伝票が2ページ以降にまたがる場合にも、伝票ヘッダー情報が印刷されるようになりました。
[仕訳承認(管理者)]のメニュー名称を変更しました。
[未承認状況確認]メニューに、[データ領域権限管理]メニューの設定が加味されます。
財務諸表照会Webオプション
メニュー全般で、PDF出力する際に、網掛け箇所を網掛けしないで印刷することができるようになりました。

機能追加／改正情報

Ver. 1.2.1 変更内容の詳細

《メニュー体系》

- メインメニューの順序および名称を変更しました。
メインメニューの順序および名称を変更しました。

変更前	変更後
[仕訳処理]	[仕訳処理]
[会計帳票]	[会計帳票]
[消費税管理資料]	[分析帳票]
[決算処理]	[セグメント帳票]
[セグメント管理]	[配賦処理] ※
[予算管理]	[予算管理]
[分析処理]	[消費税申告]
[ワークフロー管理]	[決算処理]
[随時処理]	[電子申告] ※
	[ワークフロー管理]
	[随時処理]

※マークは、今回から追加されたメインメニューになります。

- メニューの名称および構成を変更しました。

以下のメニューの名称および構成を変更しました。

変更前	変更後
[導入処理]- [科目体系登録] -[科目体系登録] -[科目体系登録] -[科目体系帳票設定]	[導入処理]-[科目体系登録] -[科目体系登録] -[科目体系帳票設定]
[導入処理]- [科目体系登録] -[出力様式登録] -[出力様式登録] -[出力様式帳票設定]	[導入処理]-[出力様式登録] -[出力様式登録] -[出力様式帳票設定]
[仕訳処理]-[月次締め] -[月次仮締め] -[月次仮締め後変更レポート] -[月次本締め]	[仕訳処理]-[月次処理] -[月次仮締め] -[月次仮締め] -[月次仮締め後変更レポート] -[月次本締め]
[セグメント管理]-[セグメント登録]	[導入処理]-[セグメント登録]
[分析処理]-[部門別実績配賦]-[部門別実績配賦] -[部門配賦設定]	[配賦処理]-[部門実績配賦]-[部門実績配賦] -[部門配賦設定]
[随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成] -[伝票区分データ作成] -[セグメント1データ作成] -[セグメント2データ作成]	[随時処理]-[汎用データ作成]-[マスターデータ作成] -[セグメント1データ作成] -[セグメント2データ作成] -[伝票区分データ作成]
[随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入] -[伝票区分データ受入] -[セグメント1データ受入] -[セグメント2データ受入]	[随時処理]-[汎用データ受入]-[マスターデータ受入] -[セグメント1データ受入] -[セグメント2データ受入] -[伝票区分データ受入]
[随時処理]-[牽行間連動] -[連動データ作成] -[申告牽行[内訳書・概況書編]データ作成] -[連動データ受入]	[随時処理]-[牽行連動データ作成] -[内訳書／概況書データ作成] -[牽行連動データ受入]

- 奉行 i メニューを追加しました。

奉行 i メニューを追加しました。当メニューを起動すると、「メインメニュー」と「奉行 i メニュー」が表示されます。



「奉行 i メニュー」は、ご利用いただいている製品に関するサポート時事情報や F A Q、ダウンロード可能なプログラム情報、発送物に関するご案内などを確認できます。

※奉行 i メニューのご利用には、インターネット接続環境が必要となります。

インターネット接続環境がない場合は、奉行 i メニューは表示されません。

※製品起動時に奉行 i メニューを表示させたくない場合は、[管理ツール]-[利用者設定]メニューの[システム設定]ページで、「製品起動時に奉行 i メニューを表示する」のチェックを外します。

《導入処理》

- 名称に加えて「コード」も、会計期間ごとに保持できるようになり、異なるコード体系を登録できるようになりました。
[部門登録]メニューで、名称に加えて「コード」も、会計期間ごとに保持できるようになり、異なるコード体系を登録できるようになりました。
- コード/名称を、会計期間ごとに保持できるようになり、異なるコード体系/組織体系を登録できるようになりました。
[部門グループ登録]メニューで、コード/名称を、会計期間ごとに保持できるようになり、異なるコード体系/組織体系を登録できるようになりました。

《仕訳処理》

- 反対仕訳について、特殊仕訳の警告表示の対象から外しました。
[仕訳処理]メニューで、[反対仕訳]（[F 8]）キーを押して反対仕訳を登録した場合は、登録した伝票が特殊仕訳の場合でも、登録時の確認のメッセージを表示しないように変更しました。
本来、取消伝票となるため、特殊仕訳の警告表示の対象から外しました。
また、[仕訳伝票仮締め後修正]メニューで、[取消]（[F 8]キー）を押して登録した場合も同様です。
- 仕訳処理から各マスター画面へジャンプする際に、ジャンプ先を簡単に選択できるようにしました。

仕訳処理から各マスター画面へジャンプする際に、スムーズにジャンプ先を選択できるように、選択肢をボタンで表示するようにしました。ジャンプ先を選択する際に、1回のクリックでジャンプできます。

名マスター登録へのジャンプ

部門(D)	摘要(M)
勘定科目(A)	連携摘要(O)
補助科目(S)	
取引先(B)	
キャンセル(C)	

● 仕訳を入力する際に、「1 : N」「N : 1」の入力形式を支援します。

仕訳処理で、仕訳の形式が「1 : N」または「N : 1」の際に、[入力形式] ([F2]キー) を押すことで、借方固定での入力モード、貸方固定での入力モードに切り替わります。

N側だけに連続してカーソルが移動すると共に、その合計金額が固定の1側に自動でセットされ、入力効率があがります。

○ 「1 : N」の場合

仕訳処理

伝票日付: 09 年 9 月 30 日

伝票No.: 318

明細件数: 4277

行	部 門 / 勘定科目 / 補助科目	金 額	部 門 / 勘定科目 / 補助科目	金 額
1	000 その他	300,000	001 第一営業部	
	100 現金		110 当座預金	100,000
			003 東都中央銀行本店	
			002 第二営業部	
			110 当座預金	200,000
			003 西部銀行本店	
	借方合計	300,000	貸方合計	300,000
			貸借差額	0

F1 操作説明 F2 残高 F3 付箋 F4 税区分 F5 税処理 F6 差額 F7 行削除 F8 行挿入 F9 再計算 F10 中止 F11 F12 終了

借方金額を入力してください。[000表示] ⇨ , キーまたは / キー [反対貸借金額の複写] ⇨ + キー

○ 「N : 1」の場合

仕訳処理

伝票日付: 09 年 9 月 30 日

伝票No.: 318

明細件数: 4277

行	部 門 / 勘定科目 / 補助科目	金 額	部 門 / 勘定科目 / 補助科目	金 額
1	001 第一営業部	200,000	000 その他	
	110 当座預金		100 現金	500,000
	001 東都中央銀行本店			
2	002 第二営業部	300,000		
	110 当座預金			
	003 西部銀行本店			
	借方合計	500,000	貸方合計	500,000
			貸借差額	0

F1 操作説明 F2 残高 F3 付箋 F4 税区分 F5 税処理 F6 差額 F7 行削除 F8 行挿入 F9 再計算 F10 中止 F11 F12 終了

借方金額を入力してください。[000表示] ⇨ , キーまたは / キー [反対貸借金額の複写] ⇨ + キー

● 仕訳の検索条件を保存できるようにしました。

検索条件画面に[条件登録]ボタンを追加しました。そのボタンを押すことで、検索条件を保存でき、再度利用することが可能になりました。

例えば、毎月、自分が登録した伝票だけを確認する場合など、前回の検索条件を保存しておくと、簡単に検索できます。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票一括転記]メニュー

- 仕訳の検索条件画面で入力されている条件を、一括でクリアできるようにしました。

検索条件画面に[条件クリア]ボタンを追加しました。そのボタンを押すことで、指定した検索条件を一括クリアする（初期値に戻す）ことが可能になりました。1項目1項目変更していく手間を省くことができます。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [仕訳処理]-[仕訳処理]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票リスト]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票承認]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[仕訳伝票承認]-[仕訳伝票一括転記]メニュー

- 仕訳伝票リストを簡易形式で印刷できます。

仕訳リストの印刷形式に、勘定奉行21の仕訳リスト1相当の形式「簡易形式」を追加しました。
この機能により、1枚により多くの伝票を印刷できるようになり、使用する用紙も少なく抑えられます。

- 仕訳伝票を印刷する際に、伝票区分の印字設定を追加しました。

仕訳伝票を専用用紙に印刷する際に、伝票区分を印字させるかを選択できるようになりました。
伝票区分を印字する場合は、チェックを付けます。

- 1：1の仕訳をスムーズに入力できる出納帳入力メニューを追加しました。

入力科目（自動定科目）を固定して、1：1の仕訳を連続で入力するメニューを追加しました。
大量の仕訳を入力する際に、スムーズに行えます。
入力する際の形式も、「現金出納帳」「預金出納帳」「元帳」の3種類を用意しましたので、目的にあわせて使い分けてください。

◀ 関連メニュー ▶

- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[現金出納帳入力]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[預金出納帳入力]メニュー
- ・ [仕訳処理]-[帳簿入力]-[元帳入力]メニュー

- 外貨取引の入力ができるようになりました。

＜外貨入力オプションをご使用の場合＞

[仕訳処理]メニューで、外貨取引が入力できるようになりました。
外貨金額を入力すると、為替レートをもとに円換算額を自動計算できます。

- 為替差損益を計上する伝票を自動的に作成できるようになりました。

＜外貨入力オプションをご使用の場合＞

[[為替換算](#)]メニューで、指定された換算レートにもとづき為替差損益を算出し、為替差損益を計上する仕訳伝票を自動的に作成できます。

◀ 会計帳票 ▶

- 元帳メニューから仕訳処理画面にジャンプした際に、複数の仕訳処理画面を表示できるようにしました。

[元帳]メニューから仕訳処理画面にジャンプする際に、今までは、現在表示されている仕訳処理画面を閉じてからジャンプする必要がありました。
今回から、別件で処理中の画面を閉じることなく、新しい画面を開くことで、並行作業を支援します。

- 元帳メニューで集計科目を切り替えるボタン名を変更しました。

[元帳]メニューで集計科目（集計対象）を切り替える際のボタン名を、[対象設定]（[F7]キー）から[対象切替]に変更しました。
[F4]キーと[F5]キーで、画面に次のデータを表示させる際に、「科目ごと」「部門ごと」のどちらで表示させるかを切り替えます。

- 元帳を印刷する際に、1ページ当たりの印刷行数が調整できるようになりました。

[元帳]メニューで印刷する際に、印字文字のサイズを変更できます。印刷フォントサイズの指定に応じて、行の幅が可変します。
[印刷条件設定]画面の[基本設定]ページで、フォントサイズを指定します。

- 部門集計表で、部門比に加えて「構成比」が出力できるようになりました。

今までは、「部門比」のみの選択でしたが、「構成比」についても選択できるようになりました。
部門比：部門合計金額に対する各部門の金額の比率
構成比：合計残高試算表に出力される構成比と同等

- 帳票メニューから帳票メニューへジャンプする際に、ジャンプ先を簡単に選択できるようにしました。

帳票メニューから帳票メニューへジャンプする際に、スムーズにジャンプ先を選択できるように、選択肢をボタンで表示するようにしました。ジャンプ先を選択する際に、1回のクリックでジャンプできます。

【例】合計残高試算表の場合



- 外貨元帳、外貨内訳表、外貨集計表が出力できるようになりました。
＜外貨入力オプションをご使用の場合＞

外貨元帳、外貨内訳表、外貨集計表が出力できるようになりました。

＜関連メニュー＞

- ・[会計帳票]-[元帳]-[元帳]メニュー
- ・[会計帳票]-[内訳表]-[外貨内訳表]メニュー
- ・[会計帳票]-[集計表]-[外貨集計表]メニュー

＜予算管理＞

- 予算額登録メニューで、科目の並び順が「科目体系順」に変更になりました。

予算額登録メニューの科目の並び順を、今までの「コード順」から、合計残高試算表等と同じ「科目体系順」に変更しました。

- 予算額登録メニューで、補助科目・部門・セグメントを削除した場合に、登録済みの予算額を振り替えます。

補助科目・部門・セグメントを削除した場合に、削除したマスターに登録されていた予算額を、「コード0：その他」に自動的に振り替えます。

＜消費税申告＞

- 税務署辞書を搭載しました。

[消費税申告書]メニューで、税務署欄を入力する際に、税務署の検索機能が追加されました。

- 消費税申告書に添付する税理士添付書を印刷できるようになりました。

[消費税申告]-[税理士添付書面]メニューで、税理士添付書面「税務代理権限証書」「税理士法第33条の2添付書面」の2つを印刷できるようになりました。

＜決算処理＞

- 期末残高繰越の実行履歴が確認できるようになりました。

[期末残高繰越]メニューで、期末残高繰越を実行した際の履歴が確認できるようになりました。
また、期末残高繰越を実行した際に、正しく繰り越しが完了したことを、実行履歴で確認できます。

＜電子申告＞

- 消費税申告書の電子申告に対応しました。

消費税申告書について電子申告機能に対応しました。

＜その他＞

- データコンバートの処理スピードを改善しました。

[データコンバート]メニューで、勘定奉行21シリーズのデータをコンバートする際に、処理スピードを改善しました。

- 勘定奉行21対応のソリューションと連携が可能になりました。

[仕訳伝票データ作成]メニューにて、勘定奉行21形式の汎用ファイルを作成できるようになりました。
これにより、勘定奉行21対応のソリューションと連携が可能になりました。

- 勘定奉行21[個別原価管理編]対応のソリューションと連携が可能になりました。

[\[仕訳伝票データ作成\]メニュー](#)にて、勘定奉行21[個別原価管理編]形式の汎用ファイルを作成できるようになりました。
これにより、勘定奉行21[個別原価管理編]対応のソリューションと連携が可能になりました。

- 他システムとの連携機能を追加しました。

連携可能なシステムが追加されました。

- ・ 連結会計システム「SUPER COMPACT Pathfinder」
- ・ 法定開示書類自動作成システム「決算報告エクスプレス」

[\[他システム連携\]メニュー](#)で作成したファイルは、それぞれのシステムで受け入れることができます。

- 自動実行する際に、複数のパターンの条件設定を保持できるようになりました。
＜自動実行オプションをご使用の場合＞

自動実行する際に、複数のパターンの条件設定を保持できます。

例えば、2つの異なるシステム（給与計算システムと販売管理システムなど）が別メーカーの場合に、各々の項目に関連付けた条件を保持できます。

※すでに登録していた条件については、「0:基本パターン」として使用できます。

- 当システムを起動する際のセキュリティを強化しました。

当システムを起動する際に、パスワードおよびアカウントの要件を設定するメニューを追加しました。

- ・ [セキュリティ管理]-[セキュリティポリシー]-[パスワードポリシー]メニュー

セキュリティを強化するために、パスワードの要件を登録します。

- ・ [セキュリティ管理]-[セキュリティポリシー]-[アカウントポリシー]メニュー

セキュリティを強化するために、アカウントのロックアウトに関する要件を登録します。

これに伴い[セキュリティ管理]-[利用者登録]メニューの[セキュリティ設定]ページに、「パスワードを無制限とする」「アカウントのロックアウト」の設定が追加されました。

- [セキュリティ管理]メニューのメニュー構成を変更しました。

以下のメニューのメニュー構成が変更されました。

変更前	変更後
[セキュリティ管理]-[権限管理]-[データ領域権限管理]- [データ領域権限設定]メニュー	[セキュリティ管理]-[セキュリティポリシー] -[データ領域権限設定]メニュー

- 汎用データレイアウト集をExcelファイルでの提供に変更しました。

今まで汎用データレイアウト集はPDFファイルで提供していました。

今回より、Excelファイルで提供するようになります。

社内用に加工作業される際に、ご利用ください。

- 出力帳票一覧をDVD-ROM内に追加しました。

今回より、DVD-ROM内に「出力帳票一覧」を追加しています。

製品から出力される帳票イメージを、コンピュータ上で確認できるようになります。

DVD-ROM内の[出力帳票一覧]フォルダを開き、その中の「出力帳票一覧.html」をダブルクリックして確認します。

《仕訳伝票Webオプション》

- メニュー全般で、PDF出力する際に、網掛け箇所を網掛けしないで印刷できるようになりました。

PDF出力する際に、網掛け箇所を網掛けしないで印刷できるようになりました。

網掛け印刷設定は、勘定奉行側の[\[会社運用設定\]メニュー](#)の[Web設定]ページで指定します。

- [仕訳処理]メニュー・[定型仕訳登録]メニューで、各項目の入力時のカーソルの移動が、勘定奉行側と同様になりました。

各項目の入力時のカーソルの移動が、勘定奉行側の[\[科目別マスター入力設定\]メニュー](#)の設定に準拠するようになりました。

また、カーソル移動順序も、借方上段→貸方上段→借方下段→貸方下段の順序から、勘定奉行側の仕訳処理と同様に、借方上段→借方下段→貸方上段→貸方下段と借方入力後に貸方の入力へ移動するようになりました。

- [仕訳処理]メニューで、1つの伝票が2ページ以降にまたがる場合にも、伝票ヘッダー情報が印刷されるようになりました。

PDF出力において、1つの伝票が2ページ以降にまたがる場合、2ページ目以降にも、伝票ヘッダー情報（伝票日付、伝票No.）が印刷されるようになりました。

- **[仕訳承認(管理者)]のメニュー名称を変更しました。**

メニューの名称を、[仕訳承認(管理者)] から [未承認状況確認] に変更しました。

- **[未承認状況確認]メニューに、[データ領域権限管理]メニューの設定が加味されます。**

[未承認状況確認]メニューで確認できる仕訳伝票に、[データ領域権限管理]メニューの設定が加味されるようになりました。

《財務諸表照会Webオプション》

- **メニュー全般で、PDF出力する際に、網掛け箇所を網掛けしないで印刷することができるようになりました。**

PDF出力する際に、網掛け箇所を網掛けしないで印刷できるようになりました。

網掛け印刷設定は、勘定奉行側の[\[会社運用設定\]メニュー](#)の[Web設定]ページで指定します。